岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築（建築）工事

（建築構造）

整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺	整理番号	図面番号	図面名称	縮尺
001	SS-001	建築工事（構造）特記仕様書-1	-	051	S-051	軸組図-3	1/200																
002	SS-002	建築工事（構造）特記仕様書-2	-	052	S-052	軸組図-4	1/200																
003	SS-003	建築工事（構造）特記仕様書-3	-	053	S-053	軸組図-5	1/200																
004	S-004	鉄筋コンクリート構造基準図-1	-	054	S-054	軸組図-6	1/200																
005	S-005	鉄筋コンクリート構造基準図-2	-	055	S-055	軸組図-7	1/200																
006	S-006	鉄筋コンクリート構造基準図-3	-	056	S-056	軸組図-8	1/200																
007	S-007	鉄筋コンクリート構造基準図-4	-	057	S-057	軸組図-9	1/200																
008	S-008	鉄筋コンクリート構造基準図-5	-	058	S-058	軸組図-10	1/200																
009	S-009	鉄筋コンクリート構造基準図-6	-	059	S-059	基礎・副圧版リスト，地盤改良体配置図	1/40																
010	S-010	鉄骨基準図-1	-	060	S-060	基礎梁断面リスト-1	1/40																
011	S-011	鉄骨基準図-2	-	061	S-061	基礎梁断面リスト-2	1/40																
012	S-012	梁貫通基準図	-	062	S-062	柱芯線図	1/200																
013	S-013	ボーリング柱状図-1	-	063	S-063	柱断面リスト	1/40																
014	S-014	ボーリング柱状図-2	-	064	S-064	大梁断面リスト-1	1/40																
015	S-015	ボーリング柱状図-3	-	065	S-065	大梁断面リスト-2	1/40																
016	S-016	ボーリング柱状図-4	-	066	S-066	大梁断面リスト-3	1/40																
017	S-017	ボーリング柱状図-5	-	067	S-067	大梁断面リスト-4	1/40																
018	S-018	ボーリング柱状図-6	-	068	S-068	大梁断面リスト-5	1/40																
019	S-019	ボーリング柱状図-7	-	069	S-069	大梁断面リスト-6	1/40																
020	S-020	ボーリング柱状図-8	-	070	S-070	大梁断面リスト-7	1/40																
021	S-021	地層想定断面図-1	-	071	S-071	プレストレストコンクリート合成床版製作・工事特記事項	-																
022	S-022	地層想定断面図-2	-	072	S-072	2階PC合成床版割付図	1/100,1/200																
023	S-023	地層想定断面図-3	-	073	S-073	3階PC合成床版割付図	1/100,1/200																
024	S-024	地層想定断面図-4	-	074	S-074	4階PC合成床版割付図	1/100,1/200																
025	S-025	地層想定断面図-5	-	075	S-075	R階PC合成床版割付図	1/100,1/200																
026	S-026	地層想定断面図-6	-	076	S-076	PC合成床版リスト-1	1/10,1/20,1/40																
027	S-027	地層想定断面図-7	-	077	S-077	PC合成床版リスト-2	1/5,1/10,1/20																
028	S-028	地層想定断面図-8	-	078	S-078	小梁・片持梁断面リスト	1/40																
029	S-029	地層想定断面図-9	-	079	S-079	スラブ・壁・階段・鉄骨部材リスト	1/40																
030	S-030	地盤改良特記事項	-	080	S-080	ラーメン詳細配筋図-1	1/40																
031	S-031	地盤改良伏図	1/200	081	S-081	ラーメン詳細配筋図-2	1/40																
032	S-032	地盤改良断面図-1	1/200	082	S-082	雑詳細図-1	1/30																
033	S-033	地盤改良断面図-2	1/200	083	S-083	雑詳細図-2	1/30																
034	S-034	地盤改良断面図-3	1/200	084	S-084	雑詳細図-3	1/30																
035	S-035	地盤改良断面図-4	1/200	085	S-085	屋上設備置き場鉄骨架台配置図	1/200																
036	S-036	地盤改良断面図-5	1/200	086	S-086	基礎梁貫通伏図	1/200																
037	S-037	地盤改良断面図-6	1/200	087	S-087	1階梁貫通伏図	1/200																
038	S-038	地盤改良断面図-7	1/200	088	S-088	2階梁貫通伏図	1/200																
039	S-039	地盤改良断面図-8	1/200	089	S-089	3階梁貫通伏図	1/200																
040	S-040	地盤改良断面図-9	1/200	090	S-090	4階梁貫通伏図	1/200																
041	S-041	地盤改良断面図-10	1/200	091	S-091	R階梁貫通伏図	1/200																
042	S-042	地盤改良断面図-11	1/200																				
043	S-043	基礎伏図	1/200																				
044	S-044	1階梁伏図	1/200																				
045	S-045	2階梁伏図	1/200																				
046	S-046	3階梁伏図	1/200																				
047	S-047	4階梁伏図	1/200																				
048	S-048	R階梁伏図	1/200																				
049	S-049	軸組図-1	1/200																				
050	S-050	軸組図-2	1/200																				

訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 図面リスト

縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S

図面番号 S-000

構造設計概要

1 構造概要

a 構造種別
地上 ： ● RC造 ○ S造 ○ SRC造 ○ その他 (　　)
地下 ： ● RC造 ○ S造 ○ SRC造 ○ その他 (　　)

b 架構形式
地上 ： X方向： 耐震壁付きラーメン構造
Y方向： 耐震壁付きラーメン構造
地下 ： X方向： なし
Y方向： なし

c 耐震構造システム
● 耐震構造　重要度係数　Ⅰ＝ ○ 1.0 ● 1.25 ○ 1.30 ○ 1.5
重要度係数の適用 ● 壁量に考慮 ○ 1次･2次設計とも
○ 免震構造 (免震層の位置 ： ○ 基礎免震 ○ 中間階(柱頭)免震 [　階下])
○ 制振構造 (○ 履歴系 ○ 粘性系)

d 基礎種別
○ 杭基礎 (○ 場所打ちｺﾝｸﾘｰﾄ杭 ○ 既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭 ○ 鋼管杭)
● 直接基礎 (● 独立基礎 ● べた基礎 ○ 布基礎) ● 地盤改良を併用

支持層 ： 風化花崗岩　設計GL- 0～19 m 以深

2 計算方法
● 許容応力度等計算 (耐震設計の計算ルート: 1)
○ 保有水平耐力計算 (耐震設計の計算ルート:)
○ 告示2009号 (告示免震)
○ その他の計算法 ( )
○ 大臣認定 (○ 高層 ○ 免震 ○ その他 ( ))

3 外力など

a 地震力

地域係数	Z= ○ 1.2 ● 1.0 ○ 0.9 ○ 0.8 ○ 0.7		
地盤種別	第 2 種地盤 T_c= 0.60 sec (● 施行令 ○ 実測)		
振動特性係数	X方向：R_t= 1.00　Y方向：R_t= 1.00		
標準せん断力係数	一次設計	X方向：C_0= 0.20 Y方向：C_0= 0.20	二次設計　X方向：C_0= 1.00 Y方向：C_0= 1.00

上記のC_0には、重要度係数を含まない。

b 風荷重 (N/㎡)

地表面粗度区分	○ Ⅰ ○ Ⅱ ● Ⅲ ○ Ⅳ
基準風速	V_0= 34 m/s　速度圧 q= $0.6EV_0^2$
	大臣認定建物の場合、 仕上げ材等の検討における風荷重の再現期間は100年とする

c 積雪荷重 (N/㎡)

区域	● 多雪区域外 ○ 多雪区域
設計積雪量	80 cm
単位重量	20 N/㎡/cm
低 減	● 無し ○ 有り (長期: 短期:)

d 積載荷重 (N/㎡)

室 名	床 用	小 梁 用	架 構 用	地 震 用
屋上	1,800	←	1,300	600
実習室	4,900	←	2,600	1,600
教室	4,900	←	2,100	1,100
事務室	3,900	←	2,100	1,100
大講義室	3,500	←	3,200	2,100
廊下	3,500	←	3,200	2,100
便所	1,800	←	1,300	600

e 土圧及び水圧など

土圧係数	k= 0.5
設計用地下水位	設計G.L- 4.0 m (無水堀り水位 GL-1.65～8.80mの平均値)
凍結深度	設計G.L- ― m
地盤液状化の判定	○ 無し ● 有り
片土圧	● 無し ○ 有り
水 圧	● 無し ○ 有り

4 層間変形角など

設計用層間変形角の限界値	中地震時	X方向：1/200	Y方向：1/200
	大地震時	X方向：1/100	Y方向：1/100
EXP.J部の躯体クリアランス	無し		

5 その他

増築の有無	● 無し ○ 有り

6 地盤調査資料
○ 無
● 有
● 敷地内で本工事のために行われた調査資料
○ 敷地内で既存に行われた調査資料
○ 近隣敷地での調査資料
● 標準貫入試験 ○ 平板載荷試験
● 孔内水平載荷試験 ○ 現場透水試験
○ PS検層 ○ 常時微動測定 ○ 揚水試験
● 物理試験 ● 一軸圧縮試験 ● 三軸圧縮試験
● 圧密試験 ○ 動的変形特性試験 ● 液状化の判定
○ その他 ( )

建築工事(構造)特記仕様書

適用について

この特記仕様書は、建築工事特記仕様書の内、構造に関わる3章～7章に関して記載したものである。

この特記仕様書は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下、標仕という)に基づいて記載している。

設計図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、標仕による。

特記仕様書の章、節、項番号及び表番号は、追加の場合を除き標仕の当該番号とする。

特記仕様書の以下の表記は、次による。
［読替］：標仕の当該章、節、項の規定を特記の規定に読み替える。
［追加］：標仕の章、節、項の規定に新たに章、節、項を追加する。

特記事項の内、選択肢があるものは、●印のついたものを適用し、○印は適用しない。

特記仕様書および基準図などに記載されていない事項については、日本建築学会建築工事標準仕様書(JASS)をはじめ、日本建築センター、日本建築学会などの各種規準、指針など(最新版)に準じて対応する。

3章 土 工 事

1節 共通事項

3.1.4 ［追加］ その他
土工事、基礎工事、杭工事については、事前に調査した資料（地盤調査など）により想定しており、工事施工にあたり、調査資料と現状に差異が生じた場合は、設計を変更することがある。
土工事などの施工中に、文化財や障害物を発見した場合は、調査の上、発注者、監理者と協議の上、処理する。
発生材や障害物の処理費については、共通特記仕様書 1.3.12「発生材の処理等」による。

低騒音型、低振動型建設機械指定要項に基づき指定された建設機械を使用する。

3.1.5 ［追加］ 地中障害等
a ボーリング調査での障害物等の記事 ○ 有（記事: ）
● 無
b 試掘による発生土内の障害物等の調査 ○ 行う ● 行わない
試掘調査は、敷地内を10mグリッド毎に1箇所、深さ2m程度を目安にして計画する。

3.1.6 ［追加］ 既存杭、躯体の撤去及び再利用
既存杭、既存躯体が存置されている場合の適用は下記とする。
a 既存杭 ○ 全て撤去する
○ 新設杭と干渉するものは撤去する
b 既存躯体 ○ 全て撤去する
○ 新設建物と干渉する部分は撤去する
c 再利用 ○ 既存躯体を山留めに利用する
○ 既存躯体に流動化処理土等を充填して地業として利用する
○
既存杭を撤去した場合は、流動化処理土等で適切に埋戻す。埋戻しに際しては、後の新設杭の施工性等に配慮して計画し、監理者の承認を得ること。

2節 根切り等

3.2.3 埋戻し及び盛土
材料及び工法は、表3.2.1により、種別は下記による。
種 別 ● A種 ○ B種 ○ C種 ○ D種
表中の良質土とは原則として、粘土分の少ない砂質土とする。

3.2.5 建設発生土の処理
a 構外処分 ● 指定なし ○ 指定 (○ ○ km先で))
○ 処分方法 (○ 積み下ろしのまま ○ 敷き均し)
構外処分する際は、関係法令に準拠し適切に処理する。
b 構内処分 ○ 敷均し整地 ● 集積天端均し → ○集積天端均し
c 構内仮置 ○ 有 ○ 無

3節 山留め

3.3.1 ［追加］ 山留めの設置
山留め設置に伴う余剰泥土の発生については、その抑制、低減を図り、産業廃棄物の低減に努めること。

● 撤去する ○ 撤去しない (範囲は図示による)

3.3.4 ［追加］ 環境配慮
ベントナイト液、セメント系固化材などの類を使用する工事を行う場合は、周辺地域の井水や地下水に対して影響を与えないことや、セメント系材料により現状地盤に汚染を生じなさせないことを、六価クロム溶出試験などにより事前に確認し、監理者に報告すること。

4章 地 業 工 事

1節 共通事項

4.1.4 ［追加］ 周辺環境に対する配慮
特殊地業の施工に際しては、3.3.4に示す内容について確認し、監理者に報告すること。

2節 試験及び報告書

4.2.2 試 験 杭
○ 試験杭 ○ 最初の1本 (ボーリング調査位置の近傍とする)
○ ( ) 本 位置は構造図による
工法が複数の場合は、工法ごとに実施する。

4.2.3 杭の載荷試験
○ 杭の鉛直載荷試験又は水平載荷試験 ( ) 箇所 位置及び載荷荷重等は構造図による
試験の方法、報告書の記載事項等は構造図による

4.2.4 地盤の載荷試験
● 地盤の平板載荷試験 (1) 箇所 位置及び載荷荷重等は構造図による
試験は、官庁営繕監修「敷地調査標準仕様書」及び「平板載荷試験方法」(地盤工学会基準 JGS 1521)による
載荷板は300φとし、設計用長期許容支持力3倍以上の荷重を確認すること。

4.2.6 ［追加］ 事前調査
○ 支持地盤確認用の追加ボーリング
( ) 箇所 ボーリング径 66φ 位置は構造図による
支持地盤確認を目的とするため、地盤柱状図及び支持層の土質等から、支持層の近傍の標準貫入試験を行い支持層のレベルを確認する

3節 既製コンクリート杭地業

4.3.3 材 料
a 材料： 構造図による
b 工法： ○ セメントミルク工法
支持地盤への掘削深さは1.5m、杭の根入れ深さは1.0mとする
○ 特定埋込杭工法
建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの
○ プレボーリング拡大根固め工法 周辺固定液 ○ 有 ○ 無
○ 中堀拡大根固め工法
○ その他の工法 ( )

4.3.4 セメントミルク工法
4.3.5 特定埋込杭工法
c 杭先端部の形状： ○ 開放形 ○ 半開放形 ○ 閉塞形 ○ 構造図による

4.3.6 継 手
d 継手の工法： ○ アーク溶接 ○ 機械式継手
機械式継手は指定性能評価機関による性能評価品とすること

［追加］
e PHC杭端板の引張対応： ○ する(構造図による) ○ しない

4.3.8 ［追加］ 杭頭の処理等
f 杭頭処理： ○ レベル止め ○ 切りそろえ(主筋は基礎スラブに定着)
g 杭頭補強： ○ スタッド式杭頭接合工法 (SC杭以外の場合)
○ 鉄筋溶接工法 (SC杭の場合)
○ ( )
仕様及び材料等は、構造図による
h 支持地盤： 構造図による
i 施工精度： 杭の水平方向の位置のずれの精度
○ 100mm ○ mm

4.3.10 ［追加］ 根固め部の強度確認･形状確認
j 根固め部の強度確認と形状状確認
先端支持力係数 α＜300 ○ 行う ○ 行わない
先端支持力係数 α≧300 ○ 行う ○ 行わない
強度確認

工 法		試料採取	試料数
中掘拡大根固め工法	○	未固結試料採取	別杭 (1本)
	○	固結試料採取	本杭 (全体の1%以上)
プレボーリング根固め工法	○	未固結試料採取	別杭 (1本)
	○	固結試料採取	本杭 (全体の1%以上)

注） 固結試料採取は、コア採取により、根固めの上･中･下の3深度から採取する。

形状確認

工 法	方 法	箇所数
中掘拡大根固め工法 プレボーリング根固め工法	ボアホールソナー	本杭 (1本)

注） ボアホールソナーは、固結試料採取孔にて実施する。
形状確認は、先端支持力に関わらず、拡翼の作動確認等を全数行うこと。

4節 鋼杭地業

4.4.3 ［追加］ 材 料
a 材料： ○ 鋼管杭 ○ SKK400,STK400 ○ SKK490,STK490
○ H形鋼杭 ○ SHK400 ○ SHK490M

4.4.4 工法
b 工法： ○ プレボーリングの併用 掘削深さ ○ 構造図による ○
掘削径 ○ 構造図による ○
推定支持力算定方法 構造図による
○ 特定埋込杭工法
建築基準法に基づく埋込杭工法とし、杭材料は指定又は認定条件に適合するもの
○ 回転圧入(貫入)工法
○ 鋼管ソイルセメント杭工法
○ 中堀拡大根固め工法
c 先端部形状： ○ 開放形 ○ 半開放式 ○ 閉塞形

4.4.5 継 手
d 現場継手の形状：
○ 鋼管杭 ○ アーク溶接 ○ 機械式継手
機械式継手は指定性能評価機関による性能評価品とすること
○ H形鋼杭 ○ 高力ボルト ○ 構造図による

4.4.6 ［追加］ 杭頭の処理等
e 杭頭処理： ○ レベル止め ○ 切りそろえ（ガス切断）
f ネガティブフリクション対策： ○ 不要 ○ 要（構造図による）
g 電気防蝕処理： ○ 不要 ○ 要
h 杭頭部の中詰め材料： ○ コンクリート ○ ソイルセメント ○ 山砂
i 杭頭補強： 構造図による
j 支持地盤： 構造図による
k 施工精度： 杭の水平方向の位置のずれの精度
○ 100mm ○ mm

5節 場所打ちコンクリート杭地業

4.5.4 材料その他
a 鉄筋 帯筋の形状、鉄筋かごの補強およびスペーサー等の仕様は構造図による。
鉄筋のかぶり厚さ ○ 100mm ○ 200mm(手掘り深礎)
b コンクリート
セメント ○ 高炉セメントB種 ○ 普通セメント
コンクリートの設計基準強度(N/mm^2)
○ 24 ○ 27 ○ 30 ○ 33 ○
コンクリートの種別 ○ A種(無水掘りの場合) ○ B種(左記以外)
スランプ(cm) ○ 18 ○ 21
［追加］ コンクリートの打込に支障の恐れがある場合は、監理者の承認を受けて スランプを21cmとすることができる。
構造体強度補正値(S) ○ N/mm^2
［追加］ ただし、場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法は、工法で定められた条件の値とし、評定で適用外条件となる場合は、昭和56年建設省告示1102号第1による。また、大臣認定コンクリートとなる場合は認定条件による。なお、上記以外の工法については評定条件による。

4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法
c 支持地盤： 構造図による
d 工法： ○ アースドリル工法 ○ リバース工法 ○ オールケーシング工法
杭頭鋼管巻き ○ 有(○ SKK400 ○ SKK490) ○ 無
拡 底 ○ 有 ○ 無
拡底部の工法 ○ アースドリル工法 ○ リバース工法
リバース工法スタンドパイプの建込方法 ○ 油圧ジャッキ ○ バイブロハンマー
○ 深礎工法 ○ 手掘り ○ 機械堀り

4.5.6 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法
e 孔壁測定： ○ 全数 ○ 5本に1本
f スライム処理： スライム処理は、砂分離装置およびスライム除去装置を用いて行う
［追加］ 安定液の回収液砂分率 ○ 2%以下 ○ 1%以下 ○
測定頻度 ○ 全数
砂分率の測定は鉄筋かご建込み直前に孔底付近から回収した安定液で測定すること。ただし、砂層が少ない地層構成の場合、試験杭の結果に基づき砂分率の管理値及び測定の有無を監理者と協議すること。
g 施工精度： 杭の水平方向の位置のずれの精度
○ 100mm ○ mm

4.5.7 ［追加］ 杭頭の処理
静的破砕剤の使用 ○ 無 ○ 有

4.5.9 ［追加］ 出来形の確認
出来形確認 杭施工後、杭頭から1mの範囲の土を掘削し、杭頭のコンクリートの状況を確認する。確認後の埋戻しは砕石で行い転圧を十分行うこと。
抜き取り率 ○ 15% ○ %
杭頭鋼管巻きの場合、この項は省略する。
調査方法、抜き取り率などは、施工要領に応じて、監理者と協議して決定する。

6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等

4.6.2 材料
砂利地業に使用する砂利は、再生クラッシャラン、切込砂利又は切込砕石とする
砂地業に使用する砂は、シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂とする

適用範囲

4.6.3 砂利及び砂地業
砂利及び砂地業 ：厚さ(mm) ● 60 (基礎下)
○ 150 ( )
○ ( )
地盤改良の直上は、砂利及び砂地業は省力し、捨コンクリート地業を施す

4.6.4 捨コンクリート地業
捨コンクリート地業 ：厚さ(mm) ● 50 (基礎下)
○ 100 ( )
○ ( )

4.6.5 床下防湿層
床下防湿層の適用、範囲及び種類は意匠図による

7節 地盤改良 ［追加］

4.7.1 ［追加］ 地盤改良など
○ 浅層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
● 深層混合処理工法 適用範囲、仕様は構造図による
○ 静的締固め砂杭工法 適用範囲、仕様は構造図による
● 置換コンクリート工法(ラップルコンクリート) 適用範囲は構造図による
コンクリートの設計基準強度(N/mm^2) ○ 15 ● 18
構造体強度補正値(S) (N/mm^2) ● 0 ○ 3
スランプ(cm) ● 15 ○ 18

訂正
件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校校舎新築(建築)工事
図面名称 建築工事(構造)特記仕様書-1
縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S
図面番号 SS-001

5章 鉄 筋 工 事

2節 材 料

5.2.1 鉄 筋

種 類	記 号	使用部位	呼び径(mm)
異形鉄筋（JIS G 3112）	● SD295	主筋、帯筋、あばら筋	● D16以下
	● SD345	主筋	● D19以上
	● SD390	主筋	● D29以上
	○ SD490	主筋	○
	○		
建築基準法に基づき認定を受けたせん断補強筋	● 785N/mm²級	梁貫通補強筋	● S16以下
	○		

5.2.2 溶接金網

種類と鉄線の形状 種類:レギュラー溶接金網 鉄線の形状:丸鉄線
網目の寸法(mm) ● 100 ○ 150
鉄線の径(mm) ● 6.0 ○ 4.5
合成スラブの配筋は構造図による

3節 加工及び組立

5.3.3 組 立 ［追加］

スペーサー
片持ちスラブ基端部のスラブ筋用のスペーサーは連続形バーサポートとする。

5.3.4 継手及び定着

a 継手の工法 (5.3.4(1))

部 位	継 手 工 法 と 適 用 径 の 範 囲
柱 主 筋	● 重ね継手(● D16以下○) ●ガス圧接 (● D19以上○) ○機械式継手 (○ D32以上)
梁 主 筋	● 重ね継手(○ D16以下○) ●ガス圧接 (● D19以上○) ○機械式継手 (○)
基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁等	● 重ね継手(● D25以下 ○) ●ガス圧接 (● D29以上○) ○機械式継手 (○)
杭 主 筋	○ 重ね継手(○ D32以下 ○) ○ガス圧接 (○ ○) ○機械式継手 (○)

SD490材の継手は、原則として機械式継手とする。

b 継手の位置及び長さ (5.3.4(2),(3))
● 鉄筋コンクリート基準図による ○ 構造図による

c 隣り合う継手の位置 (5.3.4(4))
● 表5.3.3による
○ 構造図による(先組み工法で柱、梁の主筋を同一箇所に設ける場合等)

d 定着長さ (5.3.4(5)(ｱ))
● 鉄筋コンクリート基準図による ○ 構造図による

e 仕口内の定着長さが確保できない場合(5.3.4(5)(ｲ))
● 鉄筋コンクリート基準図による ○ 構造図による

f 機械式定着工法(5.3.4(5)(ｳ))
○ 適用する
機械式定着工法(プレート定着工法)は、指定審査機関の一般認定を受けた工法とする。

5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 ［追加］

a かぶり厚さ
● 表5.3.6による ○ 構造図による
かぶり厚さは、増打ちなどの仕上げを除く構造躯体表面までの最短距離とする。ただし、増打ちが10mm以上ある場合は、耐久性上有効な仕上げとみなし、表5.3.6を適用する。
誘発目地などにより最小断面となる部分のかぶり厚さは、目地底から算定する。その場合の表の適用は、「仕上げあり」の数値を適用する。
塩害を受けるおそれがある部分など耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、6.8.1 a 増打ち厚さの耐久性上不利な箇所に示す増打ちの数値を、表5.3.6に加えた値とする。
軽量コンクリートで土に接する部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。
高炉セメントB種を用いる部分のかぶり厚さは、表5.3.6の値に10mmを加えた値とする。

［追加］ b 間隔
機械式継手の鉄筋の間隔は、工法に応じて継手部で必要な間隔を確保すること。

5.3.7 各部配筋

a 各部の配筋は構造図による。
構造図に記載の無いものは鉄筋コンクリート構造基準図による。

鉄筋コンクリート構造基準図 3.4

b 基礎梁主筋の継手位置 (鉄筋コンクリート基準図 3.4)
○ 3.4 a による(基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合など)
● 3.4 b による(基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合など)
● 3.4 c による(連続基礎及びべた基礎の場合など)

鉄筋コンクリート構造基準図 3.5 4.2 5.2

c 帯筋・あばら筋組立の形 (鉄筋コンクリート基準図 3.5 4.2 5.2)
帯筋 ○ H形 ○ W形 ● SP形 ○ 丸形
● 電気抵抗溶接閉鎖形(建築基準法に基づき認定を受けた帯筋)
ただし、仕口部の帯筋は、SRC造ではW形、RC造ではH形とする。
あばら筋 ● 鉄筋コンクリート基準図 5.2 2)による。ただし、基礎梁は3.5 による
● 電気抵抗溶接閉鎖形(建築基準法に基づき認定を受けたあばら筋)

4節 ガス圧接

5.4.1 一般事項 ［追加］
記載なき事項は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書ガス圧接継手工事」(以下、鉄筋標仕(圧接)という)による。

5.4.2 ガス圧接作業を行う技能資格者 ［追加］
技能資格者は、5.4.2による他、下記による。
継手事業者は、日本鉄筋継手協会認定の優良圧接会社とし、継手作業は同協会認定のガス圧接技量資格者が行う。
A級継手を採用する場合は、継手事業者を日本鉄筋継手協会認定のA級継手圧接施工会社とする。
A級継手を採用する場合は、施工前試験を実施する。

5.4.3 圧接部の試験を行う技能資格者 ［追加］
技能資格者は、5.4.3による他、下記による。
継手部の検査事業者は、日本鉄筋継手協会認定の優良鉄筋継手部検査会社とする。
継手部の検査技術者は、日本鉄筋継手協会認定の鉄筋継手検査技術者A種技術者とする。

5.4.5 圧接一般
鉄筋の種類が異なる鉄筋同士を圧接する場合の強度差は1ランクまでとする。

5.4.7 鉄筋の圧接前の端面 ［(2)読替］
鉄筋端部は、日本鉄筋継手協会認定の鉄筋冷間直角切断機を用いて、直角かつ平滑に切断する。

5.4.10 圧接完了後の圧接部の試験 ［読替］
圧接完了後の検査は、外観検査(全数)および超音波探傷検査(抜取)とする。
ただし、工事報告で引張試験の実施を行政指導される場合は、報告に必要な最低試験数の引張試験を超音波探傷試験に加え実施する。
外観試験、超音波探傷試験及び引張試験の仕様および合否判定は、5.4.10による。

5節 機械式継手

5.5.1 一般事項 ［追加］
記載なき事項は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書機械式継手工事」(以下、鉄筋標仕(機械)という)による。

5.5.2 機械式継手の作業を行う技能資格者 ［追加］
継手作業者は、各機械式継手メーカーの技術講習を受け、作業資格認定を受けたものが行う。
施工に際しては、作業班毎に機械式継手主任技術者1名を配置する。

5.5.3 工法 ［追加］
機械式継手は、指定審査機関の一般認定(材料においては大臣認定)を受けた工法で適用は下記による。
○ ねじ節鉄筋継手(無機系グラウト材)
○ ねじ節鉄筋継手(有機系グラウト材)
○ モルタル充填継手
○ 端部ねじ加工継手
施工に先立ち、施工前試験を実施すること。
機械式継手を水平および垂直以外の角度に使用する場合は、実情に応じた状態で施工試験を実施すること。

5.5.4 継手部の試験を行う技能資格者 ［追加］
機械式継手の検査事業者および検査技能者は、5.4.3[追加]による。

5.5.5 施工完了後の継手部の試験
施工完了後の試験は、外観検査(全数)および超音波探傷検査(抜取)とする。
外観検査および超音波探傷検査の項目、方法、合否判定および不合格になった場合の処置は、鉄筋標仕(機械)による。
ただし、超音波探傷検査の合否判定で、1ロットの不合格が1カ所以上あった場合は、ロット全数を確認すること。

6節 溶接継手

5.6.1 一般事項 ［読替］
原則として使用しない。
ただし、D16以下の重ねアーク溶接(フレア溶接)は除く。

7節 その他 ［追加］

5.7.1 異形鉄筋スタッド ［追加］
異形鉄筋スタッドは、SRC造などで鉄骨に鉄筋が当る壁筋の定着部に使用する。
記載なき事項については、7章7節のスタッド溶接による。
a 材料 ： KSW490 （形状及び機械的性質が鉄筋コンクリート用鋼棒（JIS G 3112）と同等であり、溶接性が頭付きスタッド（JIS B 1198）と同等である異形鉄筋スタッド）
b 溶接後の試験 ： 7.7.6に準ずる。
ただし、打撃曲げ試験は、打撃によらず、スタッドに単管パイプなどを差し込んで、スタッド溶接部に曲げが生じるように配慮すること。

6章 コ ン ク リ ー ト 工 事

1節 共通事項

6.1.3 使用コンクリート一覧 ［追加］

使用コンクリート一覧

種 類	気乾単位容積質量 (t/m³)	設 計 基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	セメント	混和剤	混和材	適用及び適用箇所
普 通	2.3	● 21	18	普通	AE	―	外構など
		○ 24	18	普通	高AE	―	
		○ 27	18	普通	高AE	―	
		● 30	18	普通	AE	―	校舎
		○ 33	21	普通	高AE	―	
		○ 27	15	6.13.2	高AE	―	マスコンクリート
		○ 30	15	6.13.2	高AE	―	マスコンクリート
		○ 36	フロー55cm	普通	高AE	―	鋼管中詰コンクリート
普 通	2.3	● 18	15	普通	AE	―	土間コンクリート
		● 18	15	普通	AE	―	無筋コンクリート
軽 量	1.9	○ 21	21	普通	AE	―	

凡例 セメント 普通:普通ポルトランドセメント、高炉B:高炉セメントB種、低熱:低熱ポルトランドセメント、中庸熱:中庸熱ポルトランドセメント
混和剤 AE:AE剤またはAE減水剤、高AE:高性能AE減水剤、流:流動化剤
混和材 フライ:フライアッシュ、スラグ:高炉スラグ微粉末、シリカ:シリカフューム、防錆材、膨張材、防水材
「フロー」は、フローコンクリートを示す。フローコンクリートの仕様は「コンクリート充填鋼管(CFT)造技術基準・同解説の運用及び計算例等」新都市ハウジング協会による。
場所打ちコンクリート杭、ラップルコンクリートなどは、4章による。

a スランプ値
打設時の距離、時間などによるスランプの変化がコンクリートの性能に支障が無いように配慮すること。必要に応じてスランプ値の設定などを変更する場合は、監理者の承認を受けること。

b 再生骨材および高炉スラグ骨材の使用
再生骨材および高炉スラグ骨材を以下の部位に使用する。なお、使用する再生骨材の品質については、監理者の承認を受けること。
● 捨てコンクリート ○ 土間コンクリート ○

c 混和剤の仕様について
表中の混和剤の適用は、設計としての性能を意図するもので、調合強度により必要とされる減水剤等については、建設地で供給可能な仕様を採用すること。

d 基礎及び主要構造部等、建築基準法第37条に規定する部分に使用するコンクリートは、同法に基づき指定された規格に適合するもの又は大臣認定を取得したものとする。

e 外構等とは、6.14.1(4)無筋コンクリートの適用箇所を除く、屋外の機械基礎、塀、擁壁および工作物の基礎等を指す。

2節 コンクリートの種類及び品質

6.2.1 コンクリートの種類
レディーミクストコンクリートの類別は次による。
● Ⅰ類(JIS Q 1001及び1011に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
○ Ⅱ類(上記以外のJIS A 5308に適合したコンクリート)
○ 建築基準法第37条第二号に規定する大臣認定を受けたコンクリート
コンクリートの気乾単位体積質量の種類および適用は、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。

6.2.2 コンクリートの強度
使用するコンクリートの設計基準強度は、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。

6.2.4 ワーカビリティ及びスランプ
使用するコンクリートのスランプは、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。

6.2.5 構造体コンクリートの仕上がり
打放し仕上げの種別及び仕上がりの平たんさの種別は、意匠図による。

3節 コンクリートの材料及び調合

6.3.1 コンクリートの材料
セメント、混和剤および混和材の種類及び適用は、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。

6.3.2 コンクリートの調合
構造体強度補正値(S)は、表6.3.2による。

6節 コンクリートの工事現場内運搬、打込み及び締固め

6.6.4 打継ぎ
打継ぎの位置は、6.6.4(1)による。
打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地の寸法、位置、形状
● 意匠図による ○
誘発目地と水平打継ぎ目地の深さは同一とし、増打ち厚さの中で設ける。化粧目地の深さは、誘発目地の深さ-10mmとする。
ひび割発生を抑制するように慎重な打設管理を行うこと。

8節 型枠

6.8.1 型枠一般 ［追加］

a 増打ち厚さ
増打ち厚さは意匠図による他、下記による。
外 部 ● 20mm ○ 25mm ○ mm
内 部 ● 0mm ○ mm
下記の場合は、内部に増打ちを施す。
打ち放し,塗装仕上げなどあらわしとなる仕上げの部分 ● 10mm ○ mm
外壁面の内側 ● 10mm ○ mm
デッキプレートのかかり代となる梁の側面 ● 10mm ○ mm
耐久性上不利な箇所 ● 10mm ○ mm
耐久性上不利な箇所の増打ちは、上記の数値に外内部の増打ち厚さを加えたものとする。耐久性上不利な箇所の増打ちは、目地底にも適用する。

6.8.2 材料
b せき板の材料(c項に該当するもの以外)
● コンクリート型枠用合板
日本農林規格による品質表示: ● B-C ○
板 厚: ● 12mm ○
樹 種: ○ 複合合板 ○
○ 金属製型枠パネル
○ 代替型枠 ( )
○ 断熱材兼用型枠( )
c 化粧打放し仕上げのせき板
○ 金属製型枠パネル
● コンクリート型枠用合板(日本農林規格による表面加工品)
厚さ: ○ 12mm ○ mm
木目、色あいなどの選別: ● 要 ○ 不要
金属セパレーターはすべて切断し防錆処理を行う。
○ その他( )

［追加］ d せき板の再使用
せき板は支障のない限り再使用可能とするが、化粧打放し仕上げなど仕上げ面の品質に影響 する場合の再使用は、コンクリート表面の仕上がりに支障がないものとし、監理者の承認を受ける。

e スリーブに用いる材料、材種、規格等は、意匠図による。
f 支柱の存置期間

6.8.4 型枠の存置期間及び取外し ［追加］
下記の場合の支柱の存置期間は、表6.8.3、かつ、28日以上とすること。
スパン 9m以上のRC梁、スパン 14m以上のSRC梁
出の長さが2mを超える片持ち梁、1.5mを超える片持ちスラブ
短辺の長さが5m以上の床スラブ

10節 軽量コンクリート

6.10.1 一般事項
6.10.2 種類及び品質
軽量コンクリートの種類、適用範囲及び気乾単位体積質量は、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。

11節 寒中コンクリート

6.11.1 一般事項
適用する期間 ： ● JASS5による
○ 月 日～ 月 日

12節 暑中コンクリート

6.12.2 材料及び調合
構造体強度補正値(S) ● 6 N/mm² ○ N/mm²

13節 マスコンクリート

6.13.1 一般事項
マスコンクリートの仕様及び適用箇所は、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。

6.13.2 材料及び調合
セメントの種類
○ 普通ポルトランドセメント
○ 中庸熱ポルトランドセメント
○ 低熱ポルトランドセメント
○ 高炉セメントB種
○ フライアッシュセメントB種
○ シリカセメント

［追加］ マスコンクリートの計画に際しては、打設時の温度上昇による有害なひび割れの発生を軽減するために、打設計画に即した温度解析等を行って、セメントの種類の選定、調合計画、打設計画(工区割りおよび打設リフト)、養生計画等を行うこと。
温度解析における、ひび割れ指数は1.0以上とすること。
施工者は、検討および計画の方法を含めて、監理者と協議の上、承認を得ること。

14節 無筋コンクリート

6.14.1 一般事項
無筋コンクリートの仕様は、6.1.3 使用コンクリート一覧 による。
適用箇所 ● 6.14.1(4)による。
○

［追加］ 防水押えコンクリート、機械室および厨房等のかさ上げコンクリートには、ひび割れ補強として、溶接金網φ6@100の補強筋をコンクリート表面から30mm程度の位置に施す。

7章　鉄　骨　工　事

1節　共通事項

7.1.3 鉄骨製作工場

鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の区部は下記とし、製作範囲は各グレードの適用範囲内とし、本工事における材質および最大板厚の突合せ溶接部の実績が過去3年以内にあること。

○ 建築基準法施行規則第1条の3の規定に適合する国土交通大臣認定工場とし、区分は Hグレード以上とする。

● 建築基準法施行規則第1条の3の規定に適合する国土交通大臣認定工場とし、区分は Mグレード以上とする。

鉄骨製作工場の選定に際しては、事前に会社概要及び実績等を監理者に提出の上、承認を得ること。その際、監理者が必要と判断した場合は、施工者に選定した鉄骨製作工場に対して工場調査の実施を指示する。

7.1.4 鉄骨製作工場における施工管理技術者

施工管理技術者

● 配置する　○ 配置しない

2節　材料

7.2.1 鋼　材

使 用 鋼 材 一 覧

鋼材はJIS規格品又は大臣認定品とし、証明書付きとする。

種　類	規　格	鋼　材
形 鋼 ·鋼 板	JIS G 3101	● SS400
	JIS G 3106	○ SM490A
	JIS G 3136	● SN400A,B　○ SN490B,C
	大臣認定品	○ TMCP325B,C　○ TMCP355B,C　○ TMCP385B,C
角型鋼管	JIS G 3466	○ STKR400
	大臣認定品	○ BCP235　○ BCR295
		○ BCP325B,C　○ BCP355B,C　○ BCP385B,C
鋼 管	JIS G 3444	○ STK400
	JIS G 3475	○ STKN400B　○ STKN490B
	大臣認定品	○ P325B,C　○ P355B,C　○ P385B,C
軽量形鋼	JIS G 3350	● SSC400
露出固定柱脚	認定品	○ 仕様は構造図による

種類,形状,寸法及び使用部位は構造図による

［追加］ 電炉鋼材の取扱いについて

a 490N/mm²級の電炉広幅平鋼を使用する場合は「490N/mm²級 建築構造用広幅平鋼メーカー規格」(普通鋼電炉工業会)に準拠すること。

b SN材の内、下記に示す特定の部位に電炉鋼材を使用する場合は、JIS規格や上記メーカー規格以外に、部位毎の追加仕様を満足すること(ミルシートにて確認する)。また、メーカー選定にあたっては、この追加仕様を満足する材料供給が可能かどうか、工場の品質管理記録を提出し監理者の承認を得ること。

板厚方向に引張を受ける部位に使用する場合(SN-C材)

シャルピー吸収エネルギー最小値(0℃)　VEo≧100J

板厚方向絞り　RA≧25%

板厚　電炉厚板　t≦40㎜

電炉広幅平鋼　t≦32㎜

電炉形鋼は使用しない

板厚方向には引張を受けないが、梁端部、柱端部など塑性化を許容する部位に使用する場合(SN-B材)

シャルピー吸収エネルギー平均値(0℃)　VEo≧100J

シャルピー吸収エネルギー最小値(0℃)　VEo≧ 70J

板厚　電炉厚板　t≦40㎜

電炉広幅平鋼･電炉形鋼　t≦32㎜

7.2.2 高力ボルト

ボルトの種類　● トルシア形高力ボルト(S10T)

○ JIS形高力ボルト(F10T)

● 溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T相当)

ボルトの種類　● 六角ボルト、六角ナット

7.2.3 普通ボルト

ボルトの種類　構造用 ：建方用以外のアンカーボルト

技術評定を取得した露出固定柱脚

取得した評定の仕様による

主要構造躯体及び間柱などの二次部材

JIS B 1220　構造用両ねじアンカーボルトセット

● ABR400[転造ねじ]　○ ABM400[切削ねじ]

● ABR490[転造ねじ]　○ ABM490[切削ねじ]

屋外に使用する場合は溶融亜鉛めっき(ABR)とする

仕上げ材などの取付部

JIS G 3138　建築構造用圧延棒鋼　SNR400

建方用 ：鉄骨建方のみを目的としたもの(適用は構造図による)

JIS G 3101　一般構造用圧延鋼材　SS400

7.2.4 アンカーボルト

7.2.5 溶接材料

溶接材料は、表7.2.4による

7.2.6 ターンバックル

建築用ターンバックルブレース (JIS A 5540、JIS A 5541)

胴の種類　● 割枠式　○ パイプ式

ボルトの種類　● 羽子板ボルト　○ 両ねじボルト

7.2.7 ［追加］ 床構造用のデッキプレート

デッキプレート(JIS G 3352、3302)の材料は次による。

a デッキプレート床　○ SDP2G(Z12)　○ SDP2G(Z27)

b 合成スラブ　○ SDP2G(Z12)　○ SDP2G(Z27)

c 床型枠用　● SGCC (Z12)　○ SGCC (Z27)

デッキプレート床、合成スラブの形状は構造図による。

床型枠用の形状は、構造図によるほか、施工上必要な形状とする。

外部に面する部位、軒裏などで湿度が外気となる部位に使用する場合の溶融亜鉛めっきは、Z27とする。

デッキプレート床、合成スラブに必要な耐火時間は意匠図による。

7.2.8 スタッド

頭付きスタッド (JIS B 1198)　スタッドの種類等(呼び径および寸法)は鉄骨基準図による

7.2.9 ［追加］ 柱底均しモルタル

無収縮モルタルは、7.2.9(2)による。

技術評定を取得した露出固定柱脚の均しモルタルは、技術評定の仕様による。

3節　工作一般

7.3.2 工作図

高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの間隔、ゲージなどは鉄骨基準図による。

7.3.8 ボルト孔

孔径は、7.3.8(3)による。

7.3.10 ［追加］ 仮組

● 実施しない　○ 実施する

仮組を実施する場合の目的、範囲は下記による。

仮組方法、測定及び確認項目等を記載した仮組要領書を作成し、監理者の承認を受ける。

目的　○ たわみ量の測定　○ 寸法精度、納まりの確認　○ 部材の締め付け

範囲　構造図による

4節　高力ボルト接合

7.4.2 摩擦面の性能及び処理

導入張力確認試験

● 実施しない　○ 実施する

導入張力確認試験を締め付け工程開始前に実施する。試験方法及び判定は、「鉄骨工事技術指針･工事現場施工編(日本建築学会)」により行い、試験結果を監理者に提出すること。

6節　溶接接合

7.6.3 ［読替］ 溶接作業を行う技能資格者

溶接技能者技量付加試験

本工事に従事する溶接技能者は、それぞれの溶接条件に対応するAW検定試験(建築鉄骨溶接技量検定)の合格者または以下の技量付加試験に合格した者とする。

ただしAW検定合格者とする場合は一覧表を提示し、従事する溶接技能者を決定したうえで、監理者の承認を受ける。

a AW検定試験に準じて試験要領書を作成し、監理者の承認後、監理者立会いのもとで試験を実施する。

b 試験結果の有効期限は原則として2年とする。ただし、工事現場溶接に従事する溶接技能者については、本工事期間のみとする。

c 本工事以外の技量付加試験結果などで鉄骨製作工場の実績を調査のうえ、監理者がその必要がないと認めた場合は、付加試験を省略することがある。

d 試験項目

● 工場溶接(鋼製エンドタブ)技量試験

● 工場溶接(代替エンドタブ)技量試験(固形タブ使用の場合)

● 工事現場溶接(鋼製エンドタブ)技量試験

○ Ⅱ種(下向、横向)　● Ⅲ種(下向、横向、立向)

○ 工事現場溶接(代替エンドタブ)技量試験(固形タブ使用の場合)

○ 鋼管溶接技量試験

○ 建築鉄骨ロボット溶接オペレーター資格試験(ロボット溶接使用の場合)

○ RT種(平板十字)　○ RC種(角形鋼管)　○ RP種(円形鋼管)

7.6.4 溶接の準備

開先の形状は、鉄骨基準図による。

7.6.7 溶接施工

溶接施工に関する事項は下記による。

a エンドタブ　● 固形タブ　○ 鋼製エンドタブ

ただし、現場溶接部、裏はつりを伴う溶接部、溶接線の末端部が見通せない部位については、鋼製エンドタブとする。

b 鋼製エンドタブの切除　○ する

(適用箇所: ● 全て ○ 次の箇所を除く(　　))

●□記筋などで支障がない限りしない

c 裏当て材　● 裏当て金　○ セラミック系裏当て材

(建築仕上げで見掛かりとなる部位の現場溶接部)

d 板厚が異なる場合の突合せ継手の形状は、鉄骨基準図による。

e スカラップの形状は、鉄骨基準図による。

［追加］ f 溶接の入熱量･パス間温度の管理

製作工場における溶接の入熱量･パス間温度に関する管理要領及び管理実績について、製作要領書に記載し、監理者の承認を受けること。

［追加］ 7.6.11による他、下記による。

7.6.11 溶接部の試験を行う技能資格者

技能資格者は、CIW認定事業所に所属し、下記の技能資格の両方を有する者とする。

建築鉄骨超音波検査技術者 (日本鋼構造協会の認定者)

JIS Z 2305レベル3またはレベル2 (日本非破壊検査協会の認定者)

レベル2技術者が受入検査を行った場合の試験結果の合否判定は、レベル3技術者が行うものとする。(NDI－UT3種または2種の資格者は、レベル3または2資格者と同等とする)

7.6.12 溶接部の試験

a 試験の種類　完全溶込み溶接部　● 超音波探傷試験　● 外観検査

● 突合せ継手の食い違い仕口のずれ

上記以外　● 外観検査

b 試験の規準は、日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」、「建築工事標準仕様書JASS6」、「鉄骨精度測定指針」及び鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い 仕口のずれの検査･補強マニュアル」による。

完全溶込み溶接部の受入検査は下記による。

c 工場溶接の場合

検査率　● 7.6.11の方法　AOQL　● 2.5%　○ 4.0%

検査水準　○ 第4水準　● 第6水準

○ その他の方法　○ 100%

継手、仕口部のずれの検査率は、「検査･補強マニュアル」3.5.2による、

○ 抜取り検査①　● 抜取り検査②

d 工事現場溶接の場合

検査率　● 100%

継手、仕口部のずれの検査率は、「検査･補強マニュアル」3.5.2による、

● 100%

隅肉溶接部および部分溶け込み溶接部の受入検査の手法は下記による。

e 対象は工場製作分とする。

f 柱部材、梁部材を対象に、それぞれ受入検査台数毎に30体ずつを1ﾛｯﾄとし、1ﾛｯﾄに対して3体を検査部材とする。

g 検査対象部位は、隅肉溶接および部分溶け込み溶接部とし、付属金物の取付部を含む全ての部位とする。

h 合否判定は、ﾛｯﾄの不合格溶接率が5%以下の場合はそのﾛｯﾄを合格とする。5%を超え10%以下の場合は、更に3体を検査し、合計の不良溶接率が5%以下であれば合格とする。これを満足しない場合は、ﾛｯﾄを不合格とし、残り全数検査を行う。

7節　スタッド溶接及びデッキプレートの溶接

7.7.8 デッキプレートの溶接

デッキプレートの溶接は、鉄骨基準図による。

8節　錆止め塗装

18.2.3 鉄鋼面の素地ごしらえ

a 鉄面の素地ごしらえ　○ A種　○ B種　● C種

18.3.2 塗料種別

b 塗料種別

● A種 : JIS K 5674 : 鉛･クロムフリーさび止めペイント (1種[溶剤系])

○ B種 : JIS K 5674 : 鉛･クロムフリーさび止めペイント (2種[水系])

18.3.3 錆止め塗料塗り

c 塗装回数

部　位	工場	工事現場
一般部分(貫通スリーブ内を含む)	○ 1回　● 2回	○ 1回　○ 2回
工事現場接合部		○ 1回　● 2回
工事現場建方後塗装できない部分	○ 1回　● 2回	

塗装回数2回の場合は1回目と2回目の色を変える。

［追加］ d 塗膜厚の検査　● 要　○ 不要

7.8.2 塗装の範囲

e 耐火被覆材が吹付け工法の場合は、下記の場合を除き、さび止め塗装を行わない。

施工中に鉄骨表面に生じる浮き錆が、近隣に飛散する恐れがある部分、または下層階の外装仕上げなどを汚損する恐れがある部分 (外周部の架構および該当部分)

相対湿度が70%を超える高湿度となることが予想される部分

吹付け工法を施す面の錆止め塗装は、吹付けが行われる時点より、1ヶ月以上前に塗布し、完全塗膜が形成されることを確認すること。また、吹付け前にアクリル系のプライマー処理を施して付着力を増すこと。

f 耐火被覆材が張付け工法、巻付け工法など、吹付け工法以外の場合は、上記 a～dの錆止め塗装を適用する。

9節　耐火被覆

7.9.2 耐火被覆の種類等

耐火被覆の種類、材料、工法、性能及び適用箇所等は、意匠図による。

7.9.3 耐火被覆の性能、品質等

耐火塗装、耐火シートの場合は下記による。

下地塗装の素地ごしらえは、スイープブラスト程度以上とする。

溶接ビード、仮設切断跡等は、グラインダー等により平滑にする。ただし、対象箇所については事前に監理者の承認を受けること。

7.9.10 ［追加］ 耐火塗装

10節　工事現場施工

7.10.2 ［追加］ 建方精度

工事現場での建方精度及び測定時期

建方精度は、日本建築学会「建築工事標準仕様書JASS6」及び「鉄骨精度測定指針」により行い、測定時期は下記による。

● 建方完了時　● 高力ボルト締完了時　● 工事現場溶接完了時　○ 屋根葺完了時

7.10.3 ［追加］ アンカーボルトの設置等

a 技術評定を取得した露出固定柱脚のアンカーフレームや設置方法などは技術評定の仕様による。

b 構造用アンカーボルトの保持は、アンカーボルトのサイズに相応した形鋼などによりアンカーフレームを製作し、アンカーボルトの位置および形状が確保できるものとする。

c 建方用アンカーボルトの保持および埋め込み工法の種別は、A種とする。

d 柱底均しモルタルの工法

主要構造部　● A種　○ B種　(モルタル厚: ● 50㎜　○ 30㎜)

その他部位　○ A種　● B種　(モルタル厚: ○ 50㎜　● 30㎜)

7.10.5 ［追加］ 建方

制振部材、座屈拘束ブレース等がある場合は、部材に長期荷重を負担させないように、コンクリートスラブ打設後に、部材の本締めおよび溶接等を行うこと。

12節　溶融亜鉛めっき工法

7.12.1 ［追加］ 一般事項

溶融亜鉛めっきの適用範囲は以下とする

屋外に露出し、雨掛かりとなる鉄骨部材

屋上工作物、付属工作物などの屋外に露出し、雨掛かりとなる鉄骨部材

地下受水槽室など湿度が高い居室に設置する鉄骨階段、設備架台などの鉄骨部材

免震構造建物の免震層内部の露出する鉄骨部材

その他 (　　)

7.12.5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合

ボルト接合部の摩擦面処理

● ブラスト処理　● りん酸塩処理

溶融亜鉛めっき高力ボルトのすべり係数試験

● 不要　○ 要

ただし、摩擦面にブラスト処理以外の処理を施す場合は、すべり係数試験を実施する。

18.3.2 塗料種別

亜鉛めっき面に錆止め塗装がある場合の仕様は、意匠図特記による。

13節　その他［追加］

7.13.1 ［追加］ 品質管理

鉄骨製作に際しては、以下の検査を実施すること。

● 現寸検査

現寸検査は、鉄骨製作に先立ち、部材納まりなどを確認することを目的に実施する。

a 主要な部位について、現寸の製作フィルムを作成して実施する。

b 現寸検査は、製作工場の現寸場にフィルムを並べて実施することを原則とする。

c 検査に先立ち、現寸検査要領書を作成し、監理者の承認を受けること。

● 試作品検査

試作品検査は、製作工程の初期段階に、協議した製作方法および製作精度の確認を目的に実施する。

a 試作品検査は、指定された柱などについて、組立て溶接状態の製品1台、本溶接が完了した完成品1台を対象に実施する。

b 検査対象の試作品は、溶接部の受入検査を実施すること。

c 組立て溶接状態の製品及び本溶接が完了した完成品は、監理者の承認を受けて本工事に使用できる。

d 製作工程に応じた試作品の状態を含め、試作品検査要領書を作成して監理者の承認を受けること。

● 製品検査(受入検査)

a 製品検査は、日本建築学会「建築工事標準仕様書JASS6」及び「鉄骨精度測定指針」により実施する。寸法精度の受入検査は、社内検査記録が全数あることを前提とし、下記のいずれかの方法による。

○ 書類検査1と対物検査1

● 書類検査1と対物検査2

b 溶融亜鉛めっき部材については、めっき前とめっき後に検査を行う。めっき後の検査の項目は、寸法精度、摩擦面の処理状態、めっき量とする。

c 検査に先立ち、製品検査要領書を作成し、監理者の承認を受けること。

製作工場では、溶接部の外観および超音波探傷、製品寸法の自主検査記録が100%揃っていること。

工場製作の抜取検査は、品質が安定しており、日常の平均不良率が充分に小さいことを前提としている。この前提が満足できていない可能性がある場合は、検査率を別途に定めるなど監理者と協議のこと。

7.13.2 ［追加］ 溶接施工試験

○ 溶接施工試験

引張り強度490N/mm²を超える規格の鋼材を使用する場合は、溶接施工試験を実施する。

施工者は、鉄骨製作に先立ち、製作工場の実績、管理体制及び過去の試験結果の有無などを調査すること。

施工者は、試験計画書を作成し、監理者の承認後、監理者立会いのもとで試験を実施する。ただし、製作工場に十分な実績、管理体制能力があり、かつ、施工試験の結果などがある場合は、協議により施工試験を免除できる。

7.13.3 ［追加］ 仕上げ、設備関連部材

付属鉄骨など

エレベーターのレール受け及び中間ビームなどは意匠図による。

PC版など乾式仕上げ材の取付けファスナーは意匠図による。

設備架台、配管受けなどは意匠図による。

その他の乾式仕上げ材などの下地鉄骨は意匠図による。

付属鉄骨などと本体鉄骨の取合い

仕上げ部材を取付けるためのピース、仮設部材などは工場取付けを原則とする。

現場取付けとする場合は、捨てプレートを工場にて取付けるか、鉄骨工事の現場溶接技能者により取付けをすること。

内外装材などの仕上げ材取付け部について、下地鉄骨、ファスナーなどに、鉄骨納まりの不具合、ねじれ、垂れなど施工上、精度の不具合が生じないことを遅延なく確認し、監理者に報告すること。

その他

建築設備の構造強度に関する部分の構造設計一級建築士の法適合確認

令第 129 条の2の3第二号の規定に基づき、建築設備にあっては、国土交通省告示第 1447 号により、構造耐力上安全な構造方法とする。

令第 129 条の2の3第三号の規定に基づき、屋上から突出する水槽、煙突その他これに類するものにあっては、国土交通省告示第 184 号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

鉄筋コンクリート構造基準図－１

１　総　　則

１．１　適用範囲

1）本基準図は設計図（意匠図，構造図）の鉄筋コンクリート造部分等 に適用する。
2）現場説明事項，質疑応答書，共通仕様書，特記仕様書及び本構造図に記載のない事項は、本基準図による。
3）基準図と他の設計図との間に疑義が生じた場合は監理者の指示による。
4）本図中の標仕○.○.○などの表記は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成31年版）の記載による。
5）本図を含む構造図に特記のない限り、鉄筋はSD295A、SD295B、SD345、SD390とし、コンクリートは Fc36以下とする。
6）本図及び構造図などで配筋方法が不明の場合は下記の指針，基準に準じ監理者と協議の上、配筋方法を決める。
（社）日本建築学会　建築工事標準仕様書・同解説　JASS5　鉄筋コンクリート工事
（社）日本建築学会　鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
（社）日本建築学会　鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
7）前項6)によって生じた変更は特記仕様書にいう軽微な変更とする。

２　一 般 事 項

２．１　鉄筋の表示記号・呼名・単位

1）本基準図を含む設計図に用いる鉄筋の表示記号は下記による。
ただし、書入れ表示がある場合は書入れによる。

異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38
記　号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	◎	∅	⊗

2）本基準図を含む設計図に記載の d は、異形鉄筋の呼び名の数値を示す。
3）本基準図を含む設計図の書入れ寸法は特記のない限り mm単位とする。

２．２ 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

（1）重ね継手長さ
径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dと下表のうち大きい値とする。
上記以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。　　標仕 表5.3.2

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	L1(フックなし)	L1h(フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24,27	35d	25d
	30,33,36	35d	25d
	42以上	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24,27	40d	30d
	30,33,36	35d	25d
	42以上	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24,27	45d	35d
	30,33,36	40d	30d
	42以上	35d	25d

（注）1．L1，L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
2．フックありの場合のL1hは、フック部分 ℓ を含まない。
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
4．鉄筋相互にあきがある場合は、あきの間隔が0.2L1かつ150mm以下のとき、重ね継手としてよい。
5．隣り合う継手の位置は、表5.3.3による。

（2）定着長さ

標仕 表5.3.4

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	直線定着の長さ L1	直線定着の長さ L2	直線定着の長さ L3 小梁	直線定着の長さ L3 スラブ	フック有り定着の長さ L1h	フック有り定着の長さ L2h	フック有り定着の長さ L3h 小梁	フック有り定着の長さ L3h スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	-
	21	40d	35d			30d	25d		
	24,27	35d	30d			25d	20d		
	30,33,36	35d	30d			25d	20d		
	42以上	30d	25d			20d	15d		
SD345	18	50d	40d	（片持小梁の場合は25d）	（片持スラブの場合は25d）	35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24,27	40d	35d			30d	25d		
	30,33,36	35d	30d			25d	20d		
	42以上	30d	25d			20d	15d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24,27	45d	40d			35d	30d		
	30,33,36	40d	35d			30d	25d		
	42以上	35d	30d			25d	20d		

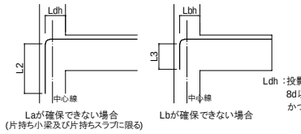
（注）1．L1，L1h：2以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2．L2，L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3．L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く)。
4．L3h：小梁の下端筋のフックあり定着長さ。
5．フックあり定着の場合はフック部分 ℓ を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6．鉄骨のフラットな面に鉄筋の定着部が接する場合は、その長さの1／2程度を定着長さに加える。
7．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
8．上記を満足できない場合は、「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」に準じ、監理者と協議の上、定着長さを決めることができる。※機械式定着による場合は、定着具の寸法・品質・施工法およびその場合の定着長さを設計図書に特記する。

フックありのフック部分 ℓ

（3）折曲げ定着の投影定着長さ　　標仕 表5.3.5

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d（12d）
	21	15d	15d（12d）
	24,27	15d	15d（12d）
	30,33,36	15d	15d（12d）
	42以上	15d	15d（12d）
SD345	18	20d	20d（16d）
	21	20d	20d（16d）
	24,27	20d	15d（12d）
	30,33,36	15d	15d（12d）
	42以上	15d	15d（12d）
SD390	21	20d	20d（16d）
	24,27	20d	20d（16d）
	30,33,36	20d	15d（12d）
	42以上	15d	15d（12d）

（注）1．La：梁主筋の折曲げ定着の投影定着長さ。（柱せいの3／4倍以上）（基礎梁、片持梁、片持小梁及び片持スラブを含む）
2．Lb：小梁及びスラブの上端筋の折曲げ定着の投影定着長さ。（片持小梁及び片持スラブを除く）なお、余長部が8d以上かつ150以上コア内に定着されている場合、（ ）内の 数字としてよい。
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
4．仕口せいが小さく、La、Lbが確保できない場合の鉄筋の折曲げ定着要領は下記による。



5．上記を満足できない場合は、「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」に準じ、監理者 と協議の上、定着長さを決めることができる。

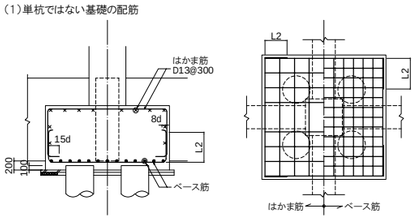
２．３ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

鉄筋のかぶり厚さ及び間隔は、標仕5.3.5による。
ただし、主筋が40以上の異形鉄筋の場合や機械式継手を使用する場合のかぶり厚さ及び間隔は、特記による。

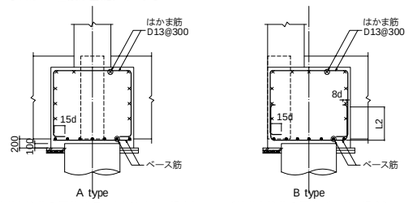
３　基 礎 の 配 筋

３．１　杭基礎

（1）単杭ではない基礎の配筋

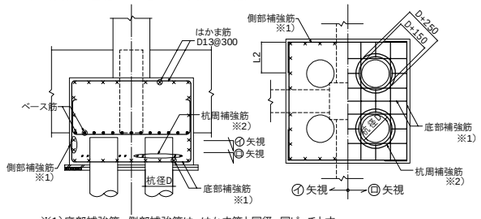


（2）単杭の基礎の配筋
AまたはBの種別は基礎リストによる



（杭芯と柱芯の偏芯が無いまたは小さい場合）　（杭芯と柱芯の偏芯が大きい場合）

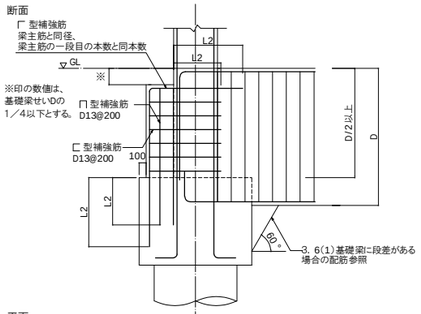
（3）杭頭部が基礎にのみ込んでいる場合の補強



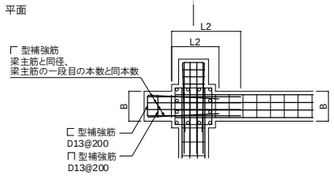
※1）底部補強筋、側部補強筋は、はかま筋と同径、同ピッチとす。
※2）杭周補強筋は、2-D13（重ね長さ10d）とし、直径は杭径D+150および250とする。

（4）基礎が基礎梁せいの1／2以上下がっている場合の配筋

a　断面

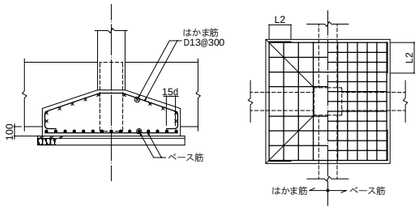


b　平面

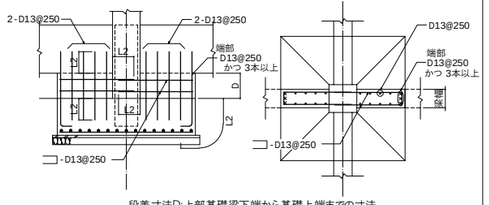


３．２　直接基礎

（1）独立基礎，連続基礎の配筋



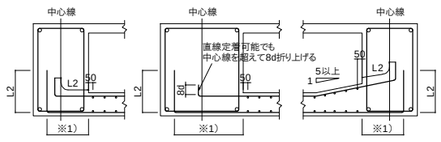
（2）基礎接合部の補強



段差寸法D:上部基礎梁下端から基礎上端までの寸法
D≧-100
（基礎梁下端主筋が基礎はかま筋に入らない状態）

３．３　べた基礎

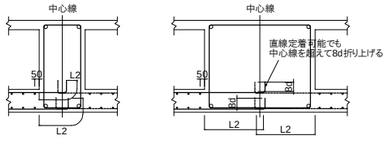
（1）底盤の基礎梁への定着（外端部）



外端部　　外端部（基礎梁幅が大きい場合）　　外端部（ハンチ付きの場合）

※1）端部下端筋は、梁幅の中心線を超えて、立上りでL2定着を確保する。

（2）底盤の基礎梁への定着（中間部）
両側に底盤を有する場合の底盤の配筋は、引き通しを基本とする。
L2定着とする場合は下記による。

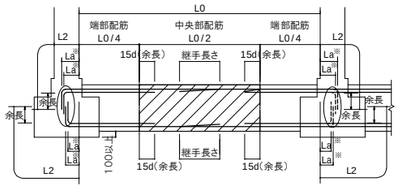


※べた基礎でない場合の底盤の配筋はスラブ配筋による。
ただし、水圧を受ける底盤は特記による。

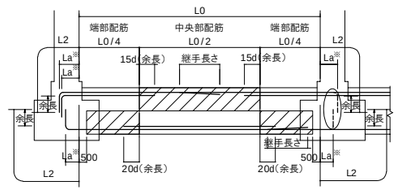
３．４　基礎梁主筋

1）継手、定着及び余長は下記による。
2）斜線は重ね継手・ガス圧接・機械式継手中心位置の範囲を示す。
3）━━━　印は、継手及び余長位置を示す。
4）破線は、柱内定着の場合を示す。
5）上端主筋の定着は、曲下げ定着とするが、やむを得ない場合、監理者と協議の上、曲げ上げ定着とすることができる。
6）梁主筋は、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、監理者と協議の上、下記dによる。
※図中のLaは、La、かつ、柱せいの3/4倍以上とする。

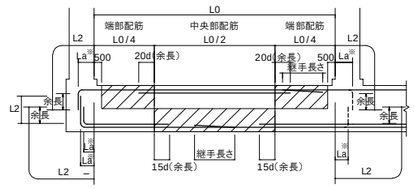
a．杭基礎または独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の配筋



b．杭基礎または独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の配筋

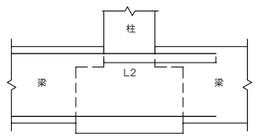


c．連続基礎及びべた基礎の場合の配筋



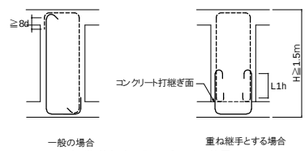
べた基礎の場合の基礎小梁・片持ち梁の配筋は、6章の配筋要領の下端筋を上端筋と同じ要領に読み替えて適用する。

d．梁筋をやむを得ず梁内に定着する場合の配筋



３．５　基礎梁のあばら筋

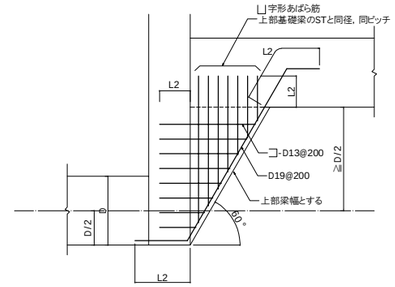
1）あばら筋の割付けは、「5　大梁の配筋」による。
2）あばら筋の径および間隔は、特記による。
3）あばら筋組立の形及びフックの位置は、「5　大梁の配筋」による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下記によることができる。
4）腹筋及び幅止め筋は「5　大梁の配筋」による。



一般の場合　　重ね継手とする場合
あばら筋組立の形及びフックの位置

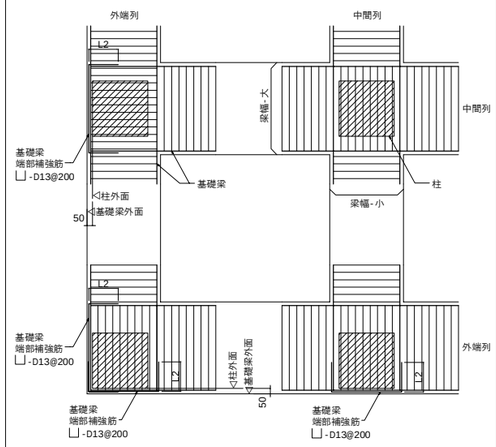
３．６　その他の配筋

（1）基礎梁に段差がある場合の配筋
段差の上部側の基礎梁の下端を増打ちし下記要領にて配筋する。



（2）基礎梁の幅が柱幅より大きく梁通しとする場合の配筋

1) 基礎梁のあばら筋の通し順は特記による。特記がない場合は、以下による。
・外端列のあばら筋を通す。
・外端列 - 外端列、中間列 - 中間列は、梁幅の大きい方のあばら筋を通す。
2) 外端列の基礎梁外面と柱外面の逃げ寸法は50mmとする。
3) 基礎梁の外端部には、端部補強筋D13@200を配筋する。
4) 柱主筋は、梁主筋の内側にL2定着とし、帯筋は省略しても良い。



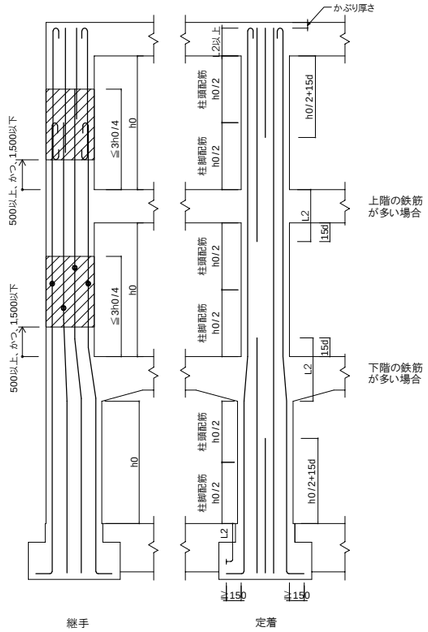
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 鉄筋コンクリート構造基準図－１	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-004

鉄筋コンクリート構造基準図－２

4　柱 の 配 筋

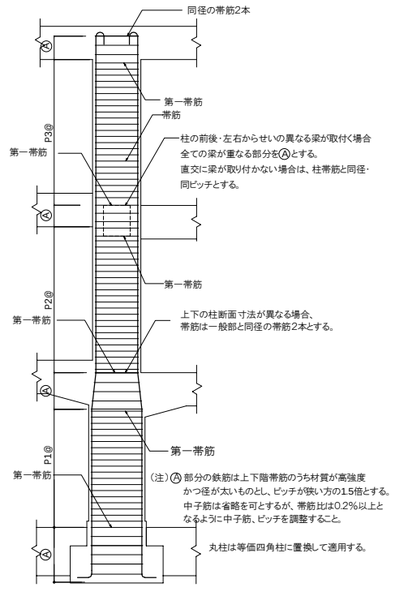
4．1　柱主筋

1)継手、定着及び余長は下記による。
2)斜線は重ね継手・ガス圧接継手・機械式継手の継手位置の範囲を示す。
3)柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
4)継手、定着は、全ての階に適用する。
5)最上階で、4.3(1)bの場合に限り、図示の位置に定着を設けて良い。



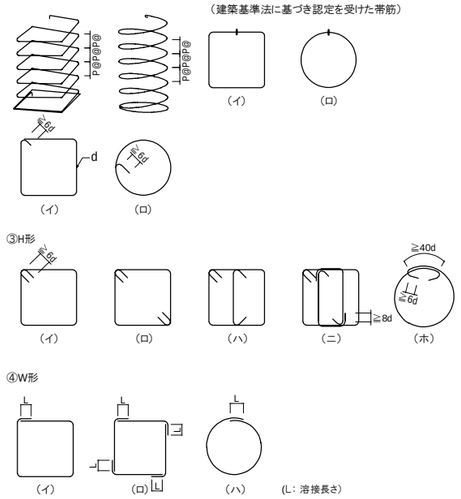
4．2　帯筋

1)帯筋の割付けは、下記による。
P1@,P2@,P3@は、特記された帯筋の間隔を示す。



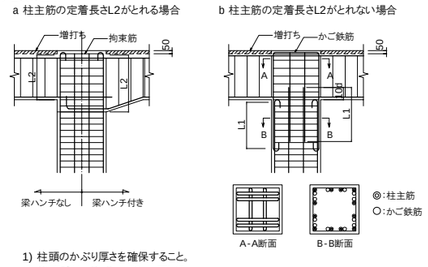
2)帯筋組立の形は、下記による。
・SP形を標準とし、SP形にできない場合は監理者と協議の上、電気抵抗溶接閉鎖形とする。
仕口部はH形を標準とする。
・SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。
・SP形、電気抵抗溶接閉鎖形、W形の中子筋の形状は、H形による。
・H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W形とする。
・溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、ビートの始点及び終点としてそれぞれ2dを加える。
・フック及び継手の位置は上下で連続しないように配置する。

①SP形(スパイラル筋)　②電気抵抗溶接閉鎖形（建築基準法に基づき認定を受けた帯筋）



4．3　その他の配筋

（1）柱頭の配筋
a 柱主筋の定着長さL2がとれる場合　b 柱主筋の定着長さL2がとれない場合

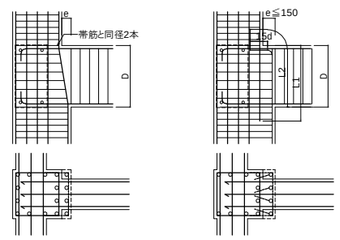


1) 柱頭のかぶり厚さを確保すること。
2) 梁天端は、柱頭より50mm下げる。
3) 拘束筋は柱帯筋と同径2本とする。
4) かご鉄筋は柱頭主筋と同径、同本数とする。

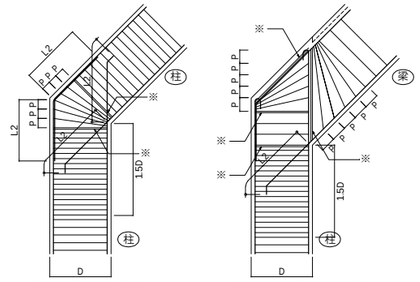
（2）上下の柱断面寸法が異なる場合の配筋

$\frac{e}{D} \leqq \frac{1}{6}$ の場合
（柱主筋を上階の柱主筋と連続させる場合）

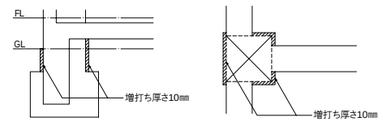
$\frac{e}{D} > \frac{1}{6}$ の場合
（柱主筋を上階の柱主筋と連続させない場合）



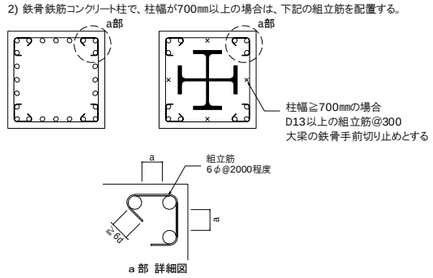
（3）斜め柱・斜め梁の配筋
1)※印の鉄筋は該当部材の帯筋又はあばら筋を2組束ねて配筋する。
2)図中のPは、該当部材の帯筋又はあばら筋の所定のピッチを示す。
3)扇形のつぼまる側の鉄筋は、所定の最小間隔を確保する。
4)傾斜部材の方向に梁部材がない場合は、図示1.5Dの範囲の帯筋量を1.5倍にする。



（4）土に接する柱周辺の増打ち

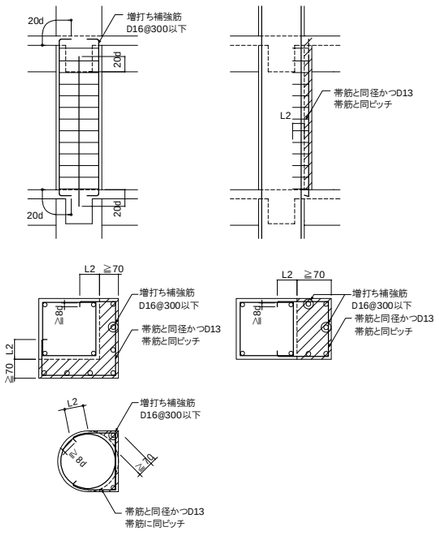


（5）組立筋
1) 柱リストに二段筋の表示がある場合の組立筋は、下記による。
2) 鉄骨鉄筋コンクリート柱で、柱幅が700mm以上の場合は、下記の組立筋を配置する。



a（鉄筋のあき）：　特記無き限り、呼び名の数値の1.5倍かつ、粗骨材最大寸法の1.25倍かつ、25mmの最大値。

（6）柱増打ち補強筋
1) 柱の増打ち幅が70mm以上となる場合の補強は、下記による。

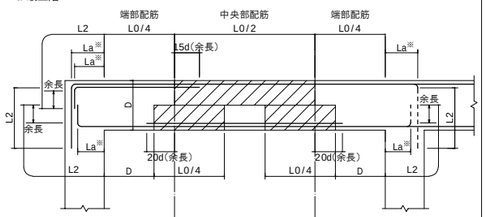


5　大 梁 の 配 筋

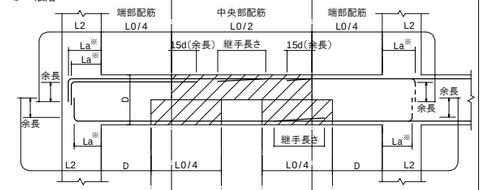
5．1　大梁主筋

1)継手、定着及び余長は下記による。
2)斜線は重ね継手・ガス圧接・機械式継手の継手中心位置の範囲を示す。
3)――― 印は、継手及び余長を示す。
4)破線は、柱内定着の場合を示す。
5)梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合（基礎梁を除く）には、フックを付ける。
6)下端主筋の定着は、曲上げ定着とするが、やむを得ない場合は監理者と協議の上、曲下げ定着とすることができる。
7)梁主筋は、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。
ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、監理者と協議の上、下記 e による。
※図中のLaは、La、かつ、柱せいの3/4倍以上とする。

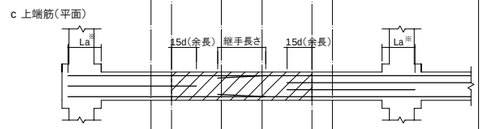
a 最上階



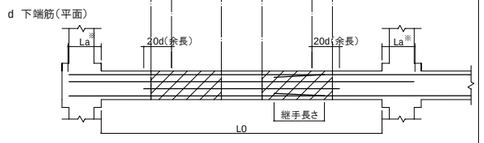
b 一般階



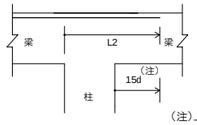
c 上端筋(平面)



d 下端筋(平面)



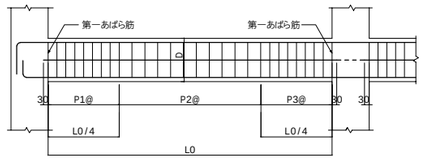
e 梁主筋をやむを得ず梁内に定着する場合の配筋



(注)上階に柱がある場合の定着長さはL2とし、15dは省略できる。

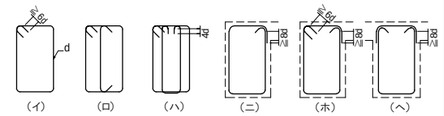
5．2　あばら筋

1)あばら筋の割り付けは、下記による。
P1@、P2@、P3@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。



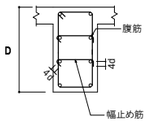
2) あばら筋組立の形は、下記による。
・H形の(イ)～(ハ)を標準とし、片側スラブ付き梁の場合は、(ニ)又は(ホ)、両側スラブ付き梁の場合は、(ニ)～(ヘ)とすることができる。
・フックの位置は、(イ)～(ハ)の場合は交互とし、(ニ)の場合は、片側スラブ付き梁ではスラブの付く側、両側スラブ付き梁では交互とする。なお、(ホ)の場合はスラブの付く側を90°折曲げとする。
・H形にできない場合は、W形とすることができる。
・溶接長さは、「4．2　帯筋」による。
・H形の(イ)以外の中子筋の形状は、H形の(ロ)、(ハ)による。

①H形



②W形　③電気抵抗溶接閉鎖形（建築基準法に基づき認定を受けたあばら筋）

4)腹筋及び幅止め筋、二段受け筋など
・腹筋の割り付けは、特記なき限り下記を標準とする。
・腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mmとし、定着長さは30mmとする。
ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ及び定着長さは、特記による。
・幅止め筋及び二段受け筋は、D10@1000程度とする。

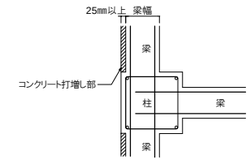


梁 せ い	腹　筋
D ＜ 600	不要
600 ≦ D ＜ 900	2－D10(1段)
900 ≦ D ＜ 1200	4－D10(2段)
1200 ≦ D ＜ 1500	6－D10(3段)
1500 ≦ D ＜	2－D13@450以下

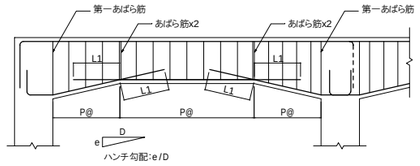
注)SRC造の場合、幅止め筋は省略してもよい。

5．3　その他の配筋

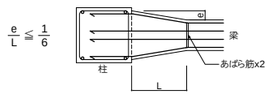
（1）柱と梁が同一面となる場合の納まり
1)下図の要領で梁幅を設定し、梁主筋を直線に配筋する。
2)柱幅と梁幅が同一の場合は、梁幅の中で梁主筋を直線に配筋する。
3)柱幅より梁幅が大きい場合は、3.6(2)による。



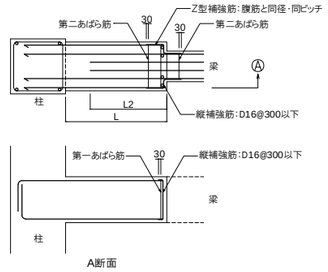
（2）鉛直ハンチの配筋
1)梁主筋の継手、定着及び余長は、「5．1　大梁主筋」による。
2)あばら筋の割り付けは、「5．2　あばら筋」による。
3)ハンチ勾配が e/D≦1/6の場合は、コーナー部の主筋は折り曲げ引きとおしと出来る。



（3）水平ハンチの配筋



（4）ドロップハンチの配筋
L≧L0/4+15d、かつL1



2012.12.25 第1版 2013.02.05 第2版 2013.03.26 第3版 2013.09.17 第4版	訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
		図面名称 鉄筋コンクリート構造基準図－2	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S　図面番号 S-005

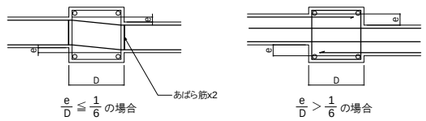
鉄筋コンクリート構造基準図－３

(5) 梁に段差がある場合の配筋

1)平面的な段差

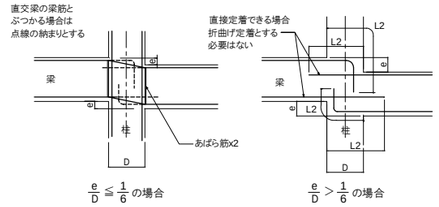
・主筋の折り曲げがe/D≦1/6であっても主筋を柱内に別々にアンカーしてよい。

・e/D＞1/6の場合、通し配筋できるものは、通し配筋としてもよい。



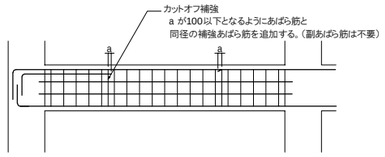
$\frac{e}{D} \leqq \frac{1}{6}$ の場合　　$\frac{e}{D} > \frac{1}{6}$ の場合

2)断面的な段差



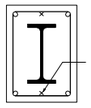
$\frac{e}{D} \leqq \frac{1}{6}$ の場合　　$\frac{e}{D} > \frac{1}{6}$ の場合

(6) 梁主筋の部材内定着部(段落とし部)の補強



(7)鉄骨鉄筋コンクリート大梁の組立筋は下記による。

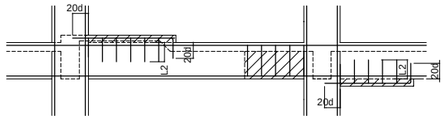
1) 鉄骨鉄筋コンクリート梁で、梁幅が700mm以上の場合は、下記の組立筋を配置する。

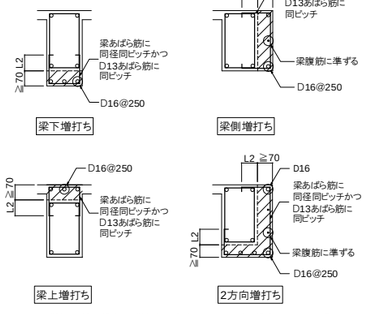


梁幅≧700mmの場合
D13以上の組立筋@300
柱の鉄骨手前切り止めとする

(8) 梁増打ち補強筋

梁の増打ち幅が70mm以上となる場合の補強は、下記による。





梁の上下に増打ちがある場合で、増打ち寸法が400mm以上ある場合は、5.2 4)に準じて幅止め筋及び腹筋を設ける。

6　小梁・片持ち梁の配筋

6．1　小梁主筋

1) 小梁の継手、定着及び余長は下記による。

2) ―――― 印は、継手及び余長を示す。

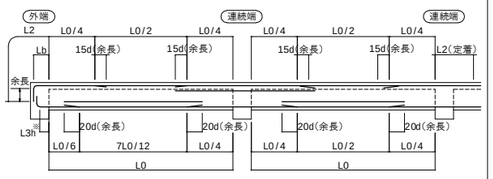
3) 梁主筋は、柱、大梁をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱、または大梁に定着する。

4) 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

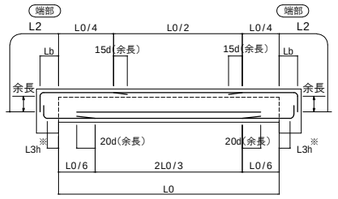
5) 図示のない事項は、「3．4 基礎梁主筋」、「5．1 大梁主筋」、「5．2 あばら筋」による。

※ Lb,L3hを確保できない場合は、2.2(3)注記4 によることができる。

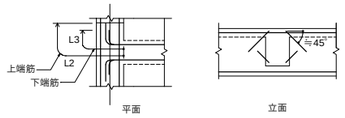
a 連続小梁の場合



b 単独小梁の場合



c 直交する梁への定着



6．2　片持梁主筋

(1)先端に小梁のない場合

1) 継手、定着及び余長は下記による。

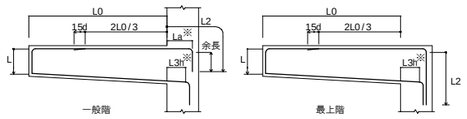
2) ―――― 印は、継手及び余長を示す。

3) 先端の折曲げの長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。

4) 梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

※　Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

※　L3hを確保できない場合は、2.2(3)注記4 によることができる。

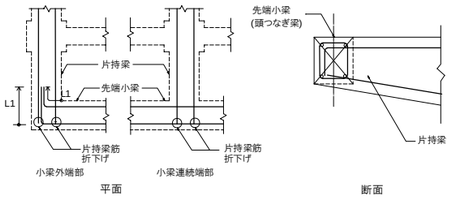


(2)先端に小梁がある場合

1) 図示のない場合は、(1)による。

2) 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

3) 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



6．3　小梁・片持梁のあばら筋など

1) あばら筋は、大梁に準じて 5.2 1)～3)による。

2) 腹筋及び幅止め筋、二段受け筋は、大梁に準じて 5.2 4)による。

6．4　鉄骨鉄筋コンクリート部材と主筋の関係

1) 小梁・片持ち梁の上端筋は、鉄骨ウエブを貫通して定着する。

2) 小梁・片持ち梁の下端筋は、鉄骨を貫通せず2.2(3)注記4 により定着することができる。

7　壁 の 配 筋

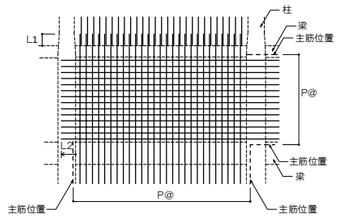
7.1　壁筋

(1) 壁筋の割付け

1) 壁筋の割付けは下記による。

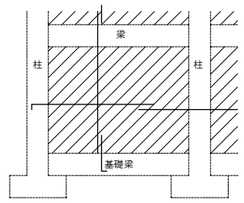
2)P@は、特記された壁筋の間隔を示す。

3)幅止め筋は縦筋・横筋ともD10@1000以下とする。



(2) 継手

1) 壁筋の継手は、下図の斜線部で行なう。

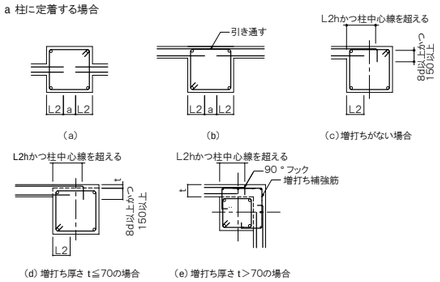


(3) 柱・梁への定着

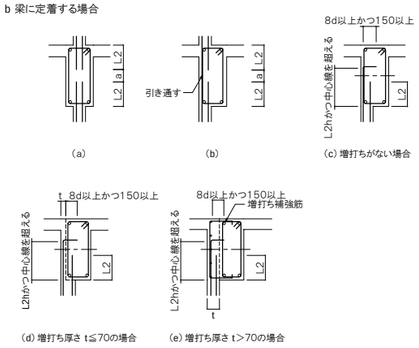
1) 柱・梁への定着は下記による。

2)図中aの範囲がある場合は、当該部分は通し配筋としてもよい。

a 柱に定着する場合

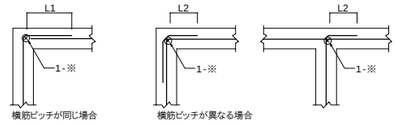


b 梁に定着する場合

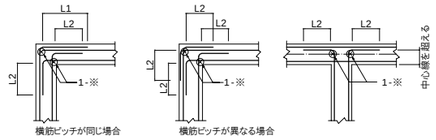


(4) 交差部の配筋

a 壁と壁の交差部の配筋 (シングル配筋の場合)

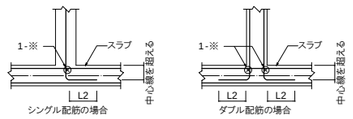


b 壁と壁の交差部の配筋 (ダブル配筋の場合)



図中※印の鉄筋は、D13かつ壁縦筋の最大径以上とする

c 壁と床スラブの交差部の配筋

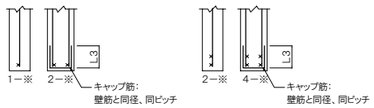


図中※印の鉄筋は、D13かつスラブ筋の最大径以上とする

(5) 壁端部の配筋

1) 端部配筋は、水平面、垂直面とも同様とする。

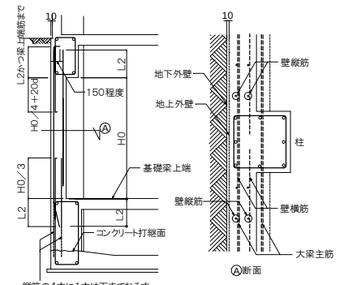
2)図中※印の鉄筋は、壁端部の縦筋で、耐震壁は開口補強筋、一般壁は壁筋と同径かつD13以上とする。



① 内壁の端部　　② 外壁(外部に面する壁)の端部

7.2　地下外壁

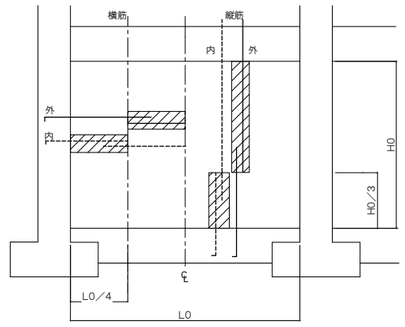
1) 土圧を受ける地下外壁の配筋は下記による。



縦筋の4本に1本は下までおろす。
縦筋をすべて下までおろす場合は、地下外壁リストによる。

2) 土圧を受ける地下外壁の継手は下記による。

斜線は継手位置を示す。

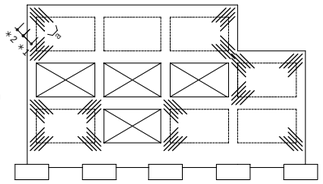


注)―――― は土に接する側の鉄筋
------ は内側の鉄筋

7.3 その他の配筋

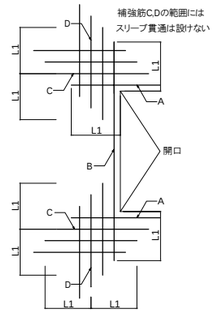
(1) 外壁隅部の補強筋

外壁外側の鉄筋の内側に下記の補強筋を入れる。

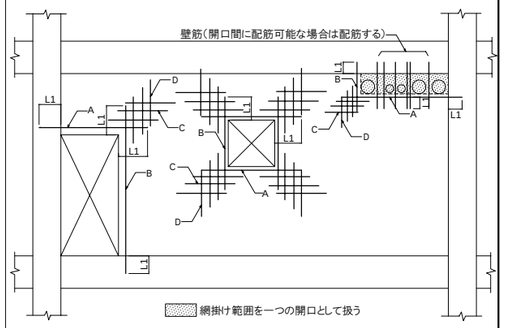


(2) 壁の開口補強要領

開口補強筋A、B、C、Dは壁リストによる。



開口部の最大寸法が300以下で，鉄筋をゆるやかに曲げることにより開口部をさけて配筋できる場合は，補強を省略することができる。

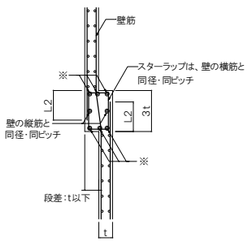


(3) 耐震壁段差部の配筋

1) tは壁厚を示す。

2)図中※印の鉄筋は、縦筋 横筋のうち、大きい方の1サイズアップとする。

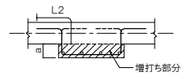
3)図中※印の鉄筋は、継手長さはL1、定着長さはL2とする。



(4) 壁の増打ち補強

1) 壁の増打ち厚さaが50mm以上の場合の補強を示す。

2)増打ち補強筋は、縦筋・横筋とも径はD10、ピッチは壁筋と同ピッチとする。



2012.12.25 第1版 2013.02.05 第2版 2013.03.26 第3版 2013.09.17 第4版	訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
		図面名称 鉄筋コンクリート構造基準図－３	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S
			図面番号 S-006

鉄筋コンクリート構造基準図－４

(5) 誘発目地

・誘発目地の間隔

1) 誘発目地の間隔は3m以下とする。

2) 梁・柱・誘発目地・耐震スリットなどで囲まれた1枚の壁の面積は25㎡以下とする。

3) 1枚の壁の面積が小さい場合を除いて、その辺長比は1．25以下とする。

・誘発目地の仕様

1) 一般壁の場合はVP管を、耐震壁の場合は丸鋼を欠損材として使用する。

2) 誘発目地、縦筋、VP管及び丸鋼を一直線に並べ、欠損率25%以上を確保する。

3) 目地深さ＝増打ち厚さとする。

4) 水平方向目地を設ける場合は、鉛直方向目地と同様、水平方向目地位置に合わせて欠損材を配置する。なお、欠損材の縦横の交差部は一方を通しとし、直交方向は分断配置とする。

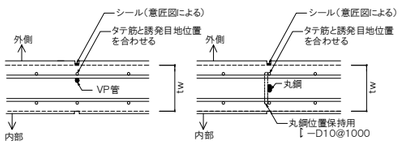
5) 誘発目地を柱際に設ける場合は、柱断面内にVP管、丸鋼が入らないように注意すること。

1）一般壁の場合

壁厚	VP(外径)
tw (mm)	φ (mm)
150	18
180	18
200	18
220	22
250	22
300	38

2）耐震壁の場合

壁厚	丸鋼
tw (mm)	
150	1－φ12
180	2－φ12
200	2－φ12
220	2－φ16
250	2－φ16
300	3－φ16

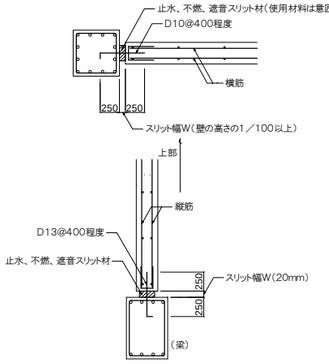


※丸鋼は壁厚中央に並列に配置し、周辺躯体への定着はしないものとする。

(6) 耐震スリット

1) 耐震スリットの位置は構造図によるとし、断面形状および補強筋の配筋は下図による。

2) 補強筋は、外部および水廻り部では防錆加工したものを使用する。

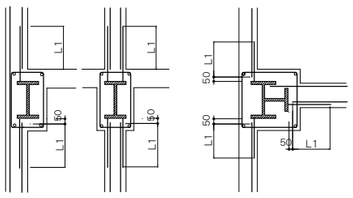


(7) 異形スタッドを用いた納まり

1) 鉄骨鉄筋コンクリート造の柱、梁の鉄骨に壁筋を緊結する場合に使用する。

2) スタッドの施工仕様は特記仕様書による。

3) 鉄筋を緩やかに曲げられる場合（1／5）は、鉄筋を折り曲げて納めても良い。



(a) 梁との納まり　(b) 柱との納まり

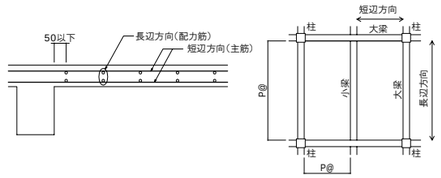
8　スラブの配筋

8.1 スラブ筋

(1) スラブ筋の割付け

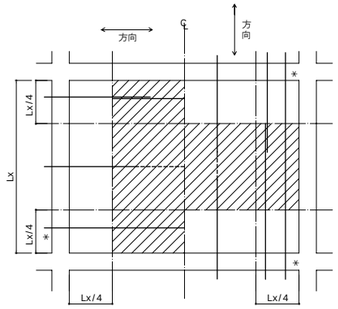
1)スラブ筋の割付けは下記による。

2)P@は、特記されたスラブ筋の間隔を示す。

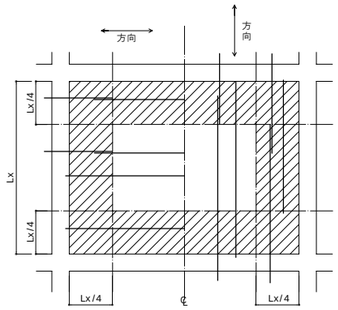


(2) 継手

1)スラブ筋の継手は、下図の斜線部で行なう。



（a） 上端筋の継手



（b） 下端筋の継手

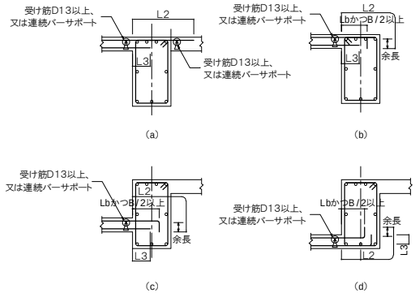
(3) 定着長さ及び受け筋

1)スラブ筋の定着及び受け筋は下図による。

2)スラブ筋は梁上を引き通す。

3)ただし、引き通すことができない場合は、(b),(c),(d)により梁内に定着する。

4)壁に定着する場合も下記にならう。

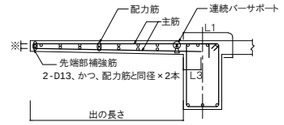


8.2 片持スラブ

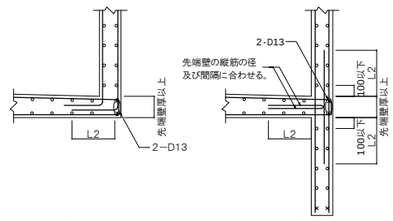
(1) 先端に壁が付かない場合の配筋

1) 先端の折り曲げ長さ(※印)は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

2)スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。



(2) 先端に壁が付く場合の配筋



(a) 垂れ壁のない場合　(b) 垂れ壁のある場合

8.3 その他の配筋

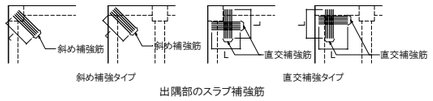
（1）スラブの出隅及び入隅部の補強筋

1)スラブの出隅部及び入隅部には、下記の補強筋を配置する。

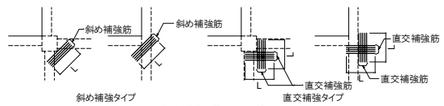
2)補強筋は、斜め補強の場合は上端筋の下に、直交補強の場合は上端筋の間に配置する。

3)補強筋は、一般階では3-D13、屋根スラブの場合は5-D13とし、長さは1500とする。

4)出の長さ600以上の片持ちスラブにより出隅及び入り隅が形成される場合は、省略できる。



出隅部のスラブ補強筋



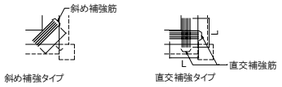
入隅部のスラブ補強筋

斜め補強筋
屋根階：5-D13@100
一般階：3-D13@100
L：補強筋長さ　L=1500

直交補強筋
屋根階：5-D13タテヨコ　@：スラブ筋を含め@100以下
一般階：5-D13タテヨコ　@：スラブ筋を含め@100以下
L：補強筋長さ　L=1500

（2）片持ちスラブの出隅部及び入隅部の補強筋

1)片持ちスラブの入隅部の補強筋は下図による。



斜め補強タイプ

屋根階：5-D13@100
L：補強筋長さ　L=2500
一般階：3-D13@100
L：補強筋長さ　L=1500

直交補強タイプ

屋根階：5-D13タテヨコ　@：スラブ筋を含め@100以下
L：補強筋長さ　L=2500
一般階：5-D13タテヨコ　@：スラブ筋を含め@100以下
L：補強筋長さ　L=1500

2)片持ちスラブの出隅部の補強筋は特記が無い限り下記による。

出隅の配筋と補強筋

各々のスラブの上下配力筋を配筋し、補強筋として配力筋と同配筋を配力筋と補強筋の間隔が1/2になるように上下とも配置する。

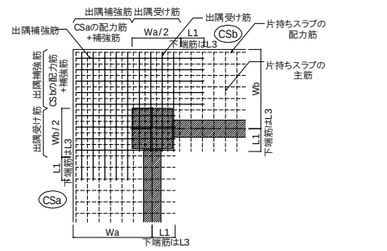
出隅受け筋

配筋する片持ちスラブと直交の片持ちスラブの出寸法(Wa,Wb)の1/2の範囲に、主筋と同配筋を主筋と受け筋の間隔が1/2になるように上下とも配置する。

柱の形状により受け筋が配置できない場合は、配置できない配筋を柱の左右に振分けて配置してよい。

振分けは、柱から出隅スラブ側に1/3、片持ちスラブ側=2/3とする。その場合の受け筋を配置する範囲は、鉄筋の最小間隔を確保の上、範囲を広げてよい。

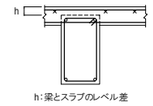
出隅受け筋は、スラブの出寸法が1000未満の場合は不要とする。



(3) 梁とスラブにレベル差がある場合の配筋

1)h≦70 の場合は、補強筋なし。

2)h＞70 の場合は、5.3.(7)梁増打ち補強筋とする。

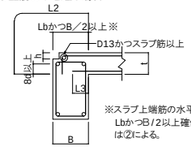


h：梁とスラブのレベル差

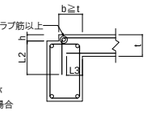
（4）梁上でスラブにレベル差がある場合の配筋

1)①～③は壁がない場合、④は壁がある場合を示す。

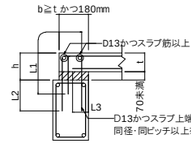
① 0≦h≦50mm かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合



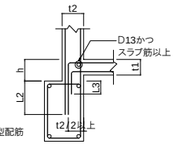
② h＞50mm かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合



③ h＜t+70mm かつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合



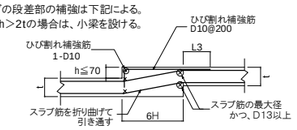
④ h＜3t1 かつ t2＞t1



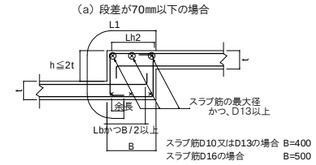
（5）スラブ段差部の補強

1)スラブの段差部の補強は下記による。

2)段差 h＞2tの場合は、小梁を設ける。



（a）段差が70mm以下の場合



（b）段差が2t以下の場合

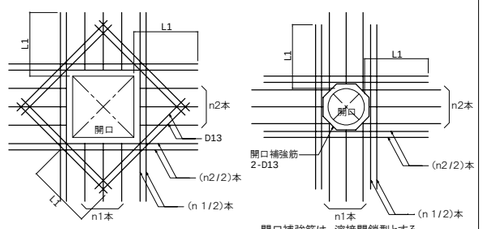
（6）スラブ開口部の補強

1)スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に、斜め方向に2－D13(L＝2L1)シングルを上下筋の内側に配筋する。

2)スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

3)円形の開口に対しても、同様の要領で補強筋を配筋する。

4)円形の開口で、開口径400mm以下の場合や開口が密集する場合は、下図に示す既製品（スラブレン）の使用を検討すること。



開口補強筋は、溶接閉鎖型とする。

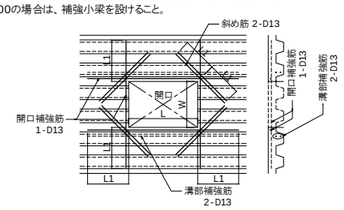
また、配筋位置は、上下主筋または配力筋と同位置とし、開口際の補強筋と結束すること。

（7）合成スラブの開口部の補強

1)開口は、250≦W≦600、L≦900とする。

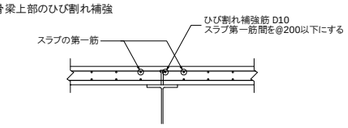
2)補強筋は、a：溝部補強筋、b,c：開口部補強筋、d：斜め補強筋とする。

2)W＞600の場合は、補強小梁を設けること。

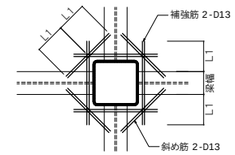


（8）鉄骨造の場合のひび割れ補強

① 鉄骨梁上部のひび割れ補強



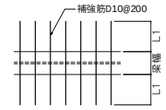
② 鉄骨造の柱廻りのひび割れ補強



③ 合成スラブの梁上ひび割れ補強筋

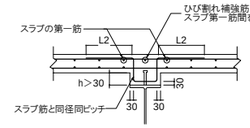
1)合成スラブ構造で、デッキプレートの連結部となる部位には、大梁、小梁を問わず、ひび割れ補強筋を配筋する。

2)ひび割れ補強筋は、合成スラブ上端筋とは別に付加する。



（9）鉄骨梁とスラブに段差がある場合の配筋

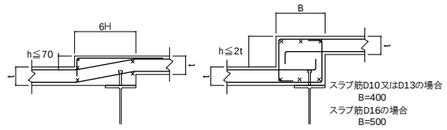
1)鉄骨梁天端レベルとスラブ下端レベルに30㎜を超えるレベル差がある場合は下記による。



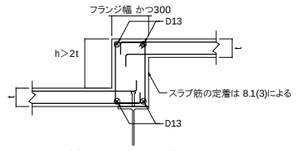
（10）鉄骨造のスラブ段差部の補強

1)鉄骨造でスラブ段差がある場合の段差部の補強は、8.3(5)による。

2)2t以上の段差がある場合は、鉄骨小梁でスラブを支持するほか、スラブ筋定着のためにRC小梁を設ける。



（a）段差が70㎜以下の場合　（b）段差が2t以下の場合



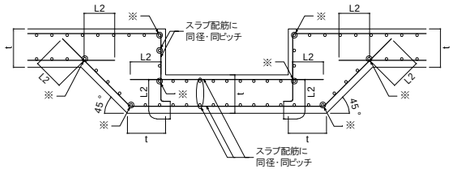
（c）段差が 2t以上の場合

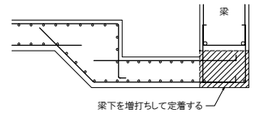
（11）サクションピット(かま場)の配筋

1)サクションピットの大きさは意匠図による。

2)図中※印の鉄筋は、スラブ筋最大径の1サイズアップとする。

3)梁に取り付く場合は、梁下を増打ちして定着する。増打ち補強、スラブ筋の定着方法は各項による。





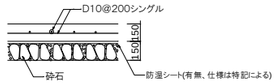
2012.12.25 第1版 2013.02.05 第2版 2013.03.26 第3版 2013.09.17 第4版	訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
		図面名称 鉄筋コンクリート構造基準図－4	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-007

鉄筋コンクリート構造基準図－５

8.4 土間コンクリート

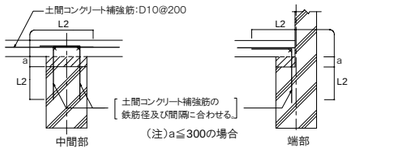
土間コンクリートとは、土に接するスラブで、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいう。

（1）土間コンクリートの配筋

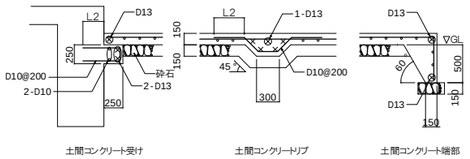


パイプロローラ等により期待地耐力50kN／㎡以上まで締め固める。
地盤が軟弱で上記地耐力の確保がむずかしい場合は、軟弱地盤を良質土におきかえる。

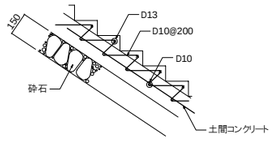
（2）土間コンクリートと基礎梁との接合部の配筋



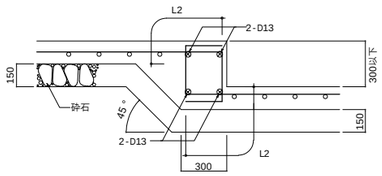
（3）土間コンクリート受け・土間コンクリートリブの配筋
1) 土間コンクリートには、間隔3m以下、かつ、25㎡以下となるようにひび割れ誘発目地を設ける。
2) 目地を設けない場合は、リブを設ける。
3) リブの間隔は間隔3m以下、かつ、25㎡以下とする。



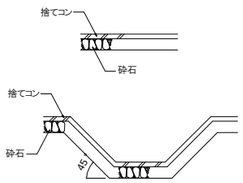
（4）土間コンクリート階段の配筋



（5）土間コンクリート段差部の配筋



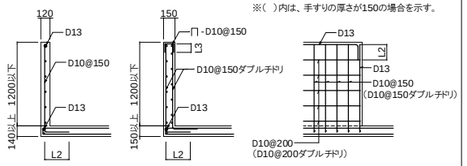
（6）捨てコンピット、捨てコンピット釜場
1) 捨てコン、砕石の厚さは特記による。
2) ピットの大きさは意匠図参照。
3) 地盤の状況により砕石を省略することができる。



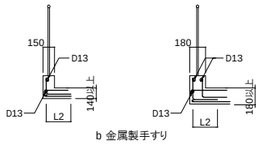
9 その他各部の配筋

9.1 手すりの配筋

※(　)内は、手すりの厚さが150の場合を示す。

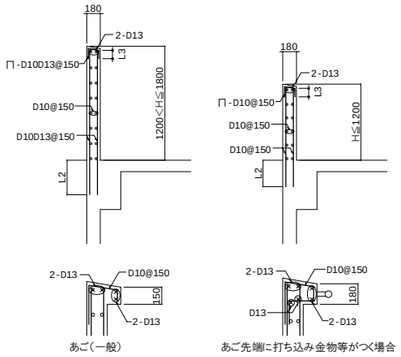


a コンクリート手すり

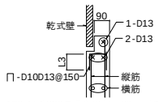


b 金属製手すり

9.2 パラペットの配筋

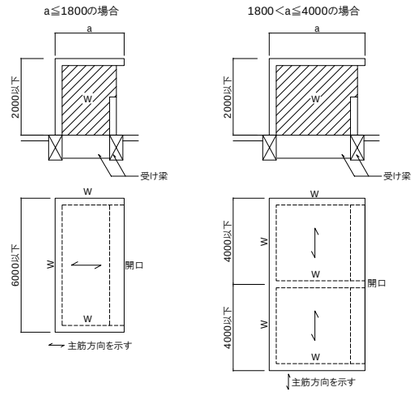


9.3 乾式壁受け立上り



150<t≦220の場合：縦筋、横筋ともD10D13@200
220<t≦300の場合：縦筋、横筋ともD13@200

9.4 ハト小屋の配筋



屋根スラブ

厚さ	位置	主筋	配力筋
180	上	D10,D13@150	D10,D13@150
	下	D10@150	D10@150

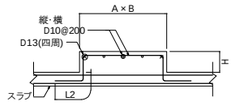
壁 (W)

厚さ	縦筋	横筋
180	D10,D13@150ﾀﾞﾌﾞﾙ	D10,D13@150ﾀﾞﾌﾞﾙ

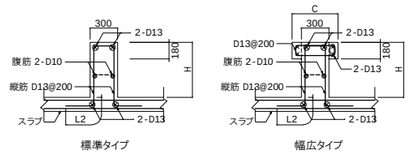
※多雪地域など、荷重条件が異なる場合の配筋などは特記による。

9.5 機械基礎の配筋

(1) スラブから立上げる基礎の場合
1) A×B、CおよびHは意匠図による。
2)あご付きとする場合は、9.2 パラペットの配筋に準じる。
3) 機械基礎を梁形状とする場合は、構造図による。

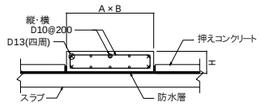


a べた基礎タイプ



b ゲタ基礎タイプ

(2) 防水層の上に設ける基礎の場合
1) A×BおよびHは意匠図による。
2)荷重制限 ： 基礎自重＋機器／(A×B) ≦ 10kN/㎡とする。



１０ コンクリートブロック帳壁の配筋

10.1 コンクリートブロック帳壁の標準配筋

（1）ブロック積みの最大高さ
ブロック積みの最大高さは下表によるものとし、この値を超える場合には上部または下部に同じ厚さのRC壁を設ける。

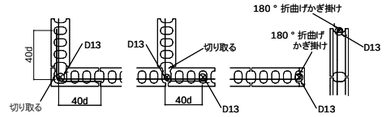
ブロック壁の厚さ	最大ブロック積みの高さ	
	一般帳壁	小壁帳壁
120	3000	1300
150	3500	1600
190	3500	1600

（2）標準配筋リスト

	主　筋	配力筋
一般帳壁	D10@400	D10@400
小壁帳壁	D13@400	D10@400

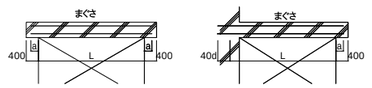
(3) 鉄筋の継手および定着
1)ブロック帳壁の鉄筋は定着あるいはその他の方法により構造主体に緊結する。
2)主筋および開口縁の補強筋には重ね継手を用いない。
3)配力筋に使用する異形鉄筋の重ね継手長さは40d(フック付では30d)以上とする。
4)横筋を挿入する箇所では横筋用ブロックを使用し，縦筋と鉄線で結束する。
5)空洞部に充填するモルタルの鉄筋に対するかぶり厚さは20mm以上とする。

（4）交差部，端部および開口部の配筋



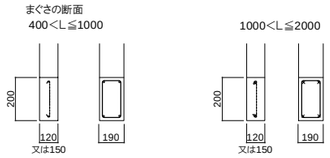
(5) まぐさ(RC造)の配筋
既製まぐさを使用する場合は、監理者の承諾を受ける。

一般の場合　　柱および壁に補強筋を定着する場合



※aは、かぶり厚さを除いた長さ

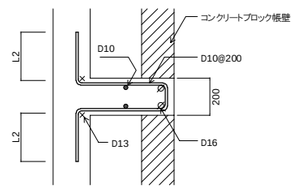
まぐさの断面



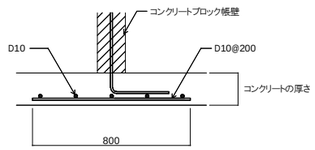
主筋上下共 1-D10　2-D10　　主筋上下共 1-D13　2-D13
スターラップ D10@150　D10@150　　スターラップ D10@150　D10@150
注)1. まぐさの幅はブロック厚さと同じとする。

10.2 コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋
擁壁の配筋(水平、垂直とも)は下記による。



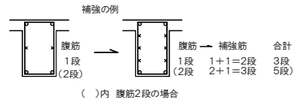
(2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下記による。



１１ 打継ぎ部及び増築予定部の補強

（1）打継ぎ部の補強
24時間以上経過し、標仕6.6.3(a)の位置でコンクリートを打継ぐ場合は、打ち継ぎ部に下記の補強を行う。
打継ぎ補強筋は、打継ぎ面を境に両側 L2以上定着させる。

1)梁の場合
打継ぎ補強筋はD13とし、本数は腹筋 の総段数プラス１段とする。



2)床スラブの場合
打継ぎ補強筋は、下端主筋と同径、同ピッチとし、下端主筋の間に配筋する。

3)柱、壁の場合
補強筋は不要とする

梁、床スラブの場合で、標仕6.6.3(a)の位置以外で打継ぐ場合は、補強方法について構造検討書を提出し監理者の承諾を受ける。

（2）増築予定部の補強
増築予定部の打継ぎ補強は、特記による。特記のない場合は、(1)打継ぎ部の補強に準じ下記による。

1)梁の場合
(1)に示す打継ぎ補強筋D13をD16に読み替える。
2)床スラブの場合
打継ぎ補強筋は、上下ともスラブ筋と同径、同ピッチとし、上下スラブ筋の間に配筋する。
3)鉄筋の防錆処置及び保護は特記による。

2012.12.25 第1版
2013.02.05 第2版
2013.03.26 第3版
2013.09.17 第4版
訂正
件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称 鉄筋コンクリート構造基準図－５
縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S
図面番号 S-008

鉄筋コンクリート構造基準図－６

12　躯体内埋込み配管等の補強及び配管要領

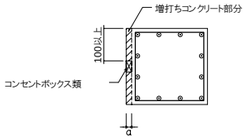
12.1　柱

（1）柱にコンセントボックス類を設置する場合

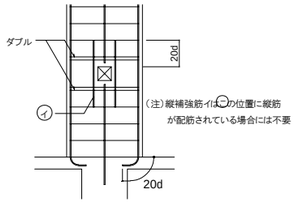
1) 正規の柱断面内には原則として、コンセントボックス類を埋込んではならない。

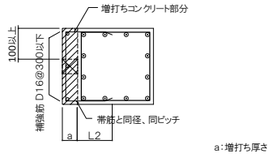
2) 柱増打ち部へコンセントボックス類を埋込む場合の補強要領

a＜70の場合（補強が必要ない場合）



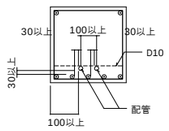
70≦a≦200の場合（補強が必要な場合）





（2）柱に配管を埋込む場合

1) 使用する管の外径は31φ以下とする。
2) 柱内の水平方向の配管は行わない。
3) 柱軸方向の配管
　a）柱主筋及び、鉄骨より30mm以上離す。
　b）配管は4本を限度とし、帯筋内に配管し、蛇行しないように帯筋に1m以内毎に結束する。
　　又、配管の間隔は100mm以上とする。
　c）配管は柱側面より100mm以上離して配置する。



（3）その他

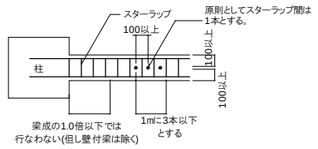
1) 避雷導体として柱主筋を使用する場合で、鉄筋の継手に機械式継手を採用するときは、電気的に連続するものを採用すること。

12.2　梁

（1）梁には原則として照明ボックス類を埋込んではならない。

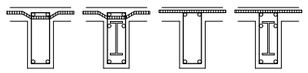
（2）梁に配管を埋込む場合

1) 使用する管の外径は31φ以下とする。
2) 梁材軸方向の配管は、原則として行わない。
3) 梁の幅方向の配管、及び垂直方向の配管梁への配管は、ピッチを100mm以上とし、1m幅では3本を限度とする。
　又、壁付きでない梁は、柱面より梁成の1．0倍以内では行わない。



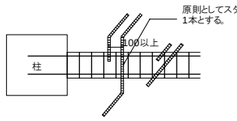
（a）梁の幅方向の配管

イ）配管は配筋の内側に通す。



（○）　（○）　（×）　（×）

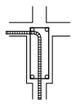
ロ）配管は、材軸とほぼ直角に貫通させる。



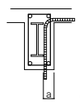
（○）　（×）

（b）梁の垂直方向の配管

イ）主筋の内側で行なう。



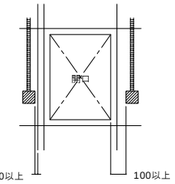
ロ）SRC梁は、原則として、行わない。



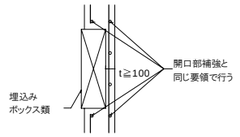
12.3　壁

（1）壁に埋込みボックス類を埋込む場合

1) 埋込みボックス類は3個用スイッチボックスまでとする。
2) 上記を超える埋込みボックス類は開口として補強を行う。
3) 躯体開口の縁から埋込みボックスの縁まで100mm以上、かつ開口補強筋より40mm以上離す。



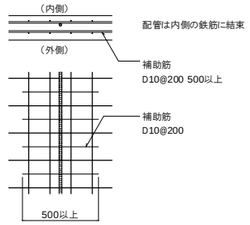
4) 縦・横寸法が、200mmを超え500mm以下の埋込みボックス類の補強



（注）・t＜100mmの場合は開口部補強として扱う。
　　開口補強は設計図による。

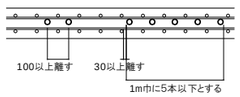
（2）外壁に配管を埋込む場合

1) 地下の外壁(ドライエリア壁を含む)への埋込み配管は行ってはならない。
2) 地上の外壁には原則として、配管は行わない。
　ただし、やむを得ず埋込む場合は構造設計者に確認し下記の補強を行う。
　埋込み配管の外径は31φ以下とする。

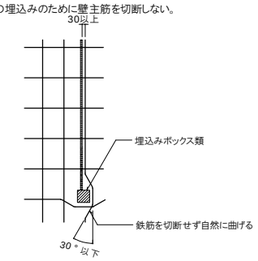


（3）内壁に配管を埋込む場合

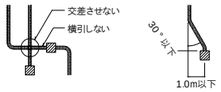
1) 壁内に配管を埋込む場合はダブル配筋とし、壁筋の内側に配管する。
2) 配管は1m幅に5本までとし、ピッチは100mm以上とする。
　配管は、壁縦筋より30mm以上離す。



3) 配管は、壁内で蛇行しないように1m以内毎に結束する。
4) 埋込みボックス類からの配管は、曲がりコネクターを設けて壁のすぐ内側に配管する。
5) ボックス等の埋込みのために壁主筋を切断しない。



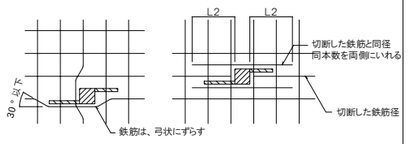
6) 横引配管及び、交差は行わない。ただし、垂直面と30°以下の勾配を持つ横引は、1m以下とする。



12.4　スラブ

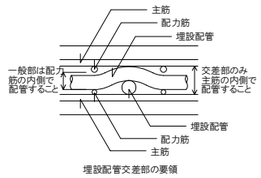
（1）スラブにコンセントボックス類を埋込む場合

1) フロアーボックス間隔は300mm以上、且つ梁側面から500mm以上離す。
2) フロアーボックスがスラブ筋に当たる場合は、スラブ筋を切断せずにずらす。
　やむを得ず切断した場合は下記の補強を行う。

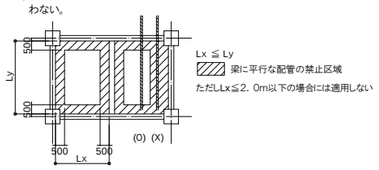


（2）スラブに配管を埋込む場合

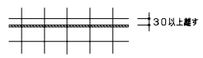
1) スラブ内に配管を埋め込む場合は、スラブ筋の内側とする。
2) 屋根スラブ、防水を行うスラブ及び片持ちスラブには原則として配管は行わない。
3) 合成スラブ内に配管を埋込む場合は、「合成スラブの設計・施工マニュアル」による。
4) 配管が2本以上平行する場合は、あきを30mm以上とし1m幅に5本 以下とする。
5) 交差部の要領は下図による。



6) 埋め込む配管の外径は31φ以下とする。
7) 下図に示す梁面から500mm以内の範囲では、梁の材軸に平行な配管を行わない。

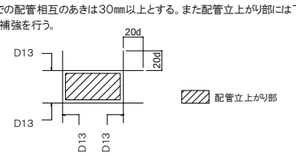


7) スラブ筋と平行する場合は、鉄筋より30mm以上離す。



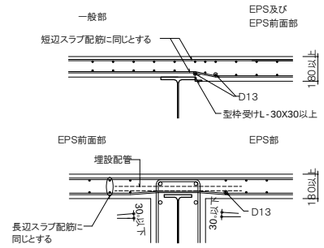
（3）EPS及びEPS前面のスラブの配筋要領

1) EPS及びEPS前面のスラブ厚は180mm以上とする。
2) EPSのスラブ（厚さ180mm以上）内での配管集中場所（立上がり部を含む）での配管相互のあきは30mm以上とする。また配管立上がり部には下記の補強を行う。

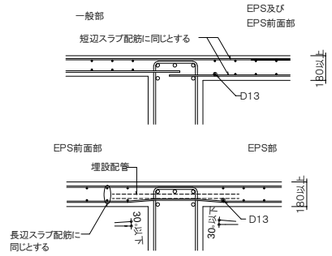


3) 上記の制限を満足できない場合は、スラブ埋設以外の方法を採用すること。

4) S造及びSRC造の場合



5) RC造の場合



（注）スラブ筋の曲げ角度は30°以下とする。

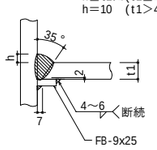
2012.12.25 第1版 2013.02.05 第2版 2013.03.26 第3版 2013.09.17 第4版	訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事			
		図面名称 鉄筋コンクリート構造基準図－６	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-009	

溶 接 開 先 基 準 図 （CO_2：ガスシールドアーク半自動溶接、アーク手溶接　SAW：サブマージアーク自動溶接）

完全溶込み溶接Ｔ継手

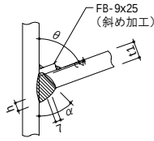
T1　CO_2

h≧t1/4(t1≦40)
h＝10　(t1＞40)



（t≦6はG＝6）

45≦θ＜90°の場合

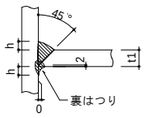


45≦θ≦55°は自然開先
55＜θ＜90°はα＝35°

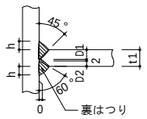
T2　CO_2

h≧t1/8(t1≦40)
h＝5　(t1＞40)

t1≦19

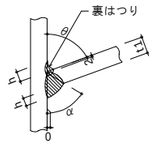


t1＞19



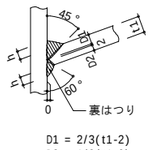
D1 = 2/3(t1-2)
D2 = 1/3(t1-2)

t1≦19（45≦θ＜90°の場合）



θ＝45°は自然開先、
45＜θ＜90°はα＝45°

t1＞19（45≦θ＜90°の場合）



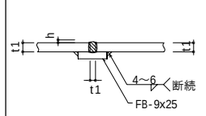
D1 = 2/3(t1-2)
D2 = 1/3(t1-2)

完全溶込み溶接平継手

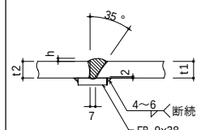
B1　CO_2

h≧0

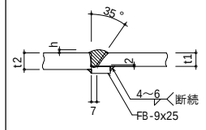
t1≦6



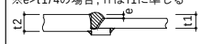
t1＝t2（t1＞6）



t1＜t2（t1＞6）



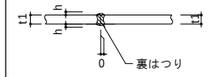
※e>t1/4の場合，hはT1に準じる



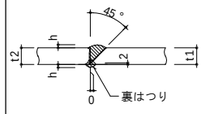
B2　CO_2

h≧0

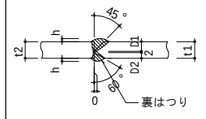
t1≦6



6＜t1≦19



t1＞19



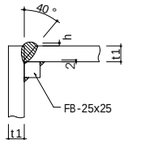
D1 = 2/3(t1-2)
D2 = 1/3(t1-2)

四面ＢＯＸ材

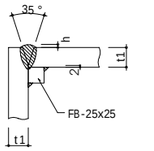
L1　SAW　（突合せ溶接）

h≧0

t1≦28



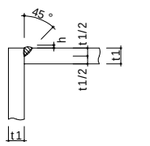
t1＞28



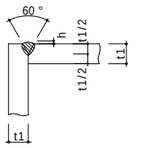
L2　SAW　（部分溶込み溶接）

h≧0

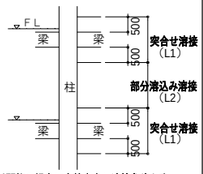
t1≦28



t1＞28



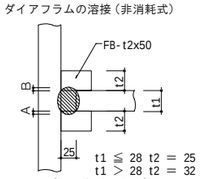
角溶接要領



CFT柱の場合は全線突合せ溶接(L1)とする。

E　エレクトロスラグ溶接(CES)

ダイアフラムの溶接（非消耗式）



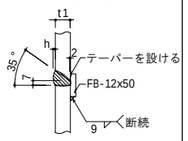
A、B ≧ 0 かつ A+B ≧ 6

完全溶込み溶接（現場溶接）

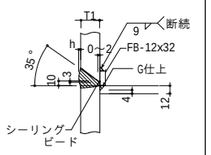
CX　CO_2

h≧0

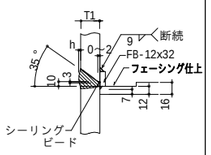
t1＜16 の角形鋼管、鋼管の場合



16≦t1＜32 の角形鋼管、鋼管の場合



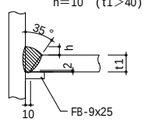
四面ＢＯＸおよび
t1 ≧32 の角形鋼管、鋼管の場合



GX　CO_2

T型突合せ部

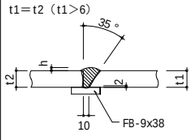
h≧t1/4(t1≦40)
h＝10　(t1＞40)



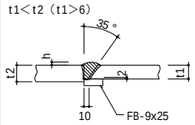
平突合せ部

h≧0

t1＝t2（t1＞6）



t1＜t2（t1＞6）



裏あて金の組立て溶接は、開先内のベベル側とし、本溶接時に十分再溶融させる。

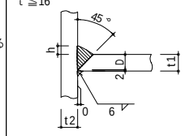
※e>t1/4の場合，hはT1に準じる

部分溶込み溶接

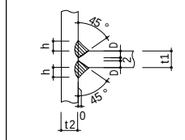
P1　CO_2

h≧D/4と5mmの大きい方(D≦40)
h≧10(D＞40)

t ≦16

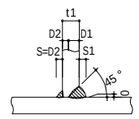


t＞16



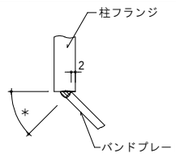
D＝(t1-2)/2

P2　CO_2



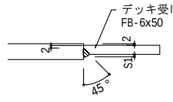
D1 = 2/3・t1
D2 = 1/3・t1

P3　CO_2　バンドプレートの溶接



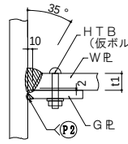
＊印は35°(但し35°以上は自然開先)

P4　CO_2　デッキ受けの溶接



WX　CO_2

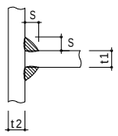
大梁ＷＥＢの現場溶接



隅肉溶接

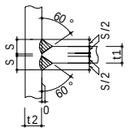
F1　CO_2　SAW

t ≦16



t	S
6	6
9	7
12	9
14	10
16	12

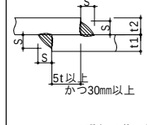
t＞16



t	S
19	11
22	13
25	15
28	17
32	19

tは t1，t2いずれか薄い板厚とする。

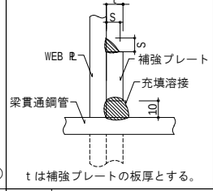
F2　CO_2



t	S
6	6
9	7
12	9
14	10
16	12
19	14
22	16
25	18

tは t1，t2いずれか薄い板厚とする。

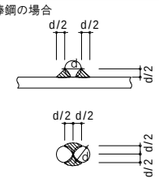
梁貫通孔補強の場合



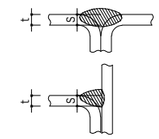
t は補強プレートの板厚とする。

F3　CO_2　フレア溶接

棒鋼の場合



軽量形鋼の場合

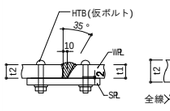


S≧t（但し、S≧3）

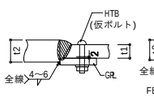
WX2　CO_2

大梁WEBの現場溶接(平突合せ部)

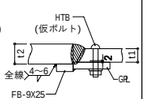
t1＝t2



t2-t1≧6



0＜t2-t1＜6

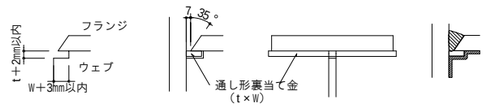


余盛高さは完全溶込み溶接のT継手、平継手に準ずる

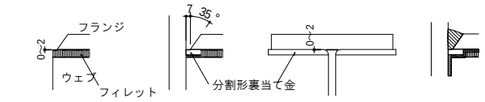
ノンスカラップ工法のディテール

T1 タイプ

Ⓐ同時組みによる溶接組立てＨ形断面梁の場合

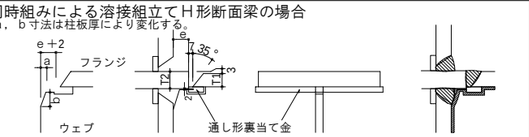


Ⓑ先組溶接組立てＨ形断面梁、外のり一定Ｈ形断面および圧延Ｈ形鋼梁の場合

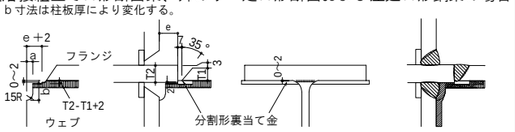


B1 タイプ

Ⓐ同時組みによる溶接組立てＨ形断面梁の場合
a，b 寸法は柱板厚により変化する。

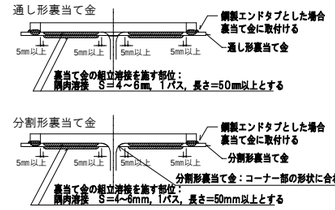


Ⓑ先組溶接組立てＨ形断面梁、外のり一定Ｈ形断面および圧延Ｈ形鋼梁の場合
a，b 寸法は柱板厚により変化する。

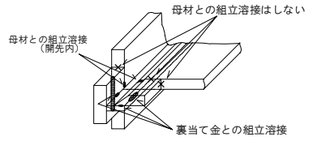


裏当て金、エンドタブの組立溶接

裏当て金を用いた柱梁接合部の裏当て金の組立溶接

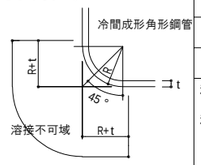


柱梁接合部に鋼製エンドタブを用いた場合の組立溶接



溶接に関する注意事項

冷間成形角形鋼管の角部においては、付属金物等の溶接などを禁止する。
ただしLRを実測する場合はR+tをRとしてもよい。

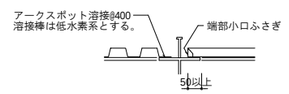


高力ボルトのマーク・配列

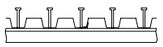
ボルト	マーク	標準ピッチ	へりあき	はしあき
M16	I	60	30	40（50）
M20	＋	60	30	40（50）
M22	⊕	60	30	40（50）
M24	●	70	35	50（60）

注）（　）内は応力方向にボルトが3本以上ならばない場合に適用する。
注）大梁・柱の場合のピッチ、へりあきおよびはしあきの寸法は、SCSS-H97に準ずる。

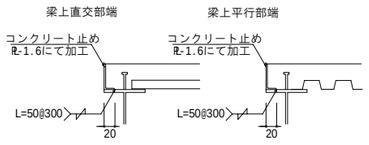
合成スラブ用デッキの一般部の納まり



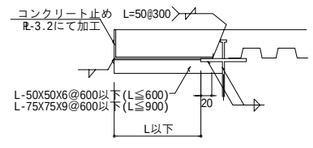
頭付きスタッド打ち（デッキプレート貫通）



スラブ端部の納まり（フラットスラブ、合成スラブ共通）



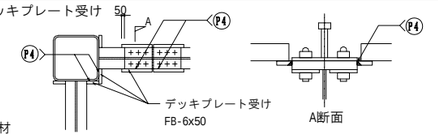
はね出しスラブ端部



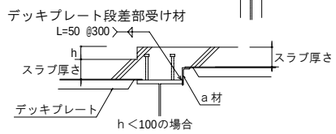
※コンクリート止めの材質は全て SS400 とする。

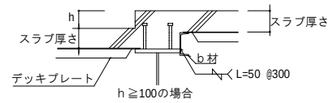
デッキプレート受け基準図（フラットデッキ、合成スラブ共通）

柱まわりおよび梁継手部のデッキプレート受け



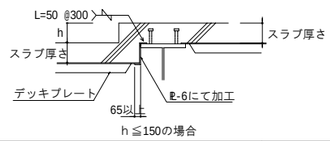
デッキプレート段差部受け材



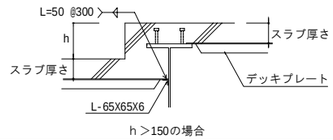


a材
- L-50X50X6
- L-65X65X6
- L-75X75X6
- L-90X90X6
- L-100X100X7

b材
- [-100X50X5X7.5
- [-125X65X6X8
- [-150X75X6.5X10
- [-180X75X7X10.5
- [-200X80X7.5X11
- [-250X90X9X13

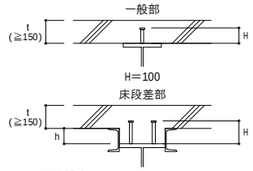


h ≦150の場合



h ＞150の場合

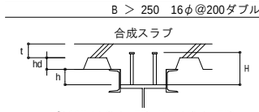
頭付きスタッド



φ16の場合　：　H＝100
φ19の場合　：　H＝130(h≦30)，150(h＞30)

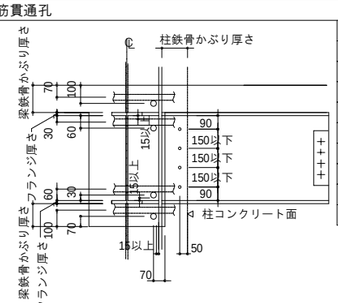
大梁 フランジ幅	B ≦ 250	19φ@200シングル
	B ＞ 250	19φ@200ダブル
小梁 フランジ幅	B ≦ 250	16φ@200シングル
	B ＞ 250	16φ@200ダブル

合成スラブ



H≧110＋h(hd＝75)，80＋h(hd＝50)
頭付きスタッドの径とピッチは特記による。
（ただし、径はφ16以上とする。）

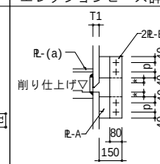
鉄筋貫通孔



鉄筋の呼び名	孔　径
丸セパ	14φ
D10	21φ
D13	24φ
D16	28φ
D19	31φ
D22	35φ
D25	38φ
D29	43φ
D32	46φ

注）1．梁鉄骨のかぶり厚さは150mm以上とする。
　　2．小梁の主筋の内、上端筋はウェブを貫通させる。
　　3．鉄筋貫通孔の位置については詳細図により確認する。

エレクションピース詳細図（見積もり用）



R-(a)は厚さ9 mmとし、T1≦16以下の場合は省略してよい。

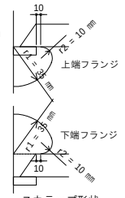
	R-A	2R-B	ボルト (HTB)
T1＜25	T1/2以上	A/2以上	2-M20
T1≧25			3-M20

＊は30以上
ピッチ　p=60

1 適用範囲
1）この基準図は、ガスシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、エレクトロスラグ溶接を行う場合に適用する。
2）適用板厚は、原則として 6 mm 以上かつ 40 mm 以下とする。
3）適用鋼材はJASS6表3.1に示される、JIS規格適合品および国土交通省大臣認定品のうち550N級以下の鋼材とする。
4）この基準図に記載のない事項については、以下による。
・日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」
・日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工場製作編」
・日本建築学会「鉄骨工事技術指針・現場施工編」

2 エンドタブ、裏当て金
1）エンドタブは、固形タブの使用を標準とする。
2）鋼製エンドタブは、溶接部の開先形状と同じ開先を付けたものとする。
3）鋼製エンドタブの長さは、半自動溶接では 40 mm 以上かつ板厚の2倍以上とする。サブマージアーク自動溶接では、幅 70 mm 以上、かつ、板厚 の 3 倍以上、長さ 150 mm 程度とする。
3）鋼製エンドタブを使用した場合は、母材に影響を与えないように 5 mm 程度残してガス切断し、切断面をグラインダーで仕上げる。ただし、切断 に支障が生じる部位などについては、監理者との協議による。
4）鋼製エンドタブ、裏当て金の材質は母材と同等以上を基本とする。ただし、母材の強度が490N級を超え550N級以下のものについては、溶接性を確認したうえで監理者の承諾をうけてSN490Bとしても良い。

3 スカラップ
1）溶接記号に(N)の表示はノンスカラップ工法とし、形状は右図による。
2）1）以外で溶接線の交差する箇所には、R = 35 mm の改良スカラップを設ける(右図)。
3）ロールH梁もしくは先組みBH梁を原則とし、スカラップ端部に廻し溶接を施す場合は監理者と協議をすること。



スカラップ形状

2022.12.14

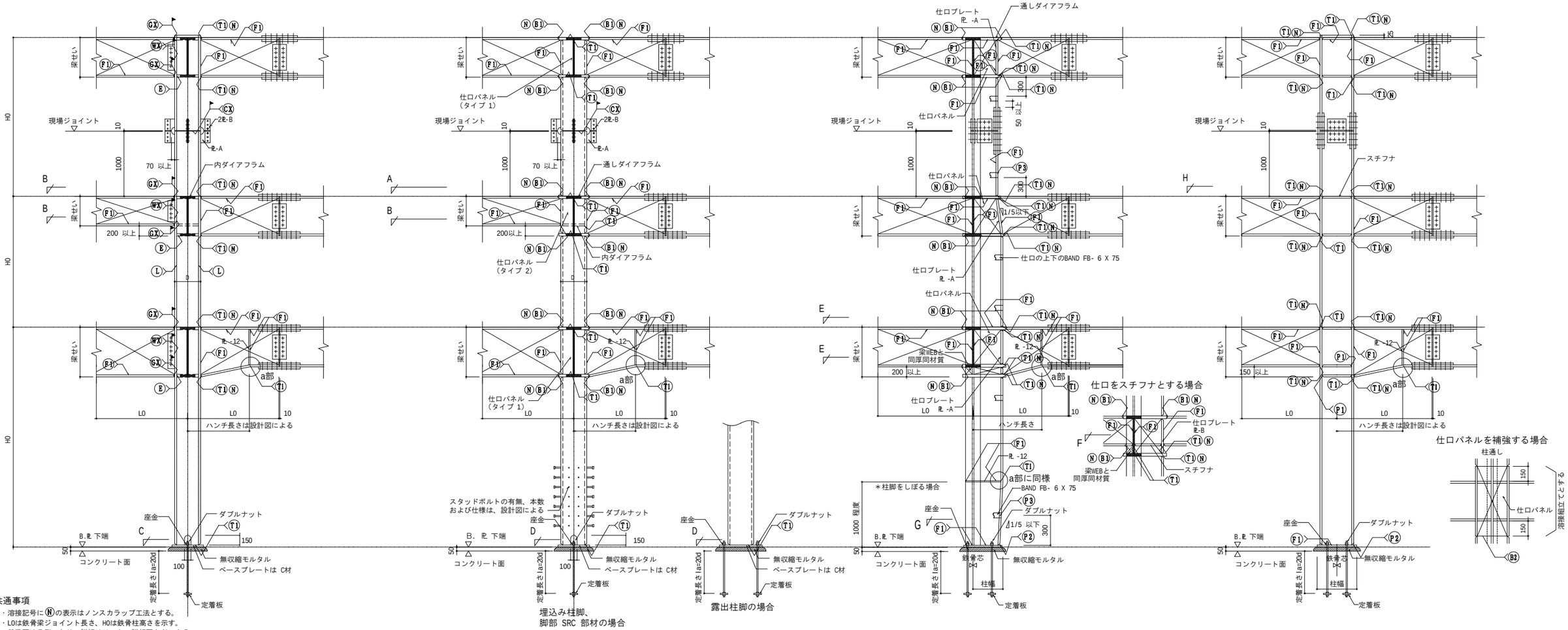
訂正	

件名　岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称　鉄骨基準図－1

縮尺　A1版1:N.S　A3版1:N.S

図面番号　S-010



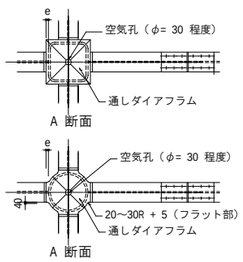
共通事項

- 溶接記号にⓃの表示はノンスカラップ工法とする。
- L0は鉄骨梁ジョイント長さ、H0は鉄骨柱高さを示す。
- 基準図は凡例であり、詳細はリスト、詳細図などによる。

四面ボックス、角型鋼管、鋼管部材

通しダイアフラム

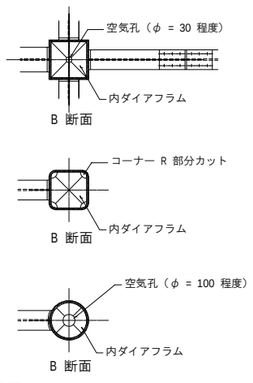
通しダイアフラムの材質・板厚
- 材質は、取り付く柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、C材とする。
- 板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズ以上かつ、柱スキンプレート厚以上とする。



e = 25
柱板厚が 28 ㎜ 以上の場合は 30 ㎜ とする。

内ダイアフラム

内ダイアフラムの材質・板厚
- 材質は、取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上とする。
- 板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の1サイズ以上とする。



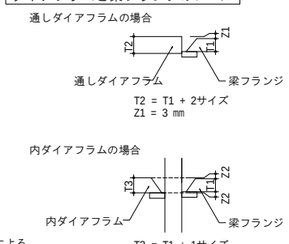
空気孔について
- 中詰コンクリートがある場合は、CFT柱鉄骨基準図による。
- 最上部のダイアフラムには、原則として空気孔は設けない。

仕口パネル

仕口パネル（タイプ 1）
- 材質は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、板厚は、上下柱以上とする。

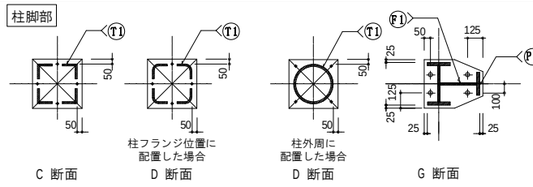
仕口パネル（タイプ 2）
（梁段差などにより仕口パネルの板厚方向に引張力が生じる部位）
- 材質は、上下柱および取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上、かつ、C材とする。
- 板厚は、上下柱以上、かつ、取り付く内ダイアフラムの最大板厚より薄い場合は、板厚差を3サイズまでとする。
- STK,STKN,BCRの場合は、通しダイヤフラムとする.
  ただし、監理者の承諾を得た場合は内ダイヤフラムとする。

ダイアフラムと梁フランジのレベル



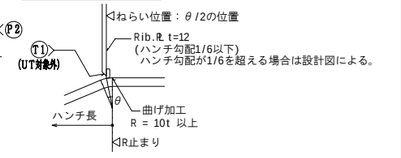
共　　通

柱脚部



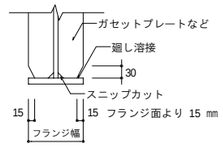
アンカーボルトについて
- アンカーボルト配置および本数は柱部材リストによる。
- アンカーボルトの位置は、鉄筋の納まりなどを考慮して検討し、監理者の承諾を得る。
- アンカーボルトの形状は、定着板形式とする。（材料が SNR でない場合は 40d フック付きとする）
- アンカーボルトセットは JIS B 1220,1221 の規格に、
  定着板は JSS II 13,14 の規格に基づく推奨寸法とし材質はSS400とする。

ハンチ部（板曲げ部）



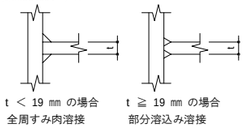
a 部詳細

ガセットプレート・スチフナプレートなどの納まり



エレクションピース

- エレクションピースのG.PL の鋼材は、母材の強度と同等以上とする。
- 取り付け要領は右記とし、摩擦面の処理は行わない。



その他

- 板厚の 1サイズもしくは 2サイズとは、1サイズ 3 ㎜ を目安とし、それぞれ 3 ㎜ 程度、6 ㎜ 程度と考える。
- 意匠上見えがかりとなる部位では、必要に応じてエンドタブ、裏当て金などを撤去し、G 仕上げとする。
  （セラミック系裏当てなどを使用）

仮設ピースなど

- 吊りピースなどで板厚さが 19 ㎜ を超える場合は、母材の強度と同等以上とする。
- 施工者は仮設ピースに関する安全性およびディテールを検討し、部材取り合いなどについて監理者の承諾を得ること。

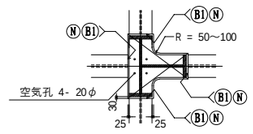
S造でH形断面柱の場合

- 部材の取合いや溶接規準などは、SRC造の場合に準ずる。
- ダイアフラムなどの板厚は、SRC造の場合に準ずる。
- 材質は、板厚方向に引張力が生じる部位はC材とすることを標準とするが、架構の性状などによって特記による。

S R C 部 材

仕口パネル

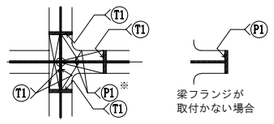
- 材質は、取り付く柱、梁ウェブのうち高強度のものと同等以上とする。スチフナが完全溶込み溶接で取り付く場合はC材とする。
- 板厚は、取り付く柱、梁ウェブの最大板厚以上、かつ 9 ㎜ 以上、または、特記による。
- 完全溶込み溶接で取り付くスチフナPL より仕口パネルが薄い場合は、板厚差を2サイズまでとする。



仕口部の柱フランジ

仕口プレート PL -A の材質・板厚
- 材質は、上下柱のうち高強度のものと同等以上、かつ、板厚は、上下柱以上とする。

仕口プレート PL -B の材質・板厚
（梁段差などにより仕口部の板厚方向に引張力が生じる部位）
- 材質は、上下柱および取り付く梁フランジのうち高強度のものと同等以上かつC材とする。
- 板厚は、上下柱以上、かつ、取り付く梁フランジの最大板厚より薄い場合は、板厚差を2サイズまでとする。

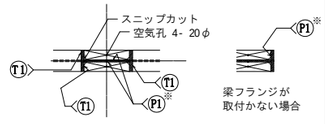


ダイアフラム・スチフナ

通しダイアフラムの材質・板厚
- 材質は柱、梁フランジのうち高強度のものと同等以上かつC材とする。
- 板厚は、取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズ以上かつ柱板厚以上とする。

スチフナの材質・板厚
- 材質は梁フランジと同等以上、かつ、梁フランジ最大板厚の 1サイズ以上とする。

ダイアフラムと梁フランジのレベルは BOX 材の場合に倣う。



H 断面（柱貫通型の内ダイアフラム）

※印のⓅ1は、Web 板厚が 12 ㎜ 以下の場合はⓕ1とする。

その他

記載外の BANDプレート（タラップを含む）などを取り付ける場合は、監理者の承諾を受ける。

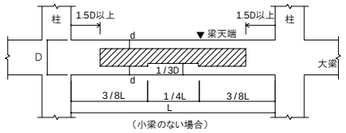
2022.03.25

訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	鉄骨基準図ー2	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S
	図面番号	S-011	

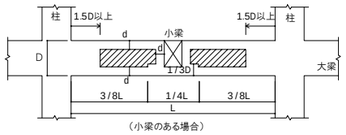
梁貫通孔の補強基準

RC梁

貫通孔の径、配置



（小梁のない場合）



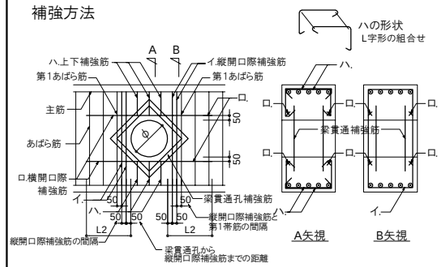
（小梁のある場合）

梁貫通孔のへりあき寸法dは、配筋からかぶり厚さ50以上を確保した寸法、かつ、下記以上とする。

500≦D＜700　d＝175以上
700≦D＜900　d＝200以上
900≦D　d＝250以上

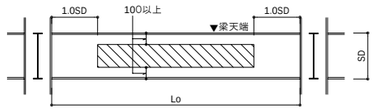
1. 貫通孔は上図の▨内に設けること。
2. 貫通孔の径はD/3以下とする。
3. 貫通孔の間隔(孔芯間距離)は3φと梁せいの内、小さい距離以上とする。
4. 隣り合う貫通孔の径が異なる場合の間隔は、その平均値とする。
5. 基礎梁の場合は、端部1.5Dを1.0mと読替える。
6. 耐震壁付付帯梁の場合は、端部1.5Dを1.0Dと読み替える。
7. 貫通孔の間隔は水平投影距離とする。

補強方法



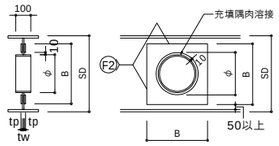
S梁

貫通孔の径、配置



1. 貫通孔は上図の▨内に設けること。
2. 貫通孔の径はSD/2以下とする。
3. 貫通孔の間隔(孔芯間距離)は3φと梁せいの内、小さい距離以上とする。ただし、補強プレートが連続してしまう場合は、その外縁間隔が50mm以上となる様に貫通孔の間隔を広げること。
4. 隣り合う貫通孔の径が異なる場合の間隔は、その平均値とする。
5. 貫通孔の間隔は水平投影距離とする。
6. 特記無き梁は、補強を行うこと。

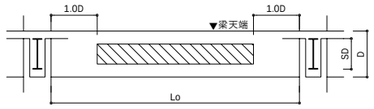
補強方法



貫通孔は補強プレート中央に配置する。
やむを得ず偏芯して配置する場合は、鋼管厚さ、充填溶接幅除いた、補強プレートの端あき寸法の最低値を25mm以上確保すること。

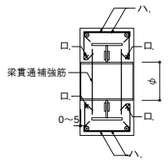
SRC梁

貫通孔の径、配置



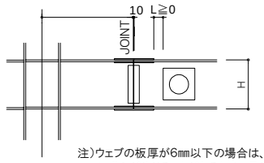
1. 貫通孔は上図の▨内に設けること。
2. 貫通孔の径はD/3以下、かつ、SD/2以下とする。
3. 貫通孔の間隔(孔芯間距離)は3φ以上とする。
4. 隣り合う貫通孔の径が異なる場合の間隔は、その平均値とする。
5. 貫通孔の間隔は水平投影距離とする。

補強方法



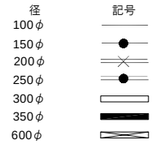
SRC梁の貫通孔補強は、上記のほかRC梁、S梁の補強の組合せとする。

1)JOINT位置近くに設ける場合



注)ウェブの板厚が6mm以下の場合は、補強プレートの溶接によりひずみが生じることがあるため、貫通孔位置の決定にあたっては 十分注意すること。

2)梁貫通孔記号



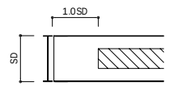
S梁の補強

1. 補強材の材質　プレート:母材と同材質　スリーブ:STK400
2. 表中※印部の補強方法は、特記による。
3. 100φ以下の貫通孔は、100φ補強とする。
4. 鉄骨造梁に既製梁貫通補強を適用する場合には、(財)日本建築センターの評定を受けた製品[注]とし、補強サイズ等の計算には、せん断余裕度1.20以上を確保すること。貫通孔の径、配置、間隔などは、認定の仕様に関らず、本基準に準じること。プレースの取付く梁、スラブの取り付かない梁の補強については、監理者の承諾を受けること。
5. 採用する梁貫通孔補強の計算は、監理者の承諾を受けること。
6. 梁せいが、表中のSDより-25mm未満の場合は、梁せいを上側に読み替えて適用する (例:中幅サイズなど)。
7. 梁貫通孔に高性能薄型耐火被覆材を用いる場合は、その大臣認定の適用範囲に適合していることを確認して用いること。(貫通補強形状、孔径、梁寸法、梁の耐火被覆の種類、吹付けロックウールのかさ比重など。)

注) 既製品を使用する場合は、以下とする。
適用:ハイリングⅢ、フリードーナツ、OSリング
ただし、ハイリングⅢのSタイプは、片持ち梁を除く小梁のみに適用可能とする。

補強種類	貫通孔径	補強スリーブ	梁せい(SD)	補強プレート tp (プレート枚数 - 板厚 x 幅B)					
				tw≦6	6＜tw≦9	9＜tw≦12	12＜tw≦16	16＜tw≦19	19＜tw≦22
ウェブの全強を確保する場合	100φ	φ-114.3x4.5	300≦SD＜350	2PL- 6x200	2PL- 9x200	2PL-12x200	2PL-16x200	2PL-16x200	2PL-19x200
			350≦SD	2PL- 6x250	2PL- 6x250	2PL- 9x250	2PL- 9x250	2PL-12x250	2PL-12x250
	125φ	φ-139.8x4.5	350≦SD＜400	2PL- 6x250	2PL- 9x250	2PL- 9x250	2PL-12x250	2PL-16x250	2PL-16x250
			400≦SD	2PL- 6x300	2PL- 6x300	2PL- 6x300	2PL- 9x300	2PL-12x300	2PL-12x300
	150φ	φ-165.2x5.0	350≦SD＜400	2PL- 9x250	2PL-12x250	※	※	※	※
			400≦SD	2PL- 6x300	2PL- 9x300	2PL- 9x300	2PL-12x300	2PL-16x300	2PL-16x300
	175φ	φ-190.7x5.3	400≦SD＜500	2PL- 6x300	2PL- 9x300	2PL-12x300	2PL-16x300	2PL-19x300	2PL-22x300
			500≦SD＜600	2PL- 6x350	2PL- 6x350	2PL- 9x350	2PL-12x350	2PL-16x350	2PL-19x350
			600≦SD	2PL- 6x400	2PL- 6x400	2PL- 9x400	2PL- 9x400	2PL-12x400	2PL-12x400
	200φ	φ-216.3x5.8	400≦SD＜500	2PL-12x300	2PL-16x300	※	※	※	※
			500≦SD＜600	2PL- 6x350	2PL- 9x350	2PL-12x350	2PL-16x350	2PL-19x350	2PL-22x350
			600≦SD	2PL- 6x400	2PL- 6x400	2PL- 9x400	2PL-12x400	2PL-16x400	2PL-16x400
	250φ	φ-267.4x6.0	500≦SD＜600	2PL-16x350	2PL-12x400	2PL-16x400	※	※	※
			600≦SD＜700		2PL- 9x450	2PL-12x450	2PL-16x450	2PL-16x450	2PL-19x450
			700≦SD		2PL- 6x500	2PL- 9x500	2PL-12x500	2PL-12x500	2PL-16x500
	300φ	φ-318.5x6.0	600≦SD＜700		2PL-16x450	2PL-12x500	2PL-16x500	2PL-19x500	2PL-22x500
			700≦SD＜800		2PL- 9x550	2PL- 9x550	2PL-12x550	2PL-16x550	2PL-19x550
			800≦SD		2PL- 6x600	2PL- 9x600	2PL-12x600	2PL-12x600	2PL-16x600
	350φ	φ-355.6x6.4	700≦SD＜800		2PL- 9x550	2PL-12x550	2PL-16x550	2PL-19x550	2PL-22x550
			800≦SD＜900		2PL- 6x650	2PL- 9x650	2PL-12x650	2PL-16x650	2PL-16x650
			900≦SD			2PL- 9x650	2PL- 9x700	2PL-12x700	2PL-16x700
	400φ	φ-406.4x6.4	800≦SD＜900		2PL- 9x650	2PL-12x650	2PL-16x650	2PL-19x650	2PL-22x650
			900≦SD＜1000			2PL- 9x700	2PL-12x700	2PL-16x700	2PL-19x700
			1000≦SD			2PL- 9x700	2PL- 9x800	2PL-12x800	2PL-12x800
	450φ	φ-457.2x6.4	900≦SD＜1000			2PL-16x700	2PL-19x700	2PL-22x700	2PL-25x700
			1000≦SD＜1100			2PL- 9x800	2PL-12x800	2PL-16x800	2PL-16x800
			1100≦SD			2PL- 9x800	2PL- 9x900	2PL-12x900	2PL-12x900
その他の場合									

小梁を横補剛材として用いる場合、貫通孔は下図の▨内に設けること



RC梁の補強

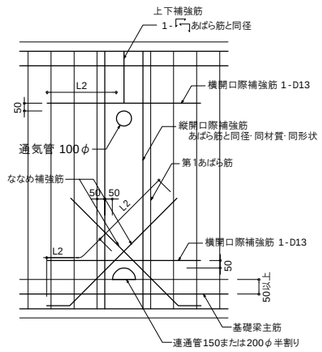
1. 有孔梁のせん断終局強度が無孔梁のせん断終局強度と同等以上となるような補強筋量とする。(部材の降伏応力による場合は特記による)
2. 梁貫通孔補強筋は、下表に示すリング型補強筋とする。
3. リング型補強筋以外に図示の開口際補強筋、上下補強筋を追加する。ただし、製品の仕様および計算により同様の鉄筋が配置される場合は、表と仕様の内、多い方の鉄筋量とする。
4. すべての補強筋が、貫通孔も含めてかぶり厚さを確保できるようにする。
5. 貫通孔の径の制限、配置の制限は、各製品の仕様に関らず上図とする。
6. 本基準に定める事項のほか各製品の技術評価等に定める規定および各製品の仕様を満足させる。
7. 貫通孔の径がD／10以下かつ150未満の場合で、スターラップの配置を変えずに貫通孔を配置できる場合は補強を省略してよい。
8. 基礎梁の連通管については、図示の補強とする。
9. 梁貫通孔補強の計算に際しては、耐力条件、縦開口際補強筋の形状に留意すること。
10. 採用する梁貫通孔補強の計算は、監理者の承諾を受けること。
11. スリーブ材は、コンクリート打設時に梁貫通補強筋との位置、被り厚さが損なわれないように、固定金具により固定すること。また、コンクリートの充填性にも配慮した固定金具とすること。
梁貫通孔補強筋は、梁に使用しているスターラップの材料に応じて、
下記の製品を使用する。

スターラップの材料	使用可能な梁貫通補強筋製品
SD295A SD345 SD390 SD490	MAXウェブレン　ウェブレン ダイヤレンNS　ダイヤレン スーパーハリーZ MAXリンブレンK型
585N級 685N級 785N級 1275N級	ダイヤレンNS スーパーハリーZ

貫通孔径	イ.縦開口際補強筋 (開口片側の枚数)	ロ.横開口際補強筋 (1ヶ所の本数)	ハ.上下補強筋 (L字型のセット数)
100φ	1ー□	1ーD13	——
150φ	1ー□	1ーD13	1ー⌐¬
200φ	1ー□	1ーD13	1ー⌐¬
250φ	2ー□	1ーD13	1ー⌐¬
300φ	2ー□	1ーD13	2ー⌐¬
350φ	2ー□	1ーD13	2ー⌐¬
400φ	3ー□	1ーD13	2ー⌐¬
450φ	3ー□	1ーD13	3ー⌐¬
500φ	3ー□	1ーD13	3ー⌐¬
600φ	3ー□	1ーD13	3ー⌐¬

注) 1. 縦開口際補強筋はスターラップと同径、同材質とし、複数並ぶ場合は50mm以上の間隔で配置する。
1ー□は、開口の左右に1組ずつを配置することを示す。
2. 横開口際補強筋の材質はSD295Aとする。
1ーD13は、開口の上下、両面に1本ずつ、計4本を配置することを示す。
3. 上下補強筋はスターラップと同径、材質はSD295Aとする。
1ー⌐¬は、開口の上下に1セットずつを配置することを示す。

連通管の貫通孔補強



1. ななめ補強筋
D-13 2本1組×2組 (基礎梁の両側面配置)
2. 基礎梁主筋との間隔が確保できない場合監理者と協議のこと。
3. 底盤がなく、捨コン、土間コンなどでピットを形成している場合、上図のような連通管は配置ができないので、ピット底レベルを上げるか、同程度の貫通形状を梁断面の下に確保するよう調整すること。

訂正	
	2011.12.13
	2012.01.31
	2022.12.14
	2022.12.23

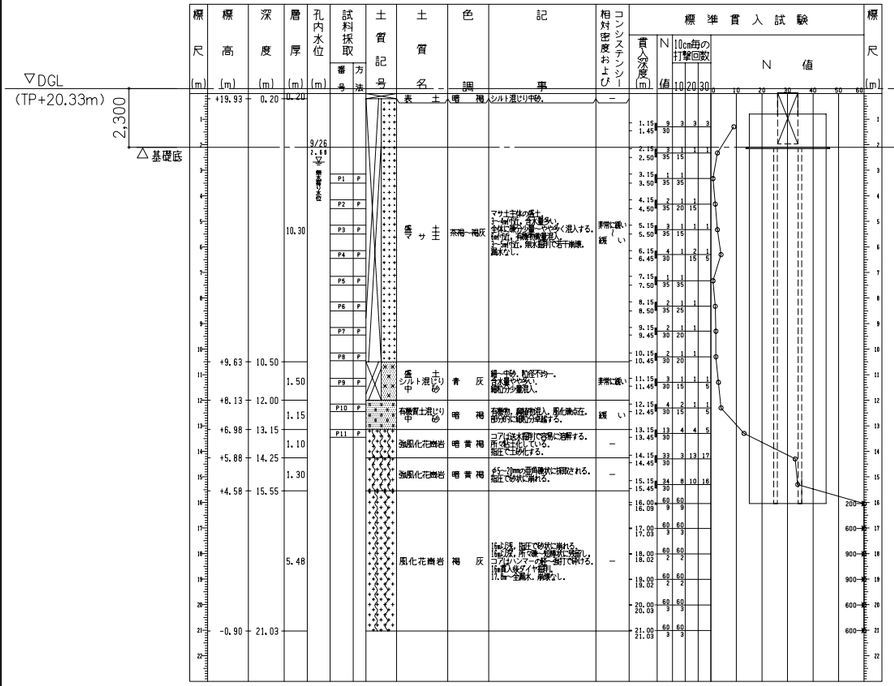
件名　岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称　梁貫通基準図

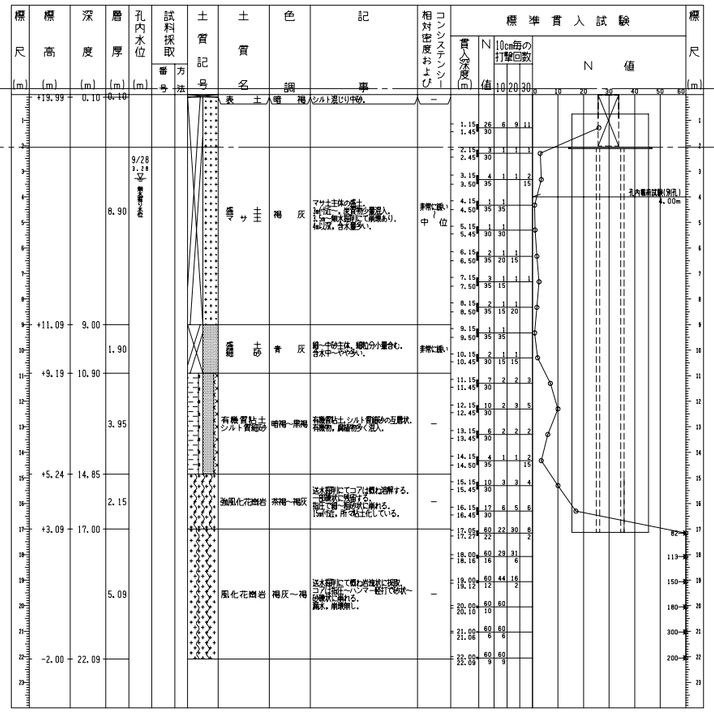
縮尺　A1版1:N.S　A3版1:N.S

図面番号　S-012

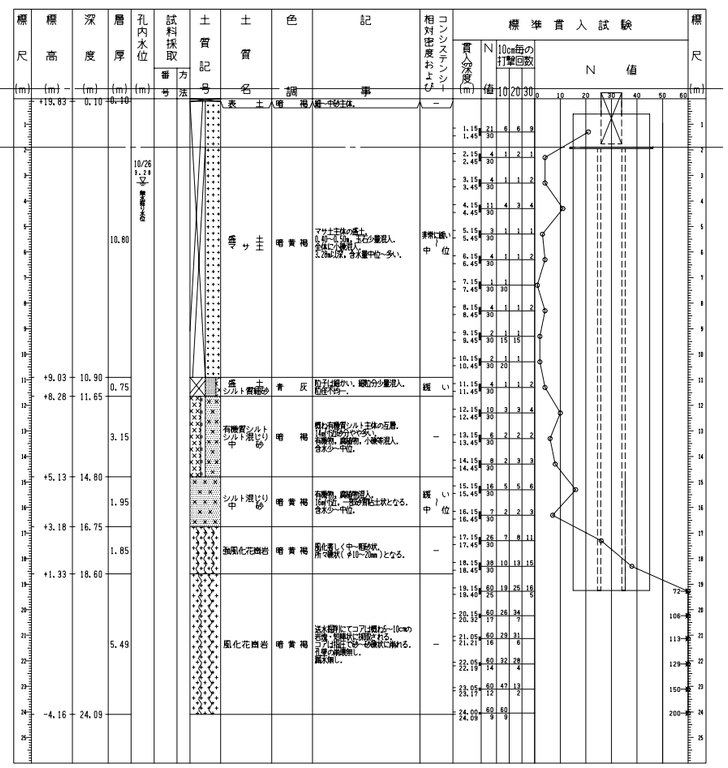
No.1
孔口標高TP+20.13m



No.2
孔口標高TP+20.09m

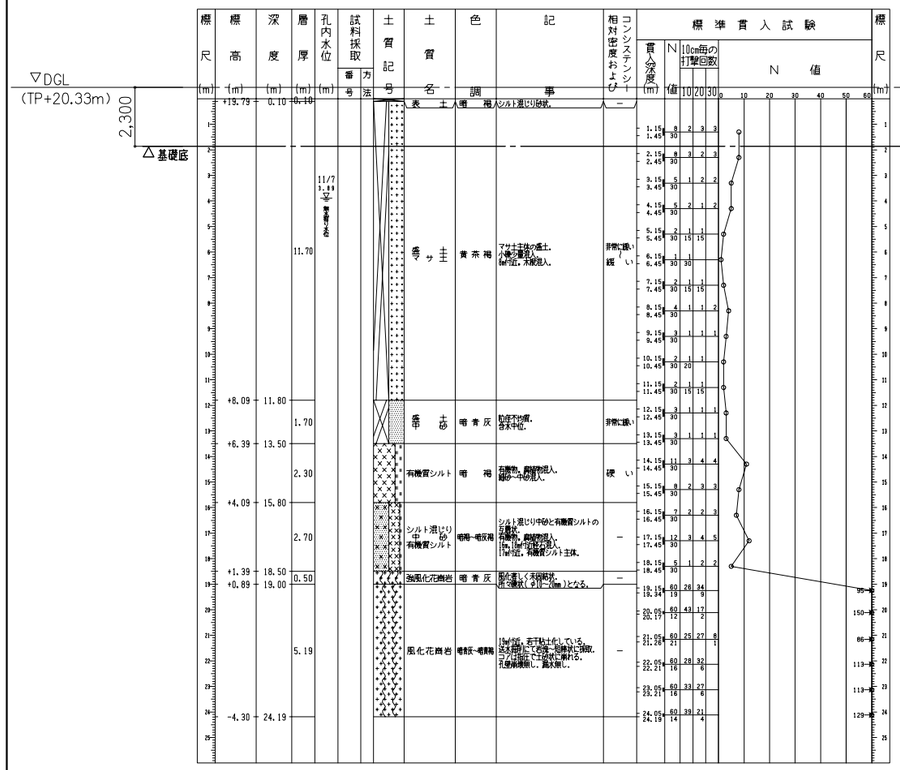


No.3
孔口標高TP+19.93m

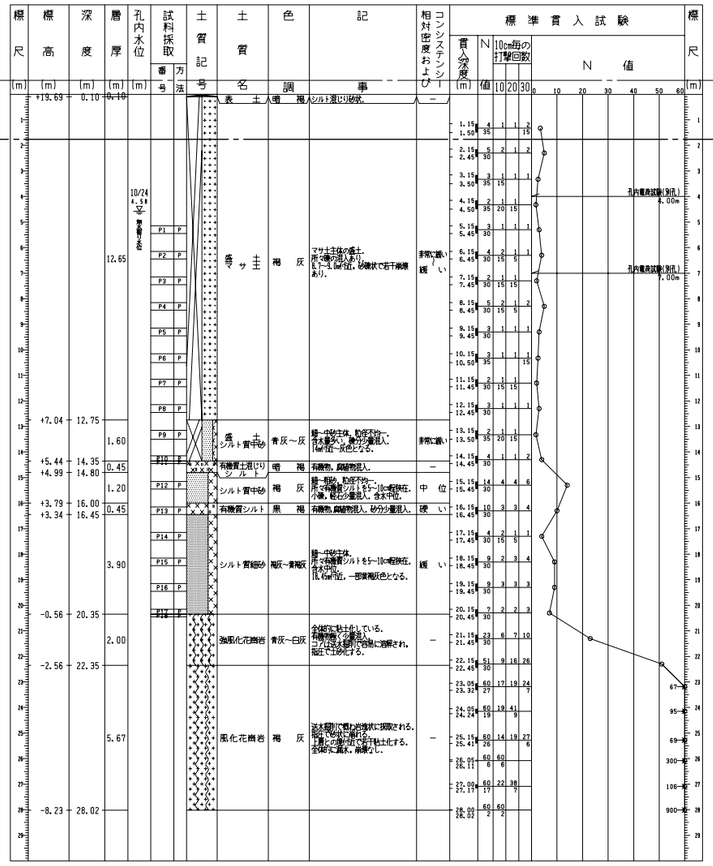


訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 ボーリング柱状図-1	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-013

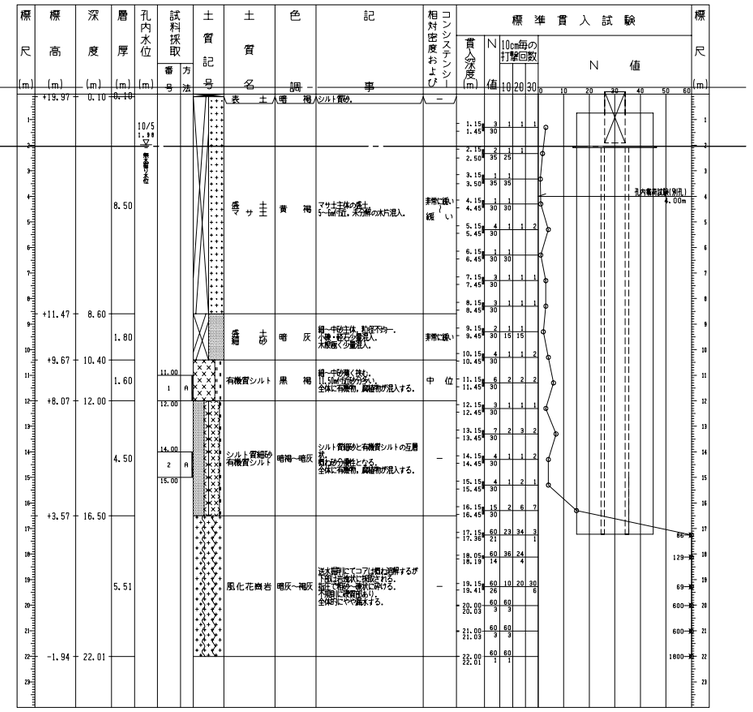
No.4
孔口標高TP+19.89m



No.5
孔口標高TP+19.79m

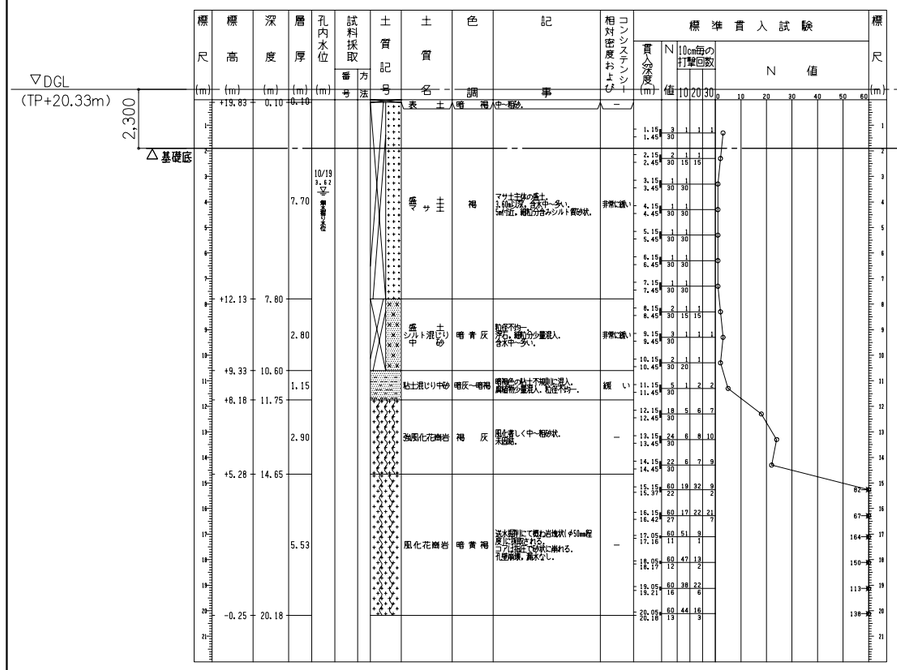


No.6
孔口標高TP+20.07m

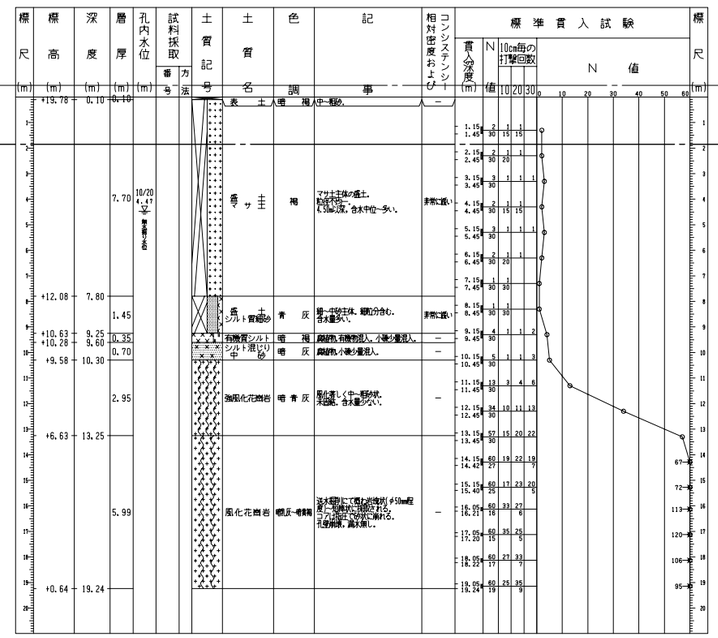


訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	ボーリング柱状図-2	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-014

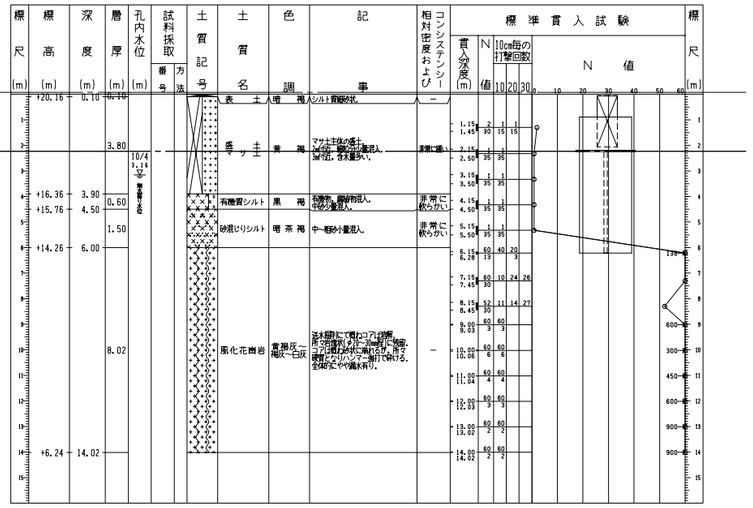
No.7
孔口標高TP+19.93m



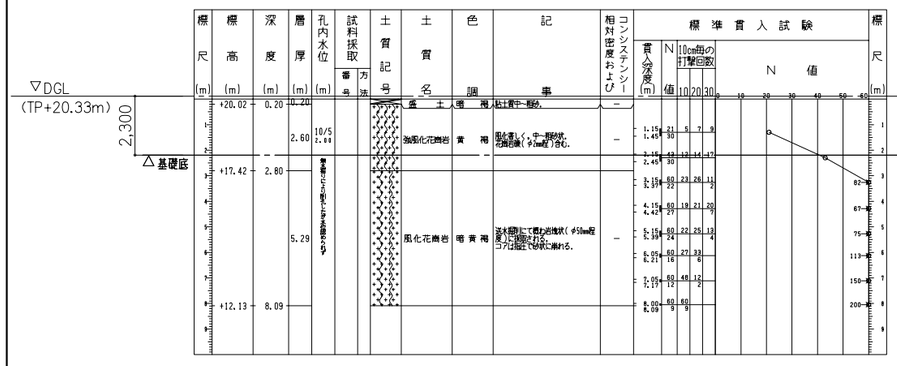
No.8
孔口標高TP+19.88m



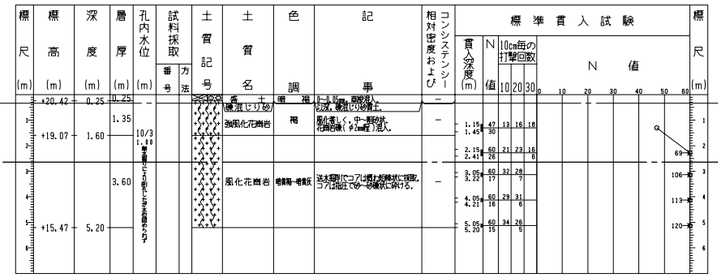
No.9
孔口標高TP+20.26m



No.10
孔口標高TP+20.22m

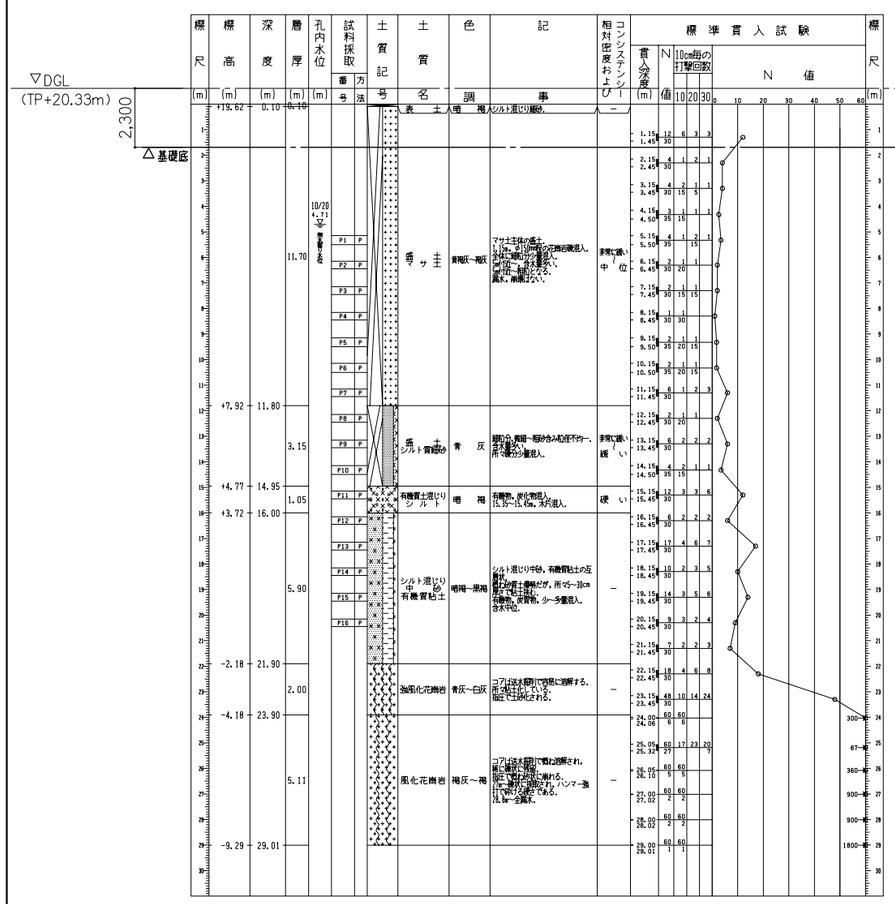


No.11
孔口標高TP+20.67m

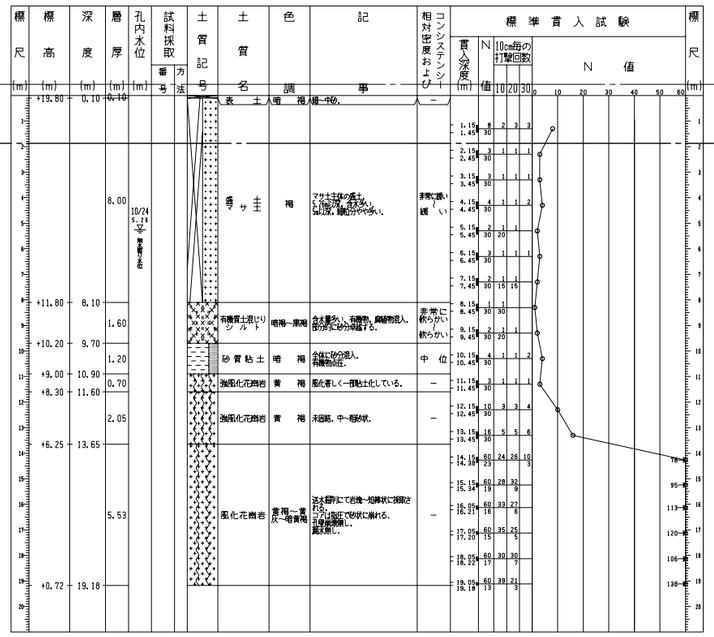


訂正	
件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称	ボーリング柱状図-3
縮尺	A1版1:N.S A3版1:N.S
図面番号	S-015

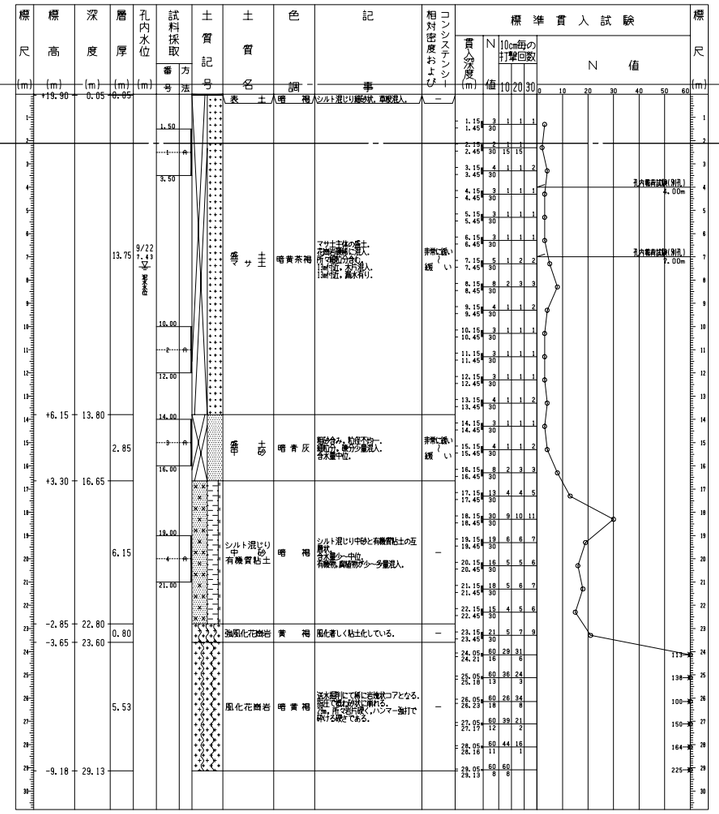
No.12
孔口標高TP+19.72m



No.13
孔口標高TP+19.90m

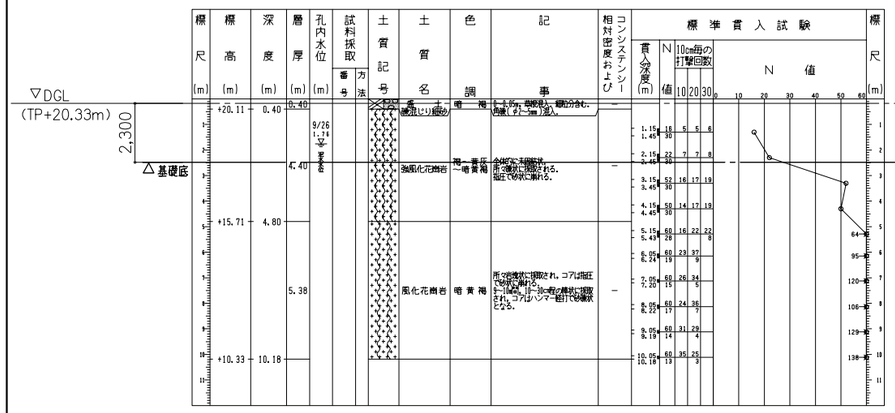


No.14
孔口標高TP+19.95m

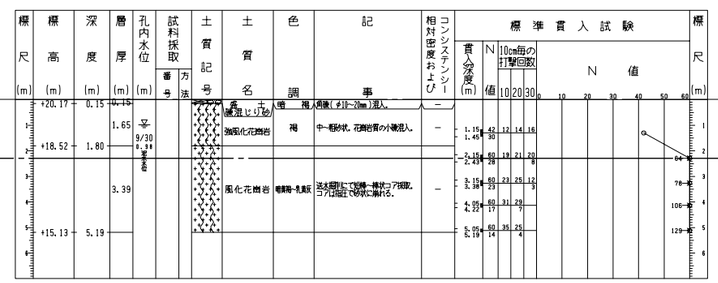


訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 ボーリング柱状図-4	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-016

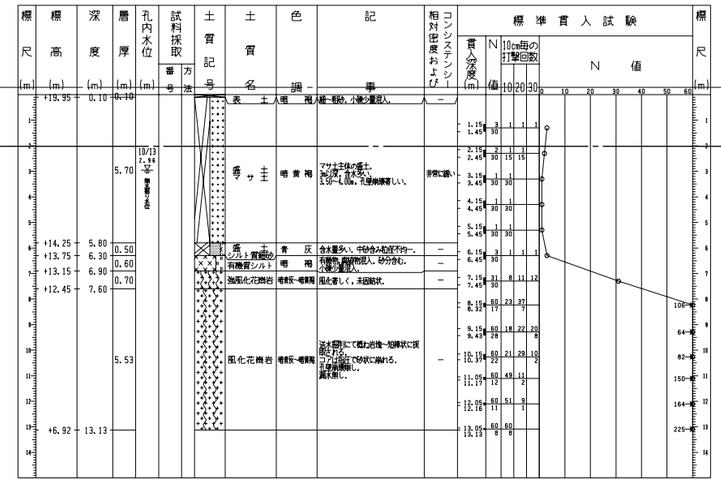
No.15
孔口標高TP+20.51m



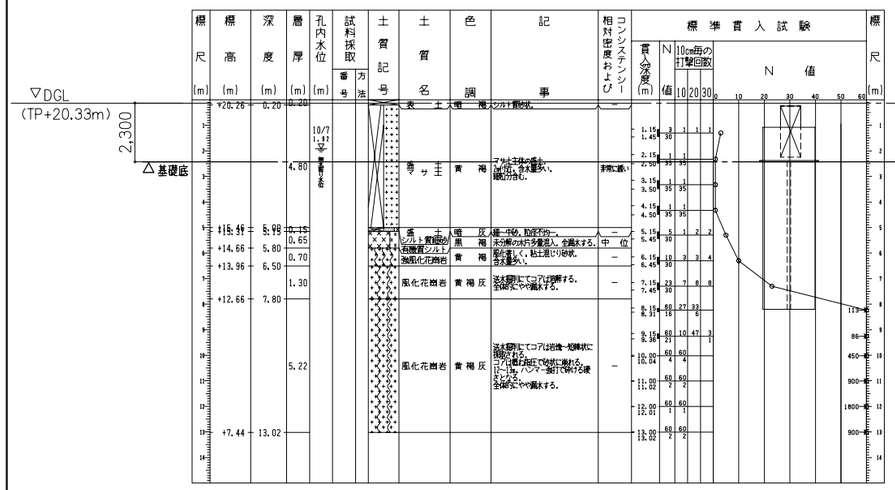
No.16
孔口標高TP+20.32m



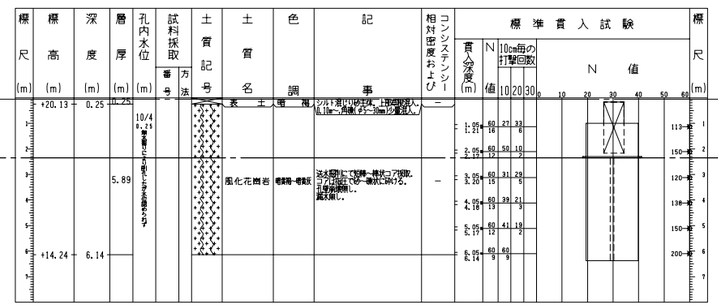
No.21
孔口標高TP+20.05m



No.25
孔口標高TP+20.46m

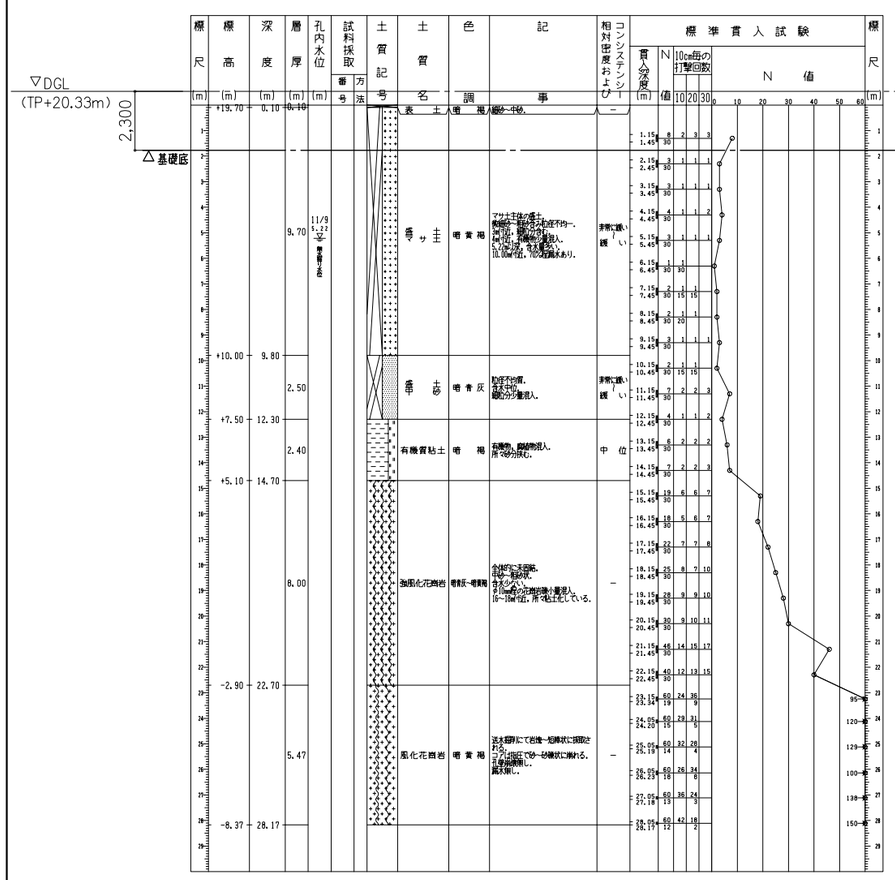


No.26
孔口標高TP+20.38m

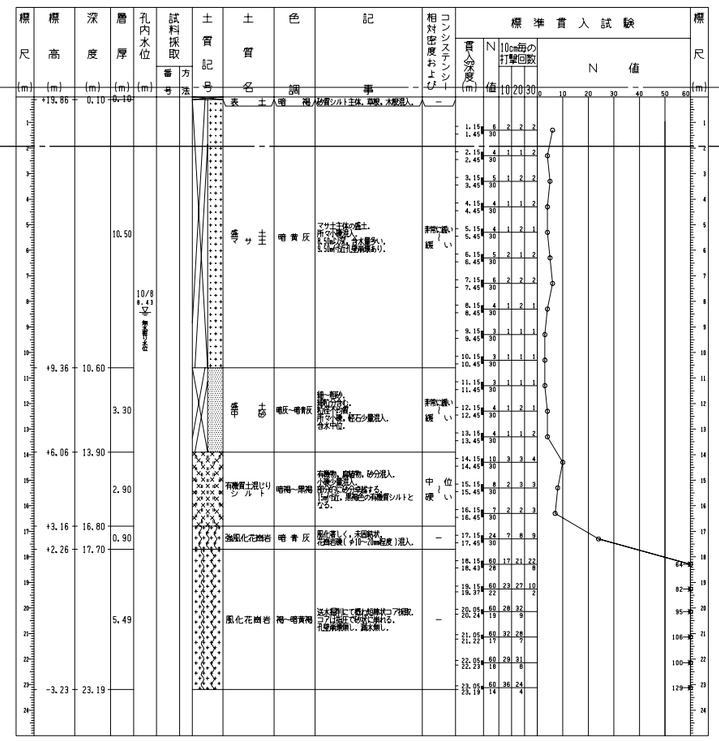


訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	ボーリング柱状図-5	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S
	図面番号	S-017	

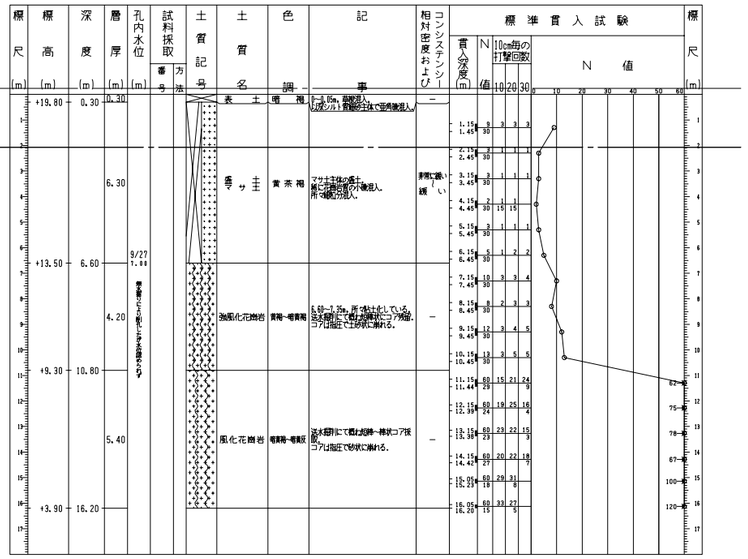
No.27
孔口標高TP+19.80m



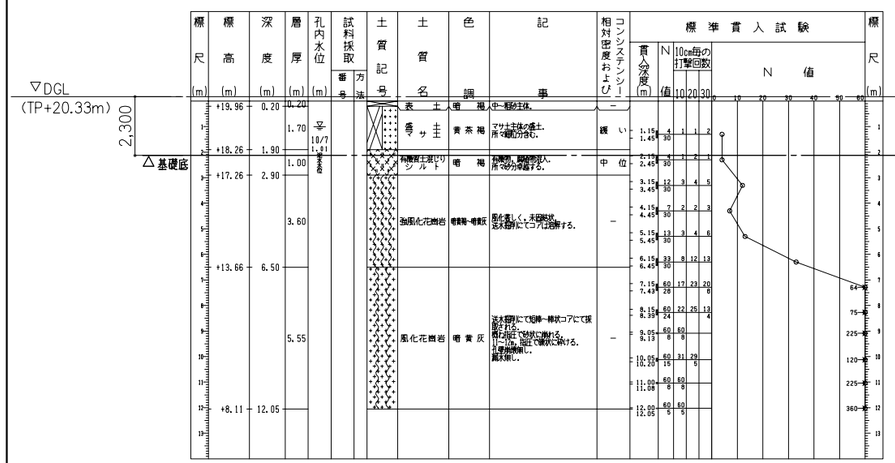
No.31
孔口標高TP+19.96m



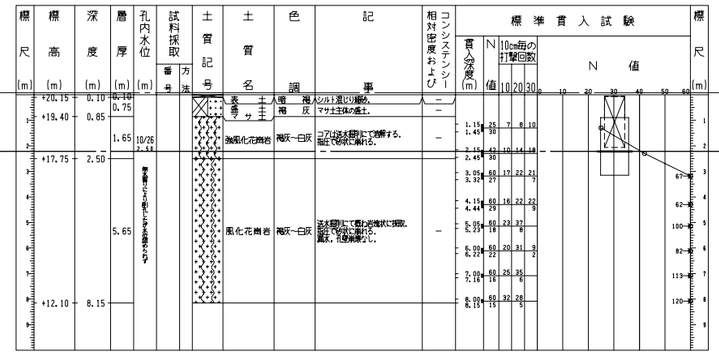
No.29
孔口標高TP+20.10m



No.30
孔口標高TP+20.16m

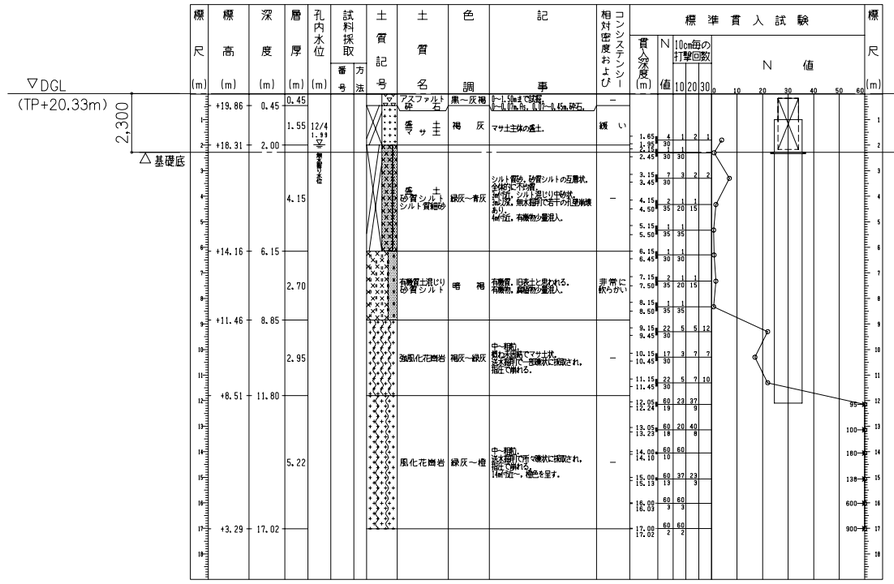


No.32'
孔口標高TP+20.25m

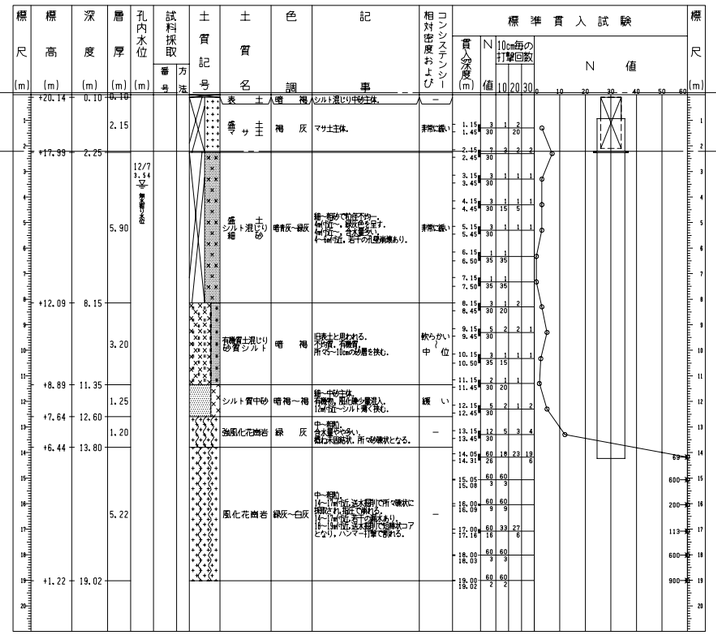


訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	ボーリング柱状図-6	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S
	図面番号	S-018	

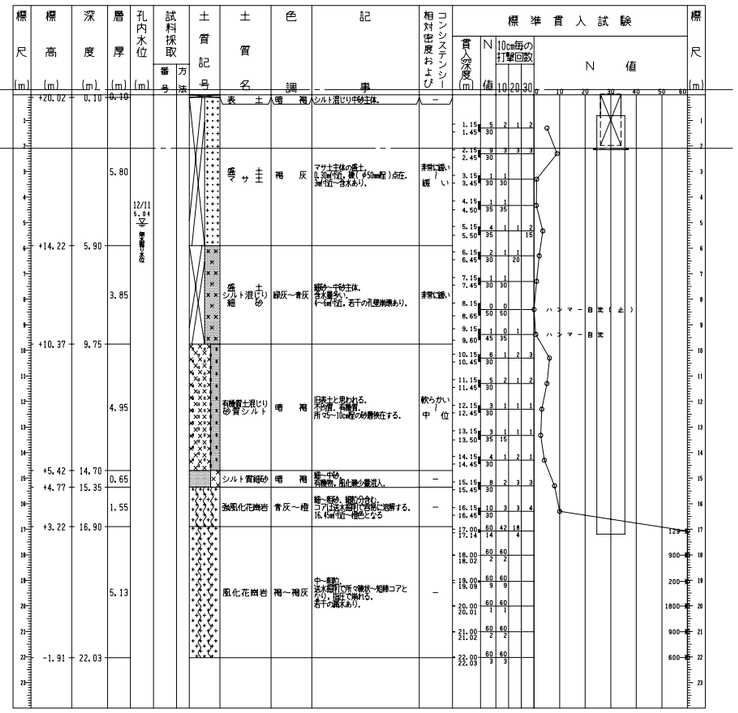
No.56
孔口標高TP+20.31m



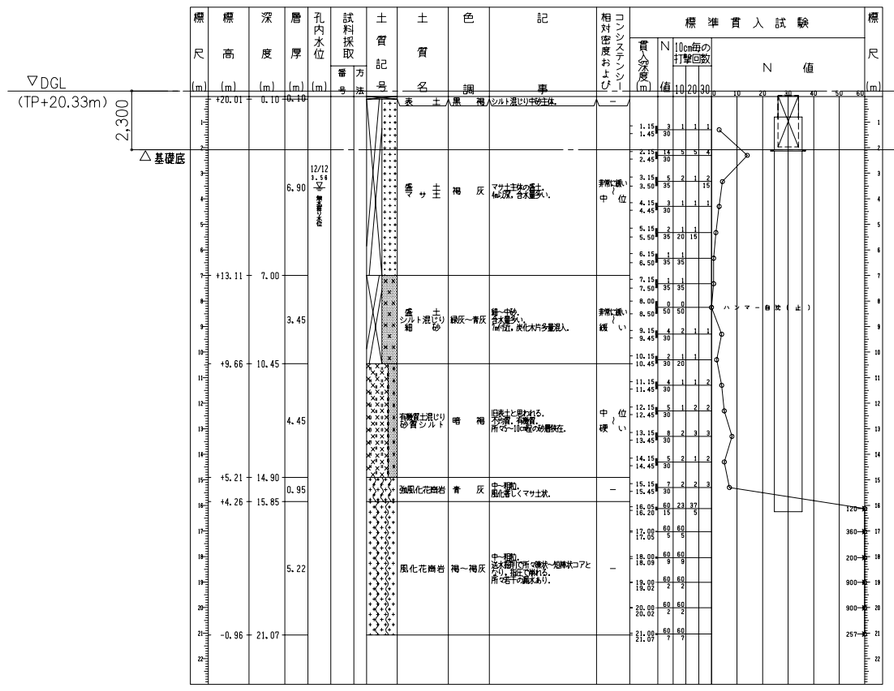
No.57
孔口標高TP+20.24m



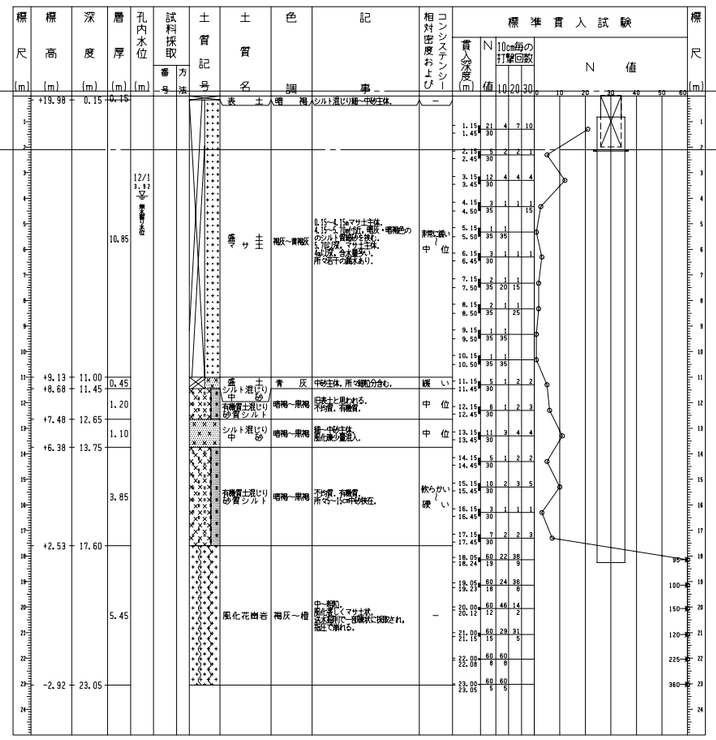
No.58
孔口標高TP+20.12m



No.59
孔口標高TP+20.11m

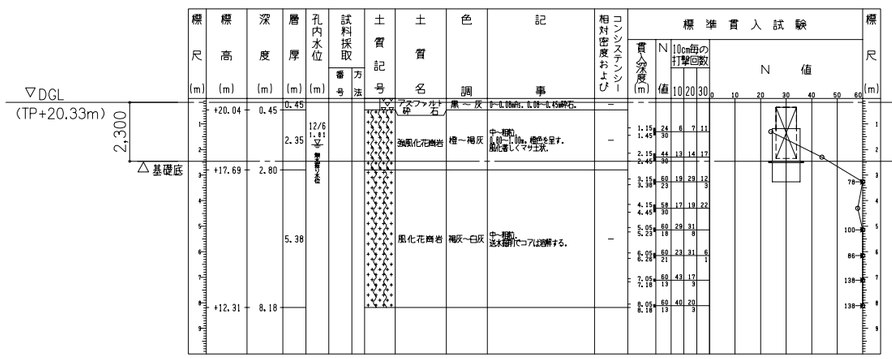


No.60
孔口標高TP+20.13m

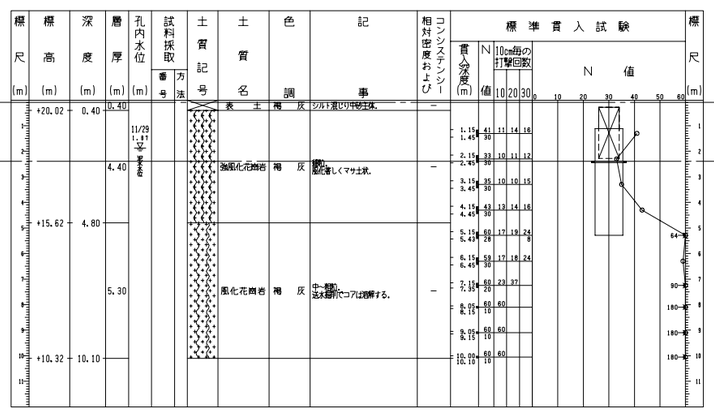


訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	ボーリング柱状図-7	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S / 図面番号 S-019

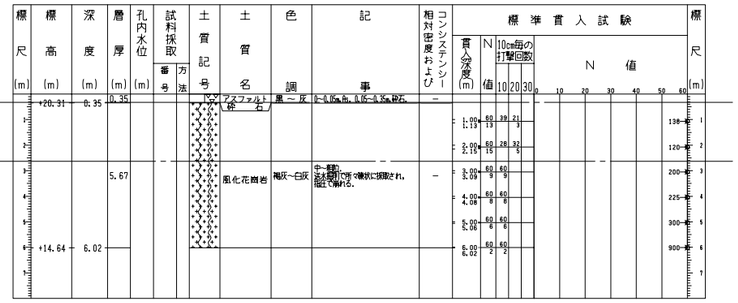
No.61
孔口標高TP+20.49m



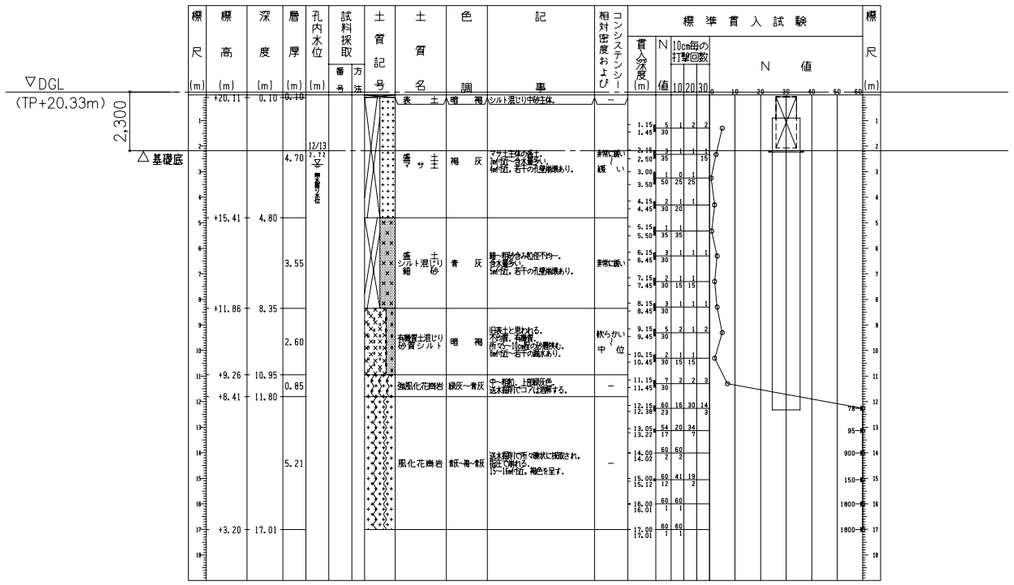
No.62
孔口標高TP+20.42m



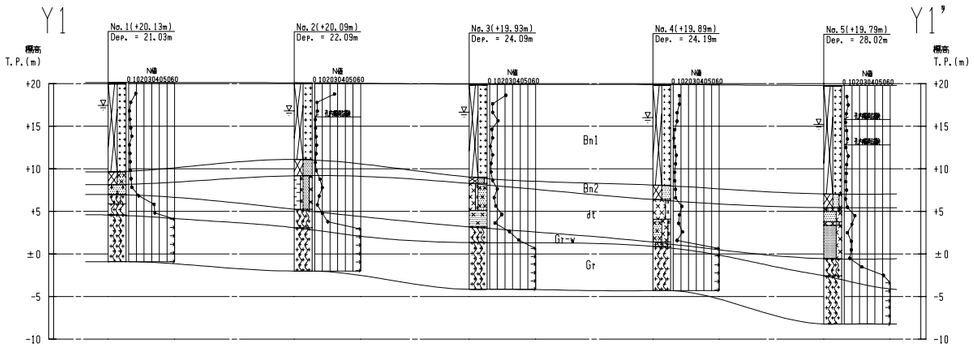
No.63
孔口標高TP+20.66m

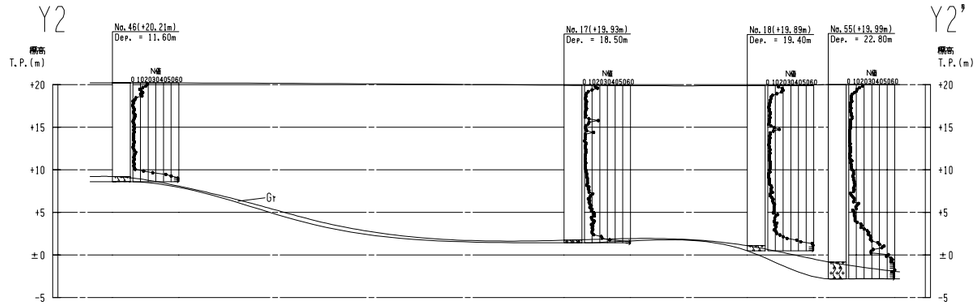


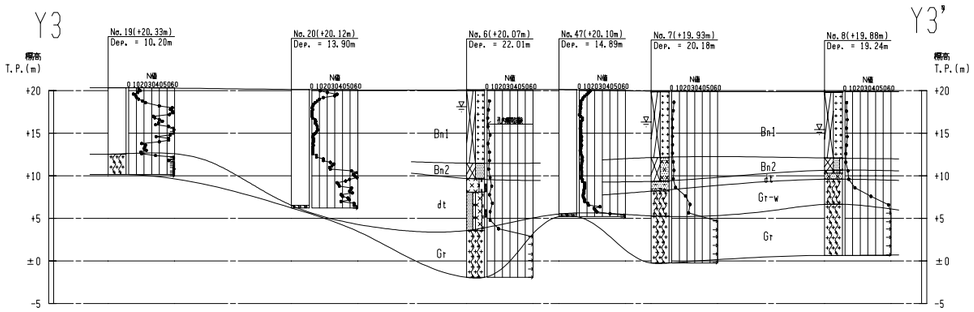
No.80
孔口標高TP+20.21m

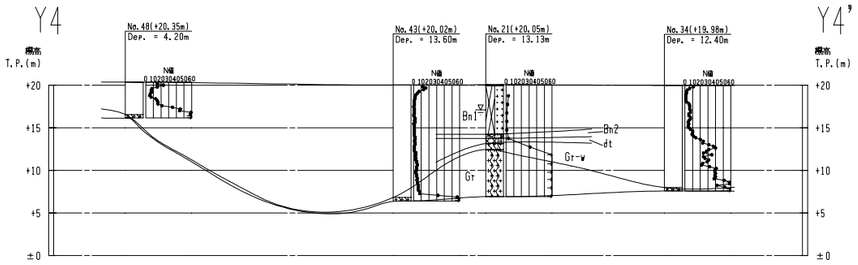


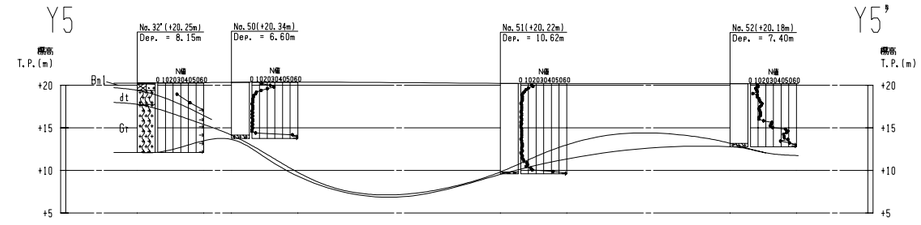
訂正		件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		図面名称	ボーリング柱状図-8	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-020





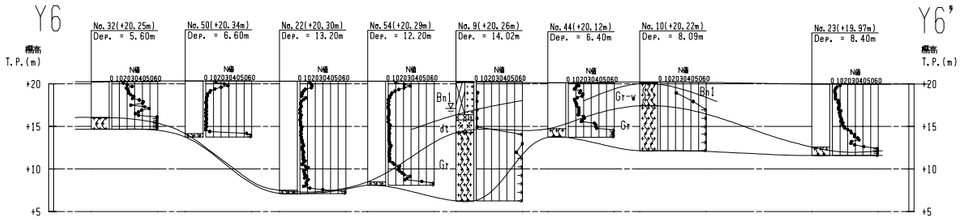


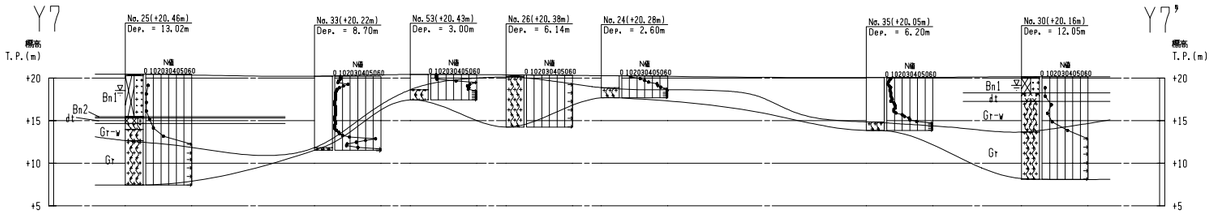


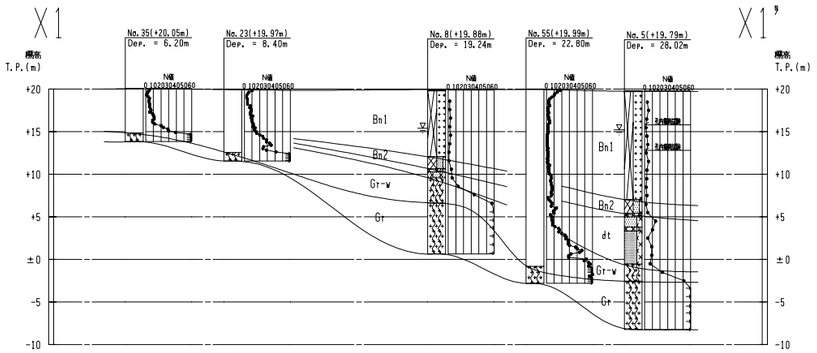


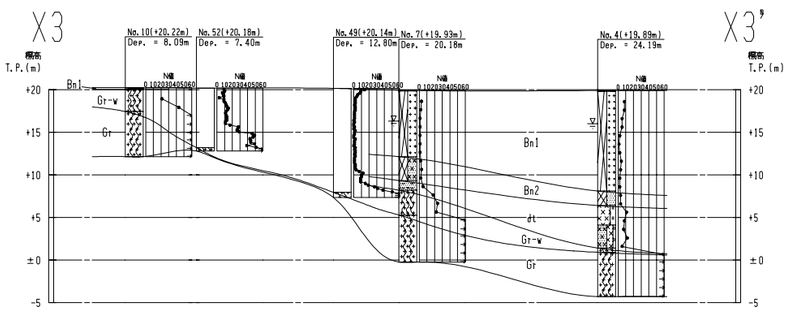
調査位置図

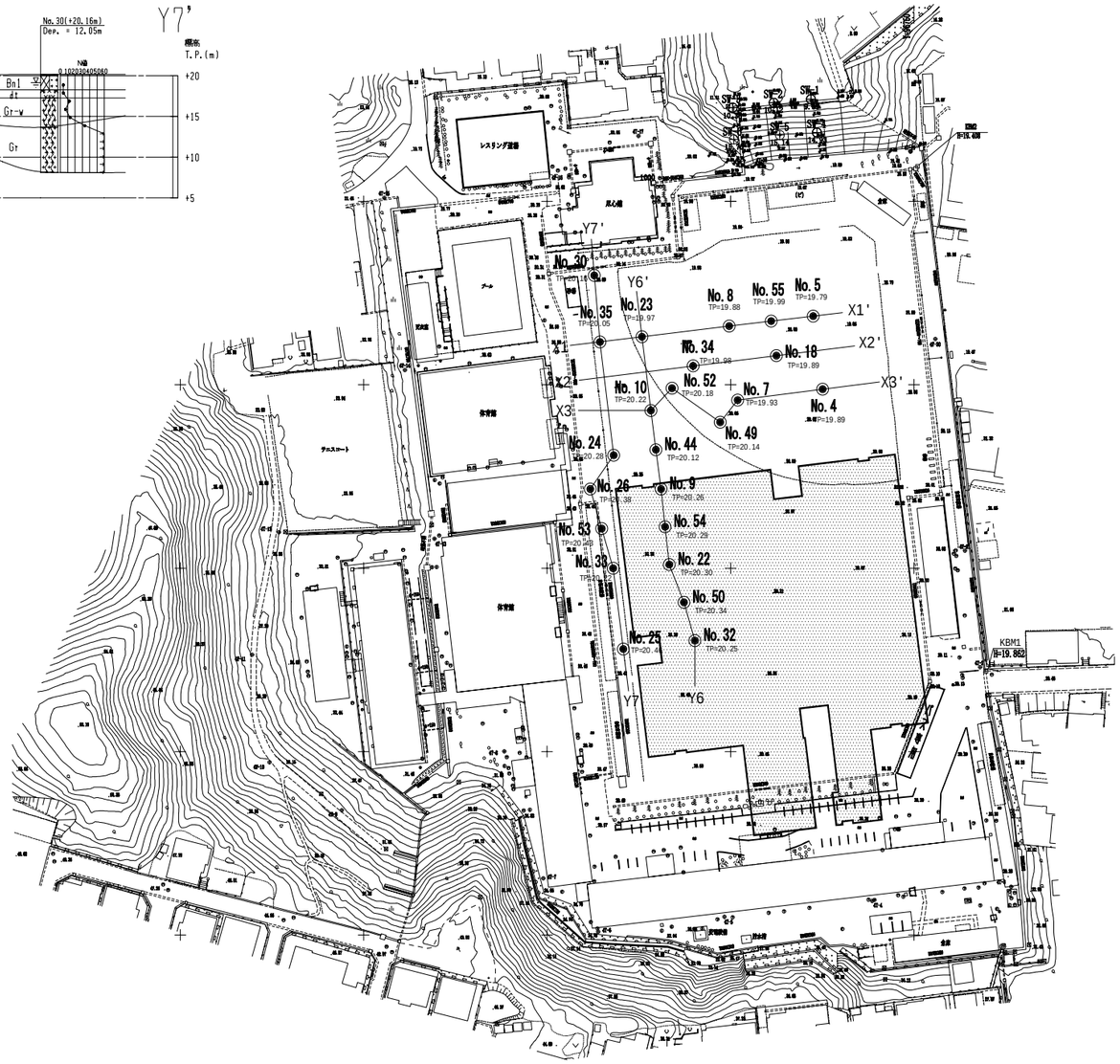
訂正			件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
			図面名称 地層想定断面図-1	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-021









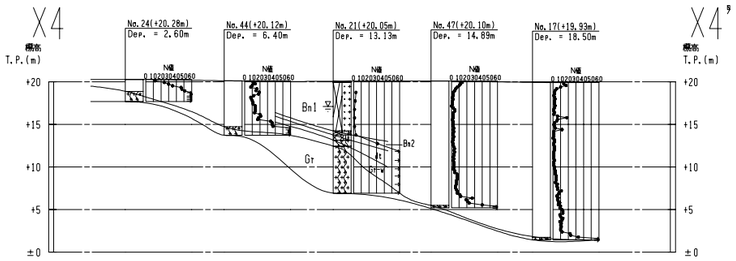


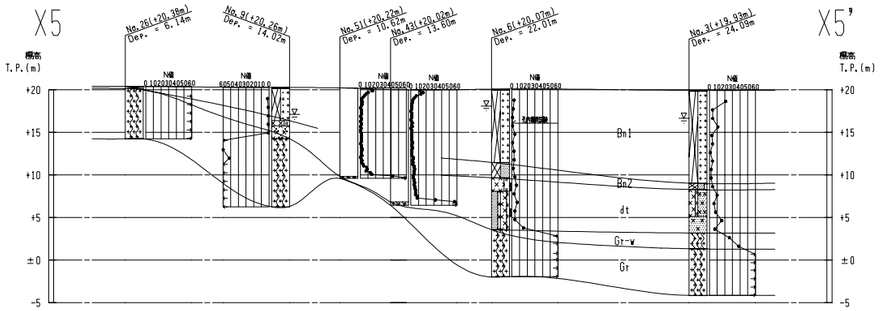
調査位置図

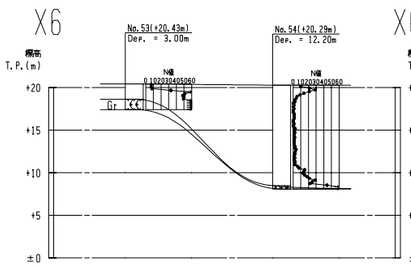
訂正	

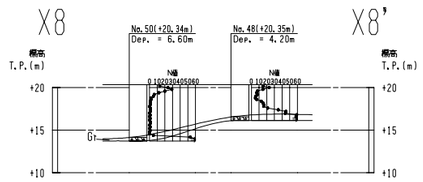
件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事

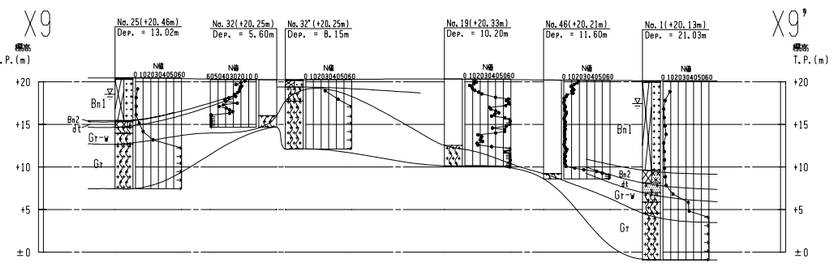
図面名称	縮尺	図面番号
地層想定断面図-2	A1版1:N.S A3版1:N.S	S-022

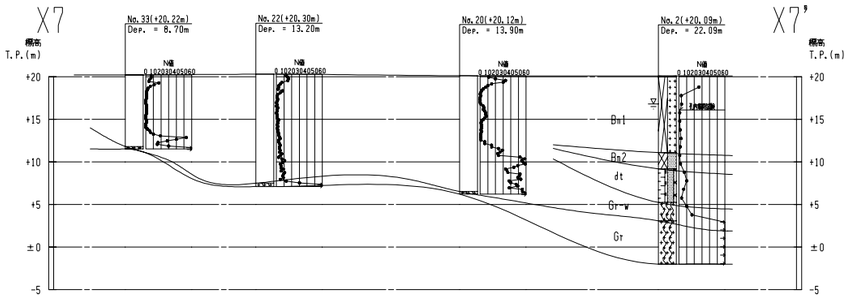


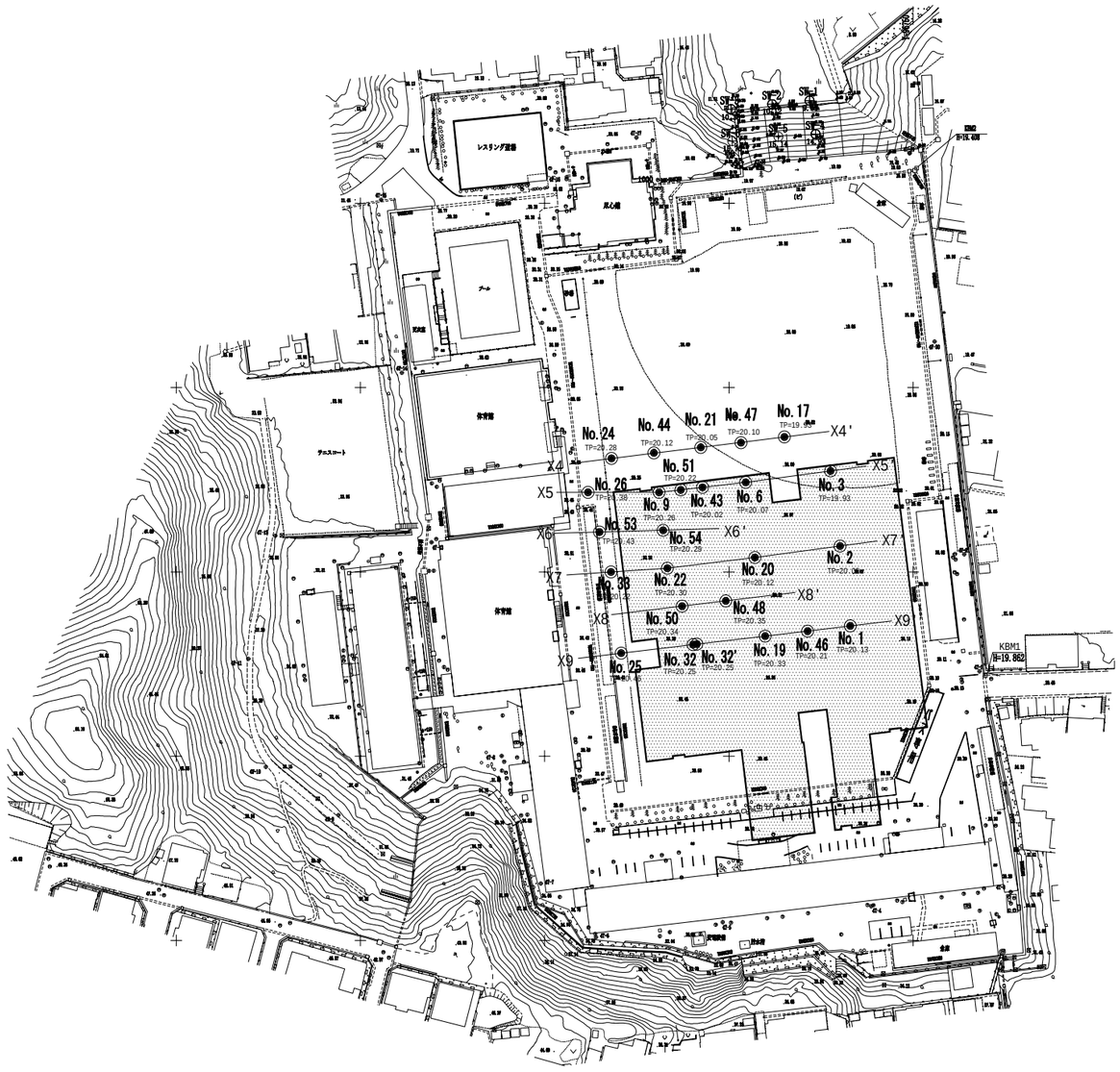






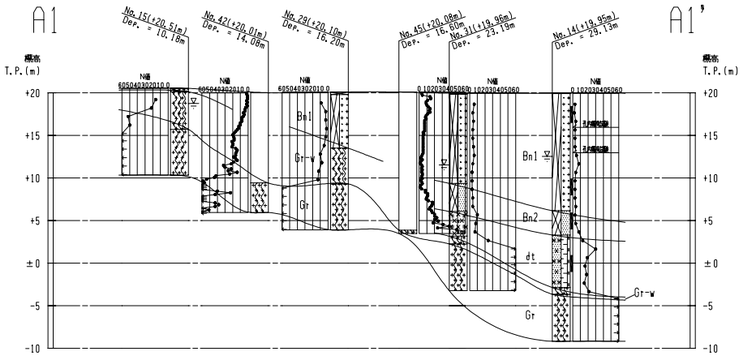


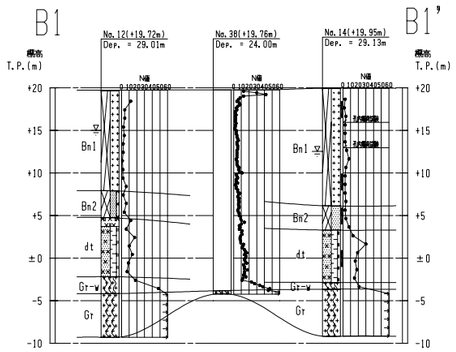


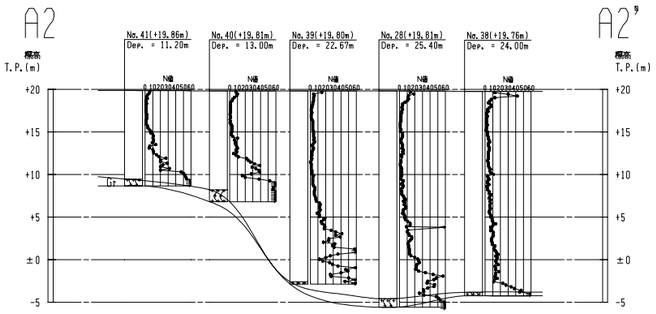


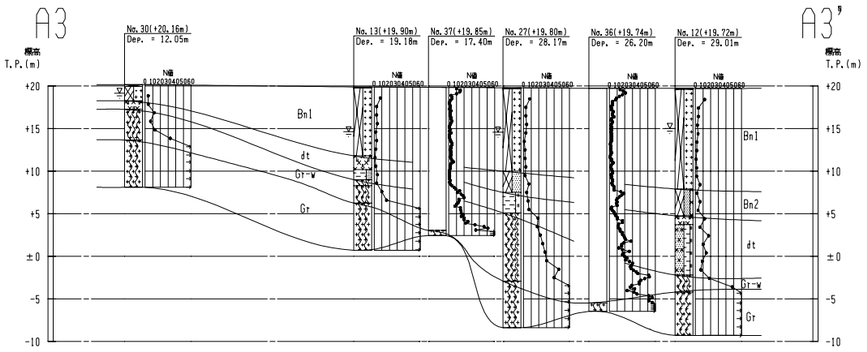
調査位置図

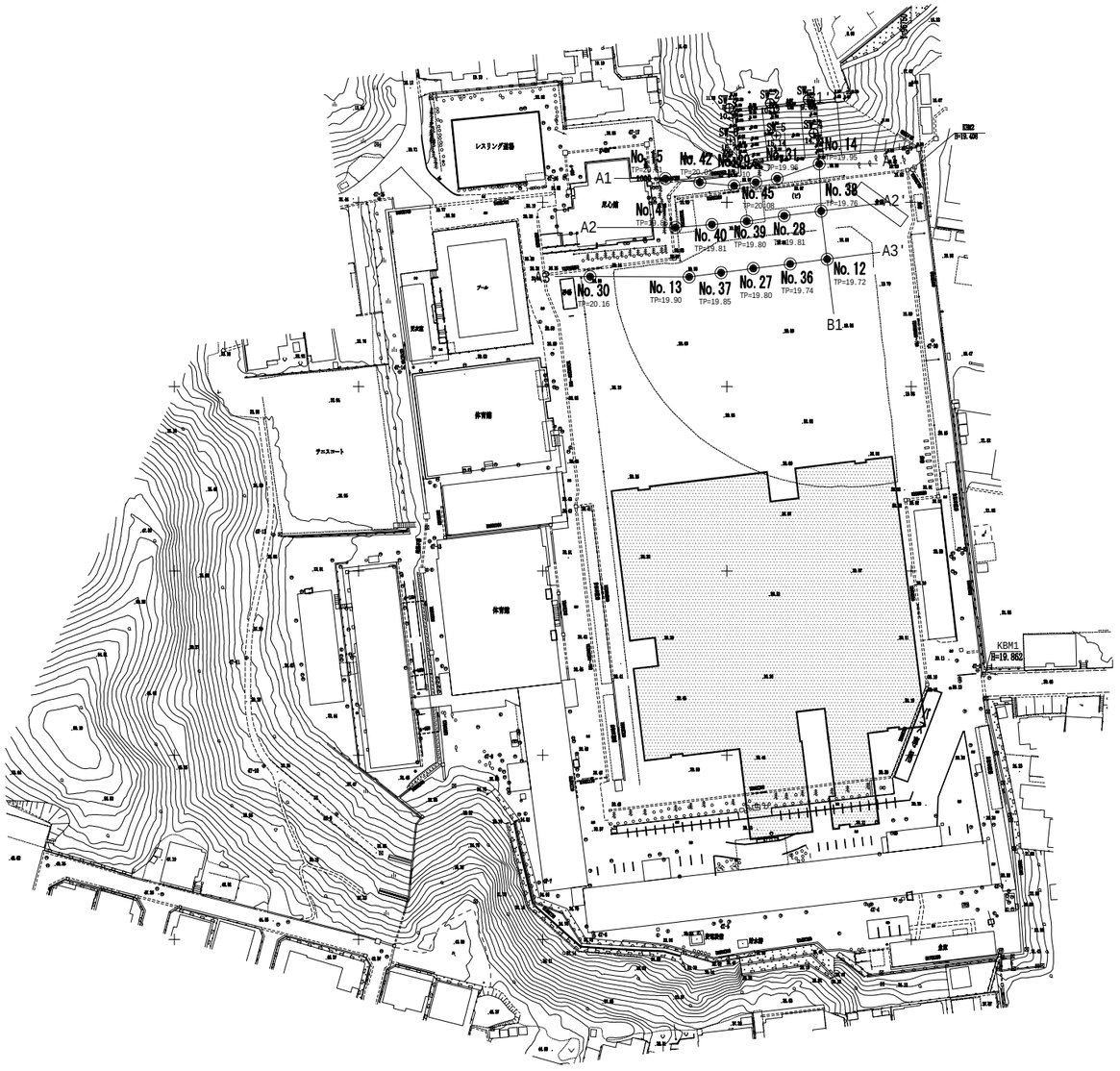
訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事			
	図面名称	地層想定断面図-3	縮尺	A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-023





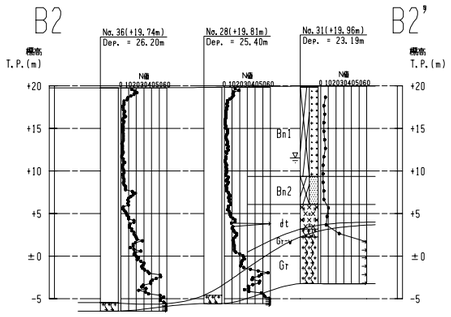


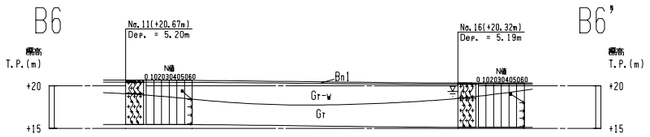


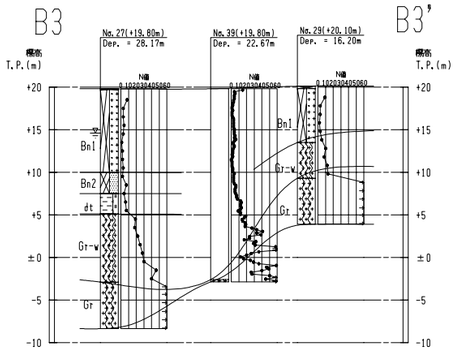


調査位置図

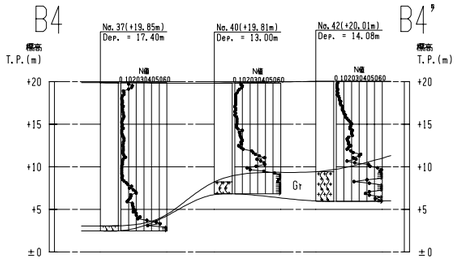
訂正		件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事			
		図面名称 地層想定断面図-4	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-024	

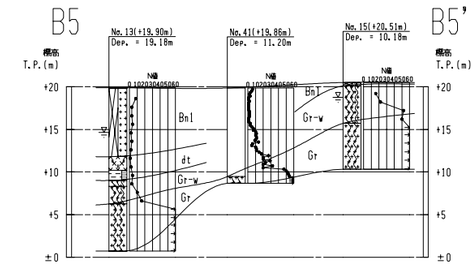




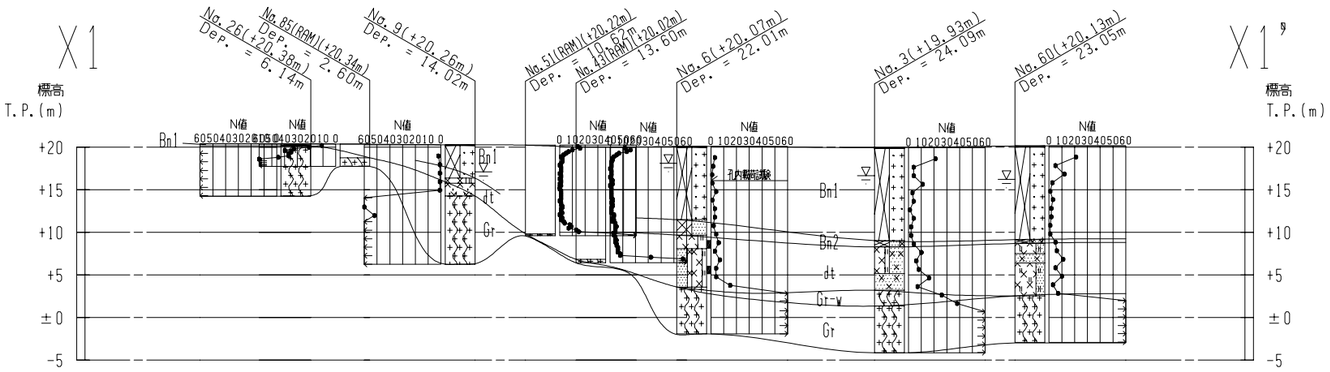


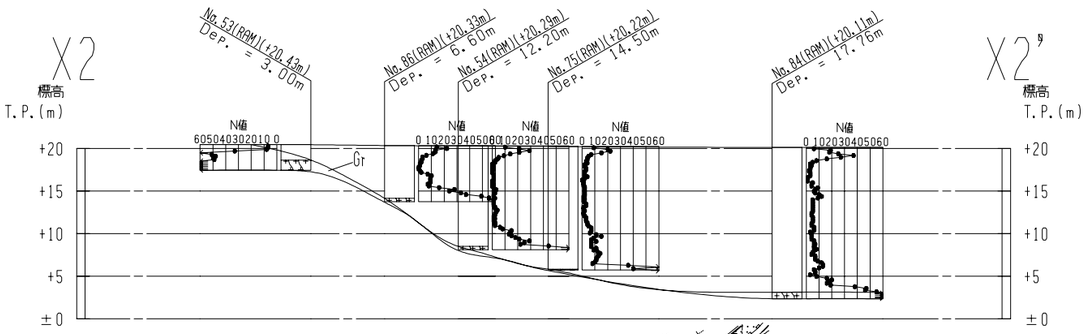
調査位置図

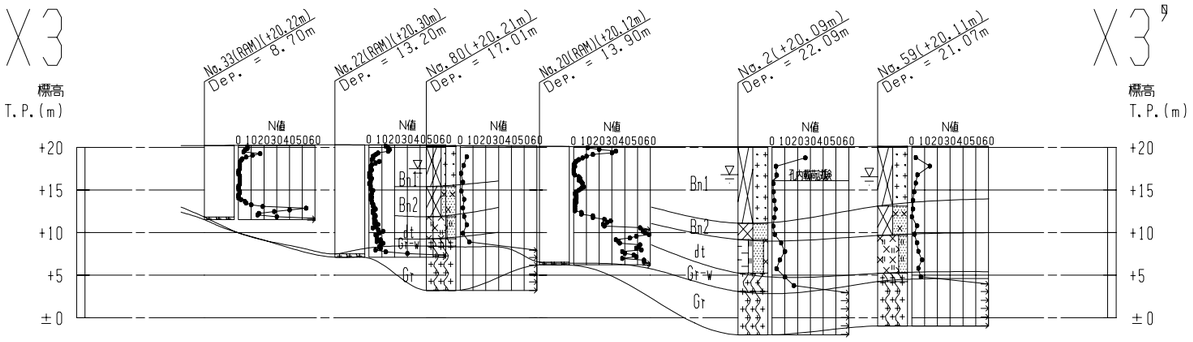


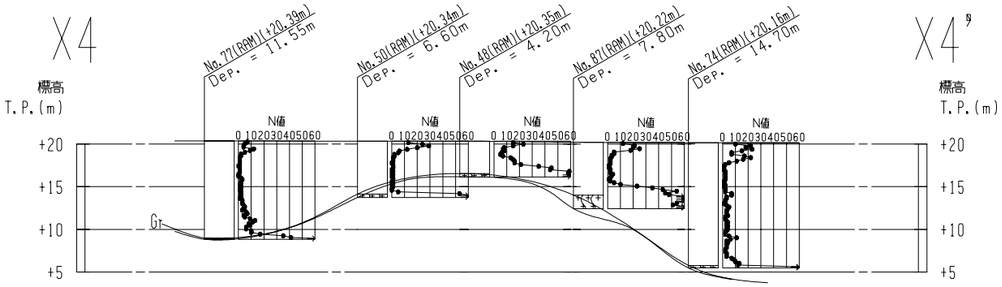


訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	地層想定断面図-5	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S / 図面番号 S-025



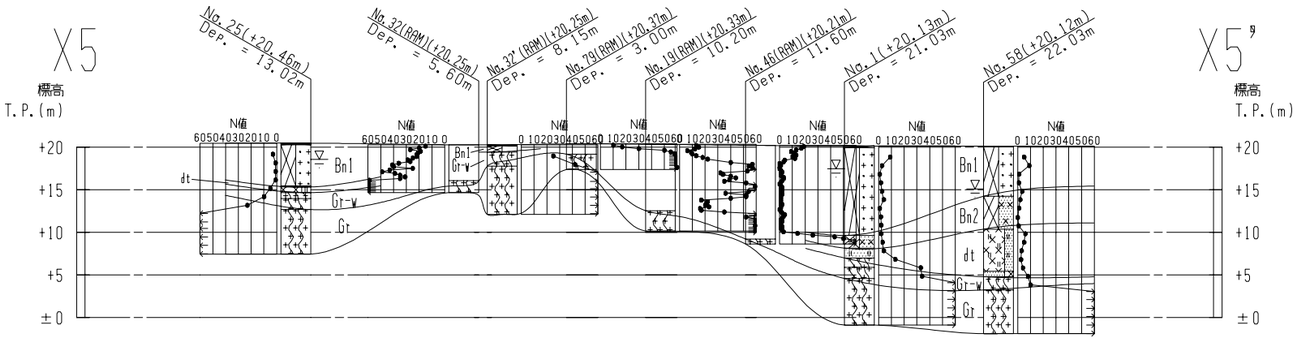


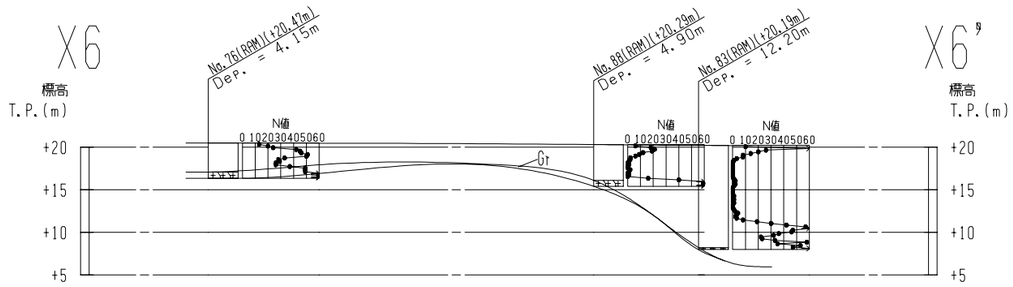


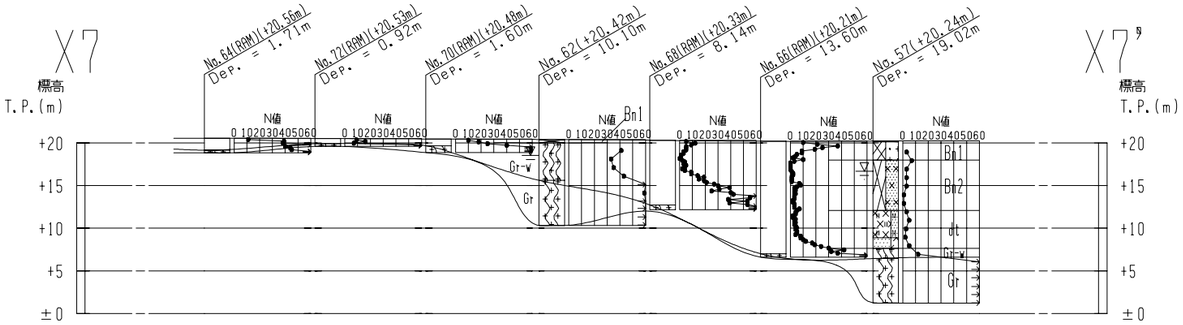


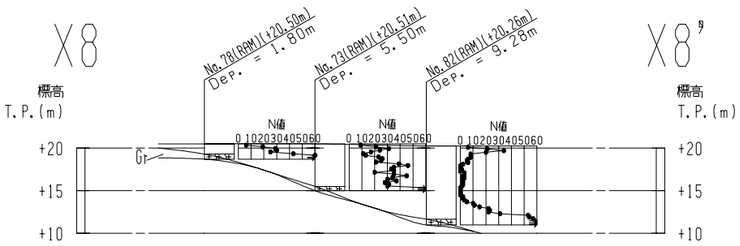
調査位置図

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	地層想定断面図-6	A1版1:N.S A3版1:N.S	S-026

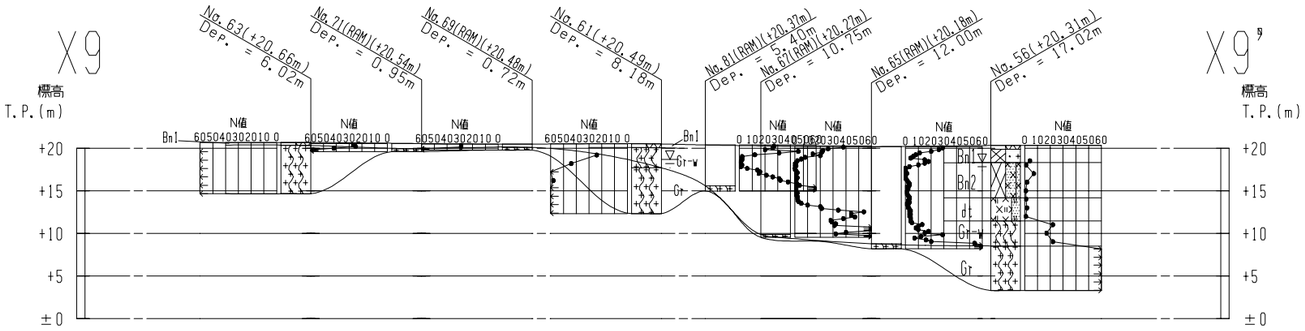




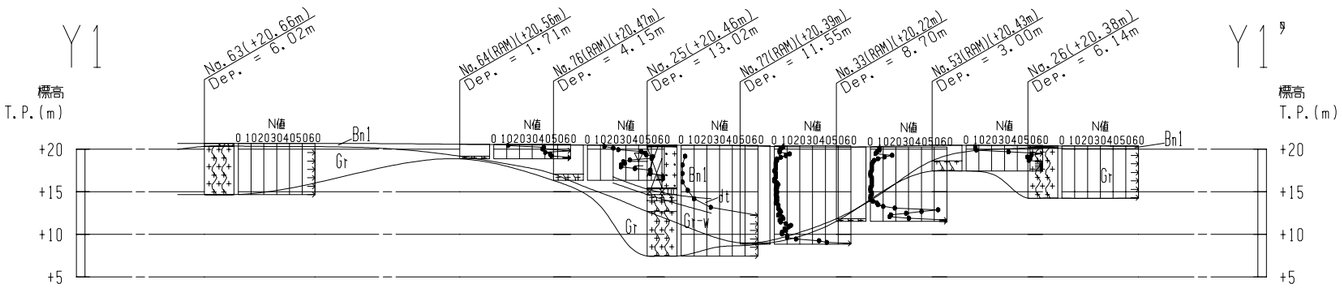


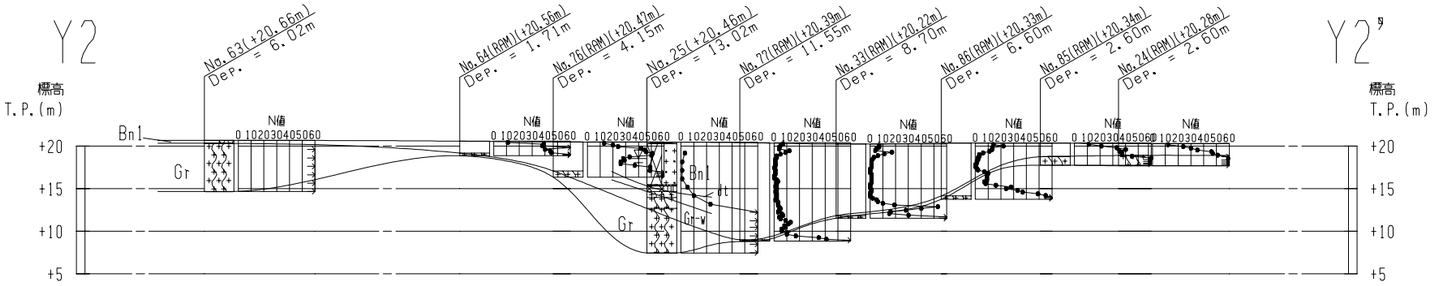


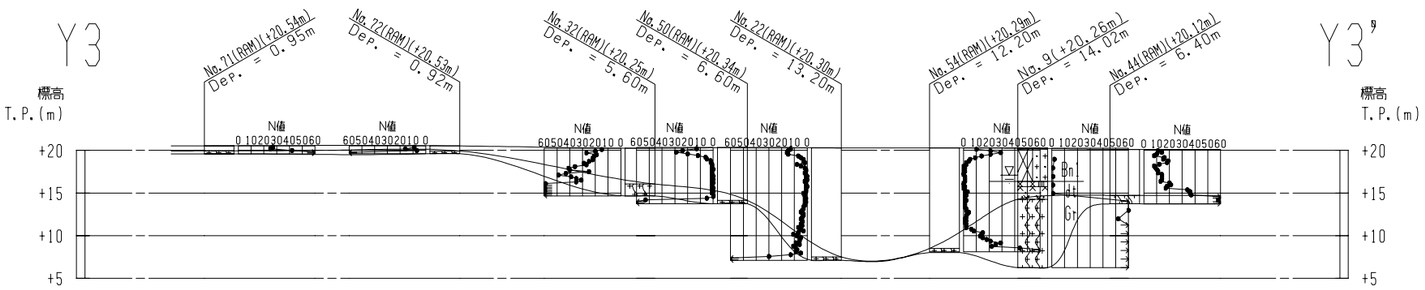
調査位置図

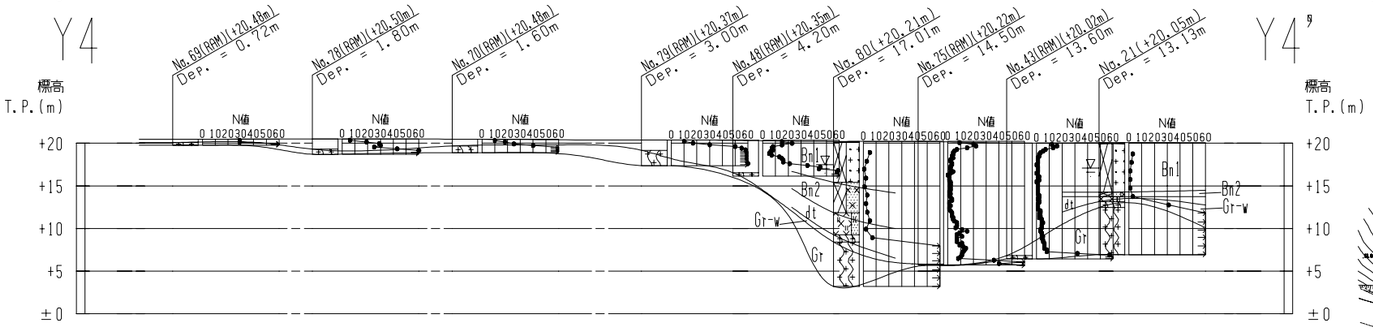


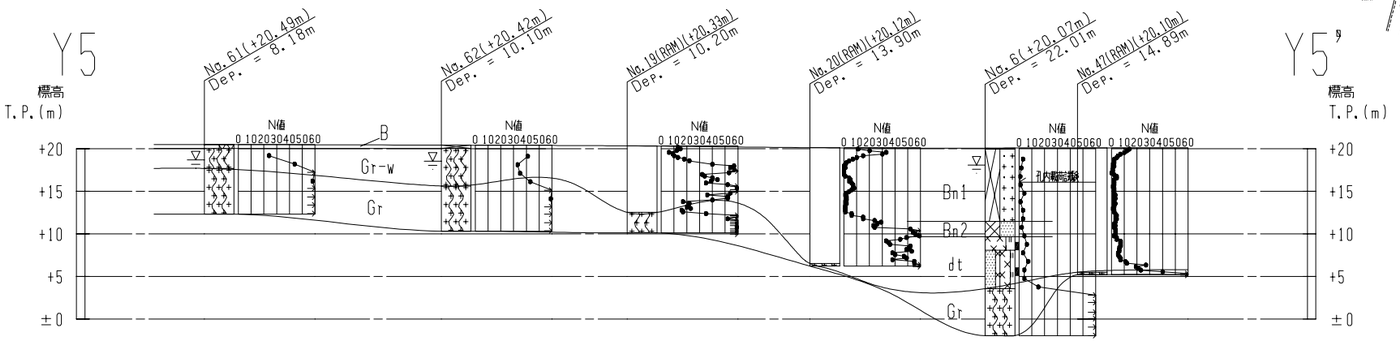
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 地層想定断面図-7	縮尺 A1版1:N.S A3版1:N.S	図面番号 S-027





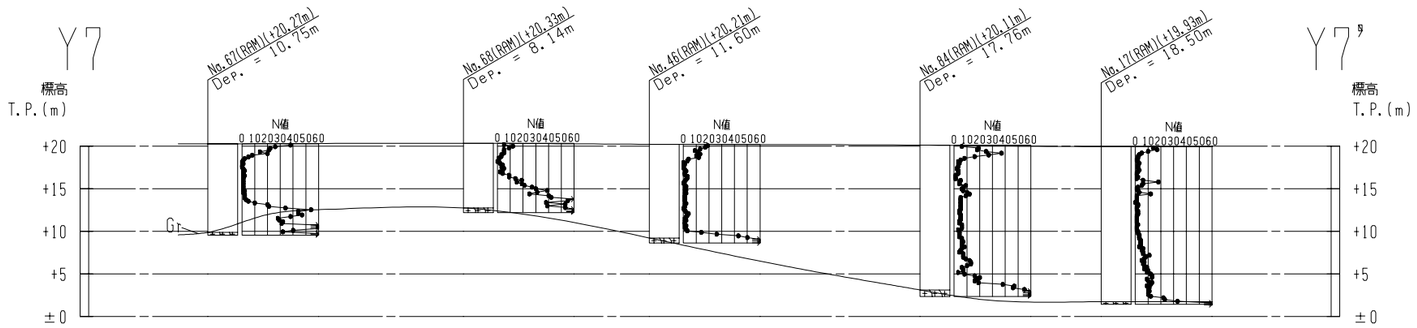


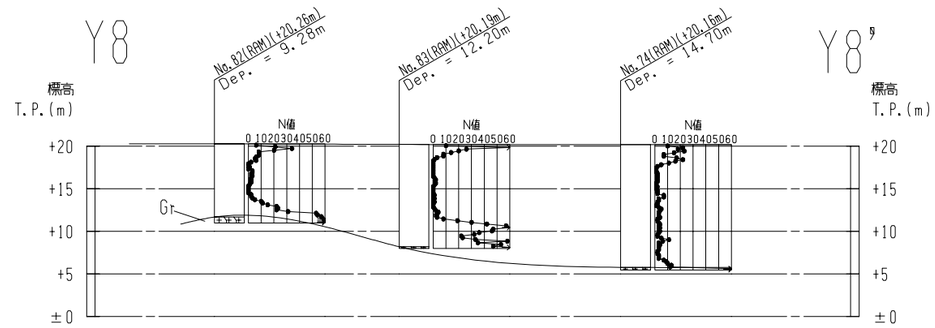


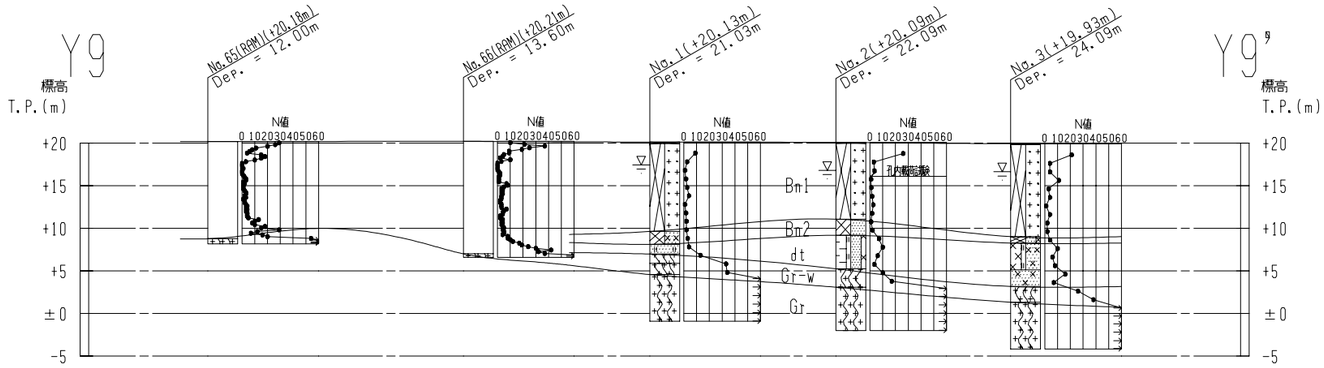


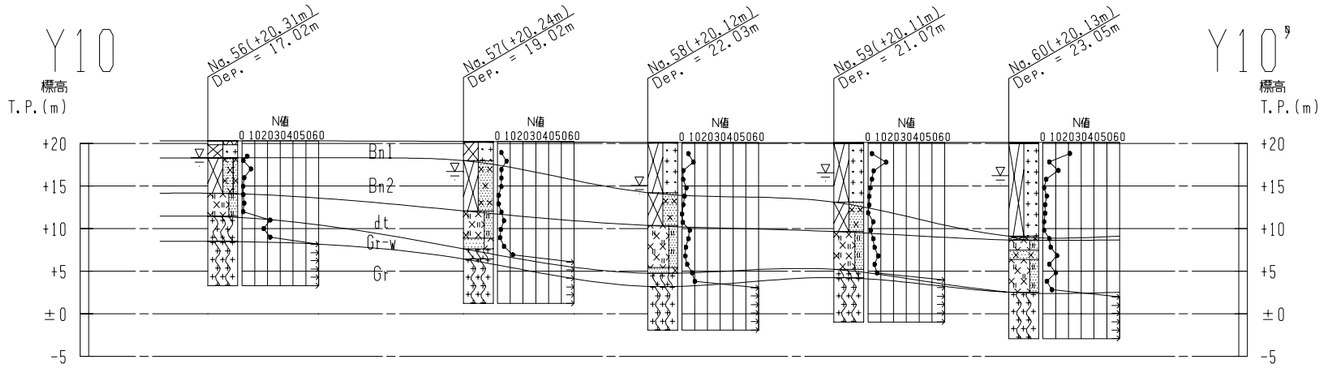
調査位置図

訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称: 地層想定断面図-8	縮尺: A1版1:N.S A3版1:N.S
		S-028









調査位置図

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	地層想定断面図-9	A1版1:NS A3版1:NS	S-029

地盤改良特記事項

1　工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いた機械式複合相対攪拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって
地盤改良を行うものである。

2　一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「2018年版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針
2018年11月」（（財）日本建築センター、以下指針という）による。

3　特記事項

（1）　コラムの径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

（2）　中間層としてレンズ状または互層状に分布するN値40～50程度の砂礫及び玉石混じり層（混入率30％程度以下）固結した砂質土及び、中間層に転石（φ300ｍｍ程度以下）、コンクリート塊が点在する場合でも削孔・撹拌改良施工を可能であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。

（3）　コラムの設計基準強度はFc＝ 1,800kN/m^2 、設計時想定する変動係数の推定値を25％以下であることについて、公的機関で証明を受けた工法とする。

（4）　設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。

（5）　セメントスラリーを用いた機械式複合相対攪拌深層混合処理工法の専門工事会社を本工事施工業者とする。

（6）　固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができ、相対攪拌装置を装備する施工機械を用いる。

（7）　工法の選定においては、上記の内容について公的機関における性能評定を有する工法（エポコラム工法同等以上）を選定する。

4　配合管理

（1）セメントスラリーに使用する固化材は、特殊粘性土用セメント系固化材とする。

（2）配合強度

配合管理目標変動係数を想定し、「5　品質検査」に規定する抜き取り個所数Nから表1を用いて α_t を決め、配合強度X_f を設定する。

$X_f = F_c \cdot \alpha_t$

X_f ：配合強度
F_c ：設計基準強度
α_t：割り増し係数

表　1　割り増し係数（$L_{(p)}$＝80％, V_d ＝25％の場合）

配合管理目標変動係数Vc ＼ 抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
25%	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

（3）W/Cと固化材量

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$X_i = X_f / \alpha_{fl}$　　※固化材等は下記仕様とし、室内配合試験結果にて強度発現を確認し仕様を確定する。

X_i ：室内配合強度　　固化材：特殊粘性土用セメント系固化材 （ GS225同等品相当 ）
X_f ：配合強度　　添加量：450kg/m^3（深度方向で添加量の切替可）
α_{fl}：現場/室内強度比　　W/C：45％（混和材添加）

5　品質検査

（1）検査対象層及び調査ヶ所数

① 検査対象層は（ 第1盛土層Bn1・第2盛土層Bn2・崖錐堆積物dt(旧表土を含む) ）であり
であり設計対象層を（ 崖錐堆積物dt(旧表土を含む)層 ）とする。

② 検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。

③ 調査ヶ所数（検査対象群に対して）

表　2　調査ヶ所数

検査手法A	頭部ｺｱまたはﾓｰﾙﾄﾞｺｱ試験(深度ｺｱ可)	100コラム毎に1ヶ所
	ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞｺｱ試験	100コラム毎に1ヶ所

（2）コア採取率による調査

コア採取率が、全長に対して粘性土で90％、砂質土で95％、深さ1ｍ毎に、粘性土で85％、砂質土で90％以上であることを確認する。礫等を有する地層はサンプリング時のサンプラーの回転切削により固化部分が崩れるので、コア採取率による連続性の判定は、上述の目安値と地盤条件などを加味して総合的に行う。

（3）合否の判定

① 設計対象層についての抜取ヶ所数をNとする。1ヶ所あたり3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。

② 一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。

③ 検査手法Aによる品質検査

合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d = F_c + k_a \{F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d)\}$

X_N ：Nヶ所の一軸圧縮強度の平均値
X_L ：合格判定値
F_c ：設計基準強度
k_a ：合格判定係数
σ_d：標準偏差 $\sigma_d = V_d \cdot q_{ud}$
V_d ：変動係数、品質確認書より想定する

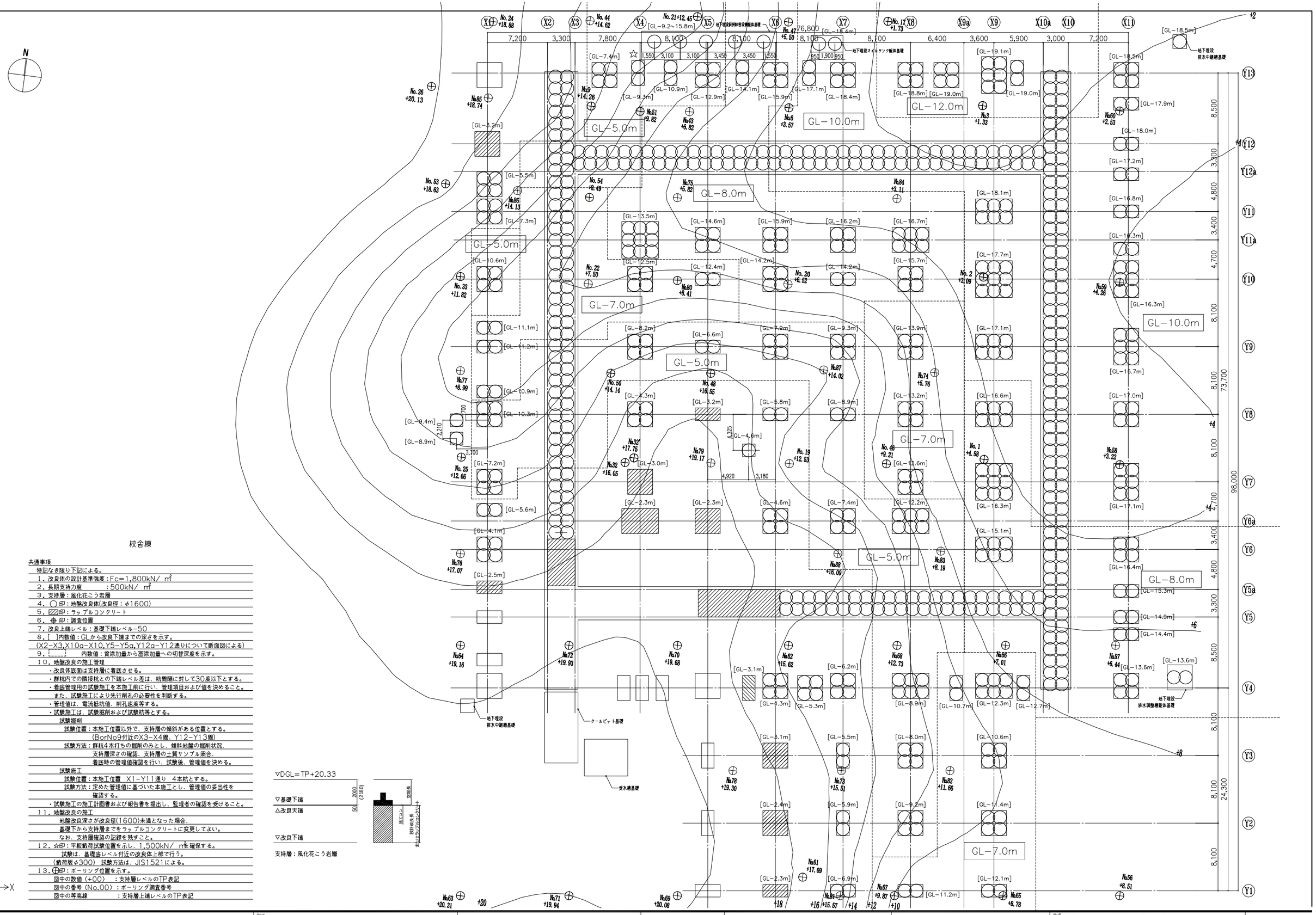
表　3　合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数　k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

（4）六価クロム溶出試験

国土交通省　国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日）　「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による六価クロム溶出試験を実施し、試験結果を提出するものとする。

事前配合試験段階　　1検体



校舎棟

共通事項

特記なき限り下記による。

1．改良体の設計基準強度：Fc=1,800kN/ ㎡

2．長期支持力度　　：500kN/ ㎡

3．支持層：風化花こう岩層

4．○ 印：地盤改良体(改良径：φ1600)

5．▨印：ラッ プルコンクリート

6．⊕ 印：調査位置

7．改良上端レベル：基礎下端レベル−50

8．[　]内数値：GLから改良下端までの深さを示す。

(X2−X3,X10a−X10,Y5−Y5a,Y12a−Y12通りについて断面図による)

9．{　　}　内数値：貧添加量から富添加量への切替深度を示す。

10．地盤改良の施工管理

・改良体底面は支持層に着底させる。

・群杭内での隣接杭との下端レベル差は、杭間隔に対して30度以下とする。

・着底管理用の試験施工を本施工前に行い、管理項目および値を決めること。

また、試験施工により先行削孔の必要性を判断する。

・管理値は、電流抵抗値、削孔速度等する。

・試験施工は、試験掘削および試験杭等とする。

試験掘削

試験位置：本施工位置以外で、支持層の傾斜がある位置とする。

(BorNo9付近のX3−X4間、Y12−Y13間)

試験方法：群杭4本打ちの掘削のみとし、傾斜地盤の掘削状況、

支持層深さの確認、支持層の土質サンプル照合、

着底時の管理値確認を行い、試験後、管理値を決める。

試験施工

試験位置：本施工位置　X1−Y11通り　4本杭とする。

試験方法：定めた管理値に基づいた本施工とし、管理値の妥当性を

確認する。

・試験施工の施工計画書および報告書を提出し、監理者の確認を受けること。

11．地盤改良の施工

地盤改良深さが改良径(1600)未満となった場合、

基礎下から支持層までをラッ プルコンクリートに変更してよい。

なお、支持層確認の記録を残すこと。

12．☆印：平板載荷試験位置を示し、1,500kN/ ㎡を確保する。

試験は、基礎底レベル付近の改良体上部で行う。

(載荷版φ300)　試験方法は、JIS1521による。

13．⊕印：ボーリング位置を示す。

図中の数値 (+00)　：支持層レベルのTP表記

図中の番号 (No.00)：ボーリング調査番号

図中の等高線　　：支持層上端レベルのTP表記

▽DGL＝TP+20.33

▽基礎下端

△改良天端

▽改良下端

2000 (2180) 50

安定長

ケーシングビブラン付き

施工コン

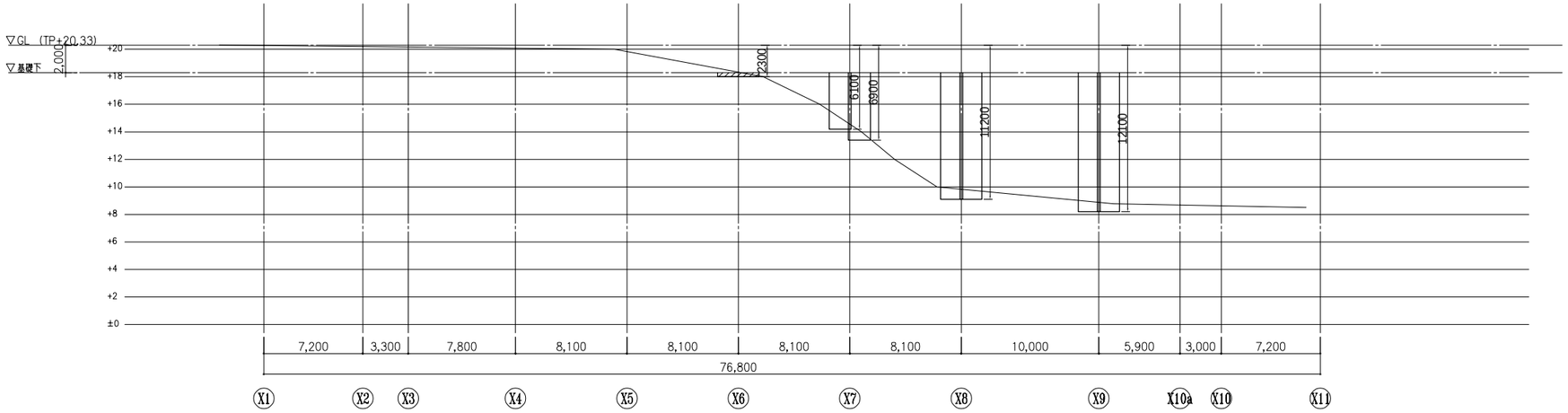
設計改良長

支持層：風化花こう岩層

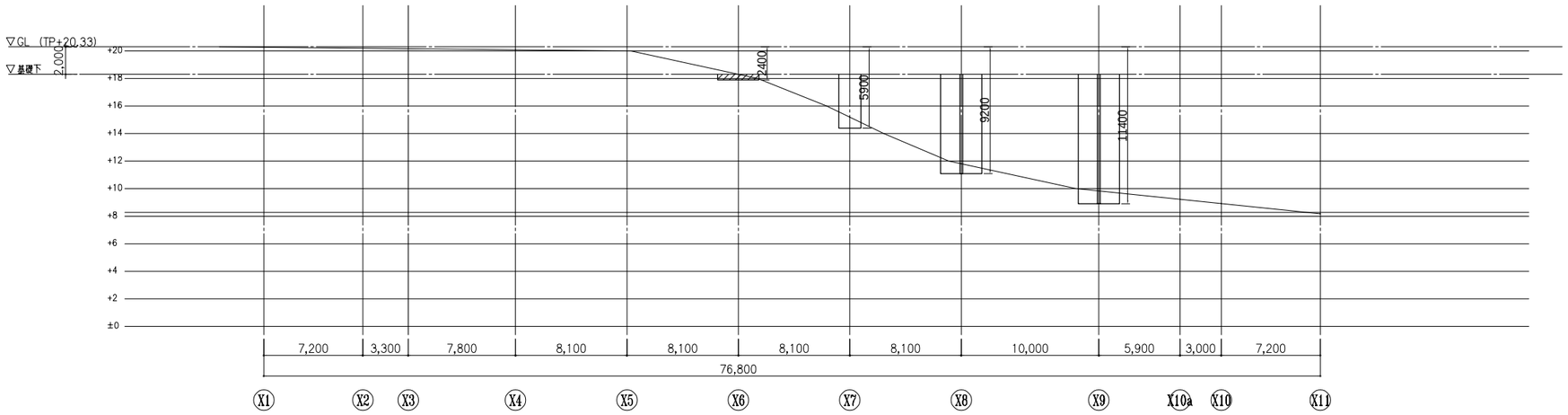
Y

X

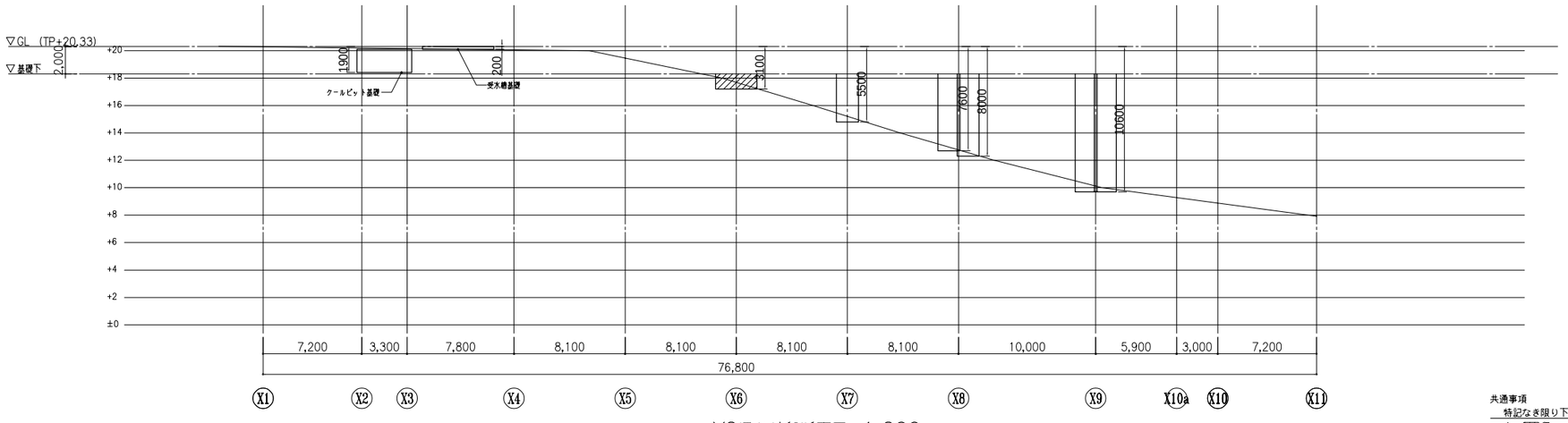
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称 地盤改良伏図	縮尺 A1版1:200 A3版1:400
		図面番号 S-031



Y1通り軸組図 1:200



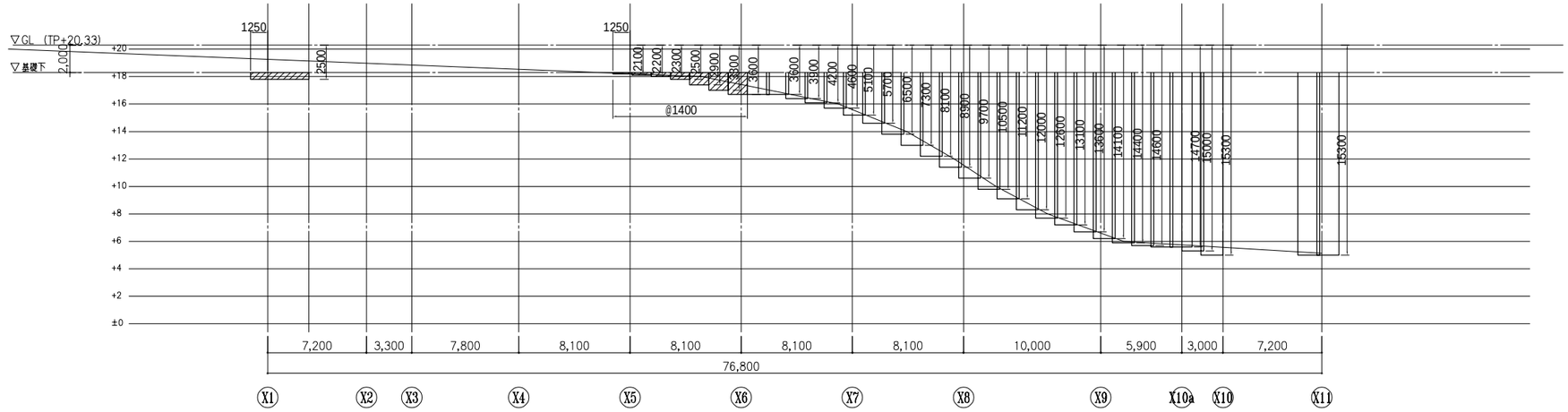
Y2通り軸組図 1:200



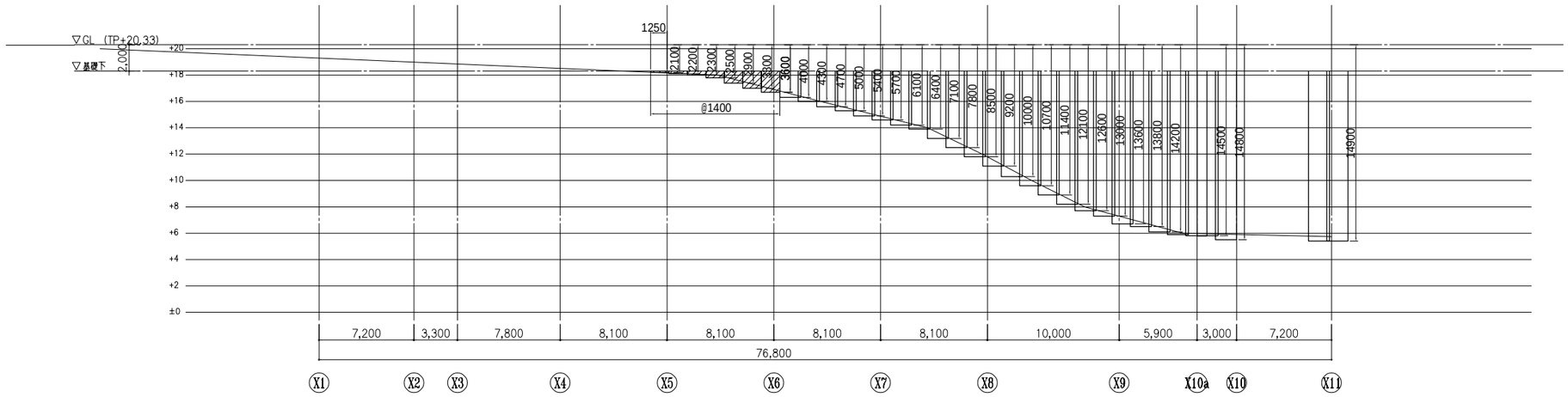
Y3通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▨印：ラップルコンクリート

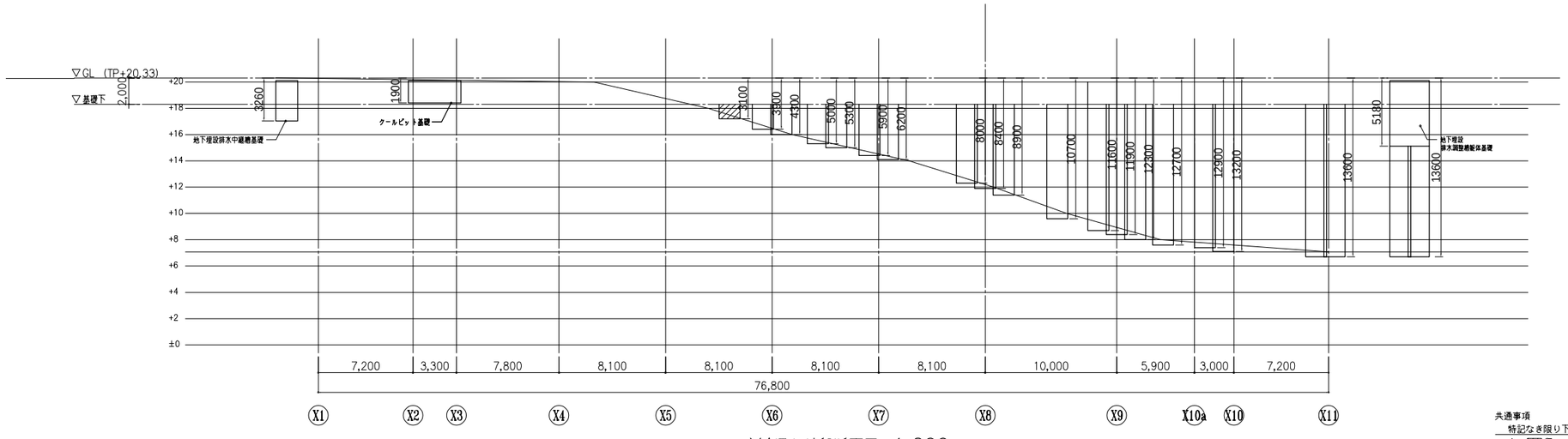
訂正					件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
					図面名称 地盤改良断面図-1	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-032



Y5a通り軸組図 1:200



Y5通り軸組図 1:200



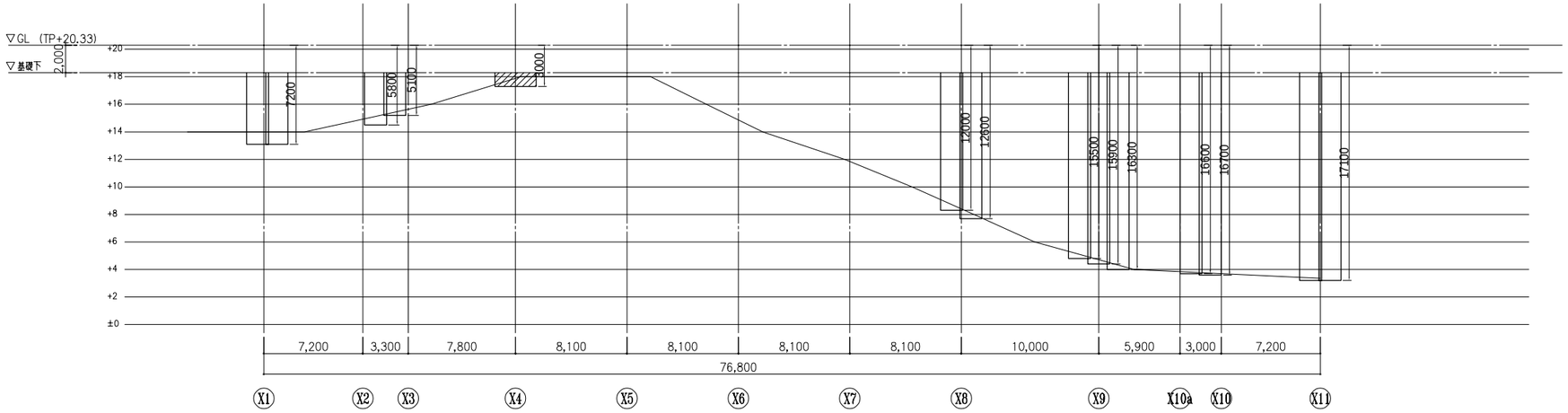
Y4通り地盤断面図 1:200

共通事項

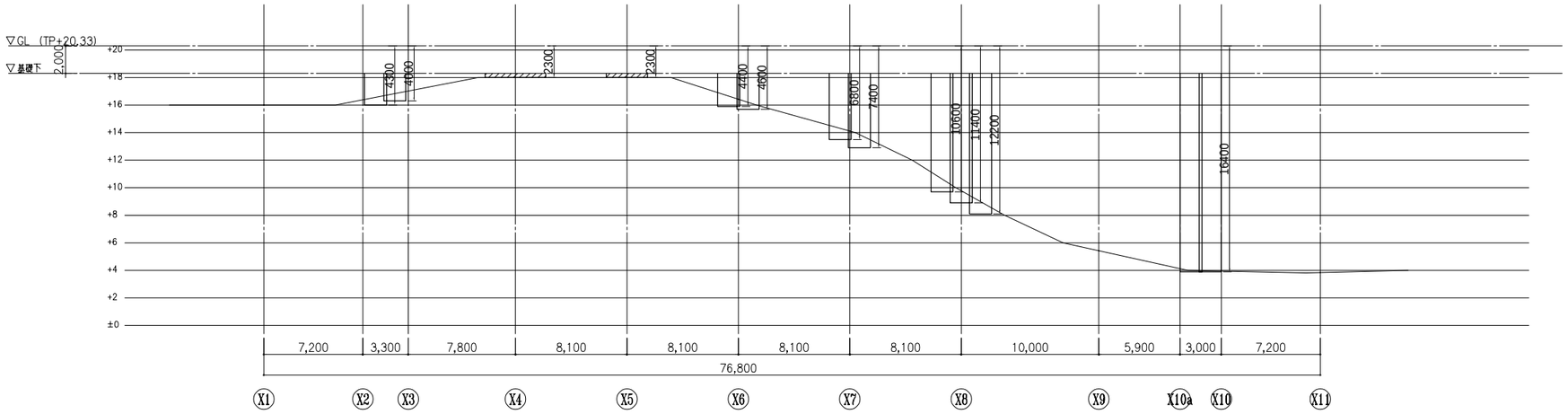
特記なき限り下記による。

1．▨印：ラップルコンクリート

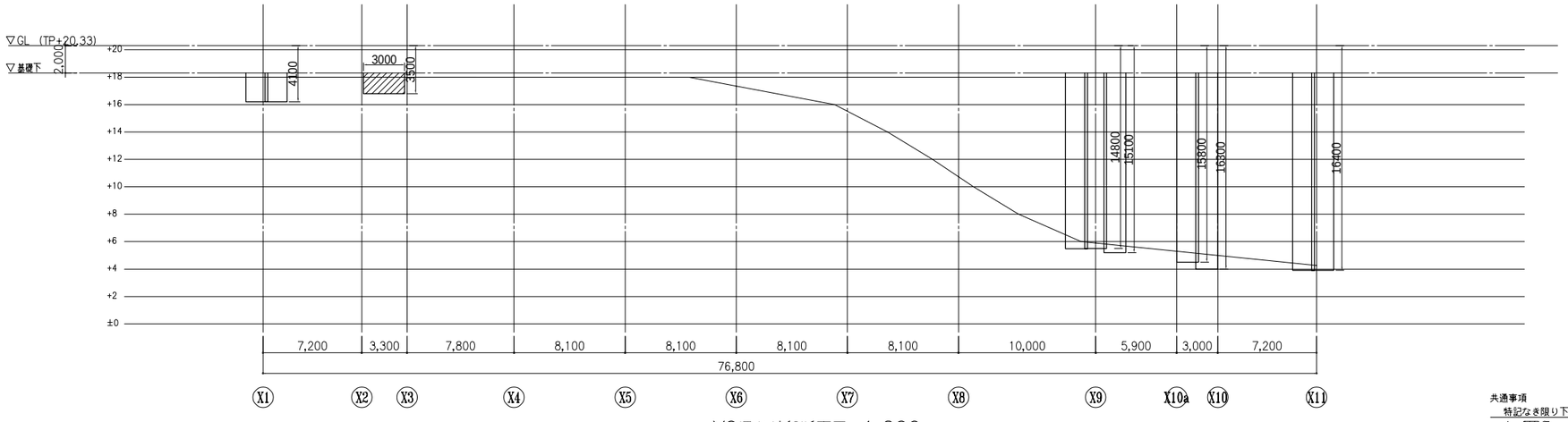
訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称：地盤改良断面図-2	縮尺：A1版1:200 A3版1:400
		S-033



Y7通り軸組図 1:200



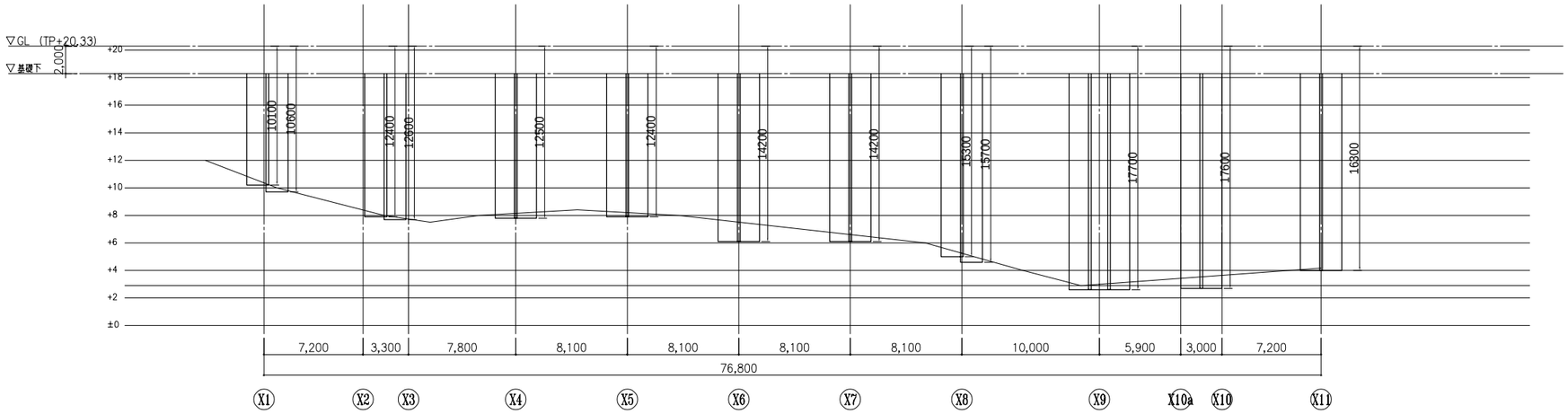
Y6a通り軸組図 1:200



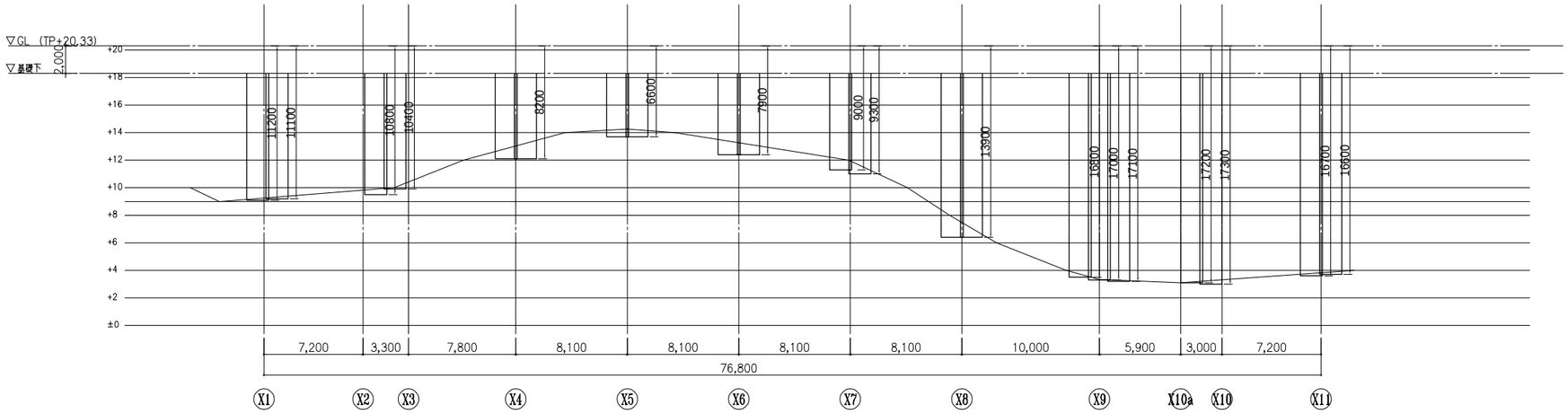
Y6通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▨印：ラップルコンクリート

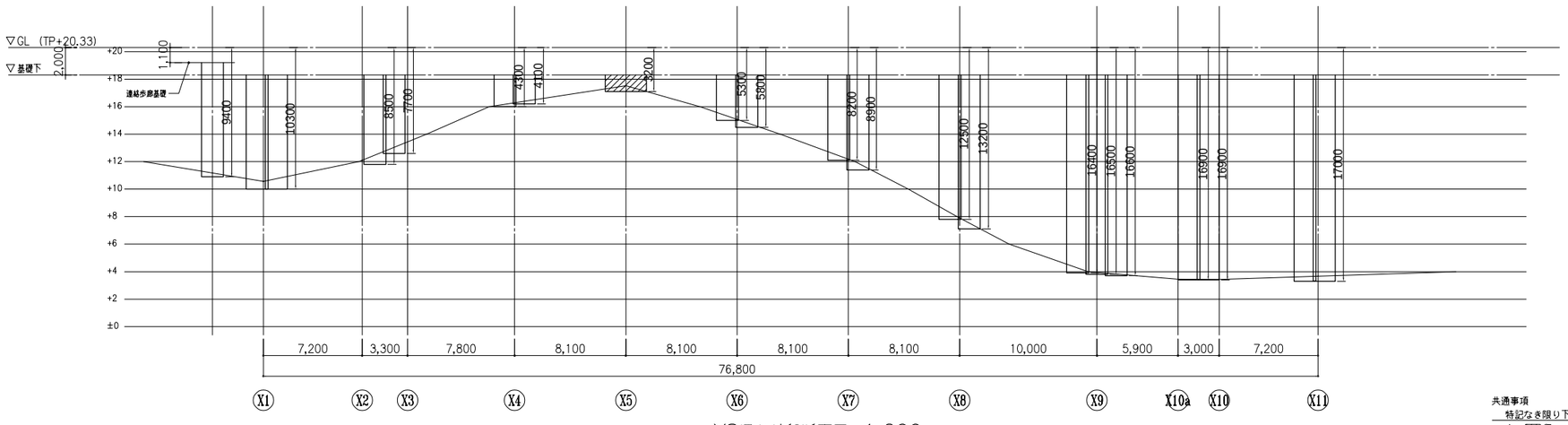
訂正	件名	図面番号
・	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
図面名称	地盤改良断面図-3	縮尺 A1版1:200 A3版1:400
		S-034



Y10通り軸組図 1:200



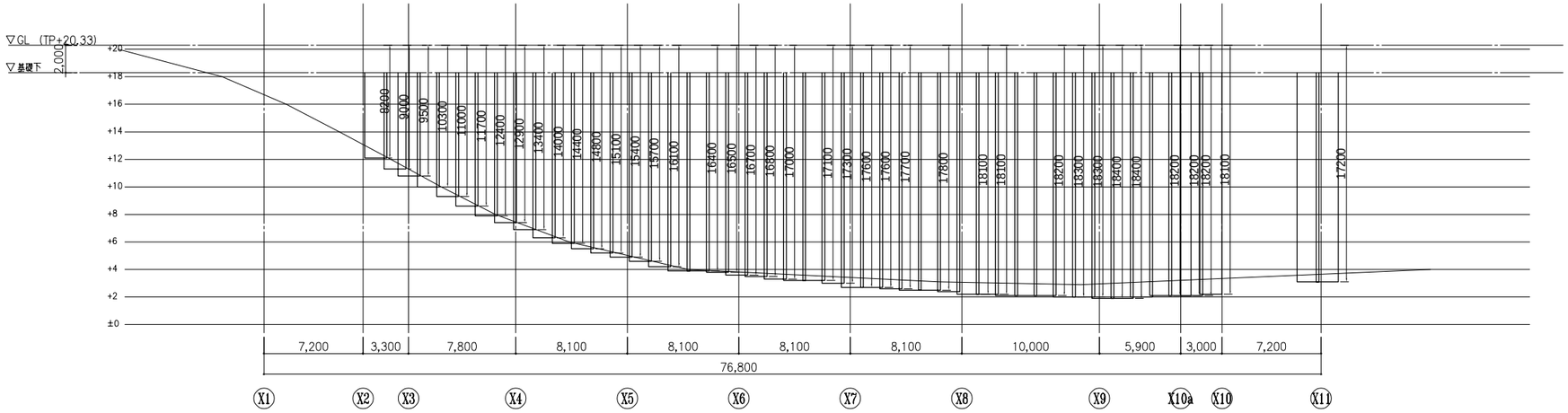
Y9通り軸組図 1:200



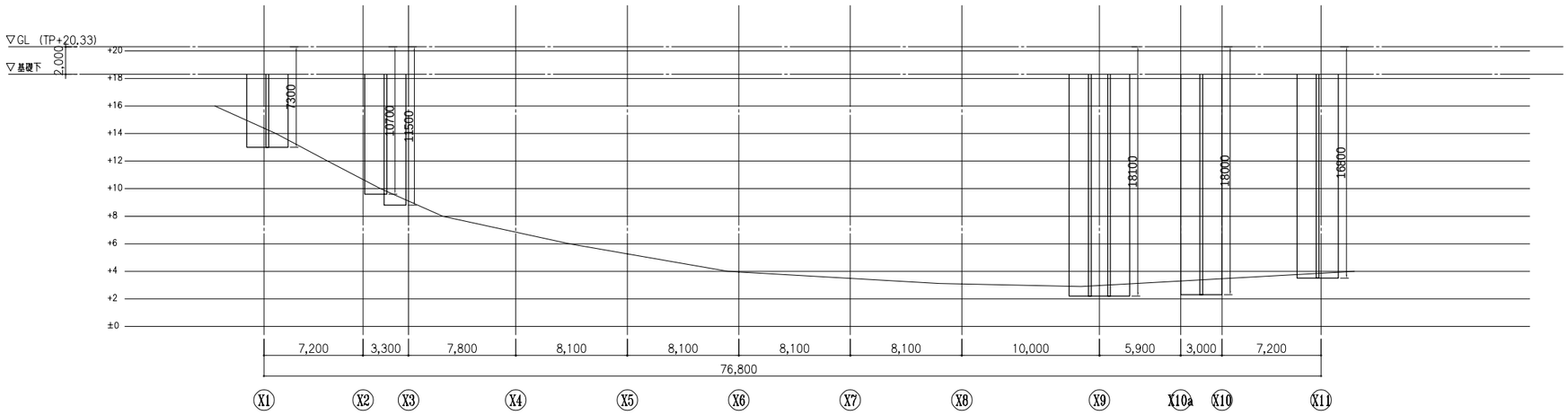
Y8通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ▨印：ラップルコンクリート

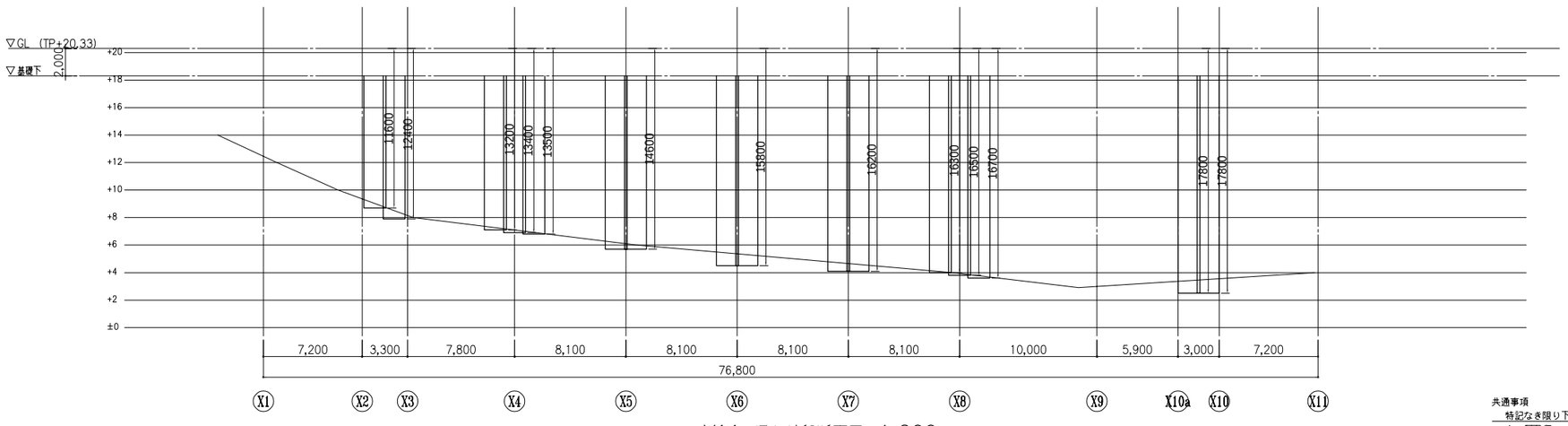
訂正	件名	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 地盤改良断面図-4	A1版1:200 A3版1:400	S-035



Y12a通り軸組図 1:200



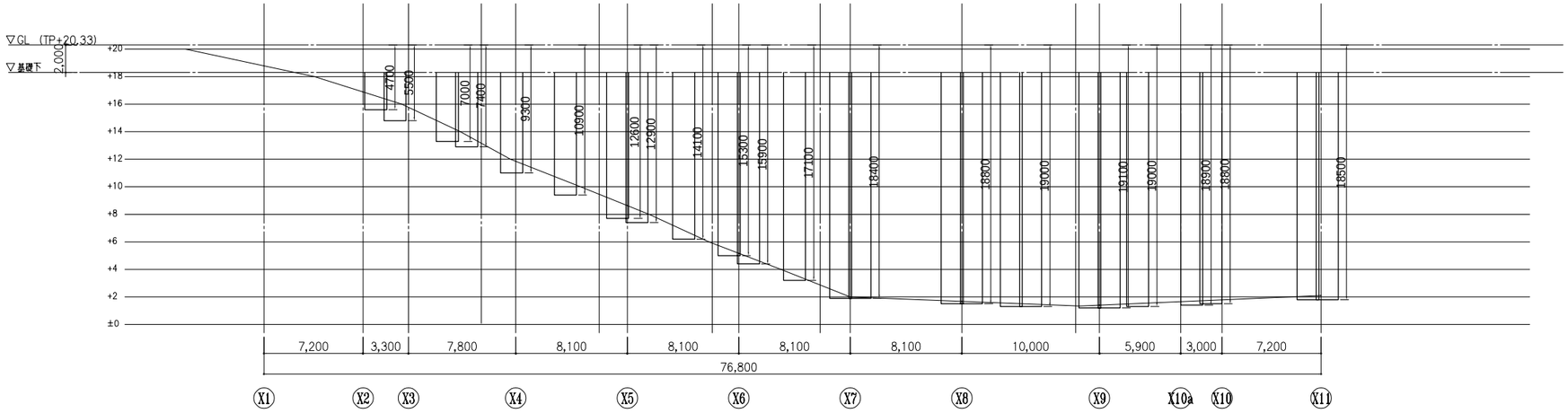
Y11通り軸組図 1:200



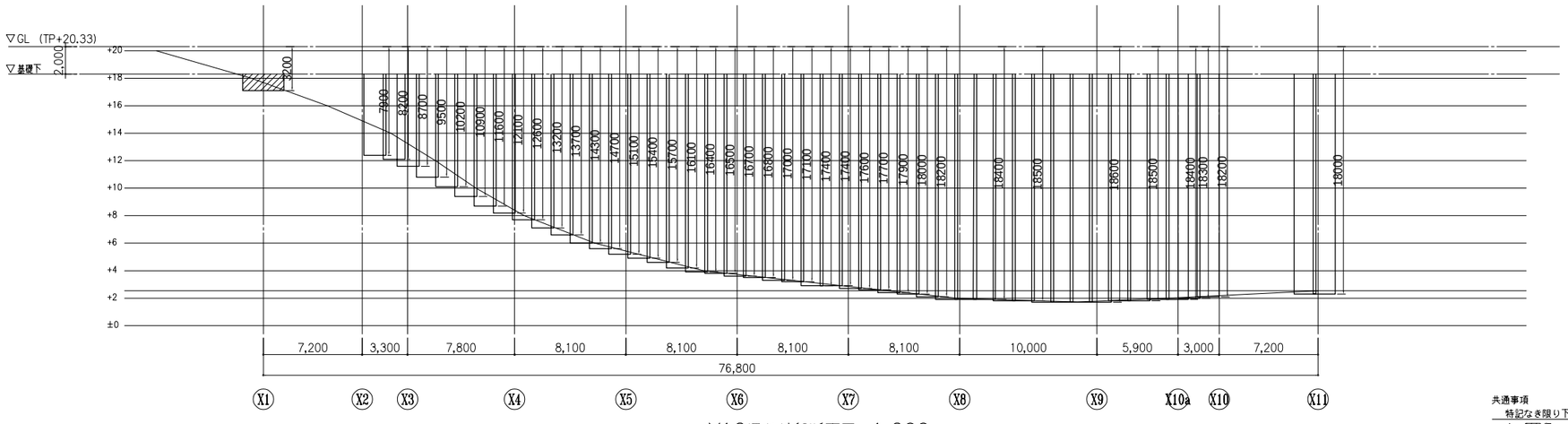
Y11a通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▨印：ラップルコンクリート

訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称：地盤改良断面図-5	縮尺：A1版1:200 A3版1:400
		S-036



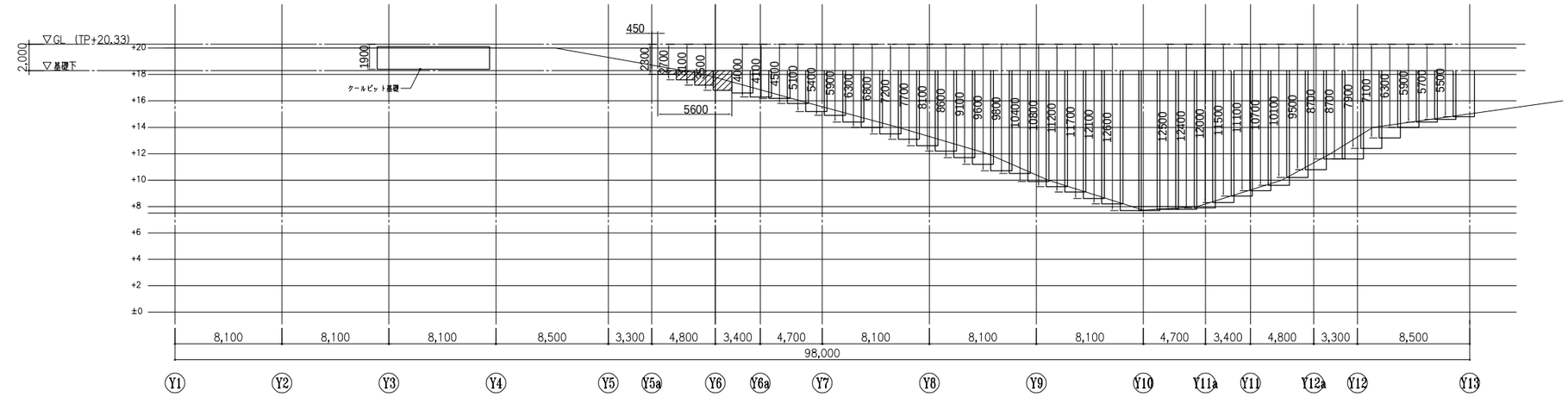
Y13通り軸組図　1:200



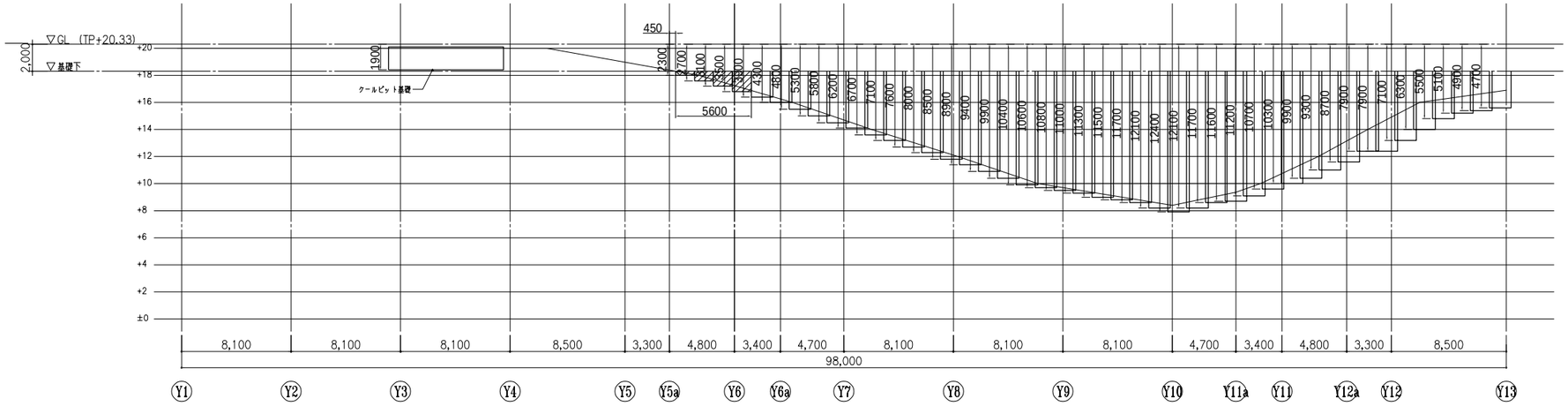
Y12通り地盤断面図　1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▨印：ラップルコンクリート

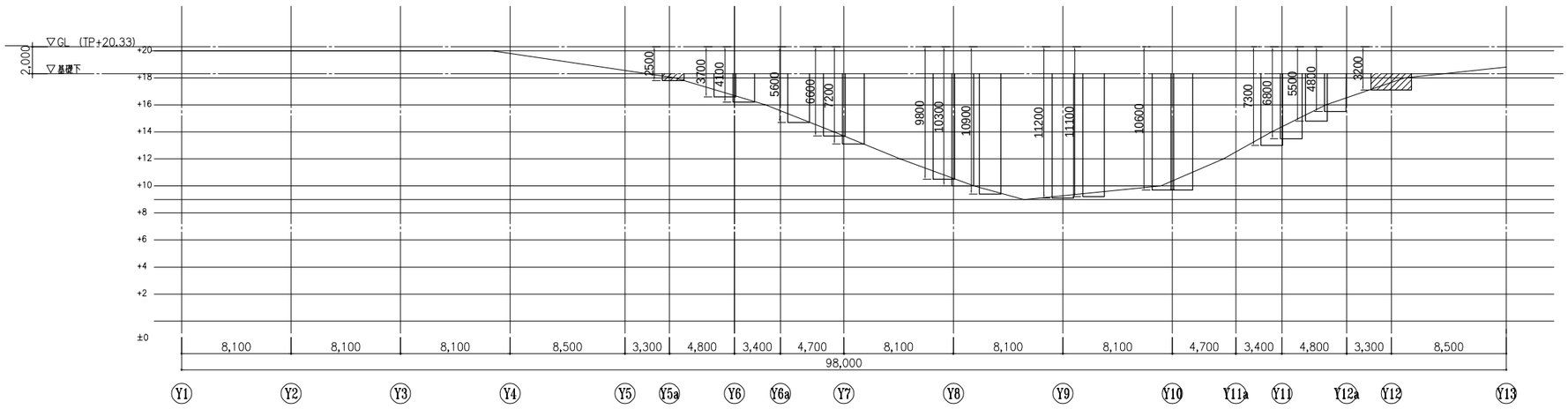
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事			
	図面名称 地盤改良断面図-6	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-037	



X3通り軸組図 1:200



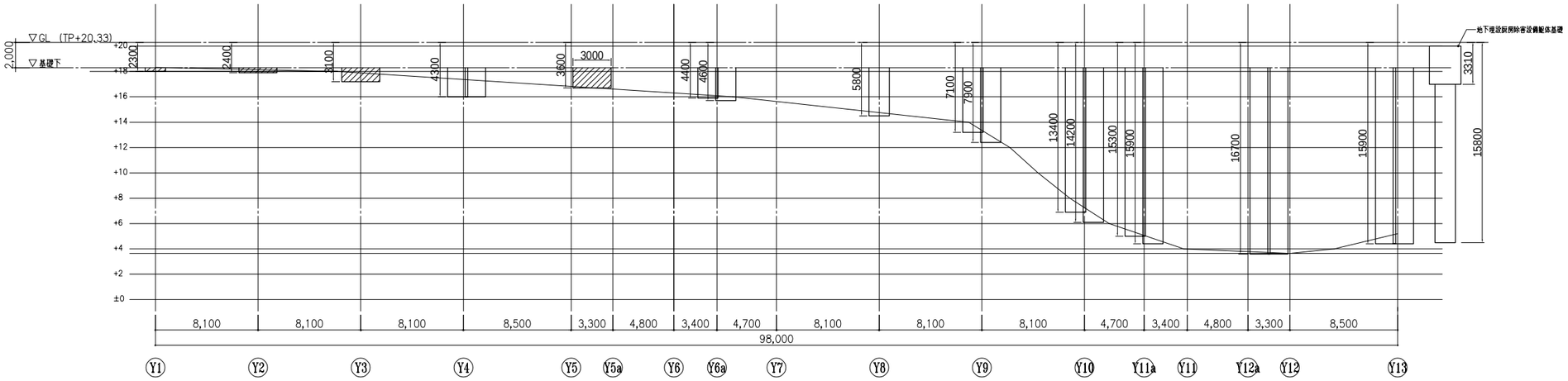
X2通り軸組図 1:200



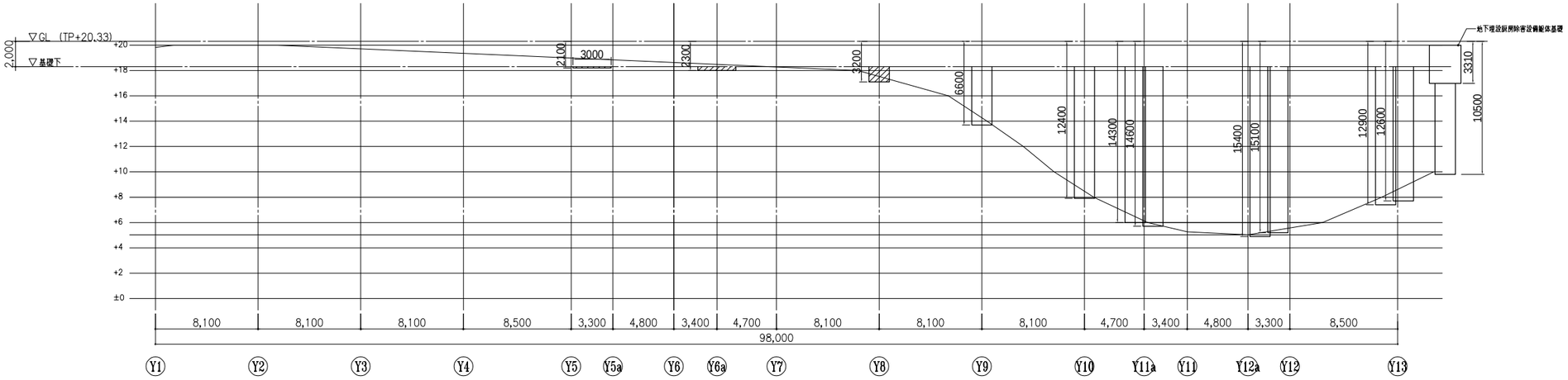
X1通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ▨印：ラップルコンクリート

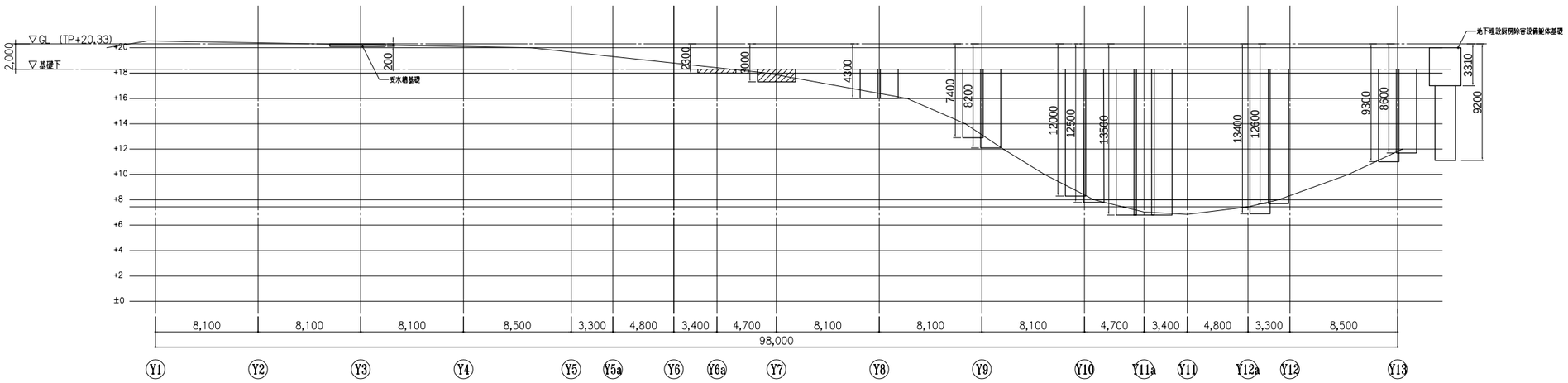
訂正	件名	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 地盤改良断面図-7	A1版1:200 A3版1:400	S-038



X6通り軸組図 1:200



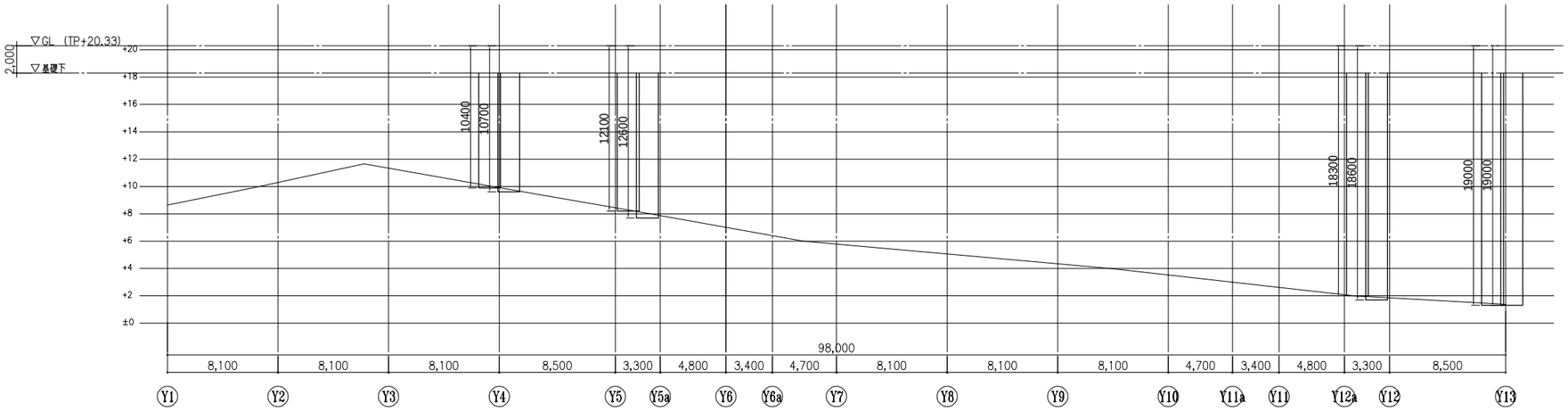
X5通り軸組図 1:200



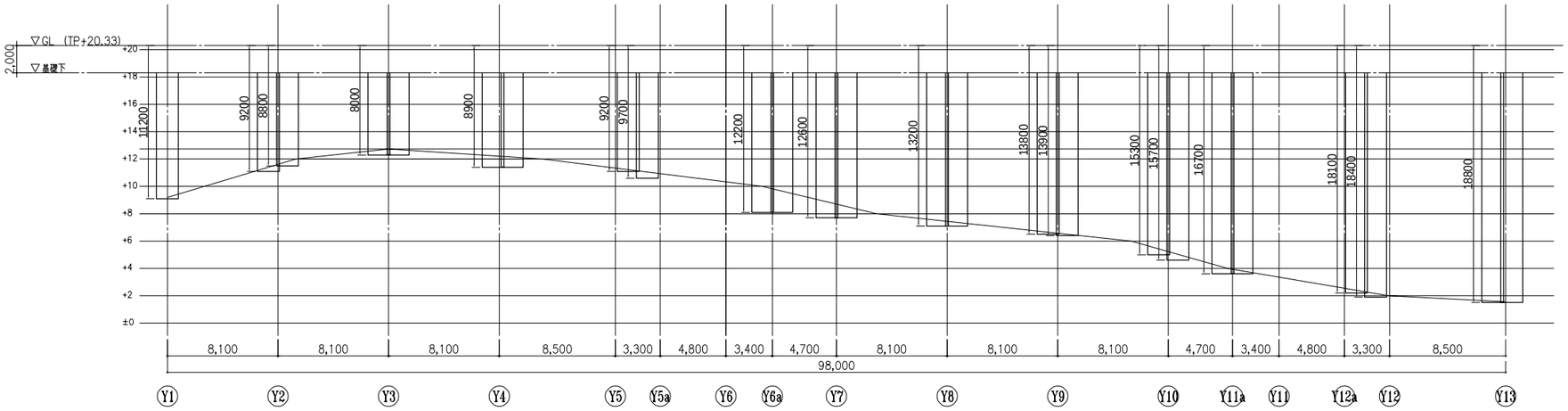
X4通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ▨印：ラップルコンクリート

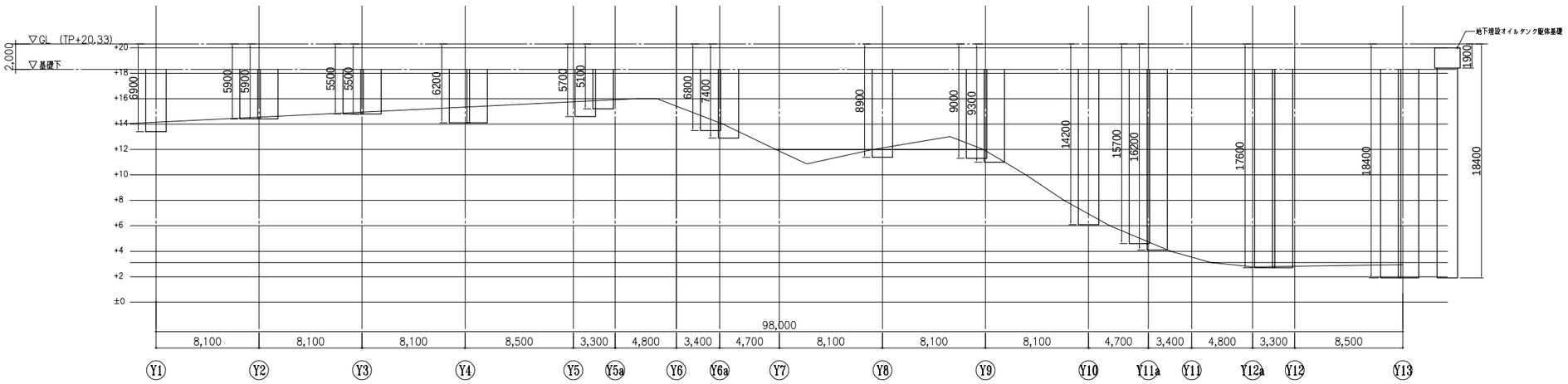
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 地盤改良断面図-8	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-039



X9a通り軸組図 1:200



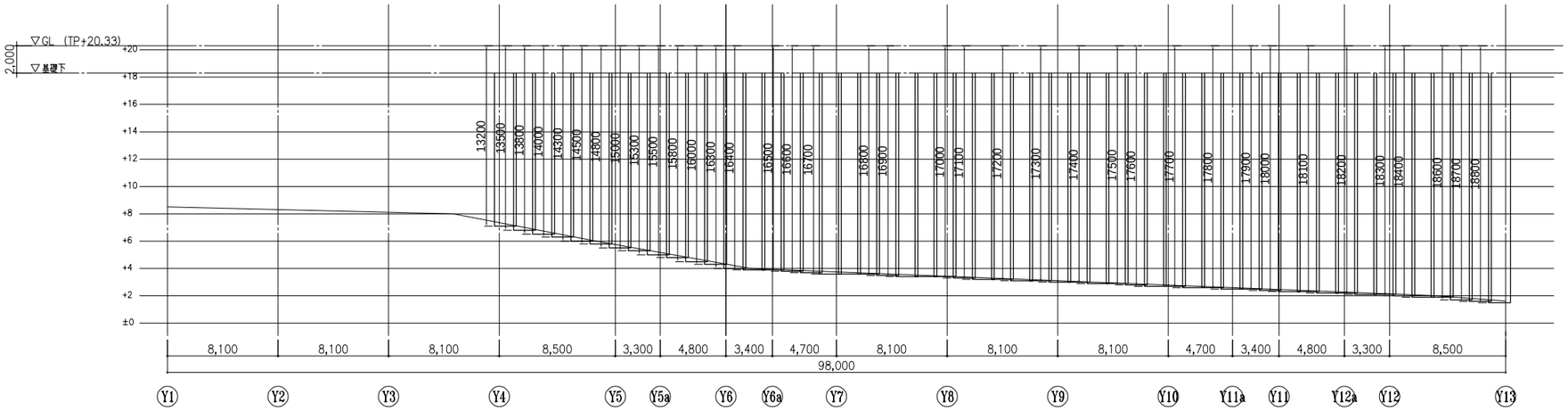
X8通り軸組図 1:200



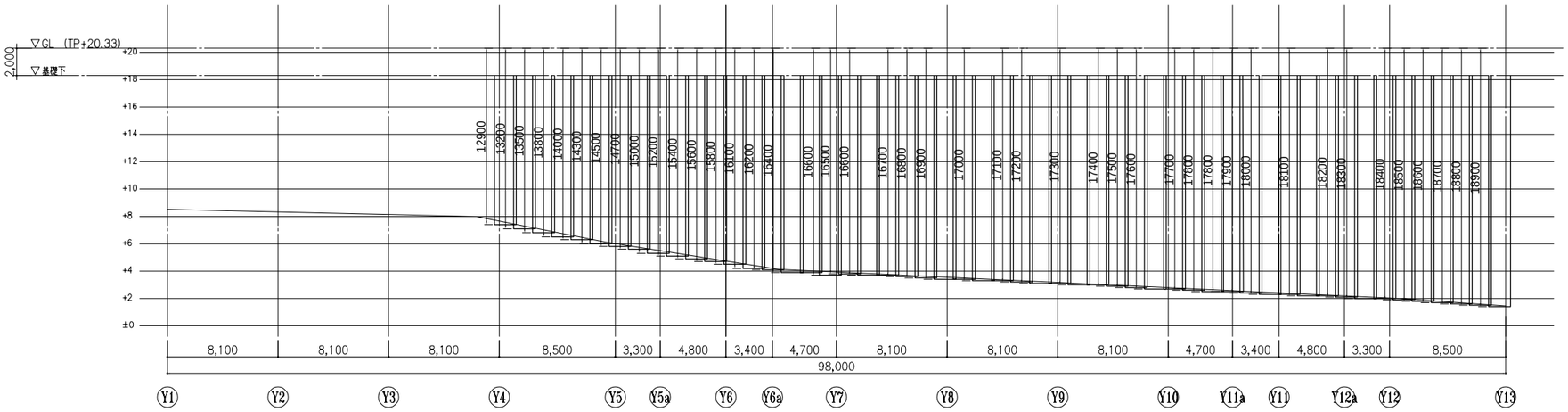
X7通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▨印：ラップルコンクリート

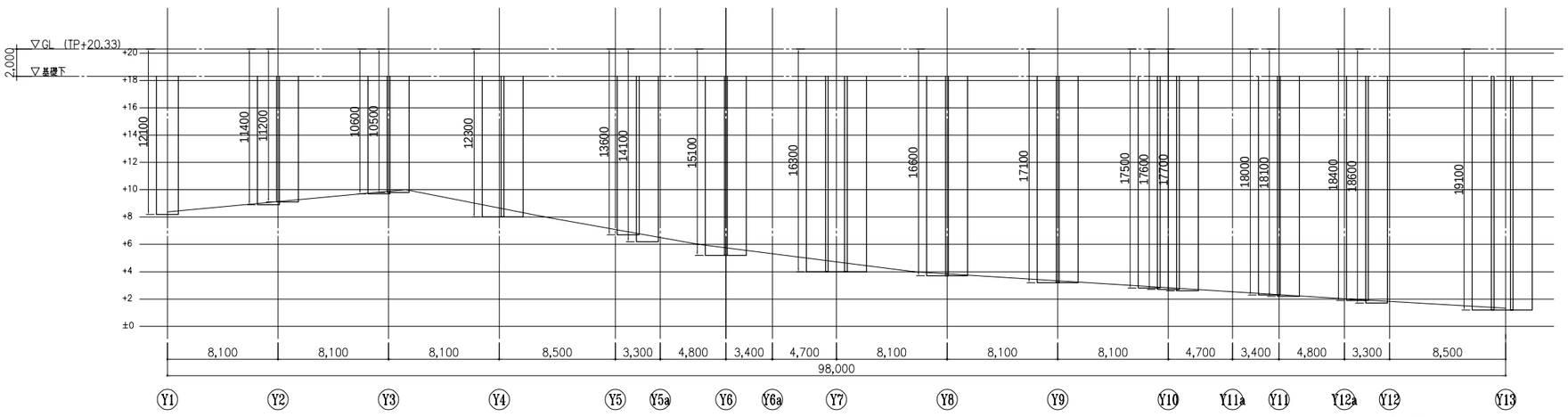
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 地盤改良断面図-9	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-040



X10通り軸組図 1:200



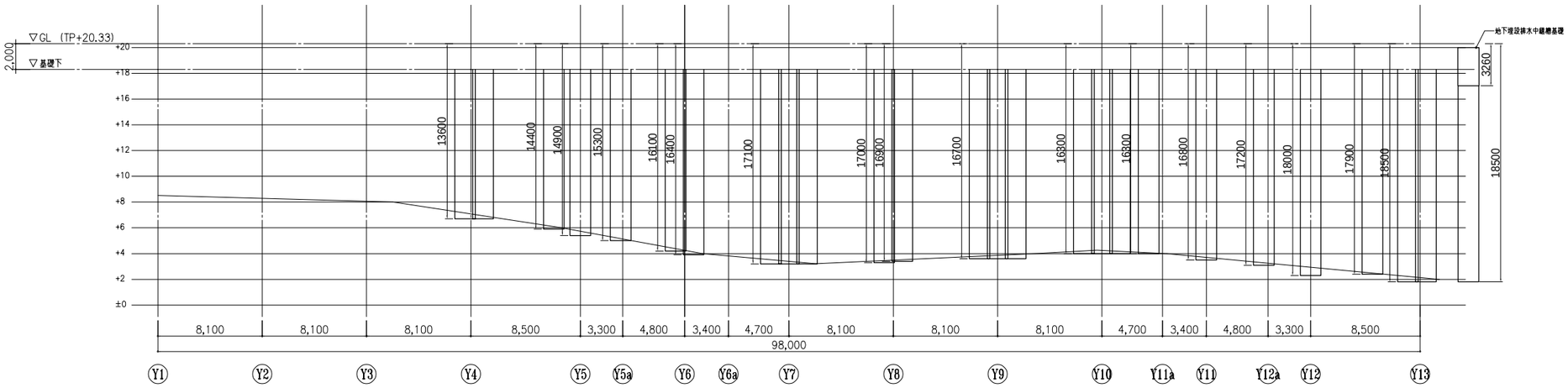
X10a通り軸組図 1:200



X9通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ▨印：ラップルコンクリート

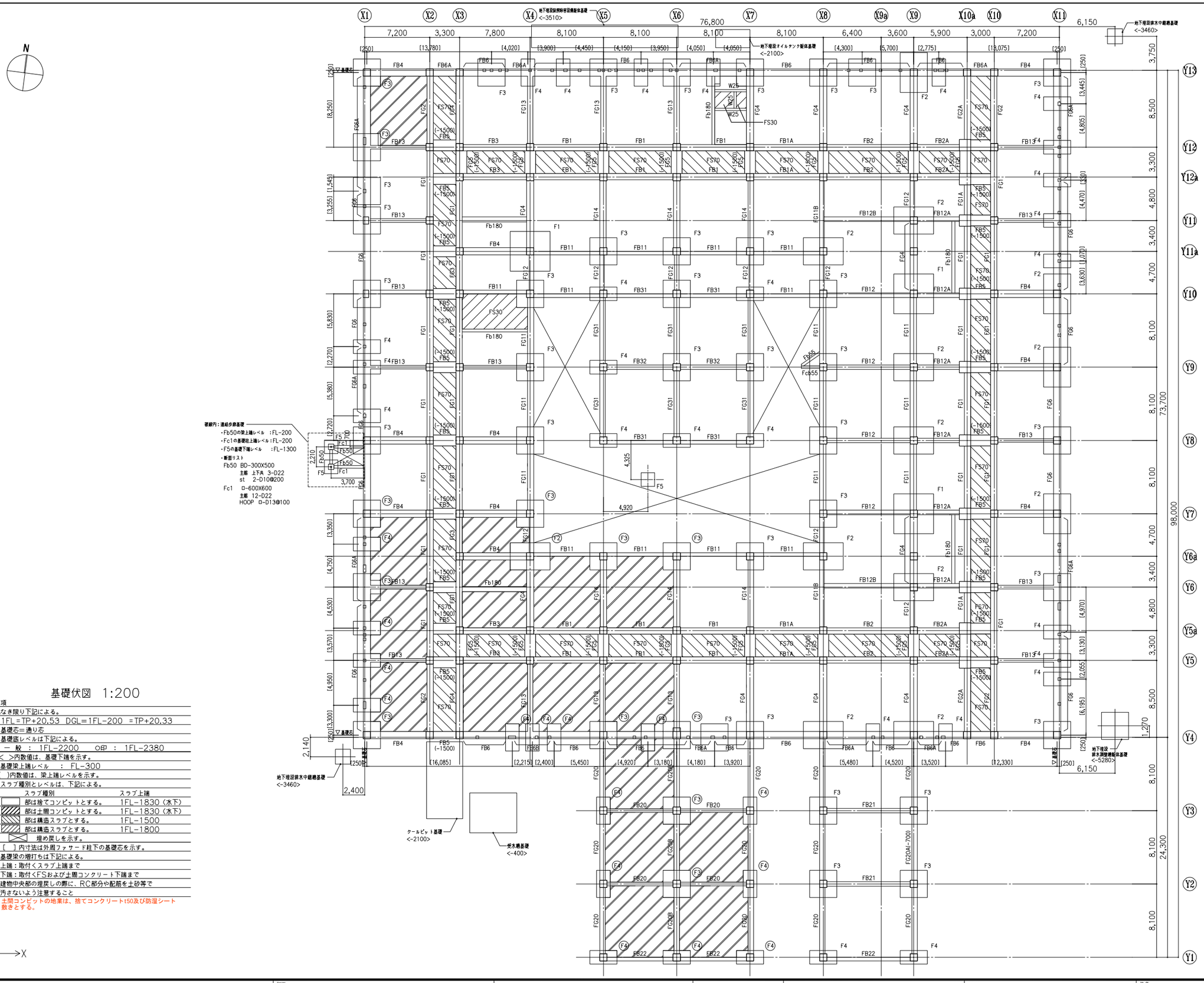
訂正		件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事			
		図面名称 地盤改良断面図-10	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-041	



X11通り地盤断面図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1. ▨印：ラップルコンクリート

訂正		件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		図面名称	地盤改良断面図-11	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-042



基礎伏図 1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

1．1FL=TP+20.53 DGL=1FL-200 =TP+20.33

2．基礎芯＝通り芯

3．基礎底レベルは下記による。

一 般 ： 1FL-2200 ○印 ： 1FL-2380

< >内数値は、基礎下端を示す。

4．基礎梁上端レベル ： FL-300

( )内数値は、梁上端レベルを示す。

5．スラブ種別とレベルは、下記による。

スラブ種別		スラブ上端
	部は捨てコンピットとする。	1FL-1830（水下）
	部は土間コンピットとする。	1FL-1830（水下）
	部は構造スラブとする。	1FL-1500
	部は構造スラブとする。	1FL-1800

6． 埋め戻しを示す。

7．〔 〕内寸法は外周ファサード柱下の基礎芯を示す。

8．基礎梁の増打ちは下記による。

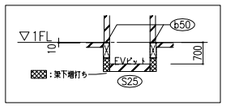
上端：取付くスラブ上端まで

下端：取付くFSおよび土間コンクリート下端まで

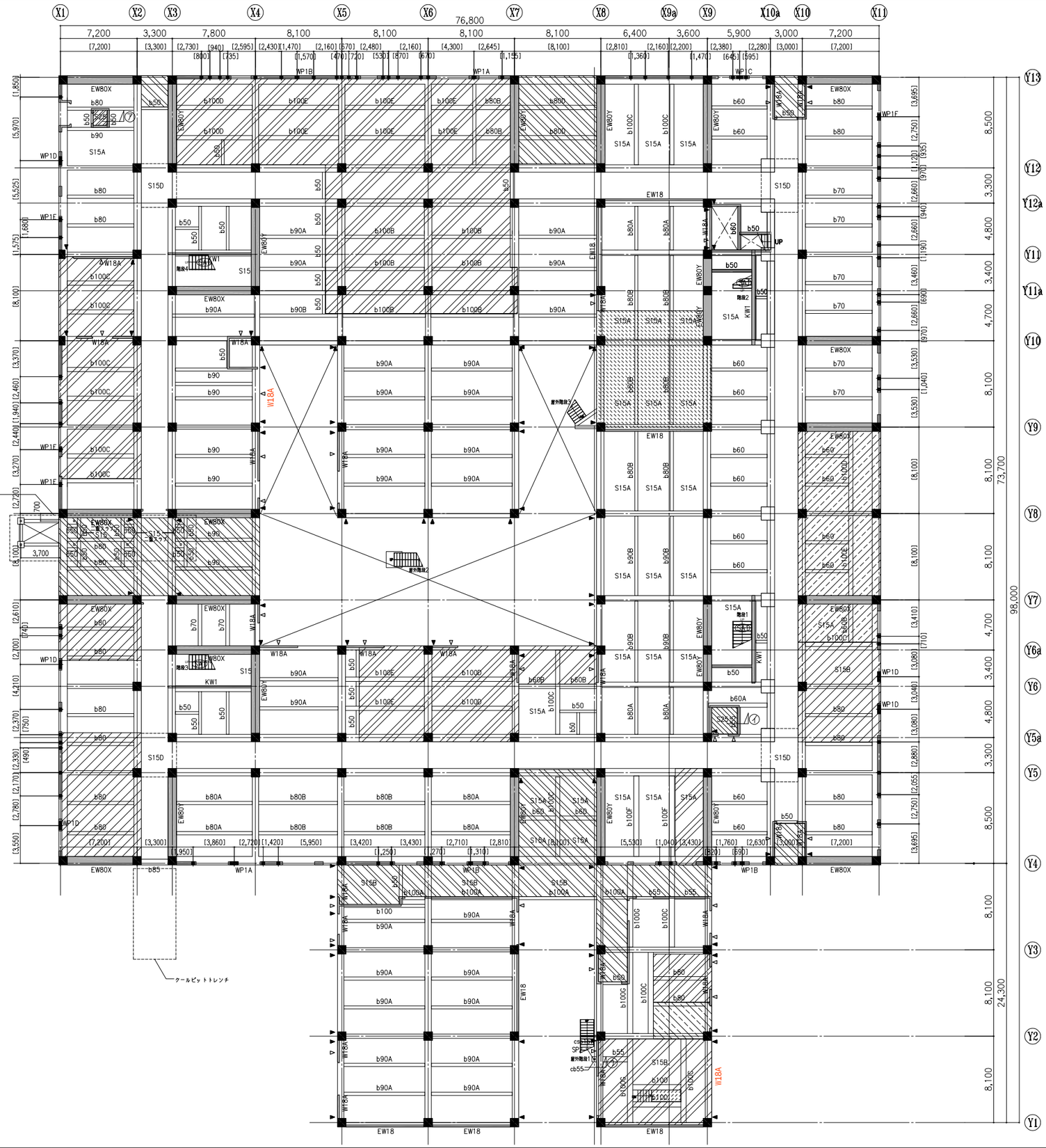
9．建物中央部の埋戻しの際に、RC部分や配筋を土砂等で汚さないよう注意すること

10．土間コンピットの地業は、捨てコンクリート50及び防湿シート敷きとする。

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	基礎伏図	A1版1:200 A3版1:400	S-043



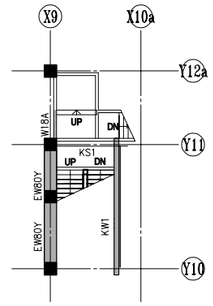
⑦部矢視図　1:100



破線内：連続歩廊基礎
・二重スラブのうち、下部スラブ下端レベルは、
FL−750とし、二重スラブ内はコンクリート充填する
・b50の梁上端レベルは、FL−250とし、
スラブ上端まで増し打ちとする

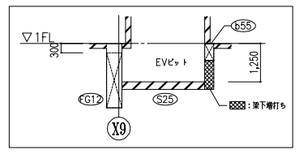
1階床伏図　1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．1FL＝TP+20.53　DGL＝1FL−200　＝TP+20.33
2．RC大梁レベル　：　FL−300
3．スラブ符号：　S15
4．スラブ上端レベル・RC小梁レベルは下記による。
FL−10
FL−40
FL−80
FL−100
FL−40〜FL−130(詳細は意匠図による)　→ FL-20〜FL-170
FL−200
FL−300
FL−700
FL−1000
FL−1250（EVピット）
5．▲ 印は鉛直スリットを示す。（スリット幅＝30mm）
Δ 印は水平スリットを示す。（スリット幅＝30mm）
6．壁符号：　W18及び、
X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
外周ファサード壁はW30とする
7．外周壁柱符号：　WP1
8［　］内寸法は外周ファサード柱芯を示す。
9．　土間コンクリートを示す。
10．　埋め戻しを示す。

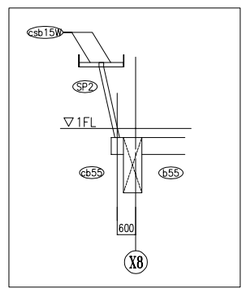


1FL+950レベル床伏図

共通事項
特記なき限り下記による。
1．スラブ符号：　S15
2．壁符号　：　W18

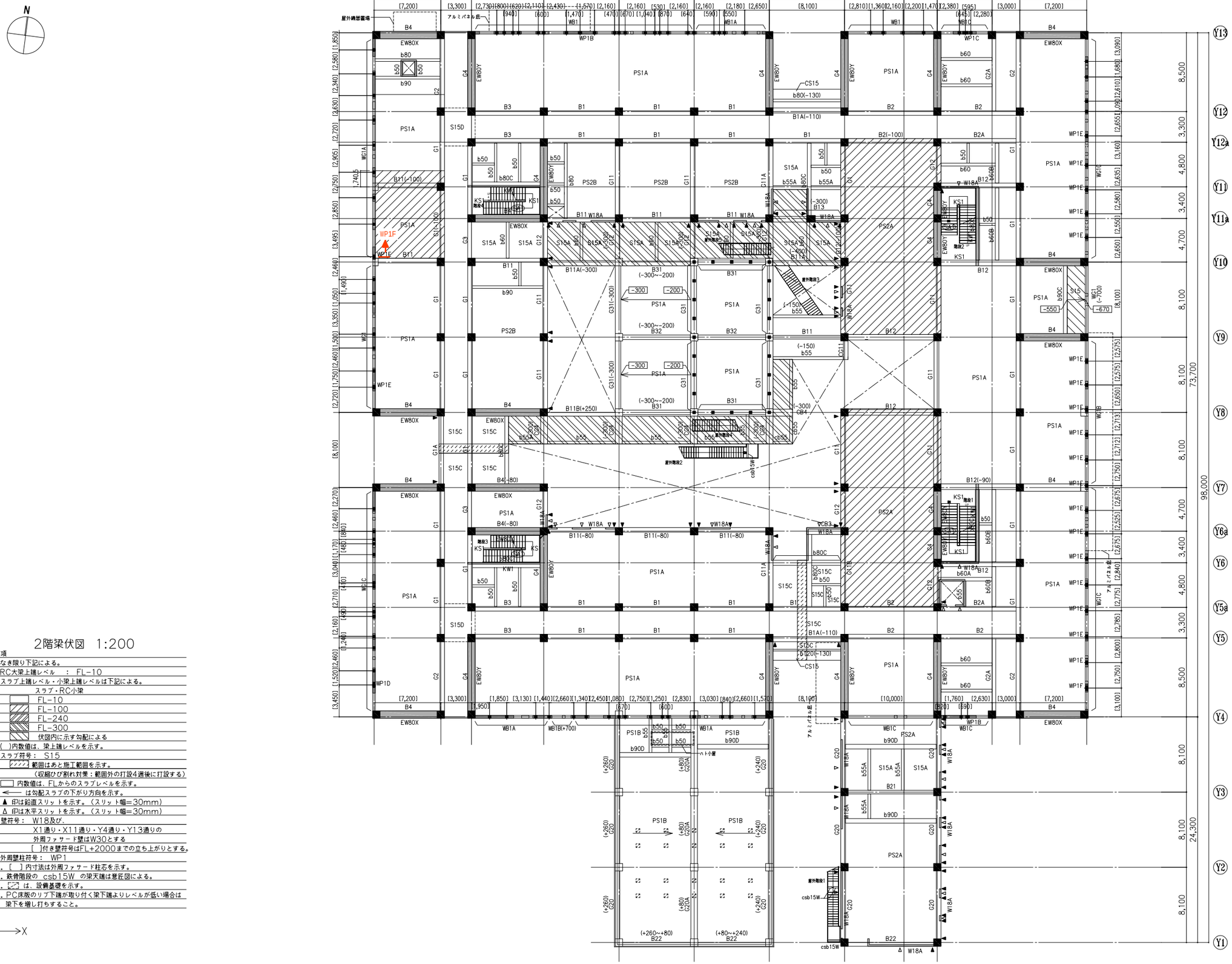


④部矢視図　1:100



⑦部矢視図　1:100

訂正					件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
					図面名称 1階梁伏図	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-044



2階梁伏図　1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

1．RC大梁上端レベル　：　FL−10

2．スラブ上端レベル・小梁上端レベルは下記による。

スラブ・RC小梁

- FL−10
- FL−100
- FL−240
- FL−300
- 伏図内に示す勾配による

3．(　)内数値は、梁上端レベルを示す。

4．スラブ符号：　S15

範囲はあと施工範囲を示す。

（収縮ひび割れ対策：範囲外の打設4週後に打設する）

5．□ 内数値は、FLからのスラブレベルを示す。

6．⟵ は勾配スラブの下がり方向を示す。

7．▲ 印は鉛直スリットを示す。（スリット幅=30mm）

Δ 印は水平スリットを示す。（スリット幅=30mm）

8．壁符号：　W18及び、

X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの

外周ファサード壁はW30とする

［　］付き壁符号はFL+2000までの立ち上がりとする。

9．外周壁柱符号：　WP1

10．［　］内寸法は外周ファサード柱芯を示す。

11．鉄骨階段の　csb15W　の梁天端は意匠図による。

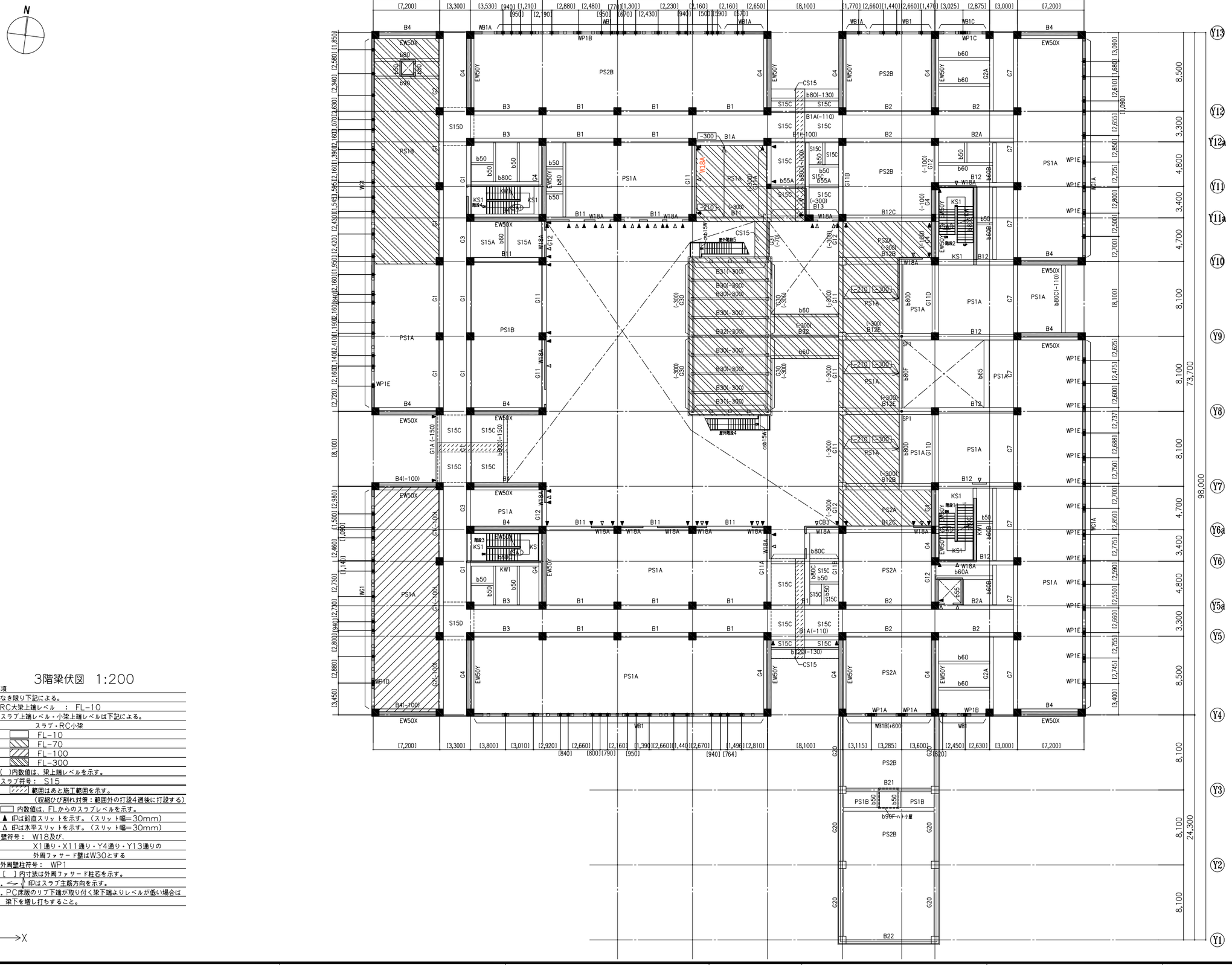
12．▨ は、設備基礎を示す。

13．PC床版のリブ下端が取り付く梁下端よりレベルが低い場合は

梁下を増し打ちすること。

→X

訂正					
件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事				
図面名称	2階梁伏図	縮尺	A1版1:200 A3版1:400	図面番号	S-045



3階梁伏図　1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

1．RC大梁上端レベル　：　FL−10

2．スラブ上端レベル・小梁上端レベルは下記による。

スラブ・RC小梁

- FL−10
- FL−70
- FL−100
- FL−300

3．( )内数値は、梁上端レベルを示す。

4．スラブ符号：　S15

範囲はあと施工範囲を示す。

（収縮ひび割れ対策：範囲外の打設4週後に打設する）

5．□ 内数値は、FLからのスラブレベルを示す。

6．▲ 印は鉛直スリット を示す。（スリット幅＝30mm）

Δ 印は水平スリット を示す。（スリット幅＝30mm）

7．壁符号：　W18及び、

X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの

外周ファサード壁はW30とする

8．外周壁柱符号：　WP1

9．[　] 内寸法は外周ファサード柱芯を示す。

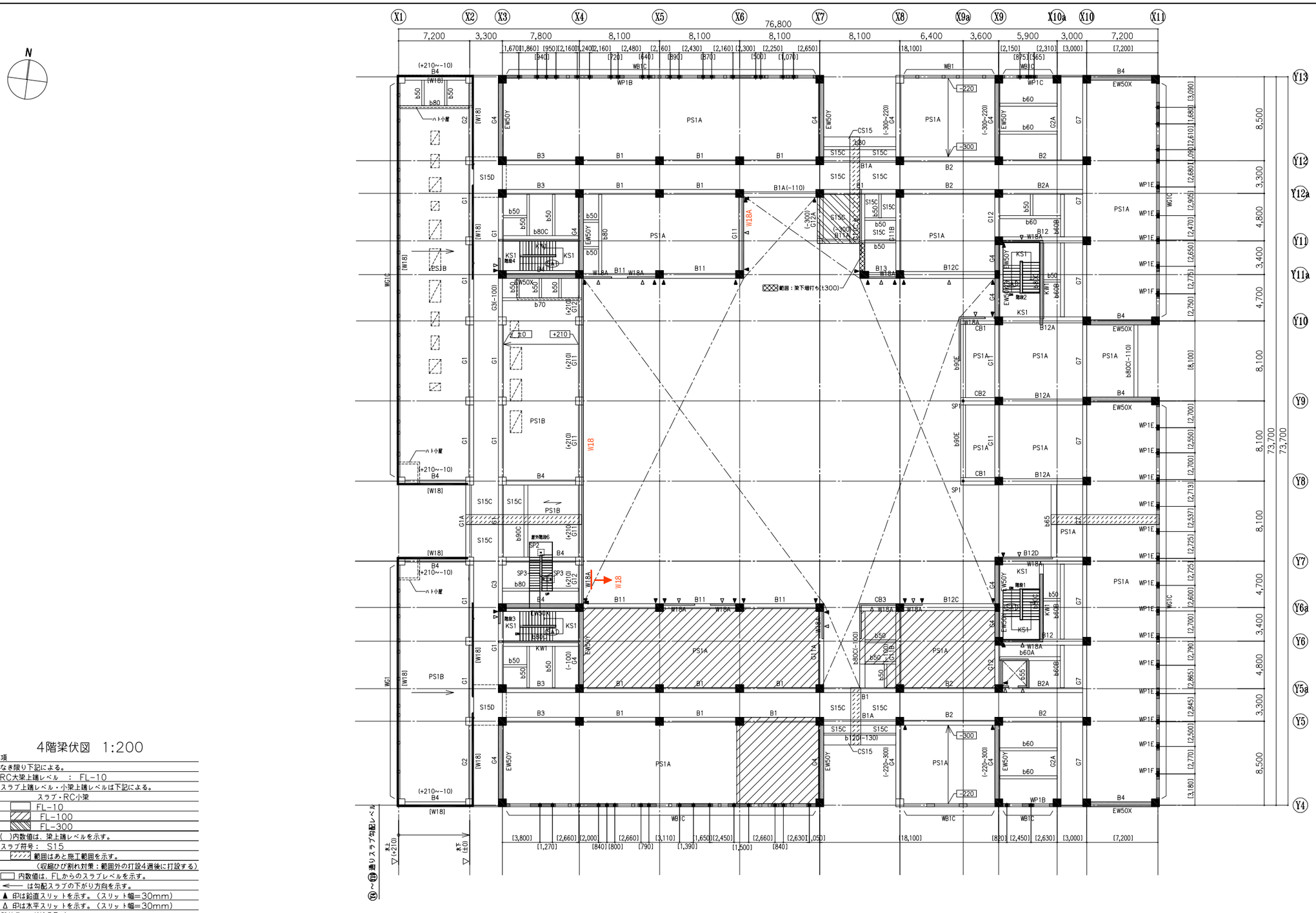
10．⇐ 印はスラブ主筋方向を示す。

11．PC床版のリブ下端が取り付く梁下端よりレベルが低い場合は

梁下を増し打ちすること。

Y → X

訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	3階梁伏図	縮尺 A1版1:200 A3版1:400
	図面番号	S-046	



4階梁伏図　1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

1．RC大梁上端レベル　：　FL−10

2．スラブ上端レベル・小梁上端レベルは下記による。

スラブ・RC小梁

FL−10

FL−100

FL−300

3．( )内数値は、梁上端レベルを示す。

4．スラブ符号：　S15

範囲はあと施工範囲を示す。

（収縮ひび割れ対策：範囲外の打設4週後に打設する）

5．□ 内数値は、FLからのスラブレベルを示す。

6．⇐ は勾配スラブの下がり方向を示す。

7．▲ 印は鉛直スリット を示す。（スリット幅=30mm）

Δ 印は水平スリット を示す。（スリット幅=30mm）

8．壁符号：　W18及び、

X1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの

外周ファサード壁はW30とする

[ ]付き壁符号はFL+2000までの立ち上がりとする。

9．外周壁柱符号：　WP1

10．[ ]内寸法は外周ファサード柱芯を示す。

11．⇒ 印はスラブ主筋方向を示す。

12．▨ は、設備基礎を示す。

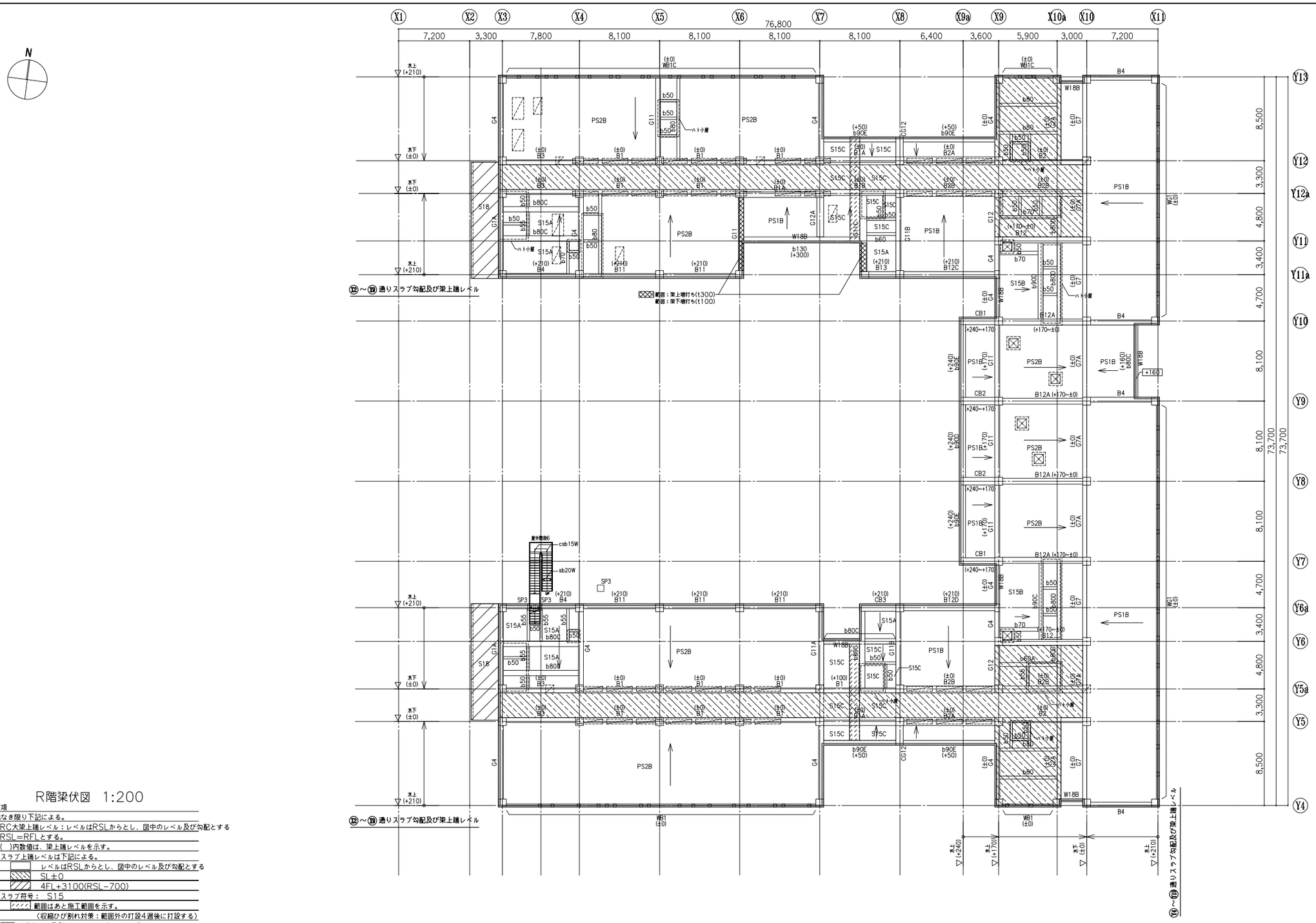
13．PC床版のリブ下端が取り付く梁下端よりレベルが低い場合は

梁下を増し打ちすること。

Y

X

訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	4階梁伏図	縮尺 A1版1:200 A3版1:400
	図面番号	S-047	



R階梁伏図　1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

1．RC大梁上端レベル：レベルはRSLからとし、図中のレベル及び勾配とする

2．RSL=RFLとする。

2．( )内数値は、梁上端レベルを示す。

3．スラブ上端レベルは下記による。

　　レベルはRSLからとし、図中のレベル及び勾配とする

　　SL±0

　　4FL+3100(RSL−700)

4．スラブ符号：　S15

　　範囲はあと施工範囲を示す。

　　（収縮ひび割れ対策：範囲外の打設4週後に打設する）

5．□ 内数値は、RSLからのスラブレベルを示す。

6．←― は勾配スラブの下がり方向を示す。

7．壁符号：　W18とし、RSL+2000までの立ち上がりとする。

　壁符号：　W18Bの箇所はRSL+900までの立ち上がりとする。

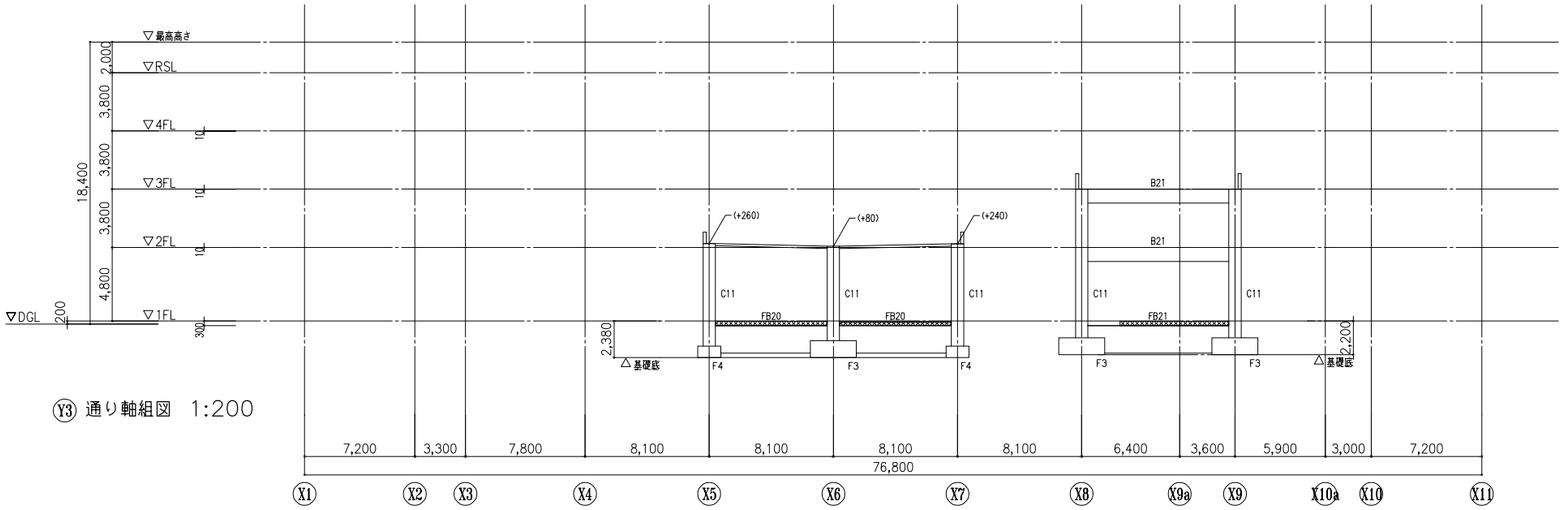
8．▨ は、設備基礎を示す。

9．設備鉄骨架台位置は別図に示す。

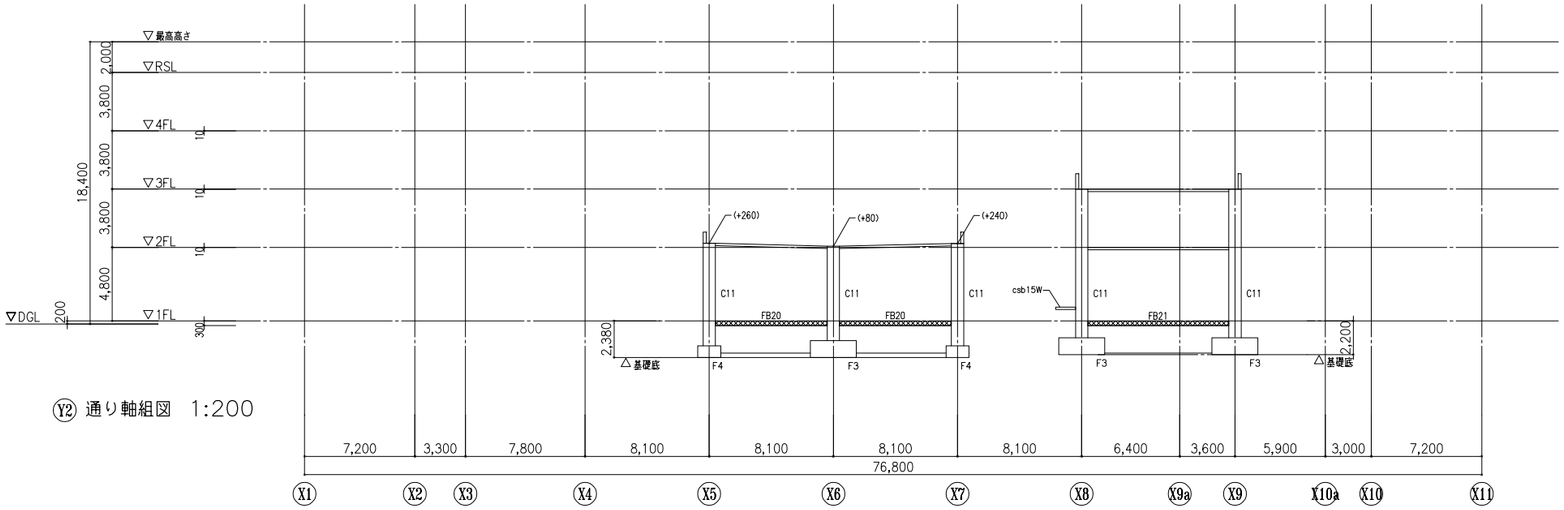
10．PC床版のリブ下端が取り付く梁下端よりレベルが低い場合は梁下を増し打ちすること。

Y
→X

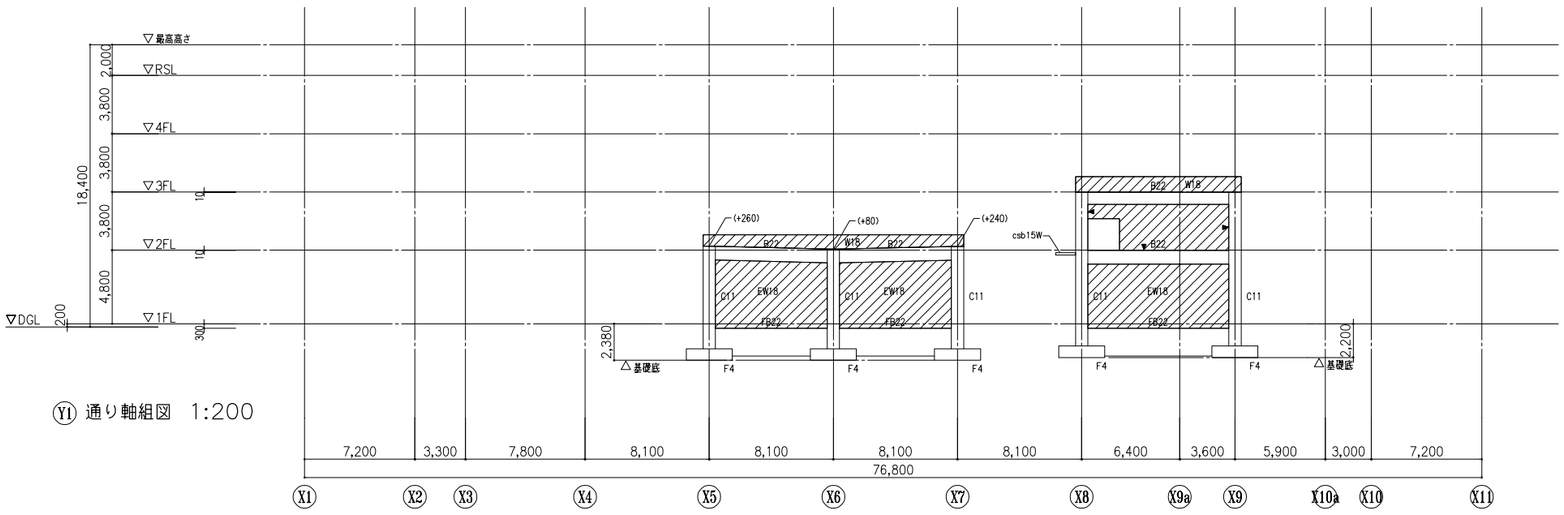
訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
-	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	R階梁伏図	A1版1:200 A3版1:400	S-048



Y3 通り軸組図 1:200



Y2 通り軸組図 1:200



Y1 通り軸組図 1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

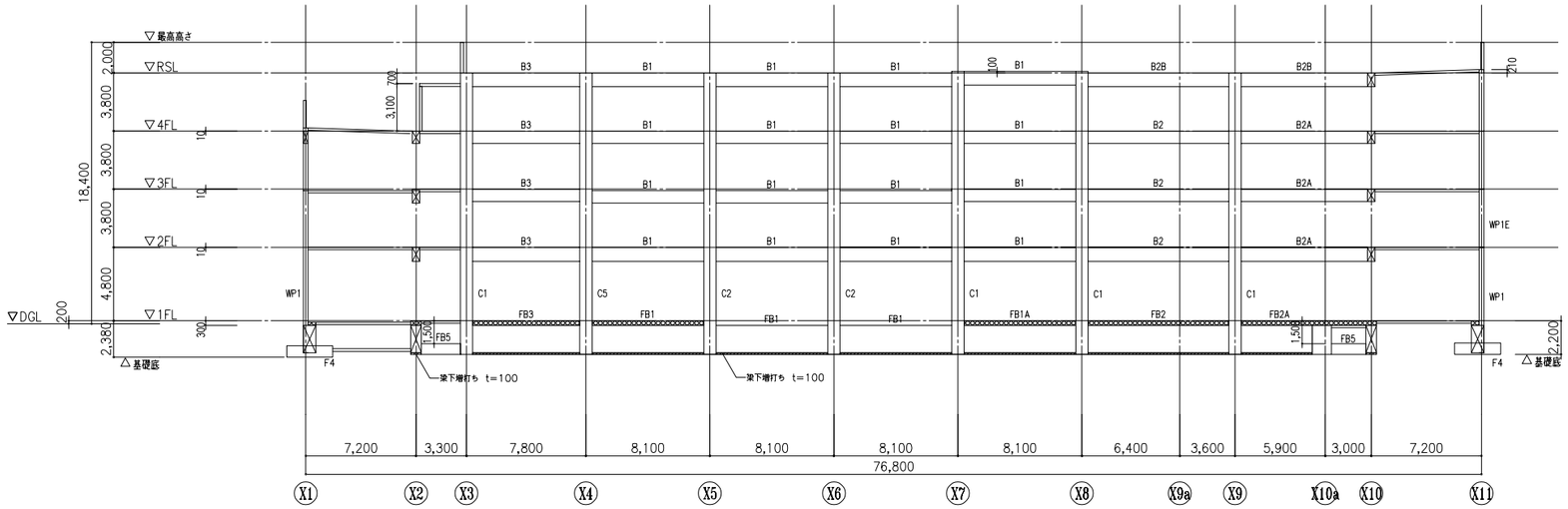
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

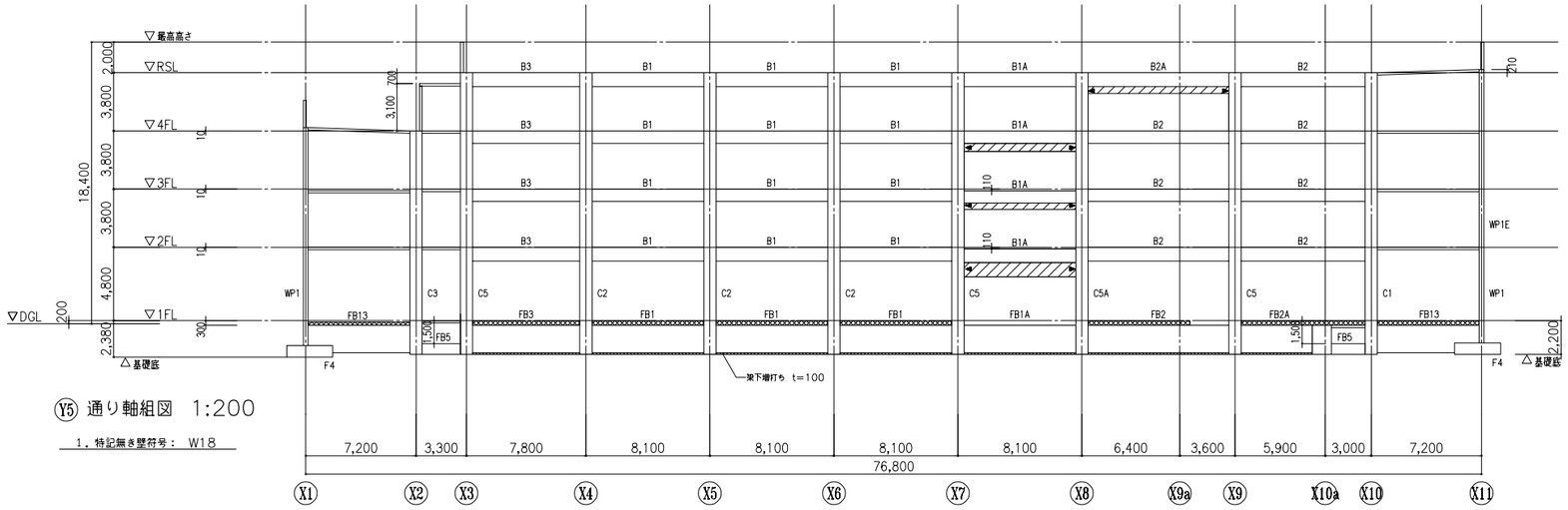
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4．壁符号： W18A

訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 軸組図-1	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-049

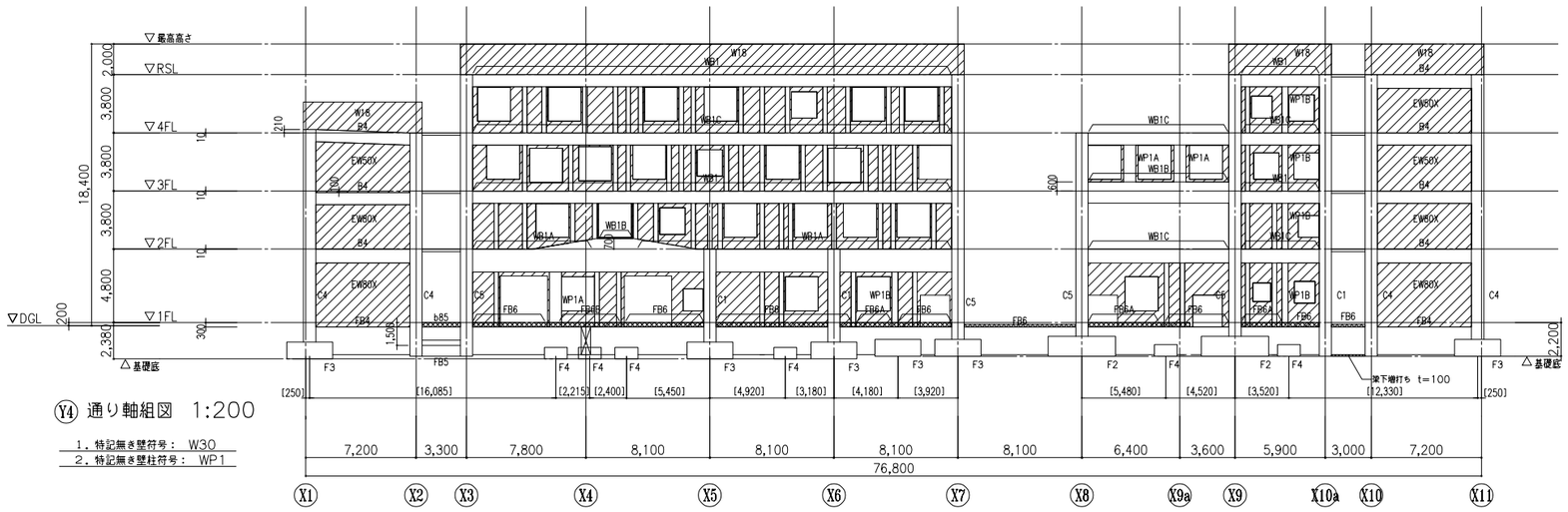


Y5a 通り軸組図 1:200



Y5 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18

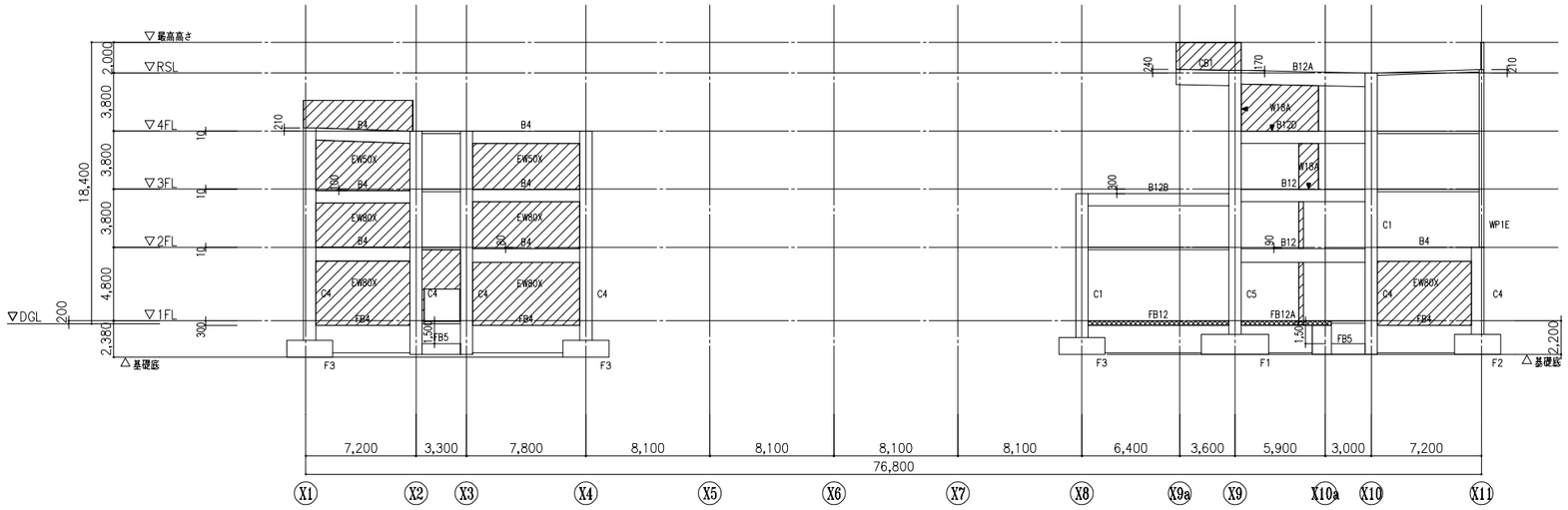


Y4 通り軸組図 1:200

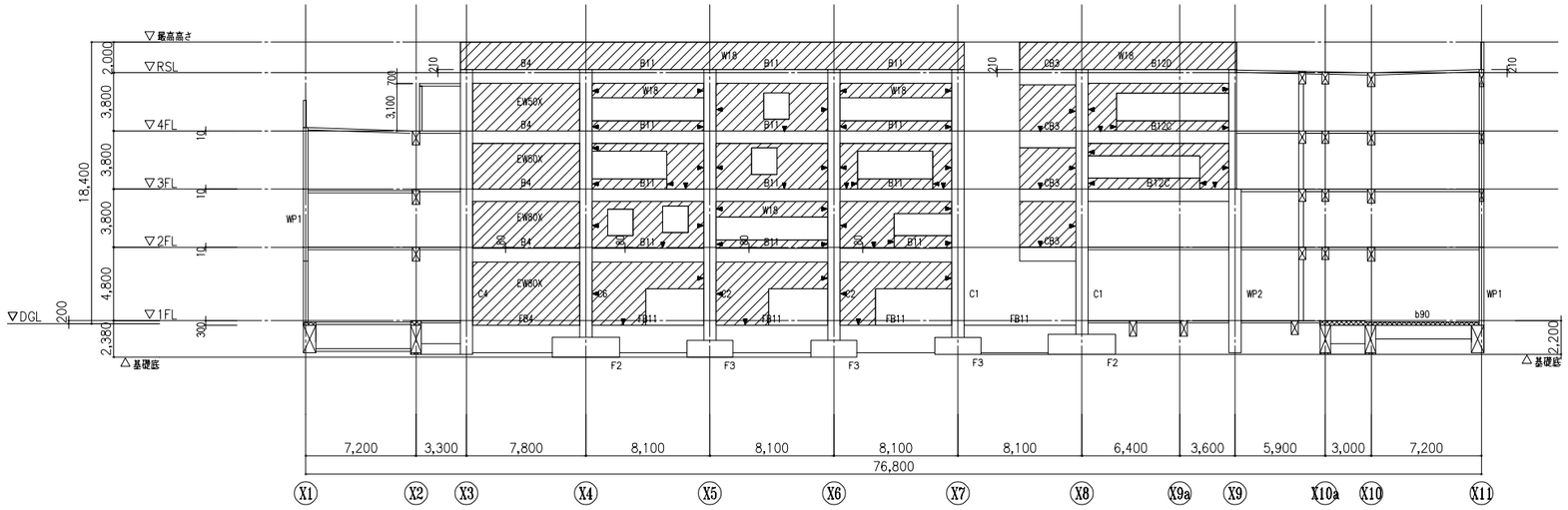
1．特記無き壁符号： W30
2．特記無き壁柱符号： WP1

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。
2．▨ は増打ちを示す。
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。
4．壁符号： W18

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	軸組図-2	A1版1:200 A3版1:400	S-050

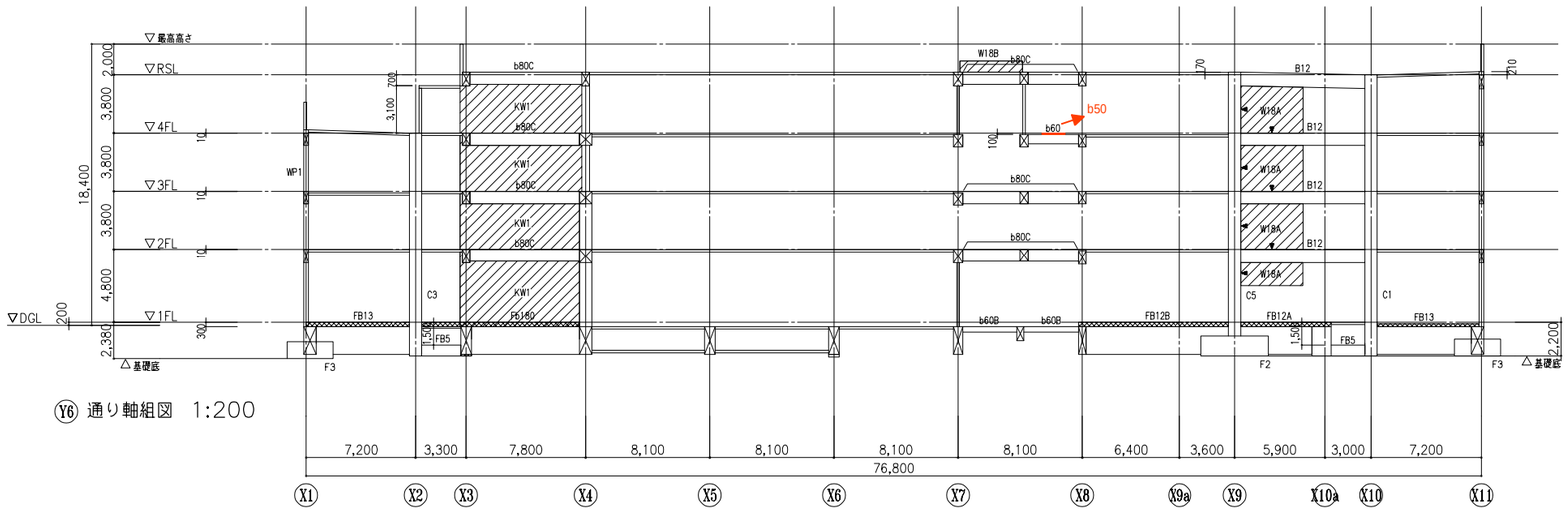


Y7 通り軸組図 1:200



Y6a 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18A



Y6 通り軸組図 1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

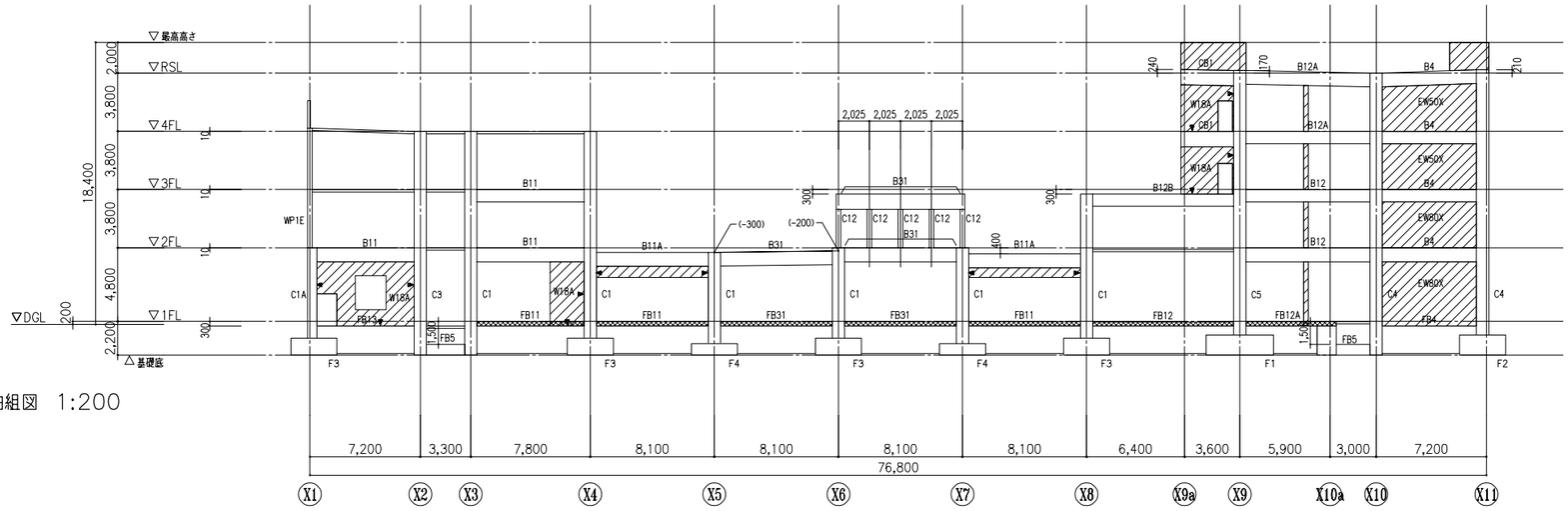
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

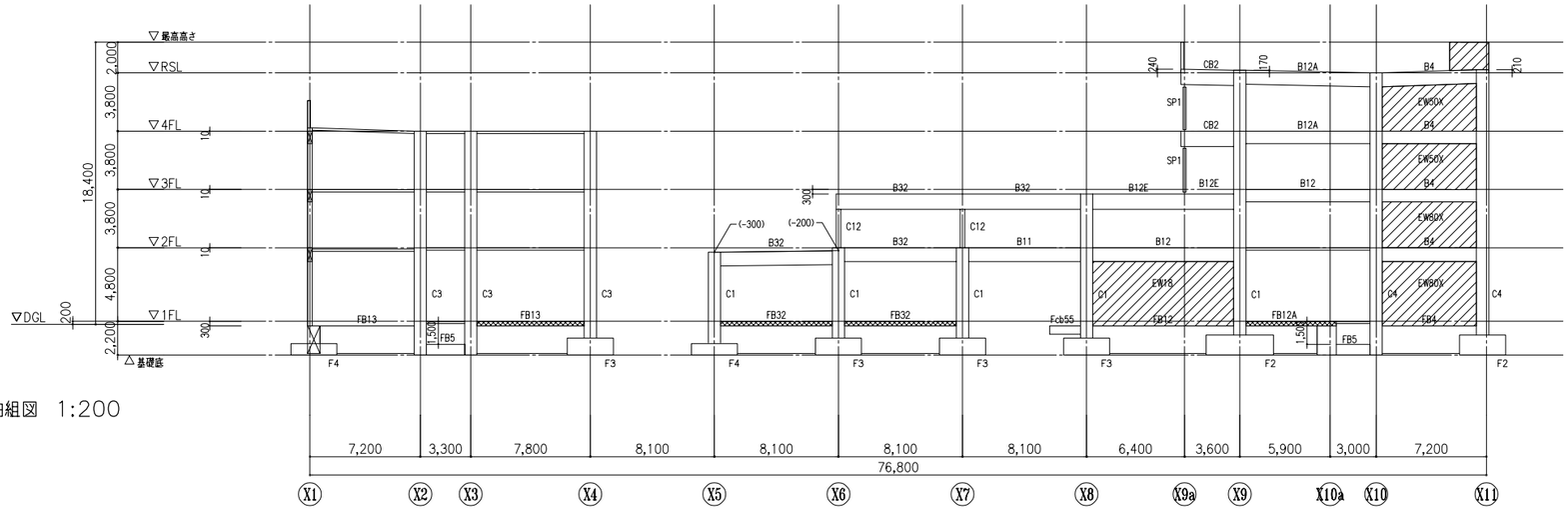
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4．壁符号： W18

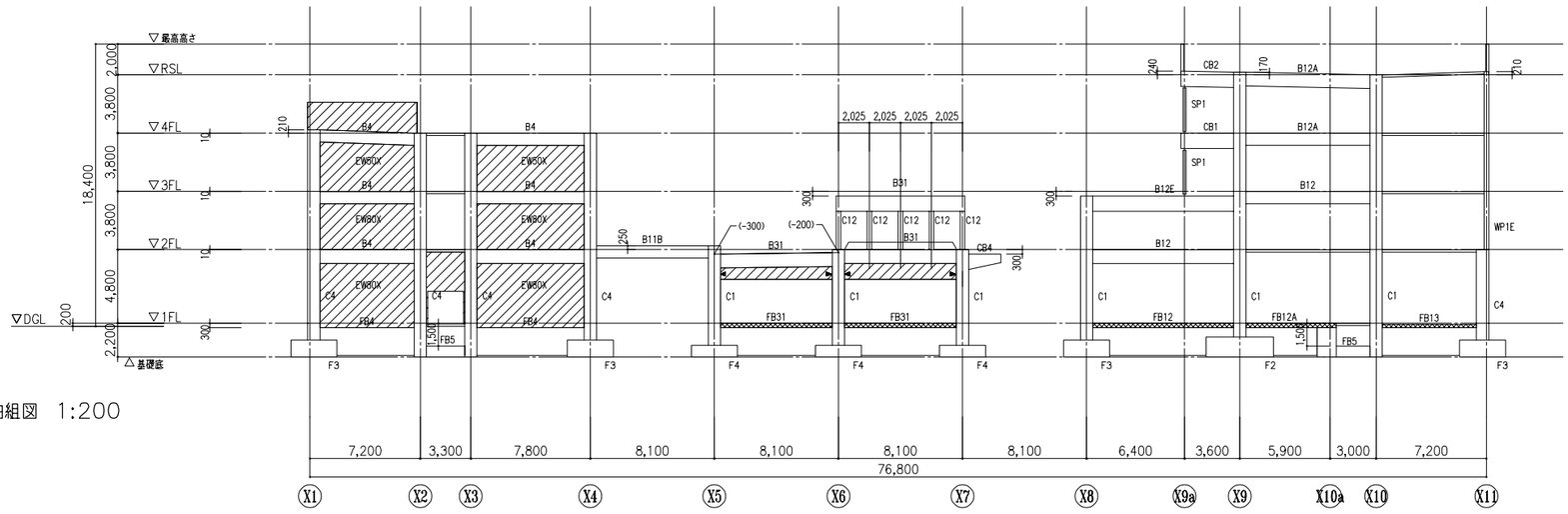
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 軸組図-3	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-051



Y10 通り軸組図 1:200



Y9 通り軸組図 1:200



Y8 通り軸組図 1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

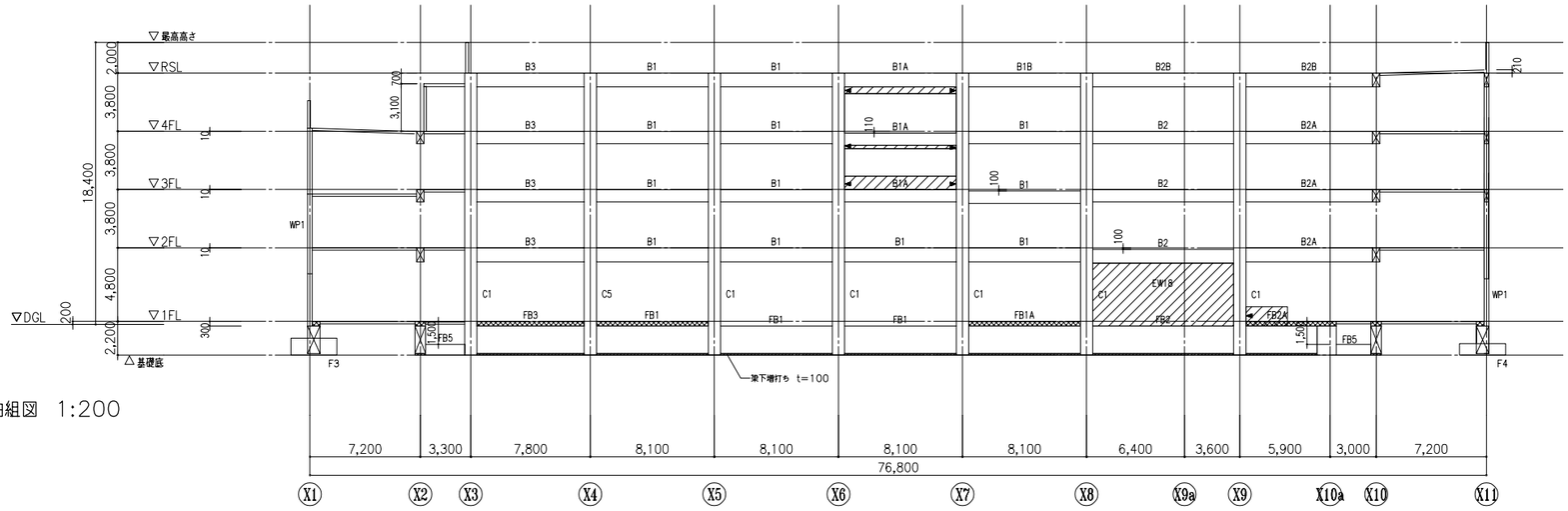
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

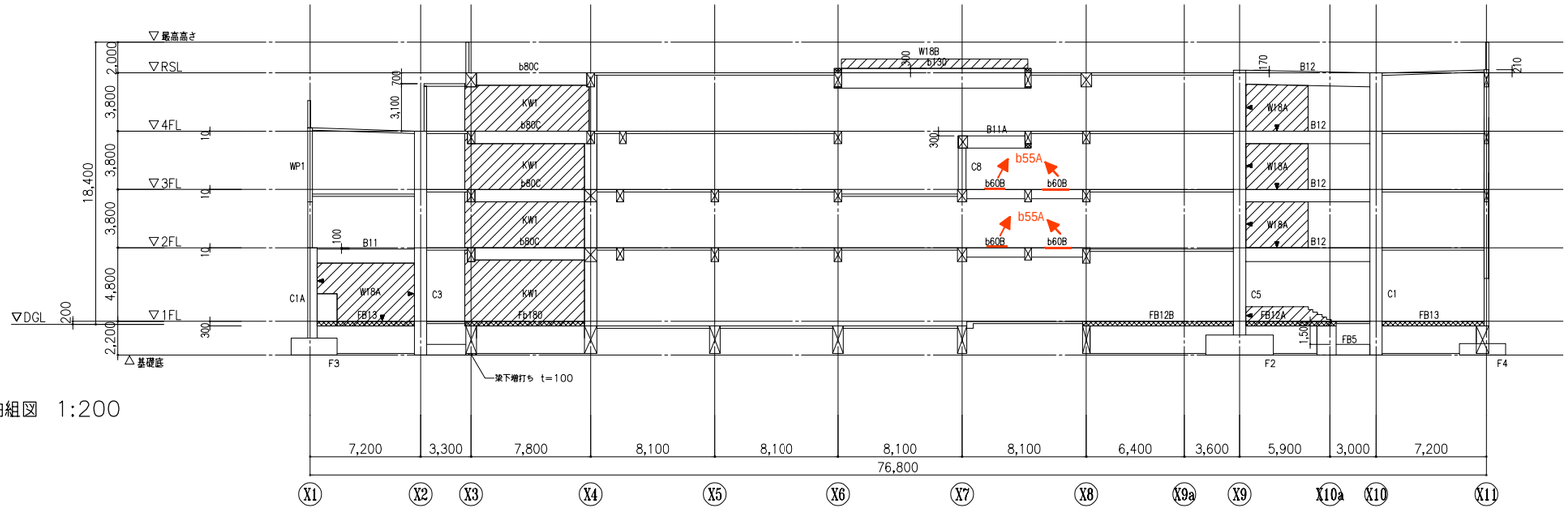
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4．壁符号： W18

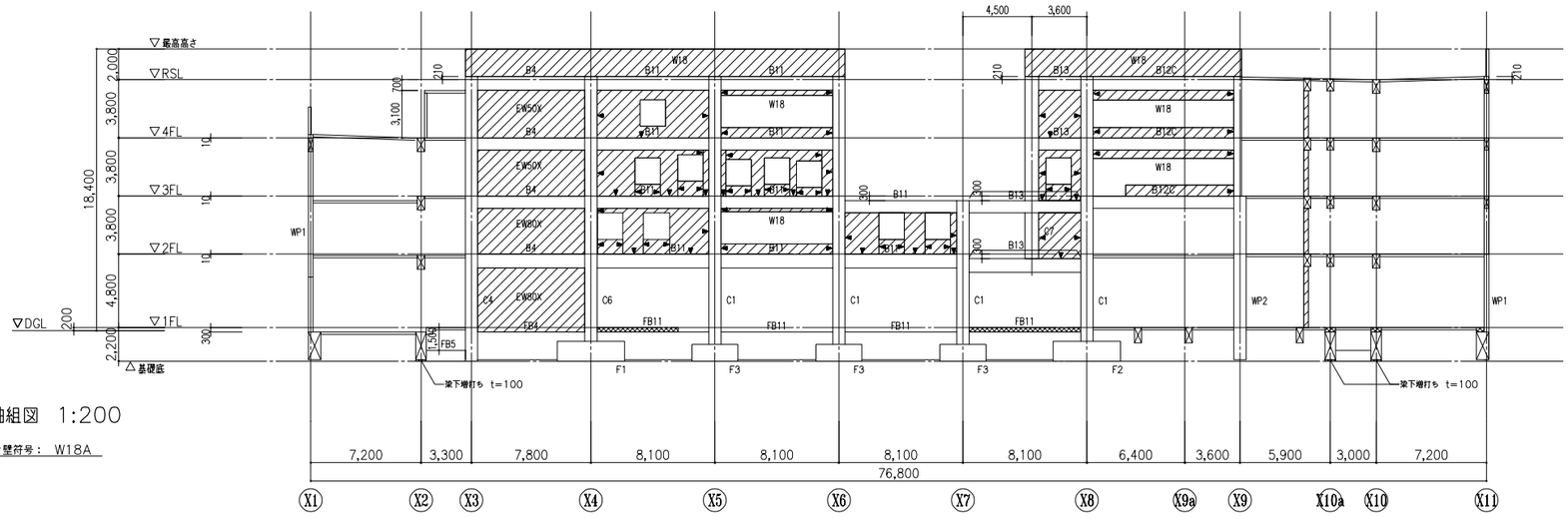
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 軸組図-4	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-052



Y12a 通り軸組図 1:200



Y11 通り軸組図 1:200



Y11a 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18A

共通事項

特記なき限り下記による。

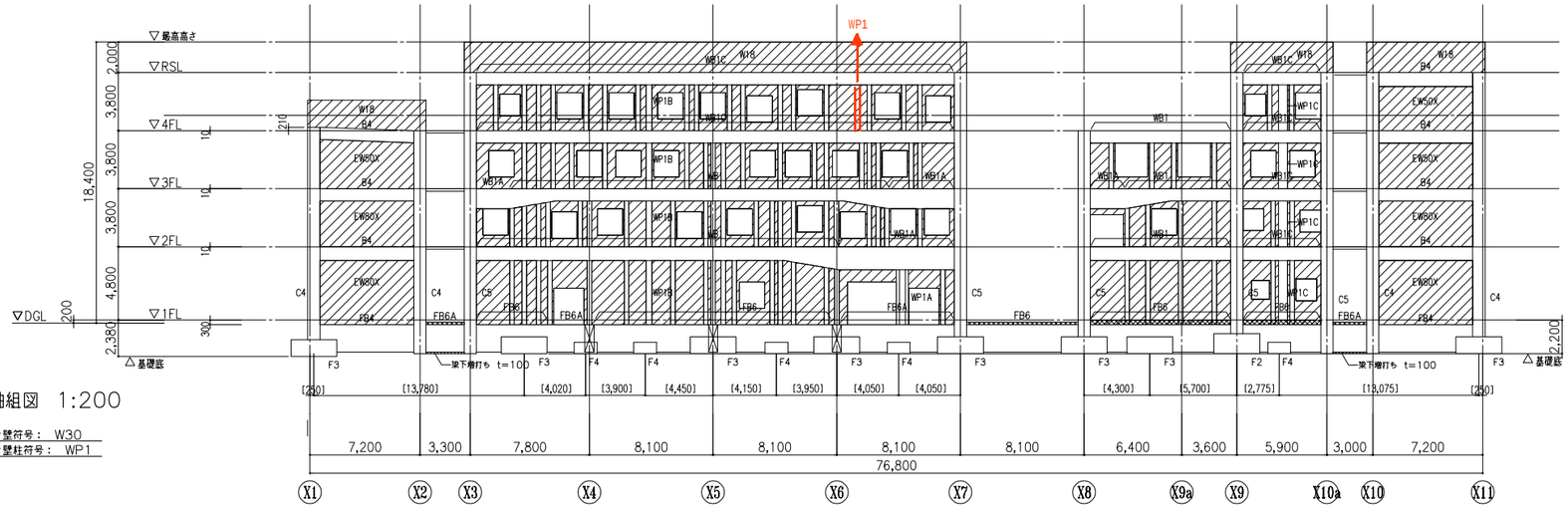
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

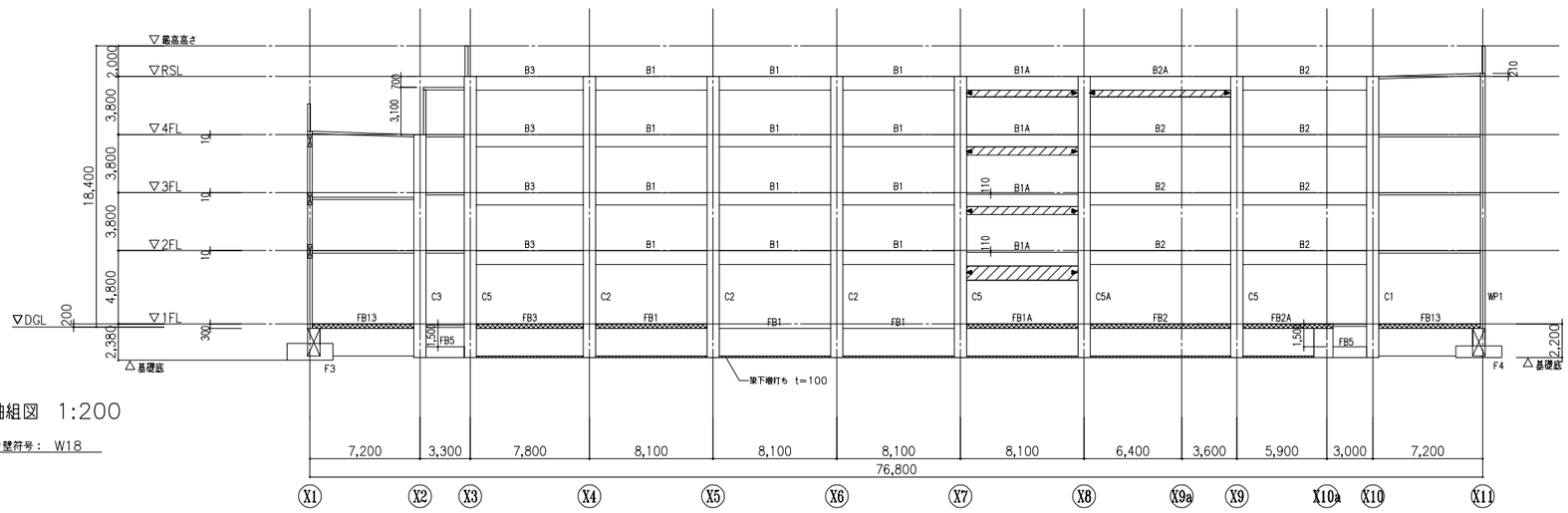
4．壁符号： W18

訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 軸組図-5	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-053



Y13 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W30
2．特記無き壁柱符号： WP1

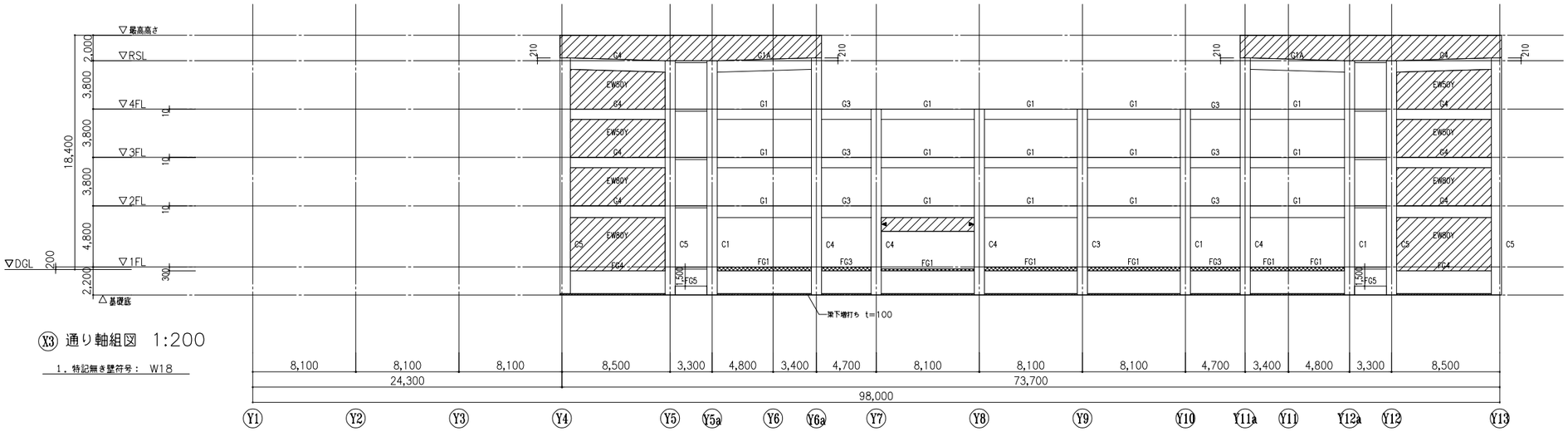


Y12 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18

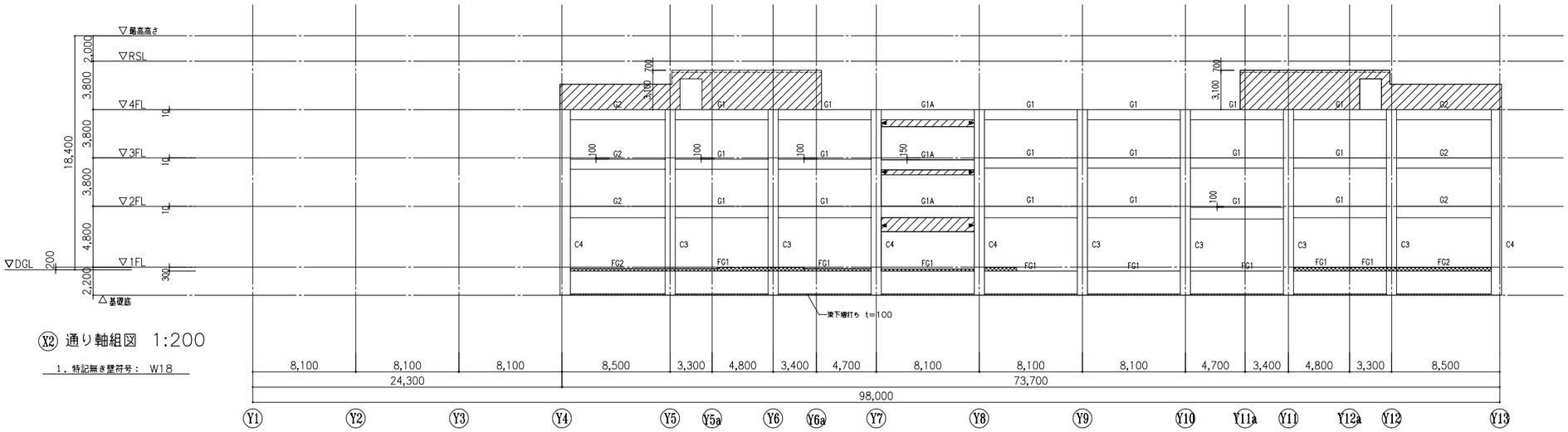
共通事項
特記なき限り下記による。
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。
2．▨ は増打ちを示す。
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。
4．壁符号： W18

訂正	件名	図面番号
・	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
・	図面名称 軸組図-6	縮尺 A1版1:200 A3版1:400
・		S-054
・		
・		



X3 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18



X2 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18

X1 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W30

2．特記無き壁柱符号： WP1

共通事項

特記なき限り下記による。

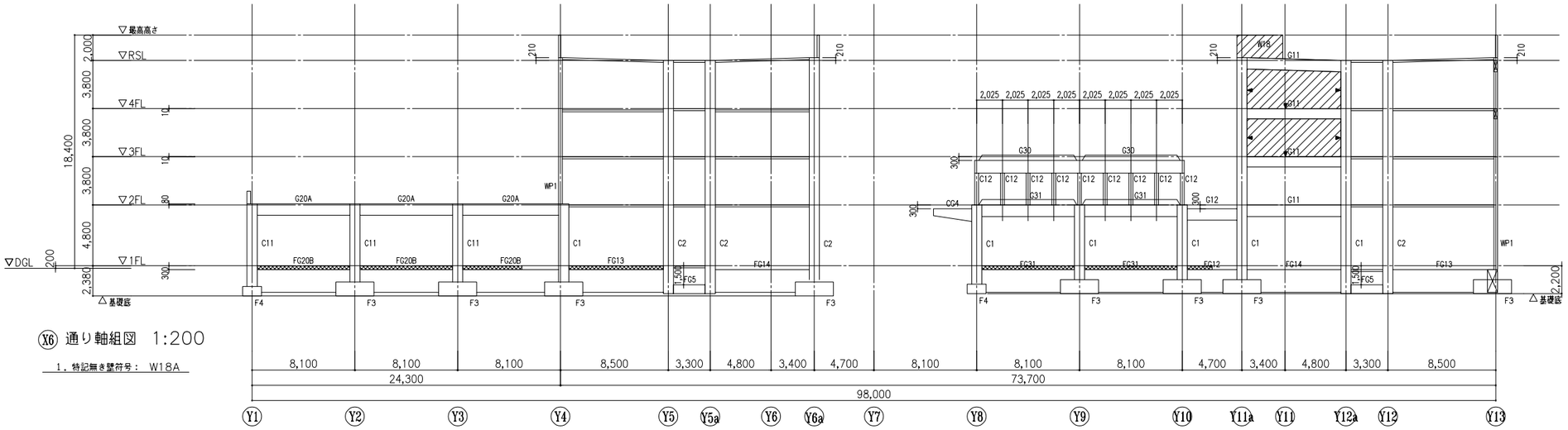
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

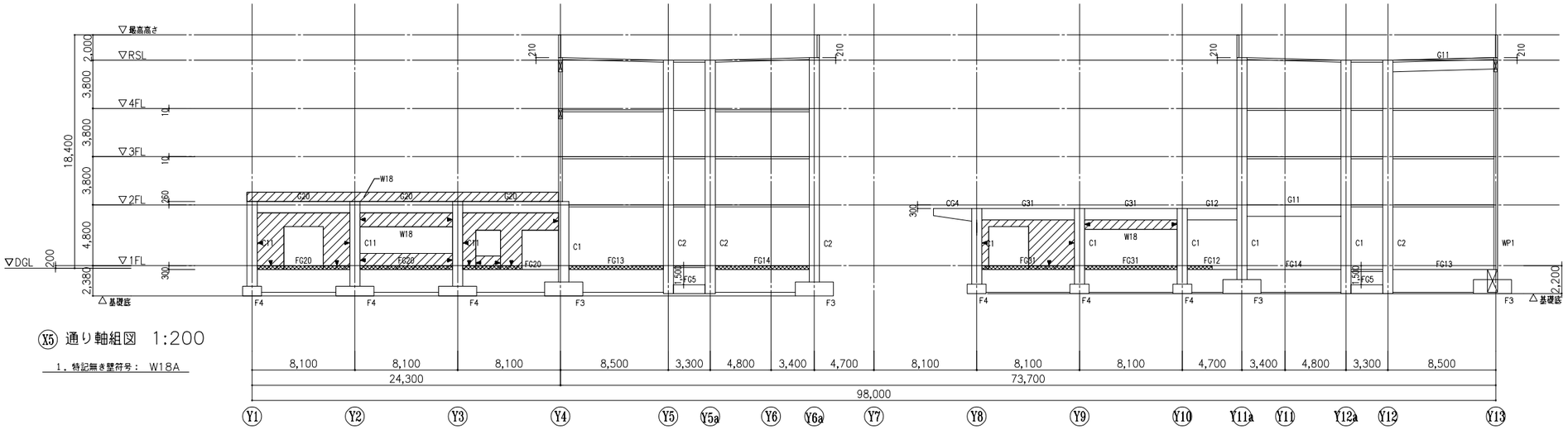
4．壁符号： W18

訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 軸組図-7	縮尺 A1版1:200 A3版1:400	図面番号 S-055



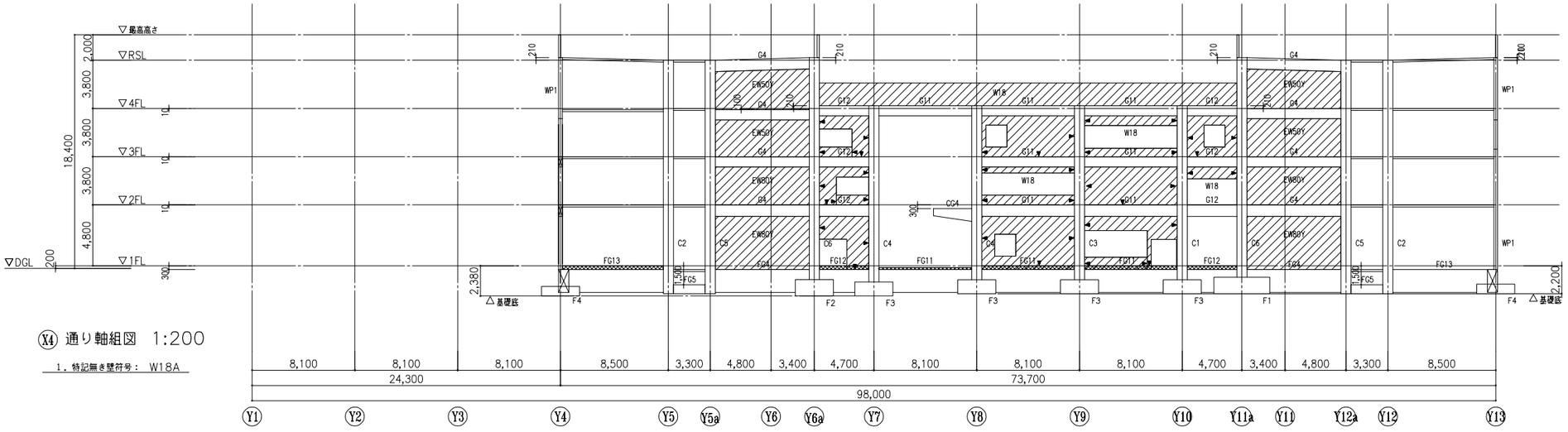
X6 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18A



X5 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18A



X4 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W18A

共通事項

特記なき限り下記による。

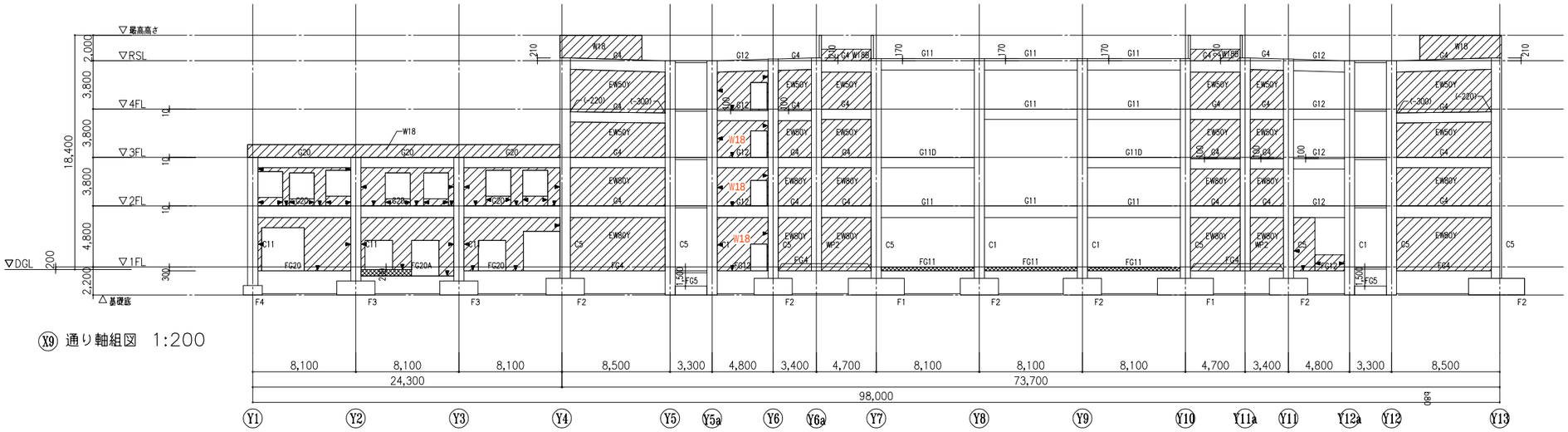
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

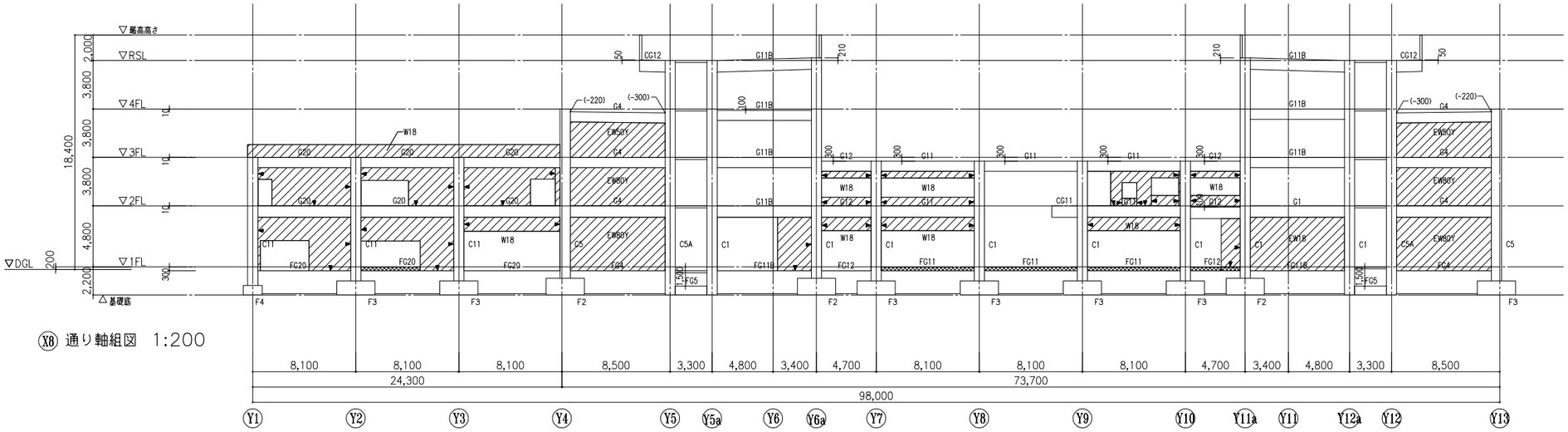
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

4．壁符号： W18

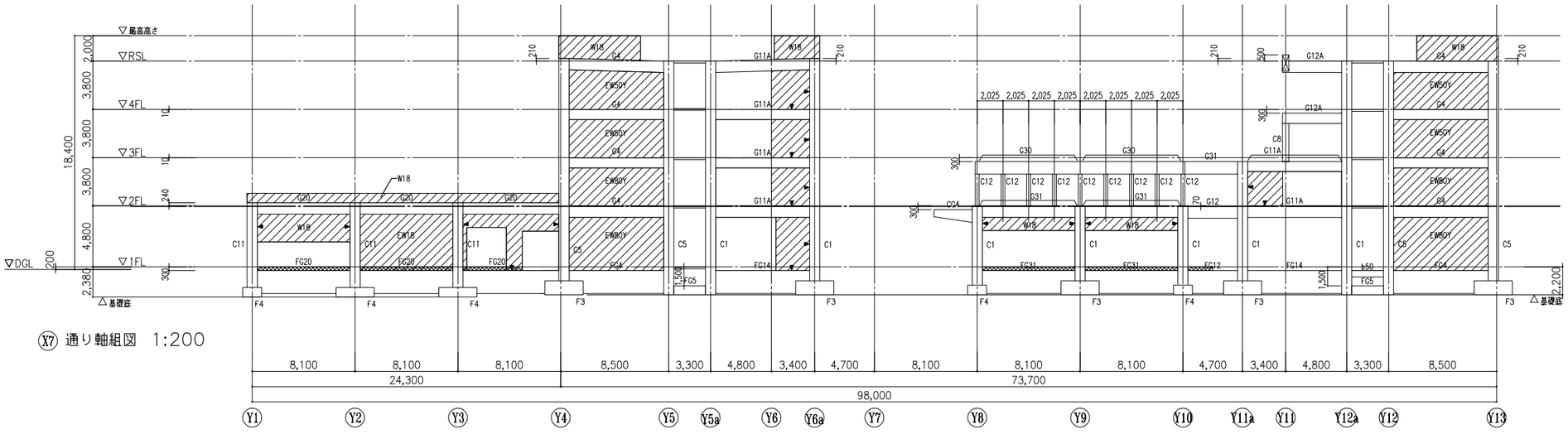
訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
-	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	軸組図-8	A1版1:200 A3版1:400	S-056



Ⓧ9 通り軸組図 1:200



Ⓧ8 通り軸組図 1:200



Ⓧ7 通り軸組図 1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

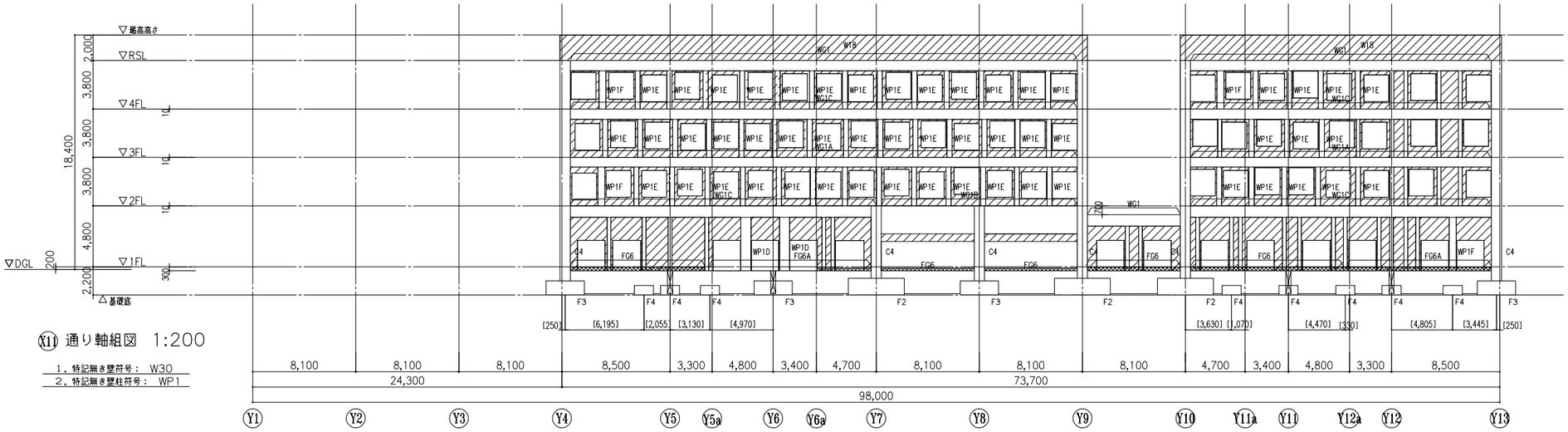
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。

2．▨ は増打ちを示す。

3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。

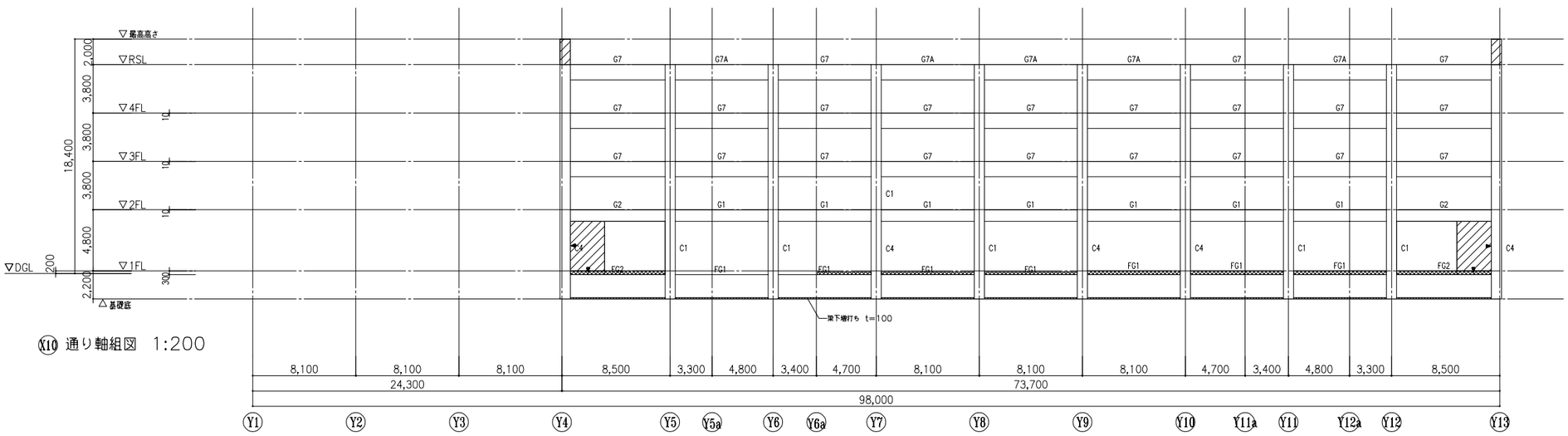
4．壁符号： W18A

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
-	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	軸組図-9	A1版1:200 A3版1:400	S-057



X11 通り軸組図 1:200

1．特記無き壁符号： W30
2．特記無き壁柱符号： WP1



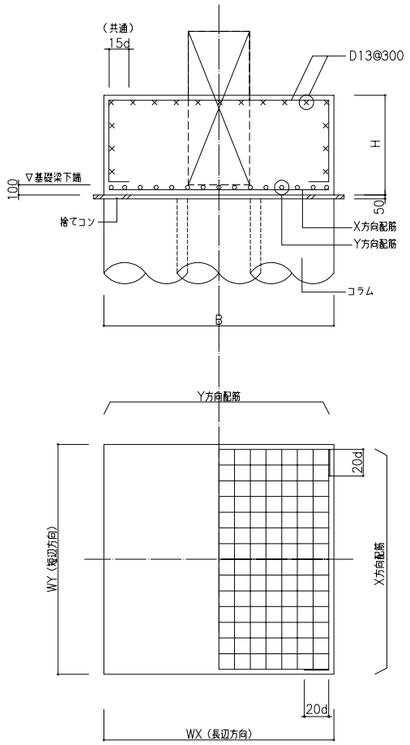
X10 通り軸組図 1:200

共通事項
特記なき限り下記による。
1．▼印は構造スリットを示す。 スリット幅は30mmとする。
2．▨ は増打ちを示す。
3．▩ は基礎梁上増打ちを示し、スラブレベルまでとする。
4．壁符号： W18A

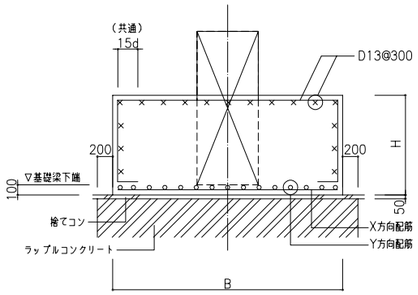
訂正	件名	図面番号
-	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
図面名称	縮尺	
軸組図-10	A1版1:200 A3版1:400	S-058

基礎リスト

1.地盤改良部

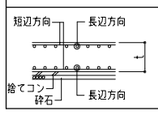


2.ラップルコンクリート部



符号	WX	WY	H	X方向配筋	Y方向配筋
F1	4400	4400	1300	44-D22	44-D22
F2	4400	3000	1400	29-D22	36-D22
F3	3000	3000	1100	23-D22	23-D22
F4	3000	1500	1000	23-D22	12-D22
F5	1500	1500	500	12-D19	12-D19

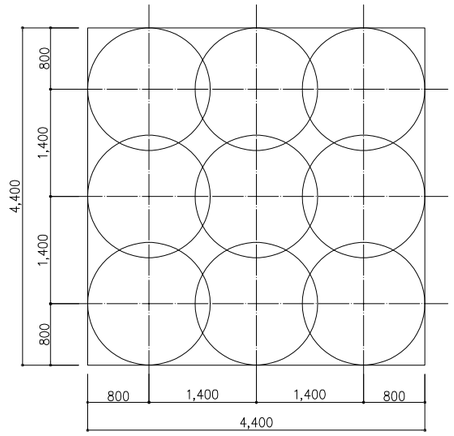
耐圧版リスト

形状	符号	版厚t	位置	短辺方向	長辺方向	備考
	FS30	300	上端筋	D13@200	D13@200	捨てコン厚50 砕石厚60
			下端筋	D13@200	D13@200	
	FS70	700	上端筋	D19@150	D19@200	ベタ基礎 捨てコン厚50 砕石なし
			下端筋	D19@150	D19@200	
			上端筋			
			下端筋			

地盤改良体配置図

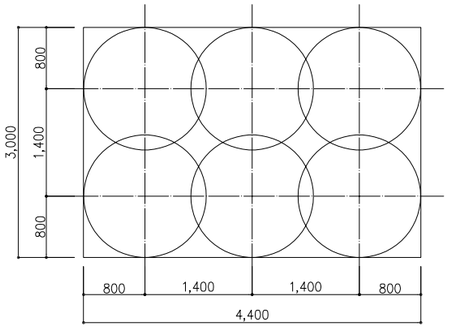
F1

1,600φ



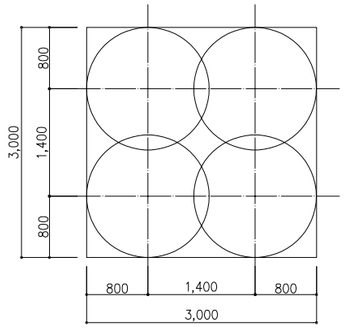
F2

1,600φ



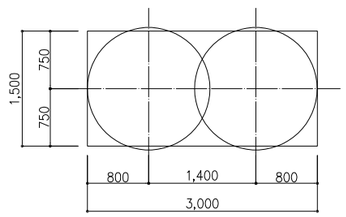
F3

1,600φ



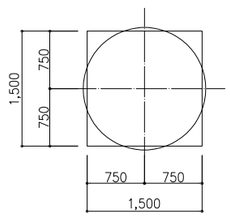
F4

1,600φ



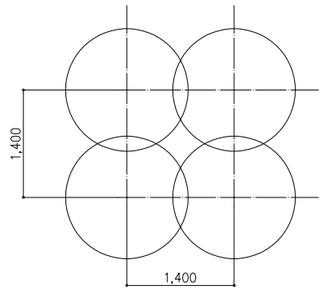
F5

1,600φ



ベタ基礎基本配置

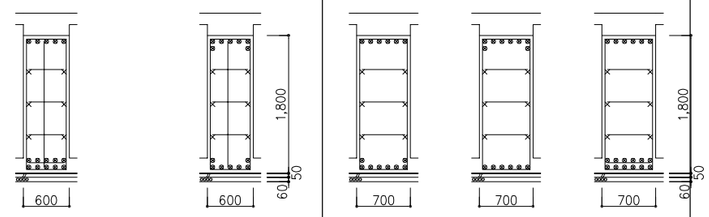
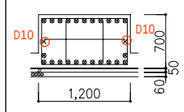
1,600φ

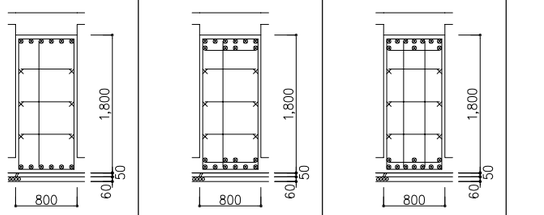


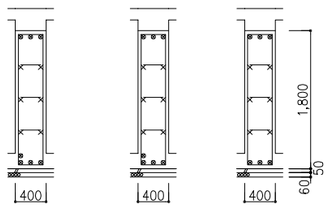
訂正	件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
	図面名称 **基礎・耐圧版リスト, 地盤改良体配置図**	縮尺 A1版1:40 A3版1:80	図面番号 S-059

基礎梁断面リスト－1

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
　　2.カットオフ長さは標準図S－004に定める値かつ備考欄の値以上とする。

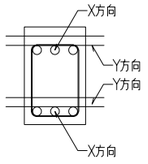
符号	FB1		FB1A			FB2		FB2A			FB3			FB4	FB5
位置	両端	中央	X7通端	中央	X8通端	両端	中央	X9通端	中央	X10通端	X3通端	中央	X4通端	全断	全断
断面															
上端筋	5-D29	7-D29	6-D29	8-D29	6-D29	12-D29	14-D29	6-D29	6-D29	6-D29	7-D29	9-D29	5-D29	5-D29	11-D29
下端筋	10-D29	7-D29	8-D29	6-D29	12-D29	12-D29	8-D29	10-D29	6-D29	6-D29	5-D29	5-D29	9-D29	5-D29	13-D29
スターラップ	3-D13 @200		2-D13 @150			3-D13 @200		3-D13 @200			3-D13 @200			3-D13 @200	4-D13 @100
備考	L=2,850		L=3,550			L=3,300		L=2,850			L=3,300				

符号	FB6	FB6A	FB6B	FB11		FB12			FB12A			FB12B			
位置	全断	全断	全断	両端	中央	X8通端	中央	X9通端	X9通端	中央	X10通端	X8通端	中央	X9通端	
断面															
上端筋	6-D29	10-D29	10-D29	5-D29	3-D29	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29	
下端筋	6-D29	10-D29	10-D29	4-D29	5-D29	6-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	4-D29	
スターラップ	3-D13 @200	3-D13 @200	4-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200			2-D13 @200			
備考				L=3,200		L=3,250			L=2,650			L=3,300			

符号	FB13			FB20	FB21		FB22	FB31	FB32
位置	X1,X4,X11通端	中央	X2,X3,X10通端	全断	両端	中央	全断	全断	全断
断面									
上端筋	3-D29	3-D29	3-D29	3-D29	6-D29	6-D29	3-D29	3-D29	3-D29
下端筋	4-D29	4-D29	3-D29	3-D29	8-D29	10-D29	3-D29	3-D29	3-D29
スターラップ	2-D13 @200			2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200
備考									

主筋配筋順序

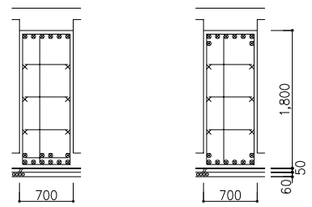
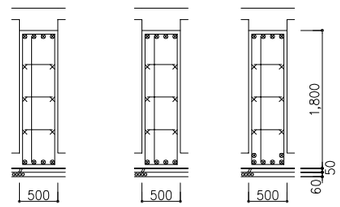
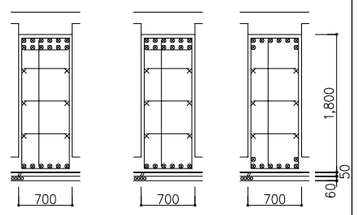
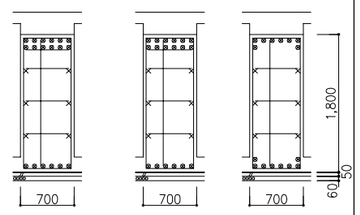
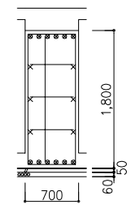
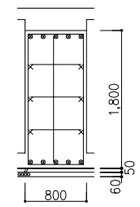
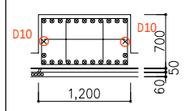
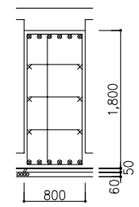
・梁主筋レベルが同じ場合

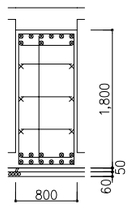
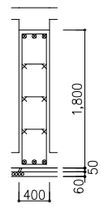
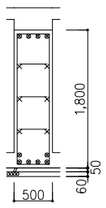
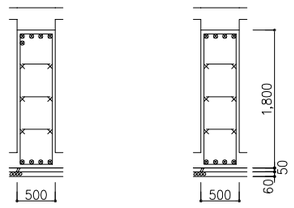
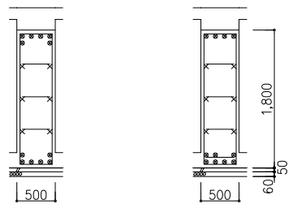
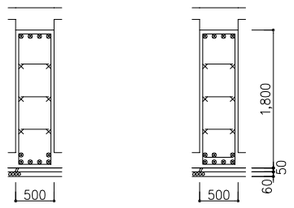
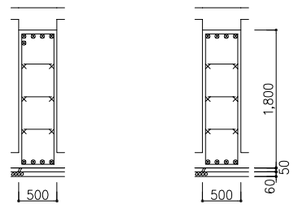
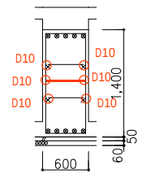


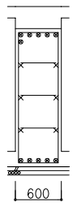
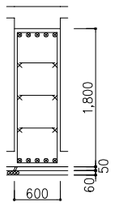
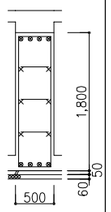
訂正	件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称	基礎梁断面リスト-1	縮尺 A1版1:40 A3版1:80
	図面番号	S-060	

基礎梁断面リスト−2

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S−004に定める値かつ備考欄の値以上とする。

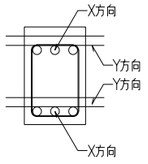
符号	FG1		FG1A			FG2			FG2A			FG3	FG4	FG5	FG6
位置	両端	中央	Y5,Y12通端	中央	Y6,Y11通端	Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断	全断	全断
断面															
上端筋	6-D29	8-D29	4-D29	4-D29	4-D29	12-D29	12-D29	8-D29	12-D29	12-D29	8-D29	6-D29	5-D29	11-D29	6-D29
下端筋	10-D29	8-D29	4-D29	4-D29	6-D29	6-D29	6-D29	8-D29	6-D29	6-D29	8-D29	6-D29	5-D29	13-D29	6-D29
スターラップ	3-D13 @200		3-D13 @200			3-D13 @200			3-D13 @200			3-D13 @200	3-D13 @200	4-D13 @100	3-D13 @200
備考	L=2,450		L=2,500			L=2,650			L=2,700						

符号	FG6A	FG11	FG11B	FG12		FG13		FG14		FG20		FG20A
位置	全断	全断	全断	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断
断面												
上端筋	9-D29	3-D29	4-D29	5-D29	4-D29	6-D29	4-D29	4-D29	4-D29	5-D29	4-D29	5-D29
下端筋	11-D29	3-D29	6-D29	4-D29	4-D29	6-D29	7-D29	6-D29	7-D29	4-D29	4-D29	5-D29
スターラップ	3-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200
備考				L=2,150		L=3,000						

符号	FG20B		FG31
位置	両端	中央	全断
断面			
上端筋	6-D29	5-D29	4-D29
下端筋	5-D29	5-D29	4-D29
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200
備考			

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合



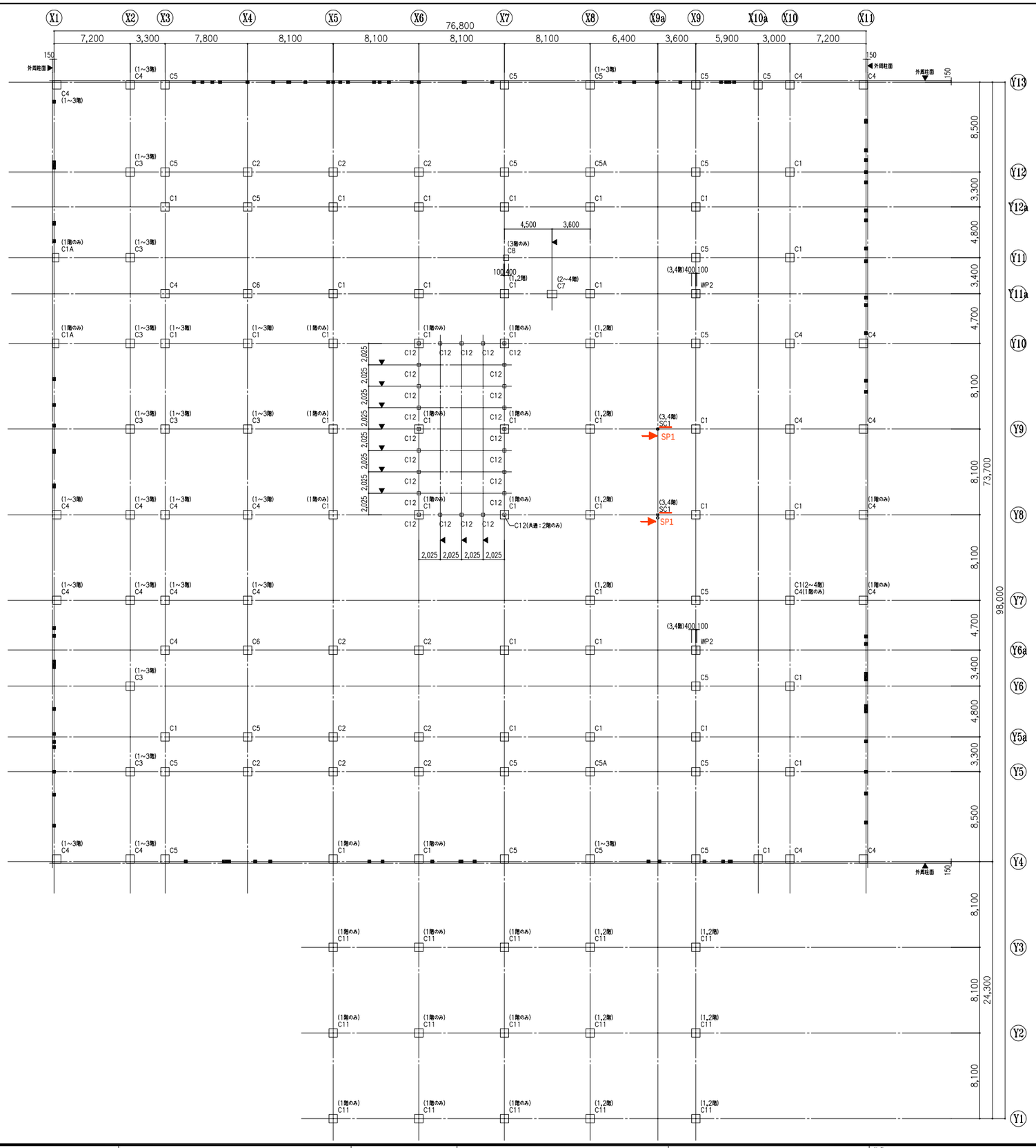
訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 基礎梁断面リスト-2

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-061



N

柱芯線図　1:200

共通事項

特記なき限り下記による。

1．図は1階の柱を示す

2．柱は1階から4階まで通しとする

3．柱は通り芯振り分けとする

4．■ はX1通り・X11通り・Y4通り・Y13通りの
　　ファサード壁の壁柱(WP＊＊)を示し、位置及び符号は各階伏図に示す

Y
X

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
・ ・ ・ ・ ・	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	柱芯線図	A1版1:200 A3版1:400	S-062

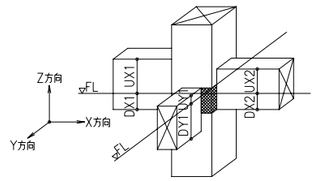
柱断面リスト

共通事項：1.フープはスパイラルフープとし、柱幅300以下のC12、WP1～WP1Eは溶接閉鎖型とする。
2.柱梁接合部フープはS-005鉄筋コンクリート構造基準図-2による
3.〜 は密せ筋を示す。
4.主筋の定着には定着版をもちいてもよい。

符号	C1	C1A	C2	C3	C4	C5	C5A	C6	C7	C8	C11	C12
4階	800×800		800×800		800×800	800×800	800×800	800×800	900×700			
主筋	20-D29		12-D29		12-D29	12-D29	24-D29	12-D29	22-D29			
フープ	□-D13 @100		□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100			
備考												
3階	800×800		800×800	800×800	800×800	800×800	800×800	800×800	900×700	500×500		
主筋	20-D29		12-D29	12-D29	12-D29	12-D29	24-D29	12-D29	22-D29	12-D29		
フープ	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100		
備考												
2階	800×800		800×800	800×800	800×800	800×800	800×800	800×800	900×700		800×800	300×300
主筋	20-D29		12-D29	12-D29	16-D29	16-D29	24-D29	12-D29	22-D29		12-D29	4-D29
フープ	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100	⊞-D13 @100	⊞-D13 @100	⊟-D13 @100	⊞-D13 @100	□-D13 @100		□-D13 @100	□-D13 @100
備考												
1階	800×800	600×800	800×800	800×800	800×800	800×800	800×800	800×800			800×800	
主筋	20-D29	16-D29	12-D29	12-D29	24-D29	24-D29	24-D29	12-D29			12-D29	
フープ	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	□-D13 @100	⊞-D13 @100	⊞-D13 @100	⊟-D13 @100	⊞-D13 @100			□-D13 @100	
備考												

符号	WP1	WP1A	WP1B	WP1C	WP1D	WP1E	WP1F	WP2
4階	300×300		400×300	600×300		300×400	300×550	500×800
主筋	4-D25		6-D25	8-D25		6-D25	6-D25	10-D29
フープ	□-D16 @100		□-D16 @100	□-D16 @100		□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100
備考								
3階	300×300	800×300	400×300	600×300	300×600	300×400		500×800
主筋	4-D25	10-D25	6-D25	8-D25	8-D25	6-D25		10-D29
フープ	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100		□-D16 @100
備考								
2階	300×300		400×300	600×300	300×600	300×400	300×550	800×800
主筋	4-D25		6-D25	8-D25	8-D25	6-D25	6-D25	12-D29
フープ	□-D16 @100		□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100
備考								
1階	300×300	800×300	400×300	600×300	300×800	300×400	300×550	800×800
主筋	4-D25	10-D25	6-D25	8-D25	10-D25	6-D25	6-D25	12-D29
フープ	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100	□-D16 @100
備考								

仕口部フープ要領



・パネルゾーンは柱に集結する全ての梁の重なり合う範囲とする。
・パネルゾーン範囲は以下の範囲とする。
上端 min(UX1,UX2,UY1)
下端 min(DX1,DX2,DY1)

基礎柱断面リスト

断面	1,250×1,250
主筋	28-D25
フープ	□-D13 @100
備考	1F/X10a通り/Y5～Y12

訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 柱断面リスト

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-063

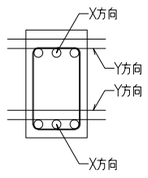
大梁断面リスト-1

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	B1		B1A		B1B		B2		B2A			B2B		B3	
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央	両端	中央		両端	中央	両端	中央
R階	500	500 900	550	550 900	700	700 900	500	500 900	550	550 900		700	700 900	500	500 900
上端筋	7-D25	4-D25	6-D25	4-D25	8-D25	6-D25	7-D25	4-D25	7-D25	4-D25		11-D25	6-D25	6-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	6-D25	6-D25	4-D25	7-D25	4-D25	7-D25		6-D25	8-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200		3-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			3-D13 @200		2-D13 @200	
備考	L=2,400						L=2,550		L=2,800			L=2,900			
位置	両端	中央	両端	中央			両端	中央	X9通端	中央	X10通端			両端	中央
4階	500	500 800	550	550 800			500	500 800	650	650	650 800			500	500 800
上端筋	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25			8-D25	4-D25	8-D25	4-D25	4-D25			5-D25	4-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25			4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25			4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200				3-D13 @200		3-D13 @200					2-D13 @200	
備考							L=3,000		L=2,850						
位置	両端	中央	両端	中央			両端	中央	X9通端	中央	X10通端			両端	中央
3階	500	500 800	550	550 800			500	500 800	500	500	500 800			500	500 800
上端筋	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25			8-D25	4-D25	8-D25	4-D25	4-D25			5-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25			4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25			4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200				3-D13 @200		3-D13 @200					2-D13 @200	
備考							L=3,000		L=2,850						
位置	全断		両端	中央			両端	中央	X9通端	中央	X10通端			両端	中央
2階	500 900		550	550 900			500	500 900	500	500	500 900			500	500 900
上端筋	4-D25		5-D25	4-D25			6-D25	4-D25	8-D25	4-D25	4-D25			5-D25	4-D25
下端筋	4-D25		4-D25	4-D25			4-D25	5-D25	4-D25	6-D25	4-D25			4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200				3-D13 @200		3-D13 @200					2-D13 @200	
備考									L=2,950						

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合



PCスラブ受け大梁　補強筋リスト

PCスラブを受ける大梁の腹筋は以下に読み替えること。
読み替えた腹筋は柱にL2定着すること。

符号	腹筋	符号	腹筋
B1	8-D16	G1	8-D19
B1A	8-D16	G2	8-D19
B2	8-D16	G3	8-D19
B2B	8-D16	G7	8-D19
B3	8-D16	G11	8-D19
B11	8-D16	G11B	8-D19
B12B	8-D16	G12	8-D19
B12D	8-D16	G7A,G11A	8-D19
B12E	8-D16	G20,G31	8-D19
B12,B22,B32	8-D16		

訂正 ・
・
・
・
・

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 大梁断面リスト-1

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-064

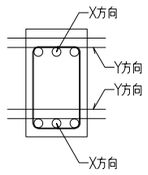
大梁断面リスト−2

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S−005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	B4	B11		B11A	B11B	B12		B12A			B12B		B12C		
位置	全断	両端	中央			両端	中央	X9通端	中央	X10通端	両端	中央	X8通端	中央	X9通端
R階	500×900	500×900	500×900			600×900	600×900	600×900	600×900	600×900	700×900	700×900	700×900	700×900	700×900
上端筋	4-D25	7-D25	4-D25			9-D25	5-D25	9-D25	5-D25	7-D25	9-D25	6-D25	12-D25	6-D25	6-D25
下端筋	4-D25	4-D25	5-D25			6-D25	9-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	10-D25	6-D25	8-D25	6-D25
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @200				2-D13 @200		2-D13 @200			3-D13 @200		3-D13 @200		
備考		L=2,400				L=2,600		L=2,600					L=3,100		
位置	全断	両端	中央	全断		両端	中央	両端	中央				X8通端	中央	X9通端
4階	500×800	500×800	500×800	400×800		600×800	600×800	600×800	600×800				700×800	700×800	700×800
上端筋	4-D25	5-D25	4-D25	3-D25		9-D25	5-D25	7-D25	5-D25				10-D25	6-D25	6-D25
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25		5-D25	7-D25	5-D25	5-D25				6-D25	6-D25	6-D25
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200					3-D13 @200		
備考						L=2,500									
位置	全断	両端	中央			両端	中央				両端	中央	X8通端	中央	X9通端
3階	800×800	500×800	500×800			600×800	600×800				700×800	700×800	700×800	700×800	700×800
上端筋	5-D25	5-D25	4-D25			7-D25	5-D25				9-D25	6-D25	10-D25	6-D25	6-D25
下端筋	5-D25	4-D25	4-D25			5-D25	7-D25				6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
スターラップ	3-D13 @200	2-D13 @200				2-D13 @200					3-D13 @200		3-D13 @200		
備考											L=2,800				
位置	全断	両端	中央	両端	中央	全断	両端	中央							
2階	800×900	500×900	500×900	550×900	550×900	400×800	600×900	600×900							
上端筋	5-D25	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25	3-D25	7-D25	5-D25							
下端筋	5-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	7-D25							
スターラップ	3-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200								
備考															

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合



訂正	

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

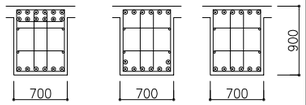
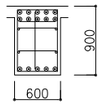
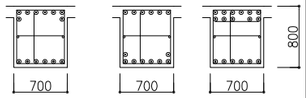
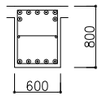
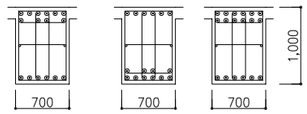
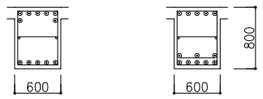
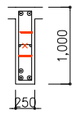
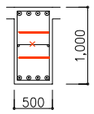
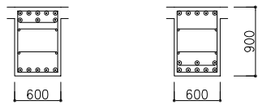
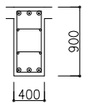
図面名称 大梁断面リスト-2

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-065

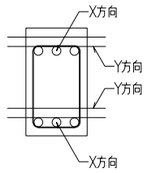
大梁断面リスト−3

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S−005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	B12D			B12E			B13		B21		B22		B30	B31	
位置	X8通端	中央	X9通端				全断								
R階															
上端筋	12-D25	6-D25	6-D25				10-D25								
下端筋	6-D25	8-D25	6-D25				5-D25								
スターラップ	4-D13 @200						3-D13 @200								
備考	L=3,100														
位置	X9通端	中央	X10通端				全断								
4階															
上端筋	8-D25	6-D25	11-D25				7-D25								
下端筋	6-D25	8-D25	6-D25				5-D25								
スターラップ	3-D13 @200						2-D13 @200								
備考	L=2,550														
位置				X8通端	中央	X9通端	両端	中央	両端	中央	両端	中央	全断	全断	
3階															
上端筋				10-D25	6-D25	12-D25	7-D25	5-D25	4-D25	3-D25	4-D25	3-D25	2-D25	4-D25	
下端筋				6-D25	10-D25	6-D25	5-D25	8-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	
スターラップ				4-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200	
備考				L=3,200											
位置							両端	中央	両端	中央	全断			両端	中央
2階															
上端筋							8-D25	5-D25	4-D25	3-D25	3-D25			6-D25	4-D25
下端筋							5-D25	8-D25	3-D25	3-D25	3-D25			4-D25	4-D25
スターラップ							2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200	
備考															

主筋配筋順序

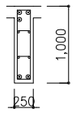
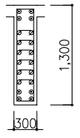
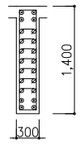
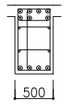
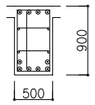
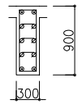
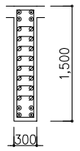
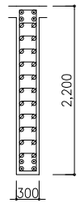
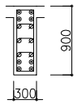
・梁主筋レベルが同じ場合



訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	大梁断面リスト-3	A1版1:40 A3版1:80	S-066

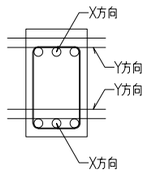
大梁断面リスト−4

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S−005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	B32		WB1	WB1A	WB1B	WB1C
位置			全断			全断
R階						
上端筋			2-D25			4-D25
下端筋			2-D25			4-D25
スターラップ			2-D13 @100			2-D13 @100
備考			腹筋：6-D16			腹筋：6-D16
位置			全断			全断
4階						
上端筋			2-D25			4-D25
下端筋			2-D25			4-D25
スターラップ			2-D13 @100			2-D13 @100
備考			腹筋：6-D16			腹筋：6-D16
位置	全断		全断	全断	全断	全断
3階						
上端筋	3-D25		2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	2-D25		2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100
備考			腹筋：6-D16	腹筋：12-D16	腹筋：14-D16	腹筋：6-D16
位置	両端	中央	全断	全断	全断	全断
2階						
上端筋	7-D25	4-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	6-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	3-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100
備考	L=2,400		腹筋：6-D16	腹筋：16-D16	腹筋：22-D16	腹筋：6-D16

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合



訂正	

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 大梁断面リスト-4

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-067

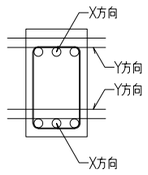
大梁断面リスト−5

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S−005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	G1		G1A		G2		G2A			G3	G4	G7		G7A	
位置			両端	中央			Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端		全断	両端	中央	両端	中央
R階			500 / 900	500			400	400	400 / 900		500 / 900	400	400 / 1,200	400	400 / 1,200
上端筋			6-D25	4-D25			5-D25	3-D25	3-D25		4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25
下端筋			5-D25	8-D25			5-D25	6-D25	5-D25		4-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25
スターラップ			2-D13 @200				2-D13 @200				2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200	
備考							L=2,450							L=2,600	
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断	両端	中央		
4階	500 / 800	500	550 / 800	550	500 / 800	500	400 / 800	400	400	400 / 800	500 / 800	400 / 1,200	400		
上端筋	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	7-D25	4-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	5-D25	3-D25		
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25		
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200			
備考					L=2,350							L=2,650			
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断	両端	中央		
3階	500 / 800	500	550 / 800	550	500 / 800	500	400 / 800	400	400 / 800	400 / 800	800 / 800	400 / 1,200	400		
上端筋	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	7-D25	4-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25		
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	5-D25	3-D25	4-D25		
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200			
備考					L=2,350							L=2,650			
位置	両端	中央	両端	中央	両端	中央	Y4,Y13通端	中央	Y5,Y12通端	全断	全断				
2階	500 / 900	500	550 / 900	550	500 / 900	500	400 / 900	400	400 / 900	400 / 900	800 / 900				
上端筋	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	4-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	5-D25				
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	5-D25				
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200	2-D13 @200				
備考							L=2,450								

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合



訂正	

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 大梁断面リスト-5

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-068

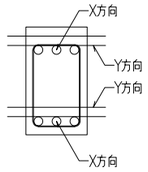
大梁断面リスト−6

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S−005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	G11		G11A	G11B		G11C			G11D		G12	G12A			G20	
位置	両端	中央	全断	両端	中央	Y11α通端	中央	Y12α通端			全断	Y11通端	中央	Y12α通端		
R階	500	500 900	500 900	500	500 900	700	700	700 900			500 900	700	700	700 900		
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	8-D25	6-D25	6-D25			4-D25	6-D25	11-D25	11-D25		
下端筋	5-D25	7-D25	4-D25	4-D25	6-D25	8-D25	11-D25	8-D25			4-D25	6-D25	6-D25	6-D25		
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200		3-D13 @200					2-D13 @200	3-D13 @200				
備考																
位置	両端	中央	全断	全断		Y11α通端	中央	Y12α通端			全断	Y11通端	中央	Y12α通端		
4階	500	500 800	500 800	500 800		500	500	500 800			500 800	600	600	600 800		
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25		7-D25	4-D25	4-D25			4-D25	5-D25	6-D25	6-D25		
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25		4-D25	6-D25	4-D25			4-D25	5-D25	5-D25	5-D25		
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @200					2-D13 @200	2-D13 @200				
備考						L=2,450										
位置	両端	中央	全断	両端	中央				両端	中央	全断				両端	中央
3階	500	500 800	500 800	500	500 800				700	700 800	500 800				500	500 800
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25				10-D25	6-D25	4-D25				7-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25				6-D25	8-D25	4-D25				4-D25	6-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200					3-D13 @200		2-D13 @200				2-D13 @200	
備考															L=2,400	
位置	両端	中央	全断	両端	中央						全断				両端	中央
2階	500	500 900	500 900	500	500 900						500 900				500	500 900
上端筋	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25						4-D25				8-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	6-D25						4-D25				4-D25	6-D25
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200	2-D13 @200							2-D13 @200				2-D13 @200	
備考															L=2,750	

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合

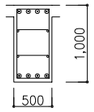
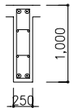
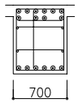
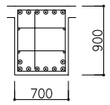
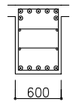
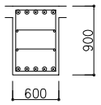
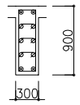
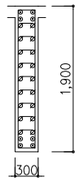
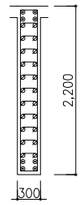
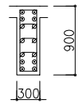


訂正	

件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
図面名称	大梁断面リスト-6	縮尺 A1版1:40 A3版1:80
図面番号	S-069	

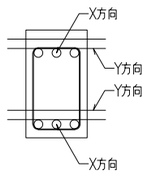
大梁断面リスト-7

共通事項：1.幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照
2.カットオフ長さは標準図S-005に定める値かつ備考欄の値以上とする。

符号	G20A		G30	G31		WG1	WG1A	WG1B	WG1C
位置						全断			
R階									
上端筋						2-D25			
下端筋						2-D25			
スターラップ						2-D13 @100			
備考						腹筋:6-D16			
位置						全断			全断
4階									
上端筋						2-D25			4-D25
下端筋						2-D25			4-D25
スターラップ						2-D13 @100			2-D13 @100
備考						腹筋:6-D16			腹筋:6-D16
位置			全断	全断		全断	全断		
3階									
上端筋			4-D25	2-D25		2-D25	4-D25		
下端筋			4-D25	2-D25		2-D25	4-D25		
スターラップ			2-D13 @200	2-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100		
備考						腹筋:6-D16	腹筋:6-D16		
位置	両端	中央		両端	中央	全断	全断	全断	全断
2階									
上端筋	10-D25	6-D25		7-D25	5-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
下端筋	6-D25	8-D25		5-D25	5-D25	2-D25	4-D25	4-D25	4-D25
スターラップ	3-D13 @200			2-D13 @200		2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100	2-D13 @100
備考	L=2,350					腹筋:6-D16	腹筋:18-D16	腹筋:22-D16	腹筋:6-D16

主筋配筋順序

・梁主筋レベルが同じ場合



訂正	

件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
図面名称	大梁断面リスト-7	縮尺 A1版1:40 A3版1:80
図面番号	S-070	

プレストレストコンクリート合成床板製作・工事特記事項

1 一般事項

1-1 適用範囲

本仕様書は工場で製造された床板・屋根板等のプレストレストコンクリート合成床板部材（以下，部材という）の製作・施工に適用する．なお，トッピングコンクリート工事は含まない．

1-2 準拠図書

本工事は下記基規準に準拠する．

1) 建築基準法，同法施行令80条の2の規定に基づく昭和58年建設省告示第1320号
2) 『プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』 2009年 国土交通省国土技術政策総合研究所，建築研究所
3) 『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』 2022年 日本建築学会
4) 『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種PC）構造設計・施工指針・同解説』 2003年 日本建築学会
5) 『建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事』（以下，JASS10 という） 2013年 日本建築学会
6) 『建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事』（以下，JASS5 という） 2022年 日本建築学会

2 材料

2-1 セメント

セメントは，普通ポルトランドセメントまたは早強ポルトランドセメント（JIS R 5210 規格品）を用いることを原則とする．

2-2 骨材

1) 骨材は JASS10 による．
2) 骨材は，PC鋼材またはシースの間を容易に通過するものを用いる．

2-3 練混ぜ水

練混ぜ水は JASS10 による．

2-4 混和材料

1) 混和材料は JASS10 による．
2) 混和材料は，PC鋼材を腐食させたり，PC鋼材の付着性能を低下させるようなものを用いない．

2-5 鉄筋および溶接金網

鉄筋および溶接金網は下記の規定に適合するものを用いる．

JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）
JIS G 3551（溶接金網及び鉄筋格子）

2-6 鉄筋の継手および機械式定着

鉄筋継手に機械式継手を用いる場合，および，鉄筋定着に機械式定着工法を用いる場合は，性能・納まりを検討して選定し，工事監理者に確認する．

2-7 PC鋼材および定着具

1) PC鋼材は JIS G 3536（PC鋼線及びPC鋼より線），JIS G 3109（PC鋼棒），JIS G 3137（細径異形PC鋼棒）に適合するもの，またはこれらと同等以上の品質を有するものとする．
2) PC鋼材は有害なきずや変形および過度のさびなどがなく，表面に油やその他の有害なものが付着していてはならない．
3) アンボンドPC鋼材を用いる場合，防せい材等の品質は，PRC指針の付則『アンボンド工法用PC鋼材と施工時の取扱いについて』による．
4) 定着具および接続具はその外観・形状を検査し，強度に影響するようなきずのあるものは用いない．

2-8 吊上金物

部材の吊上げに用いる金物・インサート等は，作用する荷重に対して安全なものとする．

3 製品規格

3-1 部材の品質

部材の品質は JASS10 の規定に適合するもの，または同等以上のものでなければならない．

3-2 コンクリート強度

1) 部材のコンクリート強度は，特記の設計基準強度または，耐久設計基準強度より定まる品質基準強度以上とする．
2) 部材に用いるコンクリートの圧縮強度は，所要の脱型時強度・プレストレス導入時強度・出荷時強度を満足するものとし，各々の値は特記による．
3) コンクリートの計画調合は，原則として試し練りによって定め，工事監理者に確認する．ただし，部材製作工場において十分な実績がある調合の場合は，工事監理者に確認して試し練りを省略してよい．

3-3 部材の寸法許容差

部材および先付け部品の，寸法の許容差は特記による．特記がない場合は JASS10 等に準じて定め，部材製作要領書に明記した上で工事監理者に確認する．

3-4 かぶり厚さ

1) PC鋼材に対するコンクリートのかぶり厚さは，特記なき限り，最小かぶり厚さ35mmとする．なお，設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに5mm加えた値としてよい．
2) 鉄筋・溶接金網・鉄筋格子に対するコンクリートの最小かぶり厚さは，特記なき限り，屋内で20mm，屋外で30mmとする．なお，設計かぶり厚さは最小かぶり厚さに5mm加えた値としてよい．

3-5 先付部品の取付け

先付部品の取付けにあたっては，機能上支障となるようなずれ・ゆがみ等があってはならない．

3-6 ひび割れおよび破損

コンクリートには，構造上，防水および外観上支障となるようなひび割れ，破損等があってはならない．

4 部材の製作

4-1 製作要領書および製作図

1) 部材製作にあたって，製造者は部材製作要領書を作成し，工事監理者に確認する．
2) 部材製作にあたって，施工者または製造者は部材製作図を作成し，工事監理者の承認を得る．

4-2 製作

部材製作は，確認された部材製作要領書に基づき正確かつ適正に行う．

4-3 型枠

1) 型枠は，コンクリート打込み時の振動や組立て時，脱型時の取扱い等により，そり・ねじれ・ゆがみ等が生じないよう，適度な強度と剛性を有するものとする．
2) 脱型前にプレストレスを導入する部材の型枠は，プレストレス導入を妨げない構造とする．
3) 型枠は十分に清掃し，曲がり・ねじれ等がなく，寸法および角度を正しく保つように組立てて設置する．

4-4 配筋

1) 鉄筋の加工および組立ては，部材製作図による他 JASS10 による．
2) 鉄筋のあきは，JASS5 による．
3) 設計図に指示がない場合，並行する鉄筋とPC鋼材またはアンボンドPC鋼材とのあきは20mm以上，粗骨材最大寸法の1.25倍以上，かつ，鉄筋直径以上とする．ただし，コンクリートを十分締固められ，付着応力に問題がない場合は，工事監理者と協議の上，接触して配置してもよい．

4-5 PC鋼材配置（ポストテンション）

1) ポストテンション部材のアンボンドPC鋼材は，コンクリート打込み時に位置ずれを起こさないよう固定する．
2) 設計図に指示がない場合，アンボンドPC鋼材相互のあきは30mm以上，かつ，粗骨材最大寸法の1.25倍以上とする．ただし，コンクリートを十分締固められる場合は，工事監理者と協議の上，接触して配置してもよい．
3) アンボンドPC鋼材配置の許容差は，以下の値を標準とする．

部材の最小寸法	許容差
200mm未満の部位	± 7mm
200mm以上600mm未満の部位	± 10mm
600mm以上の部位	± 15mm

4) アンボンドPC鋼材の保持点間隔は1.2m以下を標準とする．

4-6 PC鋼材配置（プレテンション）

1) PC鋼材の配線に先立ち，その種類，径を確認する．
2) PC鋼材は，配線作業の際，型枠の剥離材・ゴミ・土等の有害物が付着しないようにする．

4-7 緊張（プレテンション）

1) プレテンション部材のPC鋼材の初緊張力は特記による．
2) プレストレスの導入にあたっては，事前に緊張計算書を作成し，部材製作要領書に明記する．
3) PC鋼材の伸び量は，緊張時の定着具のセット量・接合具のセット量・アバットの移動等による損失を見込んで計算により求める．また，必要に応じ，緊張後におけるPC鋼材の温度変化に対する補正を行う．
4) 緊張力はジャッキの圧力計によって確認し，最終伸び量を測定して，計算伸び量と比較確認の上で記録する．
5) 緊張計算に用いるPC鋼材のヤング係数は，ミルシートの値による．

4-8 打込み前検査

コンクリートの打込み前に，型枠の組立て状態・配筋状態・先付部品の取付け状態等について検査を行う．

4-9 コンクリートの打込み

1) コンクリートの打込みおよび締固めは，振動機等を用いて，コンクリートが均質かつ密実に充填されるように行う．
2) コンクリートの打込みにあたっては，シースや先付部品等を損傷しないよう注意する．

4-10 表面仕上げ

コンクリートの表面仕上げは特記による．

4-11 養生

1) コンクリート打込み完了後の，養生方法および温度管理の方法は特記による．特記がない場合は，部材製作要領書に明記した上で，工事監理者に確認する．
2) 養生終了から脱型までの間，急激な温度変化や乾燥により，部材に損傷を与えないよう注意する．

4-12 プレストレスの導入（プレテンション）

1) プレストレスの導入は，部材と同一養生した供試体の圧縮強度が，所要のプレストレス導入時強度以上であることを確認して行う．
2) 緊張力の解放は徐々に行い，部材に衝撃を与えないようにする．
3) 特記なき限り，PC鋼材はカッターまたはガスにより緊張端側より順次切断する．
4) PC鋼材の部材端面における処理は，設計図または特記による．

4-13 脱型

1) 脱型は，部材と同一養生した供試体の圧縮強度が，所要の脱型時強度以上であることを確認して行う．
2) 脱型は，有害なひび割れや破損が生じないよう慎重に行う．

4-14 緊張（ポストテンション）

1) プレストレスの導入は，部材と同一養生した供試体の圧縮強度が，所要のプレストレス導入時強度以上であることを確認して行う．
2) プレストレスの導入方式および工法は特記による．特記がない場合，導入方式および工法を定め工事監理者に確認する．
3) 緊張には，PC定着工法ごとに定められた専用の装置を用いる．
4) 荷重計または圧力計は，使用前ならびに長期間使用する場合，随時キャリブレーションを行い正常な状態にあるように管理する．
5) PC鋼材の初緊張力は特記による．
6) プレストレスの導入にあたっては，事前に緊張計算書を作成し，部材製作要領書に明記する．
7) 緊張計算に用いるPC鋼材の見掛けのヤング係数は，次の表の値を用いるか，各工法のマニュアルに記載された値を用いてよい．

緊張材の種類	見掛けのヤング係数 kN/mm²
PC鋼より線	190
PC鋼棒	200

8) PC鋼材に与える緊張力は，荷重計の示度およびPC鋼材の伸びを測定して確認する．測定した示度と伸び量が，それぞれ緊張計算書で定めた管理範囲に収まるように管理する．
9) アンボンドPC鋼材の切断は，専用の油圧カッターまたはディスクグラインダー等を用いて行こととし，ガス切断は行ってはならない．
10) 外部に面する部分の鋼材端（キャスティング，アンボンドPC鋼材等）には，エポキシ樹脂を塗布し防錆する．
11) 緊張端の座掘，スリーブ付き支圧板のスリーブ部分などには，無収縮モルタルを詰めて定着具を被覆する．ただし，部材架設後に定着具が場所打ちコンクリートに埋まる部分は，被覆を省略してもよい．

5 製品検査

5-1 検査項目

部材の検査は，コンクリート強度・形状寸法・ひび割れ・破損・仕上げおよび先付部品の取付け位置について行う．

5-2 コンクリート強度

部材のコンクリート強度の検査は，脱型時（プレストレス導入時）・出荷時・管理材齢時に行う．また，コンクリート強度試験用供試体の採取および養方法は，下記を標準とする．

養生＼材齢	脱型（導入）	出荷時	28日（管理材齢）	予備	計
部材同一	3	3	—	3	9
標　準	—	—	3	—	3

5-3 形状寸法の検査

1) 形状寸法の検査項目は部材の種類に応じて定め，部材製作要領書に明記する．
2) 検査の方法および測定器具は，部材の種類に応じて定める．

5-4 外観・仕上げ等の検査

1) 検査は下記事項について行う．
   a.コンクリートのひび割れおよび破損
   b.先付部品の破損および取付位置のずれ・ゆがみ
   c.コンクリート表面の仕上げ
2) コンクリートのひび割れ・破損および仕上げの検査は目視による．

5-5 表示

1) 製品検査で合格した部材は，検査済みを示す表示を行う．
2) 検査済みを示す表示の他，部材の識別が可能なように，部材符号等の識別表示を行う．

5-6 試作品検査

試作品検査は，製作工程の初期段階に，協議した製作方法および製作精度の確認を目的に実施する．

1) 試作品検査は，指定された部材について，コンクリート打ち込み前の製品1台，コンクリート打設が完了した完成品1台を対象に実施する．
2) 検査対象の製品は，工事監理者に確認して本工事に使用できる．
3) 製作工程に応じた試作品の状態を含め，試作品検査要領書を作成して工事監理者に確認すること．

6 貯蔵・出荷・運搬

6-1 貯蔵

1) 部材の貯蔵は，貯蔵期間中に転倒・傾き・ねじれ等が起きないよう，所定の支持位置にて行う．
2) 部材の支持位置は，部材製作要領書に明記する．
3) 部材の貯蔵期間中の養生方法は，特記による．特記がない場合は，部材製作要領書に明記した上で，工事監理者の承諾を得る．

6-2 出荷・運搬

1) 出荷は，部材と同一養生した供試体の圧縮強度が，所要の出荷時強度以上であることを確認して行う．
2) 出荷にあたっては，検査済みを示す表示，ならびに破損等の有無を確認する．
3) 部材の出荷および運搬は，下記事項を考慮して行う．
   a.部材に有害なひび割れや破損を生じさせないように運搬する．
   b.輸送関係法規の定めるところにより，特に事故防止に留意する．

6-3 報告書

部材製作者は，試験・検査結果等について，本工事完了後に速やかに報告書としてまとめ，工事監理者に提出する．

7 施工計画

7-1 施工計画

1) 施工者は工事に先立ち，施工計画書を作成し工事監理者に確認する．
2) 施工計画書には，架設工事・目地工事に伴う，計画工程・工事組織や施工体系・安全管理・使用機資材・施工方法・品質管理について明示する．また，架設工事については，輸送・組立て・重機配置計画を含めて記載することとする．

7-2 施工図

施工者は施工図を作成し，工事監理者の承認を得る．

7-3 工事報告書

PC工事完了後，速やかに工事記録を整理し，工事監理者に報告する．

8 部材の架設

8-1 部材の架設

1) 部材の架設作業は施工計画に従い順序よく行う．
2) 部材の架設作業は専任担当者を定め，その指示に従って行う．
3) 部材の仮置きに際しては適切な架台を設け，部材に曲がり・ねじれ・有害なひび割れおよび破損が生じないようにする．
4) 現場における施工精度は，施工計画書による．
5) 運搬および架設時にひび割れや破損が生じた部材は，工事監理者の指示に従い処置する．

9 特記事項

9-1 コンクリート強度

（単位：N/mm²）

構造種別	設計基準強度	PC導入時強度	脱型時強度	備　考
PC合成床板	60	30	30	プレテンション方式

9-2 PC鋼材の仕様

No.	種　類	断面積（mm²）	引張荷重（kN/c）	降伏荷重（kN/c）	許容引張荷重 導入時（kN/c）	許容引張荷重 定着完了時（kN/c）	初緊張力（kN/c）
(1)	PC鋼より線 12.7mm (SWPR7BL)	98.7	183	156	133	125	125

註：初緊張力に対し，ジャッキ内ロス・温度補正等を別途考慮して，製作時の作業緊張力を求め，緊張計算書に記載する．

9-3 型枠

原則として，型枠は鋼製型枠とする．

9-4 仕上げ

1) コンクリート打設面の仕上げは，原則として下記の通りとする．
   a.合成部材の合成面は櫛引等による粗面仕上げ
2) 型枠面の仕上げはコンクリート素地とする．
3) プレテンションPC鋼材の切断端部は，防錆材塗布とする．

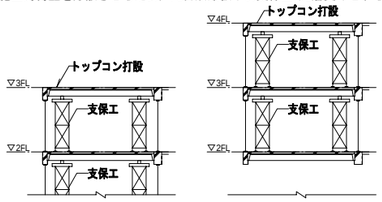
9-5 トップコン厚さ

PC合成床板のプレテンションによる反りで減少する床板中央部トップコン厚さの許容値は原則として以下の値とする．

標準トップコン厚さ（mm）	部材名	トップコン厚さ許容値（mm）	備考
120	PS1A	105	
	PS2A	95	
150	PS1B	135	
	PS2B	125	

9-6 部材支保工の在地期間

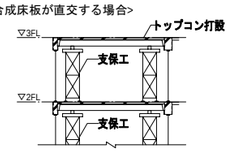
施工時荷重を分散させるため，PC合成床板下の支保工は2層受けとする．



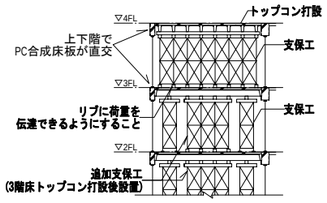
3階床トップコン打設時　　4階床トップコン打設時

上下階でPC合成床板を直交させて架設する場合，施工時荷重を分散させるため，PC合成床板下の支保工は3層受けとする．

<例：3階，4階でPC合成床板が直交する場合>



3階床トップコン打設時



4階床トップコン打設時

9-7 施工業者

業者名　一般社団法人　プレストレスト・コンクリート建設業協会の加盟会社の内、1社とする．

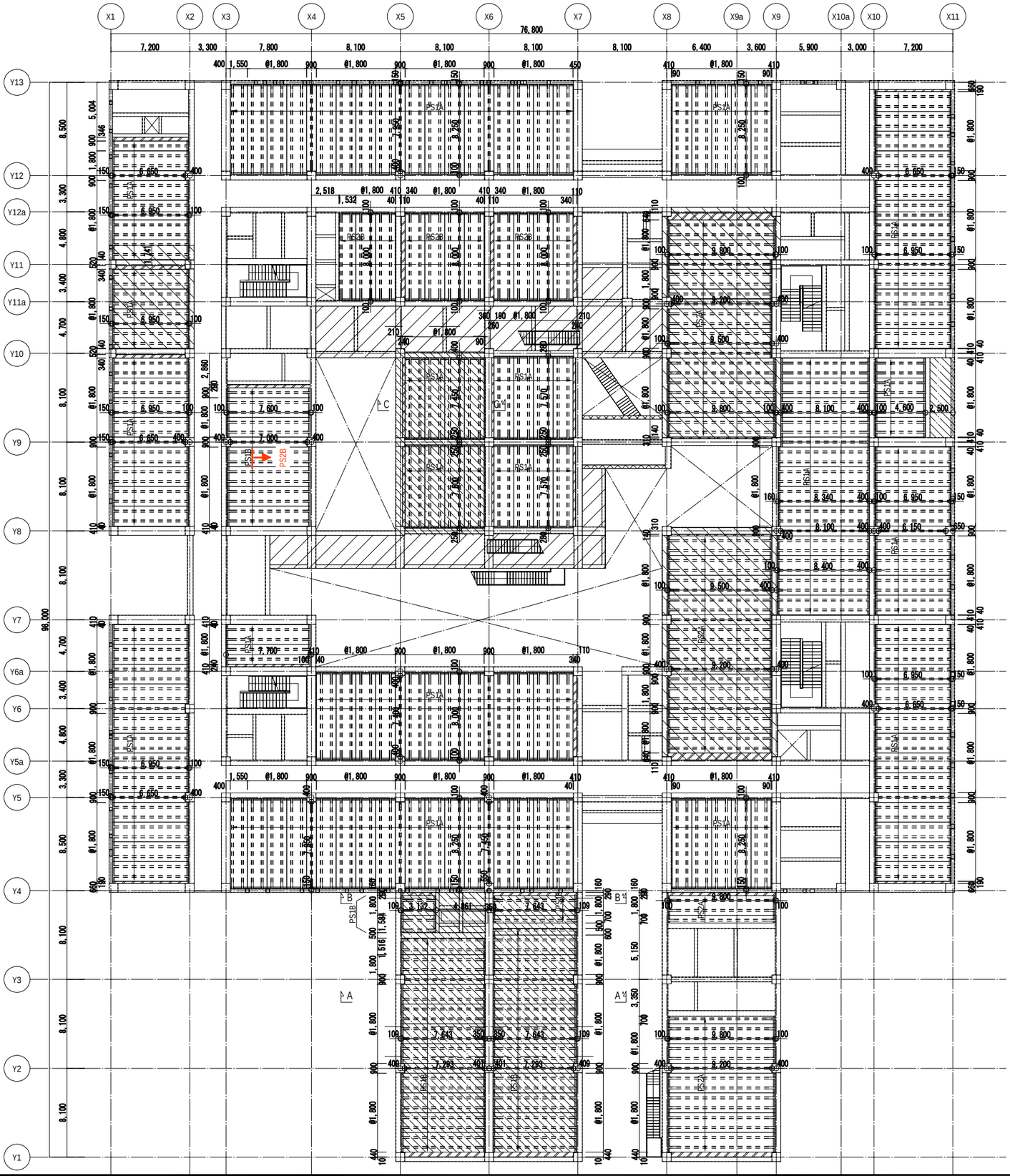
訂正

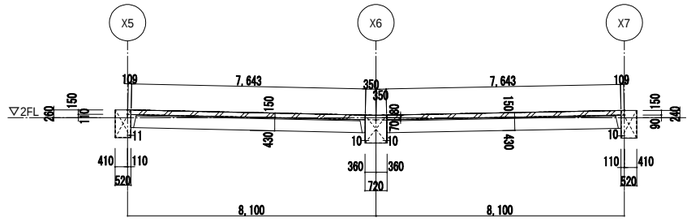
件名：岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事

図面名称：プレストレストコンクリート合成床板製作・工事特記事項

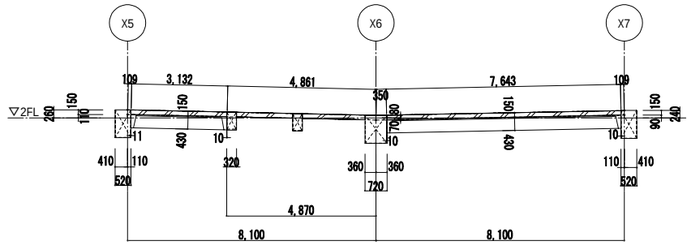
縮尺：A1版1:N.S　A3版1:N.S

図面番号：S-071

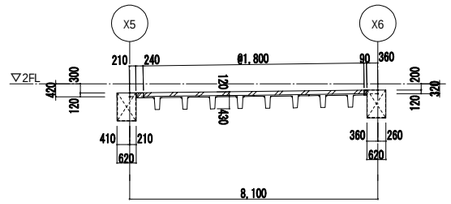




A-A'断面図 1/100



B-B'断面図 1/100



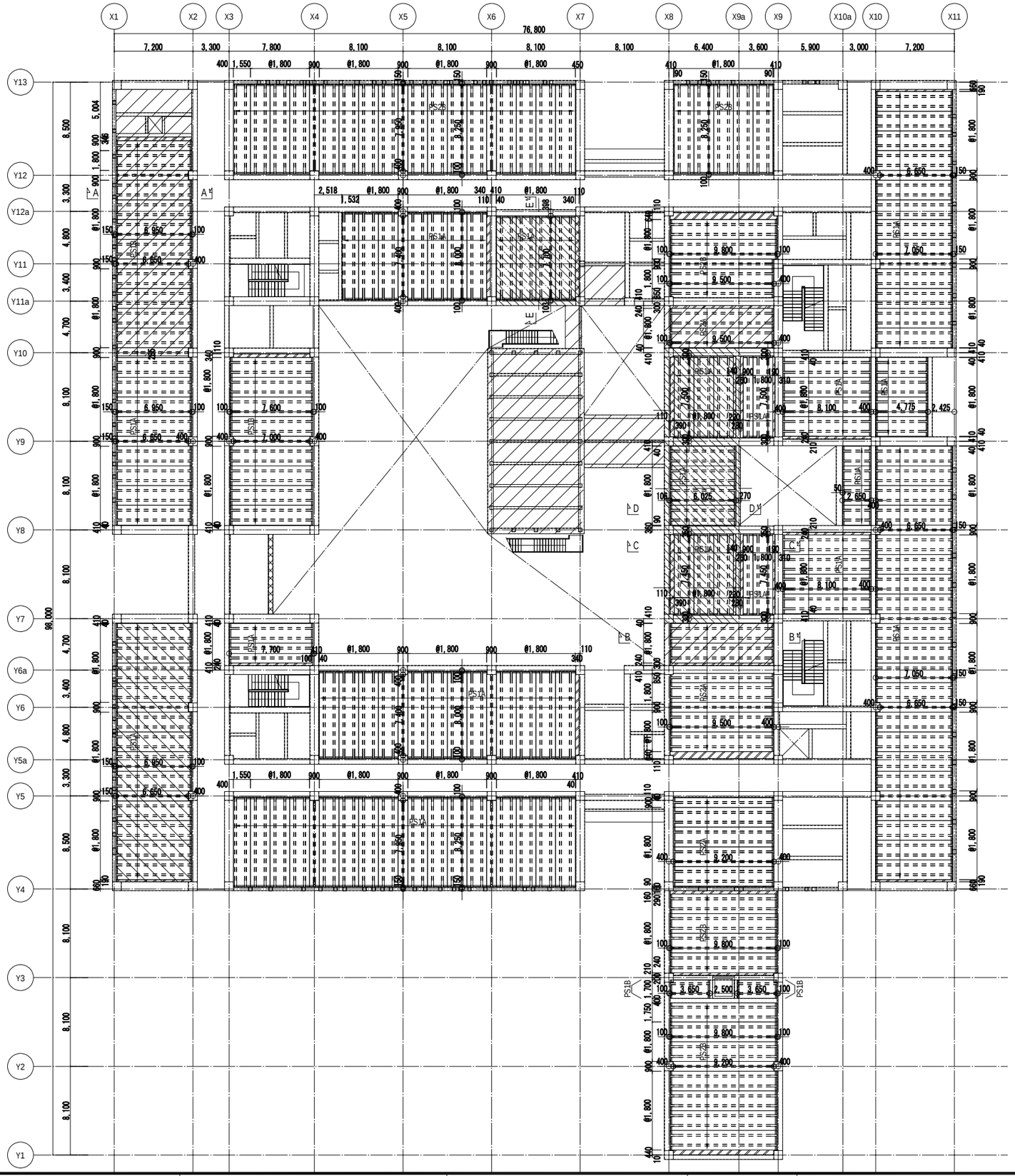
C-C'断面図 1/100

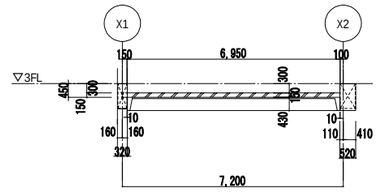
2階 PC合成床板割付図

特記なき限り下記による

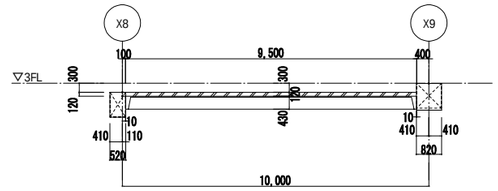
1. トップコン Fc=30N/mm²
2. ▨ 印は現場打ちスラブ範囲を示す
3. スラブ上端 : FL-10
   - ▧ : FL-100
   - ▩ : FL-150
   - ▨ : FL-300
   - ▤ : 断面図による

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	2階PC合成床割付図	A1版1:100,200 A3版1:200,400	S-072

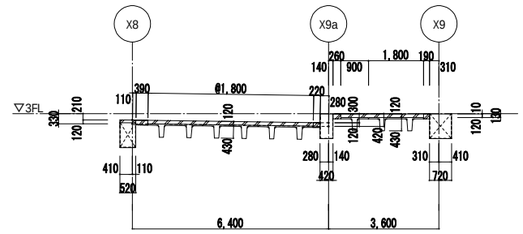




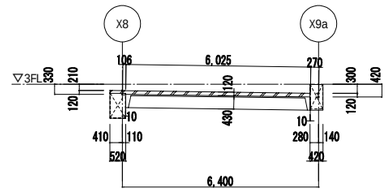
A-A'断面図 1/100



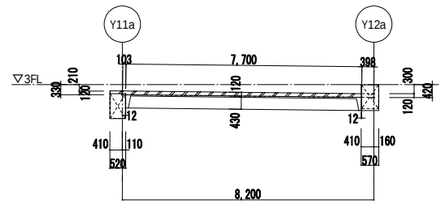
B-B'断面図 1/100



C-C'断面図 1/100



D-D'断面図 1/100



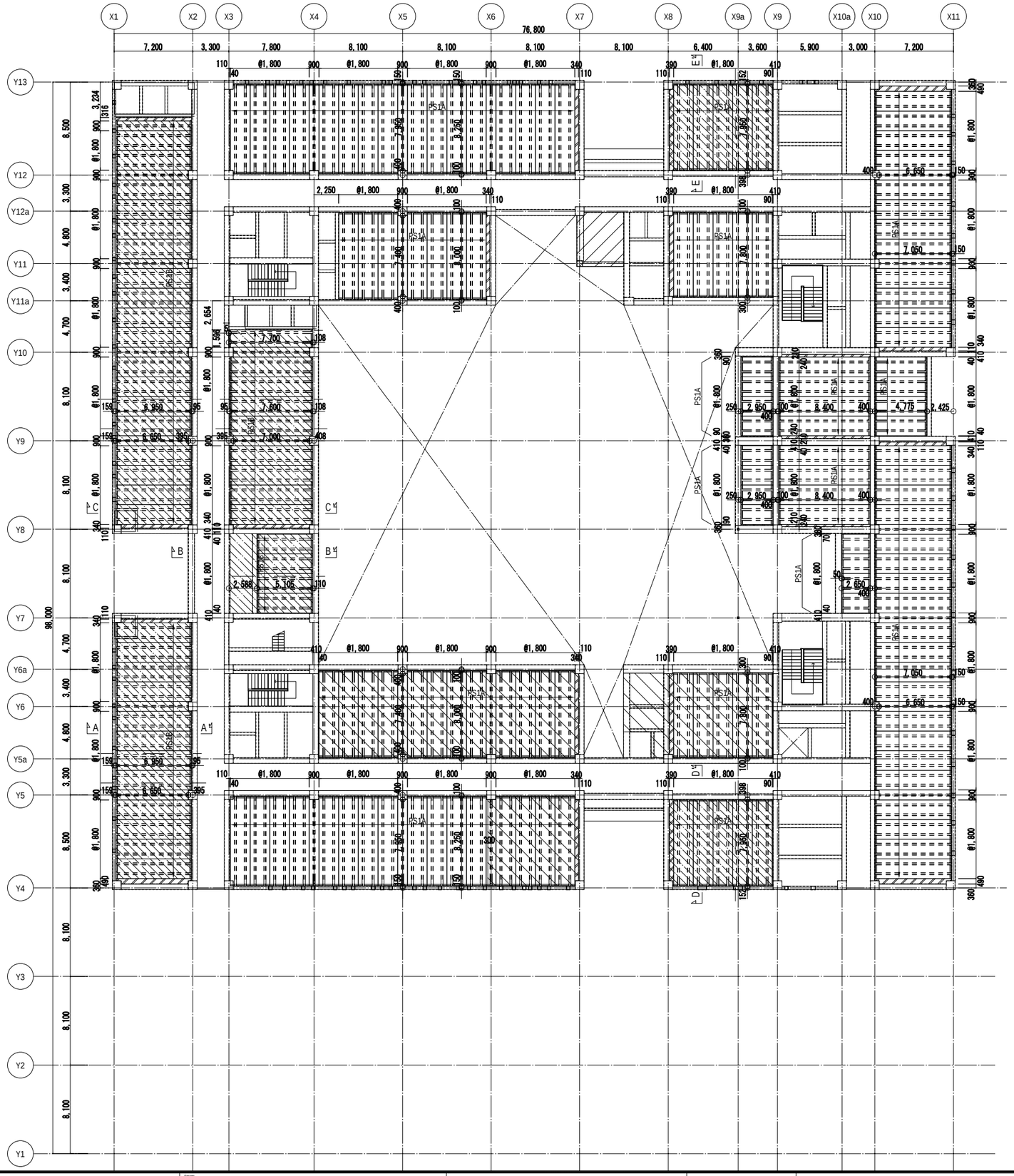
E-E'断面図 1/100

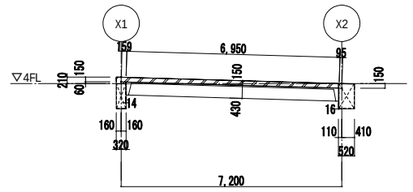
3階 PC合成床板割付図

特記なき限り下記による

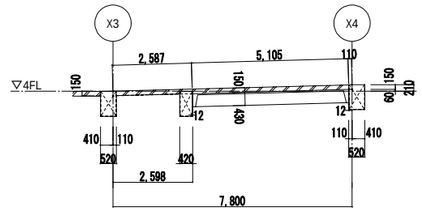
1. トップコン Fc=30N/mm²
2. ▨ 印は現場打ちスラブ範囲を示す
3. スラブ上端 : FL-10
   - ▧ : FL-100
   - ▩ : FL-150
   - ▨ : FL-300
   - ▧ : 断面図による

訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称: 3階PC合成床板割付図	縮尺: A1版1:100,200 A3版1:200,400
		S-073

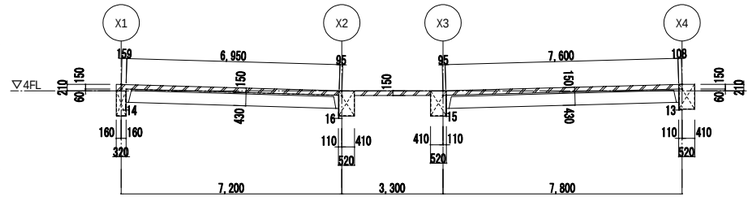




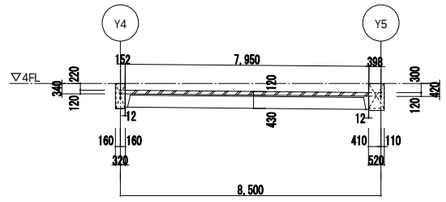
A-A'断面図 1/100



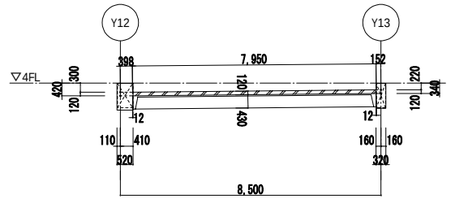
B-B'断面図 1/100



C-C'断面図 1/100



D-D'断面図 1/100



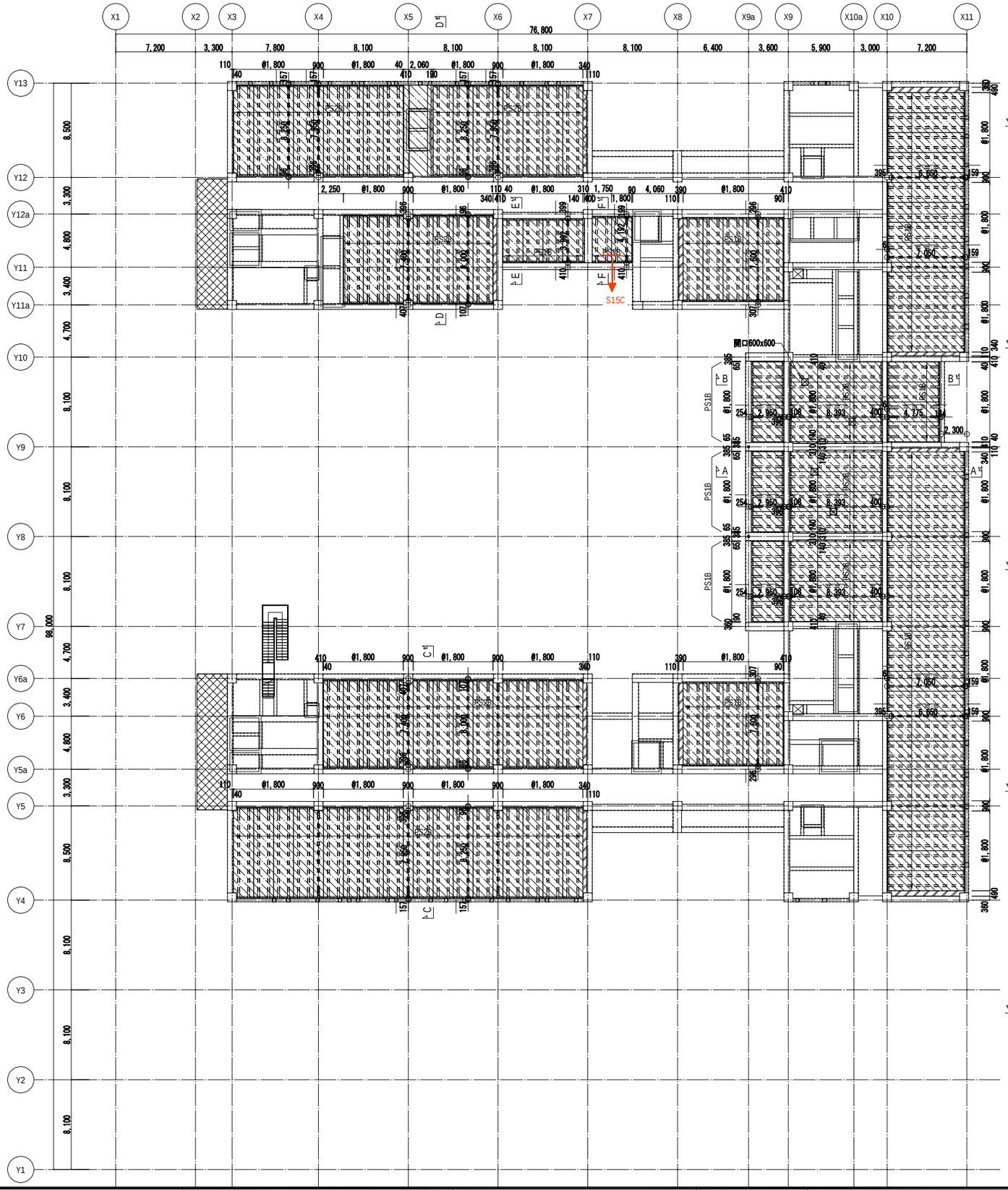
E-E'断面図 1/100

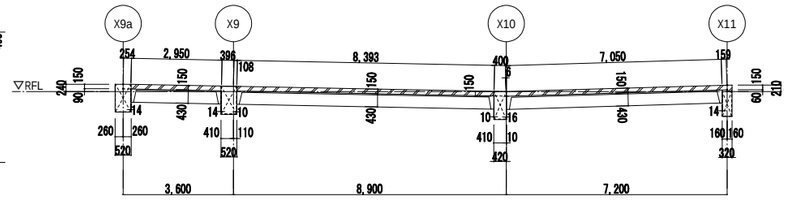
4階 PC合成床板割付図

特記なき限り下記による

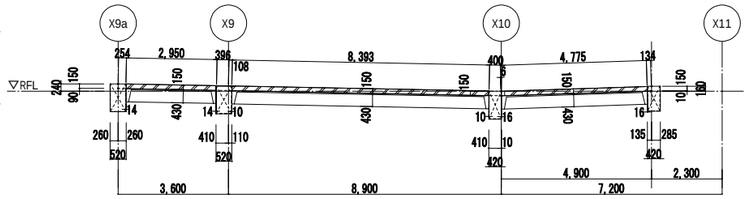
1. トップコン Fc=30N/mm²
2. ▨ 印は現場打ちスラブ範囲を示す
3. スラブ上端 : FL-10
   - ▨ : FL-100
   - ▨ : 断面図による

訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称: 4階PC合成床板割付図	縮尺: A1版1:100,200 A3版1:200,400
		S-074

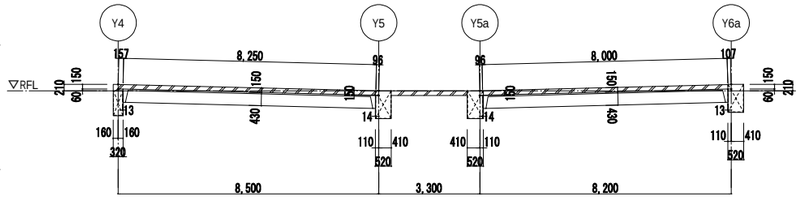




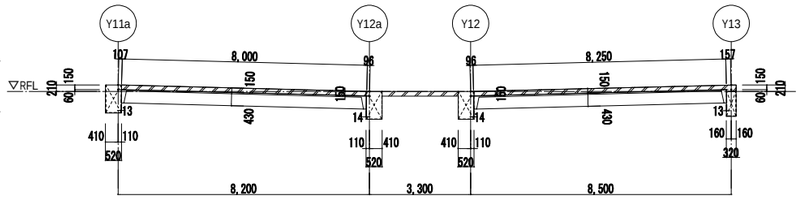
A-A'断面図 1/100



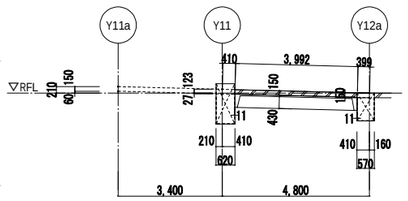
B-B'断面図 1/100



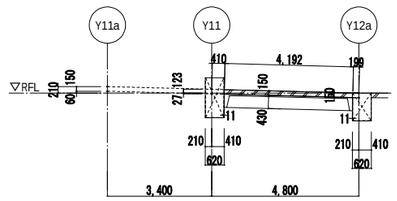
C-C'断面図 1/100



D-D'断面図 1/100



E-E'断面図 1/100



F-F'断面図 1/100

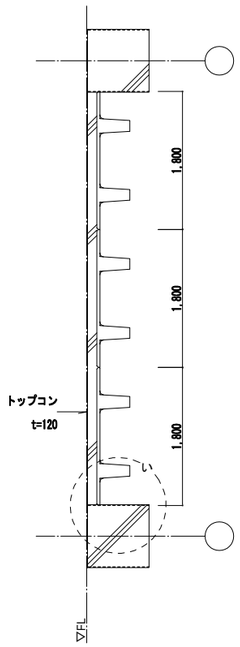
R階 PC合成床板割付図

特記なき限り下記による

1. トップコン Fc=30N/mm²
2. ▨ 印は現場打ちスラブ範囲を示す
3. スラブ上端 : FL±0
   ▩ : FL-700
   ▨ : 断面図による

訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称: R階PC合成床板割付図	縮尺: A1版1:100,200 A3版1:200,400
		S-075

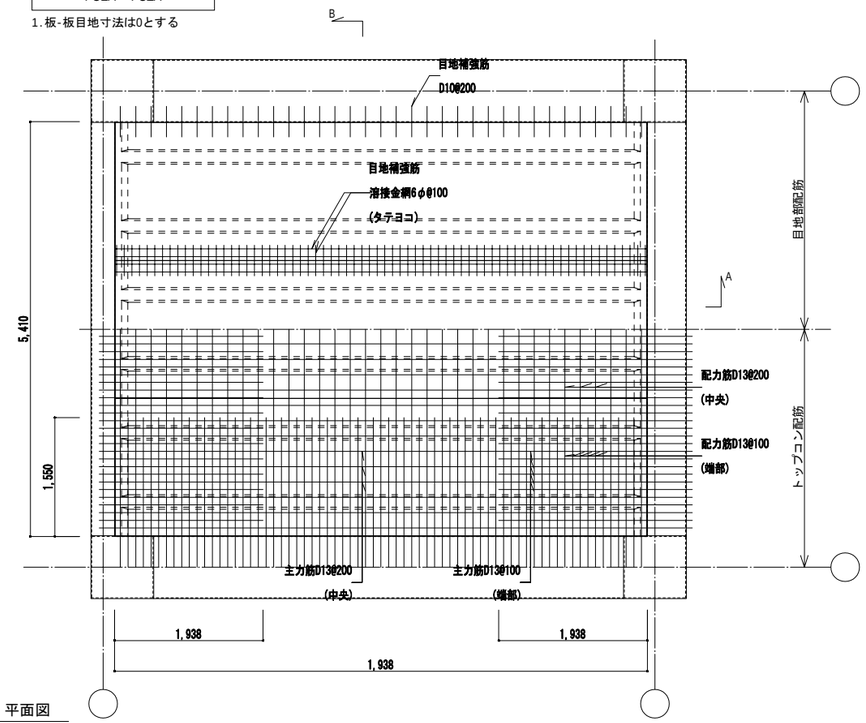
トップコン配筋図 1/40



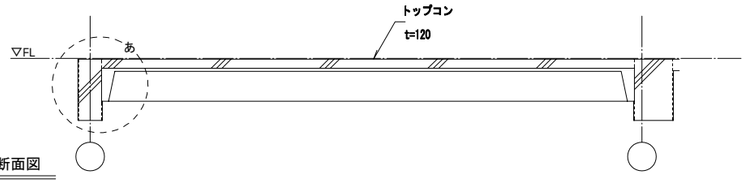
B断面図

PS1A・PS2A

1.板-板目地寸法は0とする



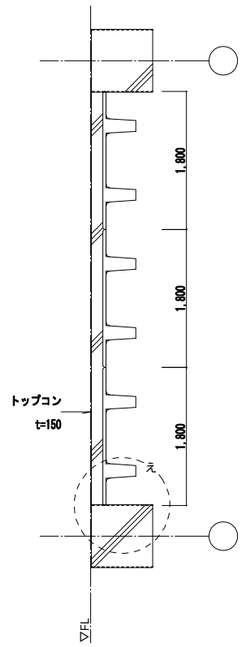
平面図



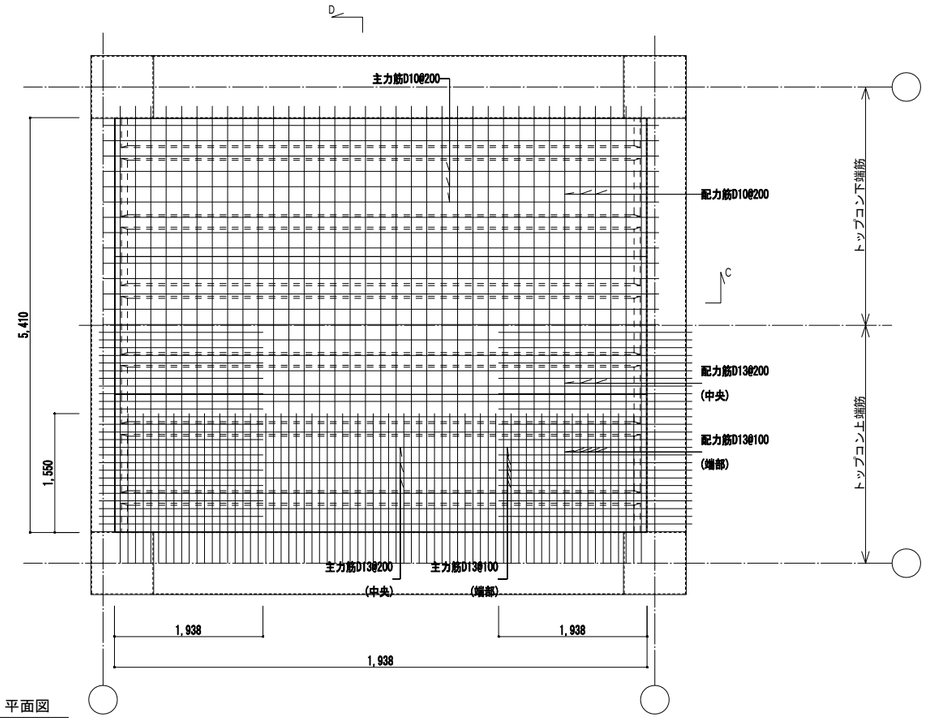
A断面図

PS1B・PS2B

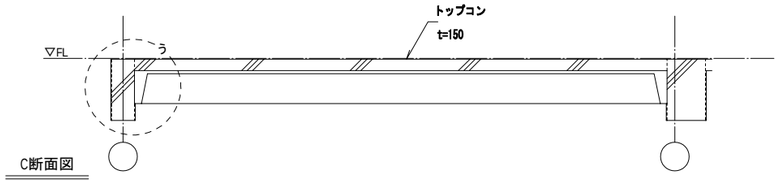
1.板-板目地寸法は0とする



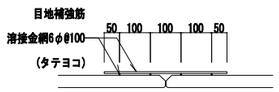
D断面図



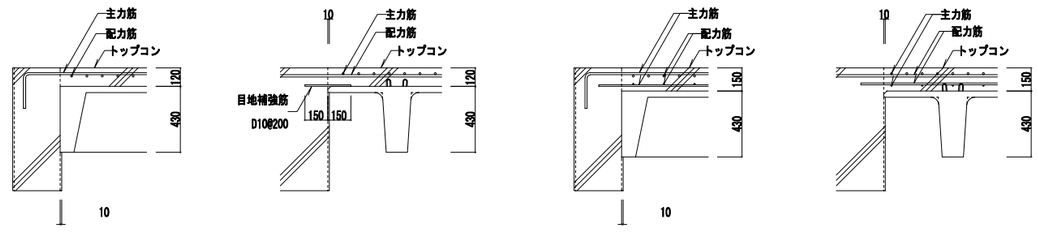
平面図



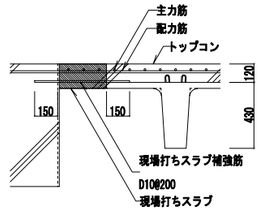
C断面図



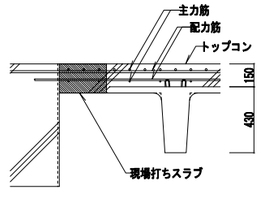
目地補強筋詳細図 1/10



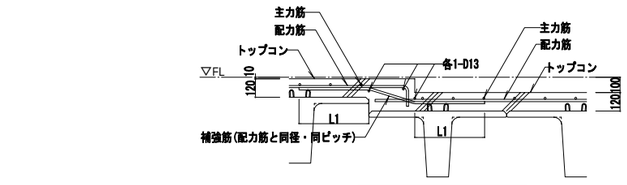
あ部詳細図 1/20　い部詳細図 1/20　う部詳細図 1/20　え部詳細図 1/20



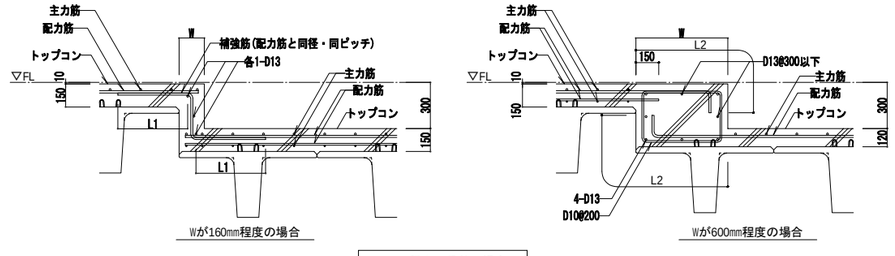
い部詳細図(現場打ちスラブがある場合) 1/20



え部詳細図(現場打ちスラブがある場合) 1/20



100mm程度の段差の場合



300mm程度の段差の場合

1．下端筋はトップコン厚が150mmの場合のみ

トップコンに段差ができる場合の凡例 1/20

PC合成床板リスト

トップコン強度 (Fc)	トップコン厚 (mm)	基本部材長	符　号	PC鋼材本数	位　置	トップコン配筋			
						主力筋		配力筋	
						端　部	中　央	端　部	中　央
30N/mm²	120	L<8.5m	PS1A	3c-12.7φ(SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	—	—	—	—
		L≧8.5m	PS2A	5c-12.7φ(SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	—	—	—	—
	150	L<7.7m	PS1B	3c-12.7φ(SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
		L≧7.7m	PS2B	5c-12.7φ(SWPR7BL)	上端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200
					下端筋	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200

訂正	

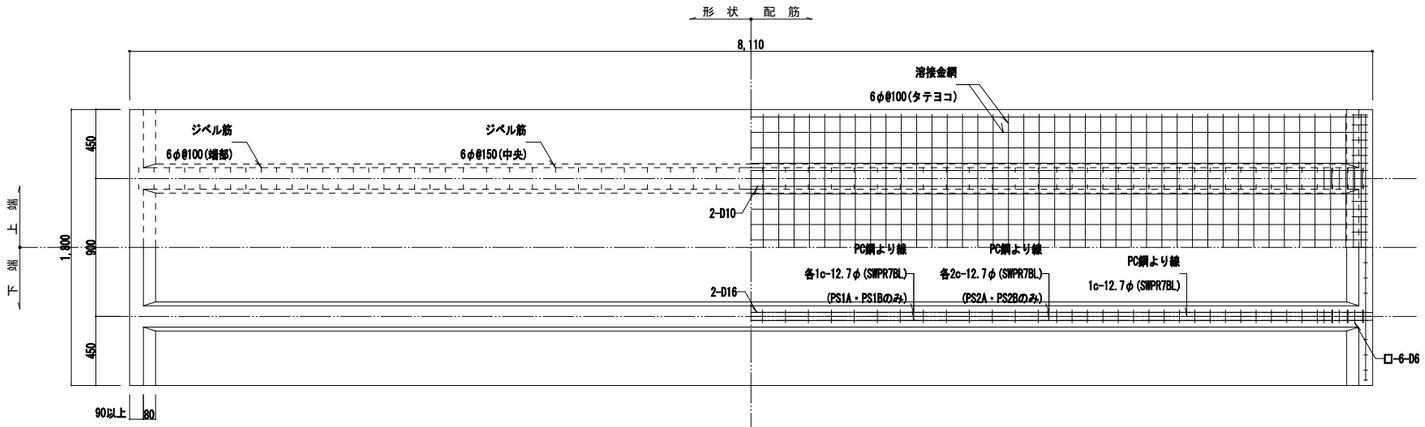
件名　岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称　PC合成床板リスト-1

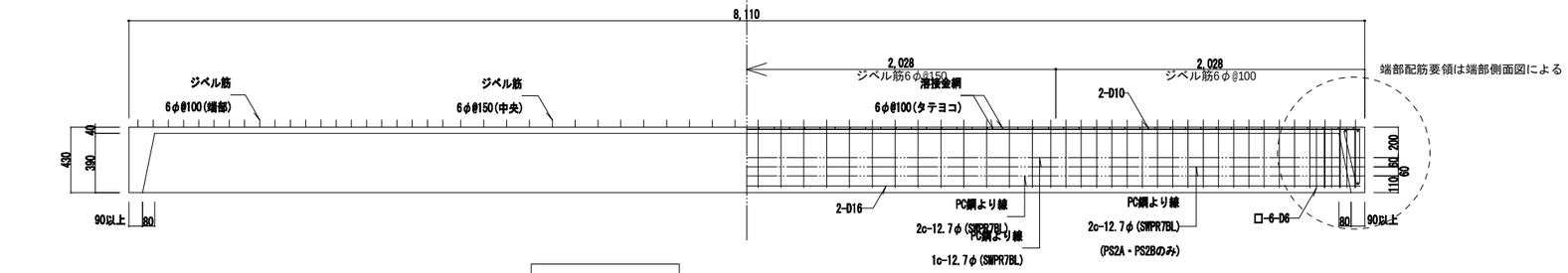
縮尺　A1版1:10,20,40　A3版1:20,40,80

図面番号　S-076

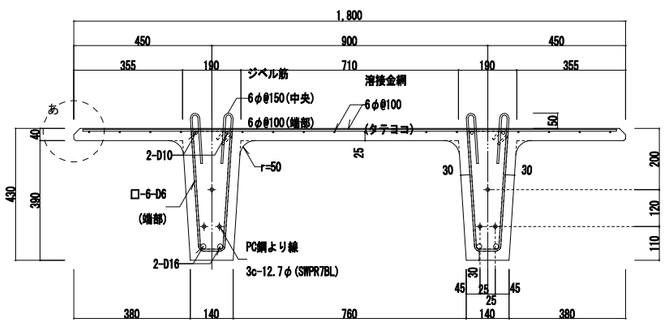
PC合成床板形状配筋図



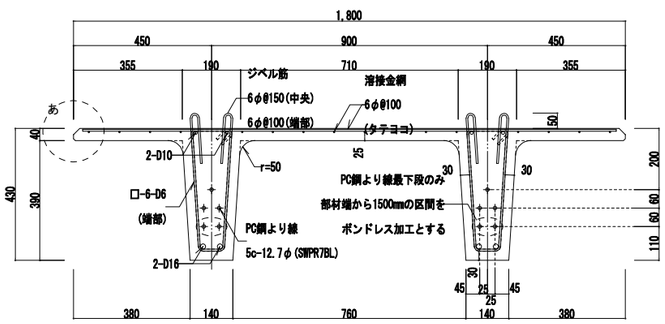
平面図 1/20



側面図 1/20



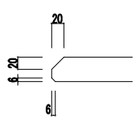
PS1A・PS1Bの場合



PS2A・PS2Bの場合

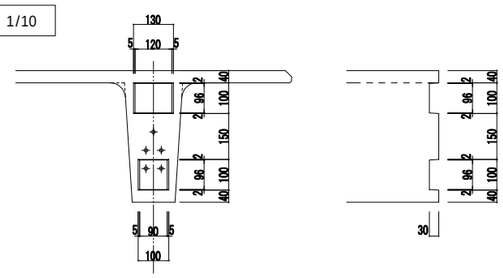
標準断面図 1/10

1.※印はかぶりを示す

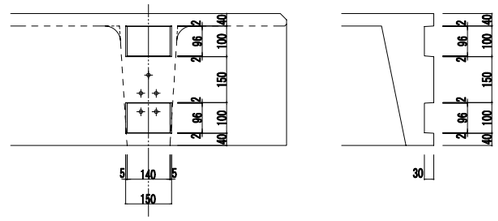


あ部詳細図 1/5

端部コッター形状図 1/10



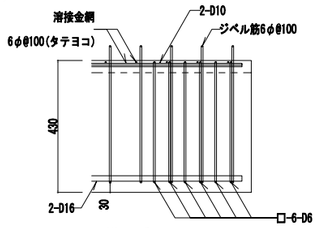
横リブなし



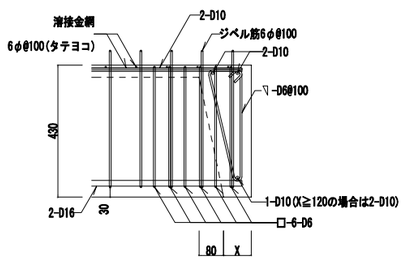
横リブあり

端部側面図 1/10

1.※印はかぶりを示す



横リブなし



横リブあり

・X≦90とする.

・PC合成床板の材長はXで調整しても良い.

訂正			件名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事			
			図面名称	PC合成床板リスト-2	縮尺	A1版1:5,10,20 A3版1:10,20,40	図面番号 S-077

小梁・片持ち梁断面リスト

共通事項：幅止め筋、腹筋、二段受け筋は鉄筋コンクリート構造基準参照

符号	b50	b55		b55A			b60		b60A		b60B			b65		b70		b80	
位置	全断	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	両端	中央	両端	中央
断面	250×500	300×550	300×550	300×550	300×550	300×550	300×600	300×600	400×600	400×600	400×600	400×600	400×600	500×650	500×650	300×700	300×700	300×800	300×800
上端筋	2-D19	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22	5-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下端筋	3-D19	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	4-D22	6-D22	4-D22	4-D22	4-D22	5-D22	6-D22	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22
スターラップ	2-D10 @200	2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200		2-D10 @200		2-D10 @200	
備考																			

符号	b80A			b80B		b80C		b80D			b80F		b85	b90		b90A			b90B	
位置	他端	中央	連続端	両端	中央	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	全断	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央
断面	300×800	300×800	300×800	300×800	300×800	400×800	400×800	400×800	400×800	400×800	400×800	400×800	550×850	300×900	300×900	300×900	300×900	300×900	300×900	300×900
上端筋	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	4-D25	4-D25	4-D22	4-D22	7-D22	7-D22	4-D22	7-D29	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	7-D25	8-D25	4-D22	5-D22	4-D22	4-D22	5-D22	7-D29	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22
スターラップ	2-D10 @200			2-D10 @200		2-D13 @150		2-D13 @200			2-D13 @200		4-D13 @100	2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200	
備考																				

符号	b90C		b90D		b90E			b90F		b100		b100A			b100B		b100C		b100D		
位置	両端	中央	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	両端	中央	他端	中央	連続端
断面	400×900	400×900	500×900	500×900	500×900	500×900	500×900	600×900	600×900	300×1,000	300×1,000	300×1,000	300×1,000	300×1,000	300×1,000	300×1,000	400×1,000	400×1,000	400×1,000	400×1,000	400×1,000
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D22	5-D22	9-D22	5-D25	5-D25	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	7-D22
下端筋	4-D25	7-D25	5-D25	8-D25	5-D22	6-D22	5-D22	5-D25	10-D25	3-D22	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	7-D22	4-D22	5-D22	4-D22
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200		2-D13 @200			3-D13 @200		2-D10 @200		2-D10 @200			2-D10 @200		2-D13 @200		2-D13 @200		
備考																					

符号	b100E		b100F			b100G		b120		b130		Fb55	Fb180	cb55・Fcb55	
位置	両端	中央	他端	中央	連続端	両端	中央	両端	中央	全断		全断	全断	元端	先端
断面	400×1,000	400×1,000	500×1,000	500×1,000	500×1,000	500×1,000	500×1,000	腹筋 6-D10 180×1,200	腹筋 6-D10 180×1,200	腹筋 6-D10 600×1,300		300×550	350×1,800	300×550	300×550
上端筋	7-D22	4-D22	5-D22	5-D22	8-D22	8-D22	5-D22	2-D16	2-D16	5-D25		3-D22	3-D22	5-D22	3-D22
下端筋	4-D22	4-D22	5-D22	6-D22	5-D22	5-D22	5-D22	2-D16	4-D16	8-D25		3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
スターラップ	2-D13 @200		2-D13 @200			2-D13 @200		2-D10 @200		2-D13 @200		2-D10 @200	2-D13 @200	2-D10 @200	
備考															

符号	CB1		CB2		CB3		CB4		CG4		CG11		CG12			
位置	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端	元端	先端		
断面	750×1,000	750×1,000	750×1,000	750×1,000	750×1,000	750×1,000 (R,4筋)1,000 (3筋)800 (2筋)900	750×1,000	750×550	750×1,000	750×550	500×900	500×900	750×900	750×900		
上端筋	11-D25	6-D25	11-D25	6-D25	13-D25	7-D25	11-D25	7-D25	12-D25	6-D25	5-D25	4-D25	13-D25	7-D25		
下端筋	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	7-D25	7-D25	7-D25	7-D25	6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	7-D25	7-D25		
スターラップ	3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		3-D13 @200		2-D13 @200		4-D13 @200			
備考																

訂正

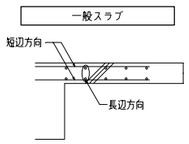
件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事

図面名称 小梁・片持梁断面リスト

縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-078

スラブリスト

形状	符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
	S15	t=150	上	D10,D13@200	D10@200	
			下	D10@200	D10@200	
	S15A	t=150	上	D13@150	D13@200	
			下	D10,D13@150	D10,D13@200	
	S15B	t=150	上	D13@100	D10,D13@200	
			下	D10,D13@100	D10@200	
	S15C	t=150	上	D13@100	D13@100	
			下	D13@100	D13@100	
	S15D	t=150	上	D13@100	D13@100	
			下	D13@100	D13@100	
	S18	t=180	上	D13@200	D10@200	
			下	D10,D13@200	D10@200	
	S25	t=250	上	D13@200	D10,D13@200	
			下	D13@200	D10,D13@200	
	CS15	t=150	上	D13@150	D10@200	
			下	D10@150	D10@200	
	CS25	t=250	上	D13@100	D13@200	
			下	D10,D13@100	D10,D13@200	
	KS1	t=150	上	D13@100	D13@200	階段踊り場
			下	D10,D13@100	D10,D13@200	
	土間 コンクリート	t=180	上	D13@200	D13@200	
			下	D13@200	D13@200	

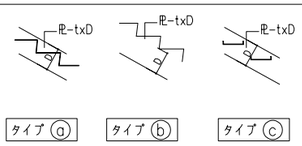
階段リスト

鉄骨階段リスト

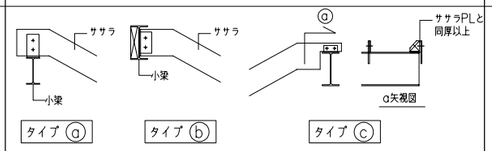
鋼材材質：無印はSS400Bとする。ただし、間柱および、踊場受梁は小梁リストによる。 SS400
アンカーボルトはSS400、H.T.BはS10T（屋外に露出する部材はめっきボルト（認定品））とする。　RC取合部の無収縮モルタルはt＝30とする。

名称	階段形状	ササラ形状	ササラ断面サイズ	ササラ継手	段板	踊場踏板（躍場リブ）	間柱	中間踊場受梁	備考
屋外階段1	直線階段	ⓐ	PL-19X300	(ピン接合) GPL-19 HTB 3-M16 (RC接合) BP-19×400×140 A.BOLT 2-M16	PL-4.5	PL-9 （PL-12X270）	SP2	csb15W	・間柱、中間踊場受梁の配置は伏図参照。 ・踊場部分中央のササラせいは270以上とする。 ・ササラ、小梁の納まりはタイプ ⓑ とする。
屋外階段2,3,4,5	直線階段	ⓒ	PL-19X1000	(ピン接合) GPL-19 HTB 3-M16 (RC接合) BP-22×300×200 A.BOLT 4-M20	~~PL-4.5~~ CT-75x150 x7x10	PL-19 （~~PL-19X180~~） (PL-9x100@300)	なし	なし	・詳細図はS-082,083図による。
屋外階段6	Ⓐ	ⓐ	PL-19X400	(ピン接合) GPL-19 HTB 3-M16 (RC接合) BP-19×400×140 A.BOLT 2-M16	~~PL-4.5~~ CT-75x150 x7x10	~~PL-9~~ （PL-12X270） PL-4.5	SP2,SP3	csb15W,sb20W	・詳細図はS-083図による。
階段形状	タイプ Ⓐ ○を付したPLはササラ1と同厚のPLを現場溶接にて取り付ける。								

ササラ形状

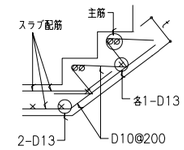


ササラ・小梁納まり



片持ち階段配筋リスト

配筋図

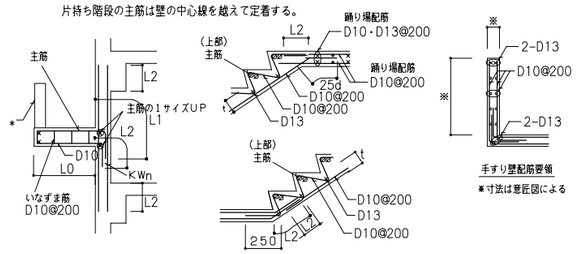


符号	手すり壁	t	持ち出し長さL	主筋
SA1	あり	150	1500<L≦2000	2-D16

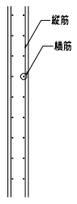
＊ 先端部の手すり壁（鉄筋コンクリート造）は、h＝1200以下とする。

階段の鉄筋の継手位置と定着

片持ち階段の主筋は壁の中心線を越えて定着する。

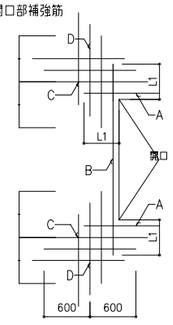


壁リスト

形状	種別	壁厚	壁の配筋		開口部補強筋 A．B共	開口部補強筋 C．D共
	W18,W18B	180	縦筋	D13@200	4-D13	6-D10
			横筋	D13@200		
	W18A	180	縦筋	D13@100	4-D13	6-D10
			横筋	D13@200		
	KW1	180	縦筋	D13@125	4-D13	6-D10
			横筋	D13@125		
	W25	250	縦筋	D16@200	4-D16	6-D13
			横筋	D16@200		
	W30	300	縦筋	D16@150	4-D16	6-D13
			横筋	D16@150		
	EW18	180	縦筋	D13@125	4-D13	6-D10
			横筋	D13@125		
	EW50X	500	縦筋	D22@150	4-D25	6-D22
			横筋	D22@150		
	EW50Y	500	縦筋	D22@150	4-D25	6-D22
			横筋	D22@150		
	EW80X	800	縦筋	D22@150	6-D25	8-D22
			横筋	D22@150		
	EW80Y	800	縦筋	D22@150	6-D25	8-D22
			横筋	D22@150		

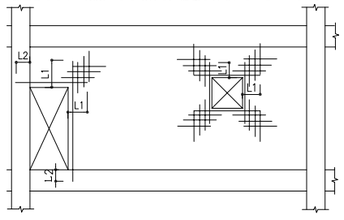
開口補強要領

開口部補強筋

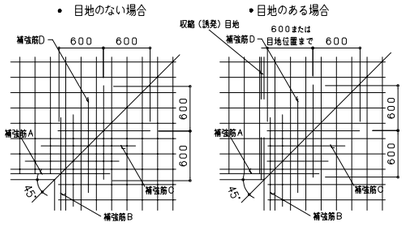


補強筋C,Dの範囲には
スリーブ貫通は設けない

開口部の最大寸法が３００以下で，鉄筋をゆるやかに曲げることにより
開口部をさけて配筋できる場合は，補強を省略することができる。



開口部鉄筋補強筋の詳細



鉄骨部材リスト

共通事項：鋼材：SS400（GPLおよびSPLを含む）、突合せ溶接を伴う部材はSN400Bとする。
ボルト：高力ボルト（HTB）S10T ，頭付スタッドボルト：鉄骨基準図による。
屋外に露出する部材は、溶融亜鉛めっき ボルトはめっきボルト（認定品）とする。

符号	部材		継手 ピン接合		継手 剛接合 フランジ	継手 剛接合 ウェブ	備考
sb15W	全断	H -150x150x7x10	GPL-16	2-M16	-	-	
sb17W	全断	H -175x175x7.5x11	-		PL-9x290x175 2PL-9x 70x290 HTB 2x2-M20	2PL-9x 80x410 HTB 1x3-M20@60	
sb20	全断	H -200x100x5.5x 8	GPL-6	2-M16			
sb20W	全断	H -200x200x8x12	GPL-9	2-M16	PL-9x410x200 2PL-9x 80x200 →410 HTB 3x2-M20	2PL-6x140x350 HTB 2x2-M20@60	
csb15W	全断	H -150x150x7x10	GPL-6	2-M16	-	-	元端アンカー仕様は S-082図による
csb20W	全断	H -200x200x8x12	GPL-6	2-M16	-	-	元端アンカー仕様は S-084図による
SP1	全断	□-200x200x12	GPL-19	6-M22	-	-	柱脚仕様は S-084図による
SP2	全断	H -150x150x7x10	GPL-9	2-M16	PL-9x290x150 2PL-9x 60x150 →290 HTB 2x2-M20	2PL-9x 80x290 HTB 1x2-M20@60	柱脚仕様は S-082図による
SP3	全断	H -200x200x8x14 → 12	GPL-9	2-M16	-	-	柱脚仕様は S-082図による
V1	全断	1-M16	GPL-6	1-M16	-	-	JISターンバックル付ブレース
T1	全断	H -150x150x7x10	GPL-9	2-M16	-	-	

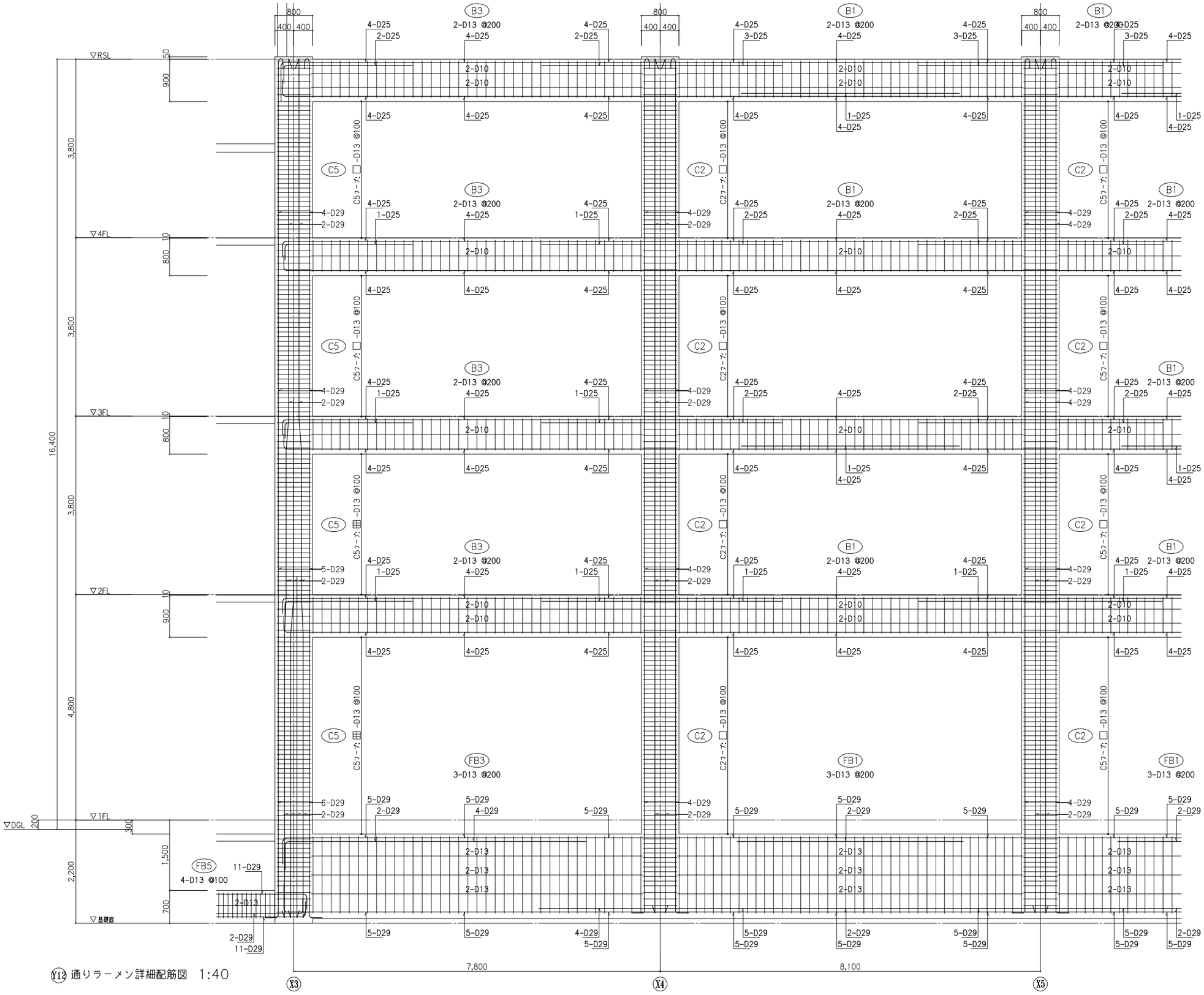
訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 スラブ・壁・階段・鉄骨部材リスト

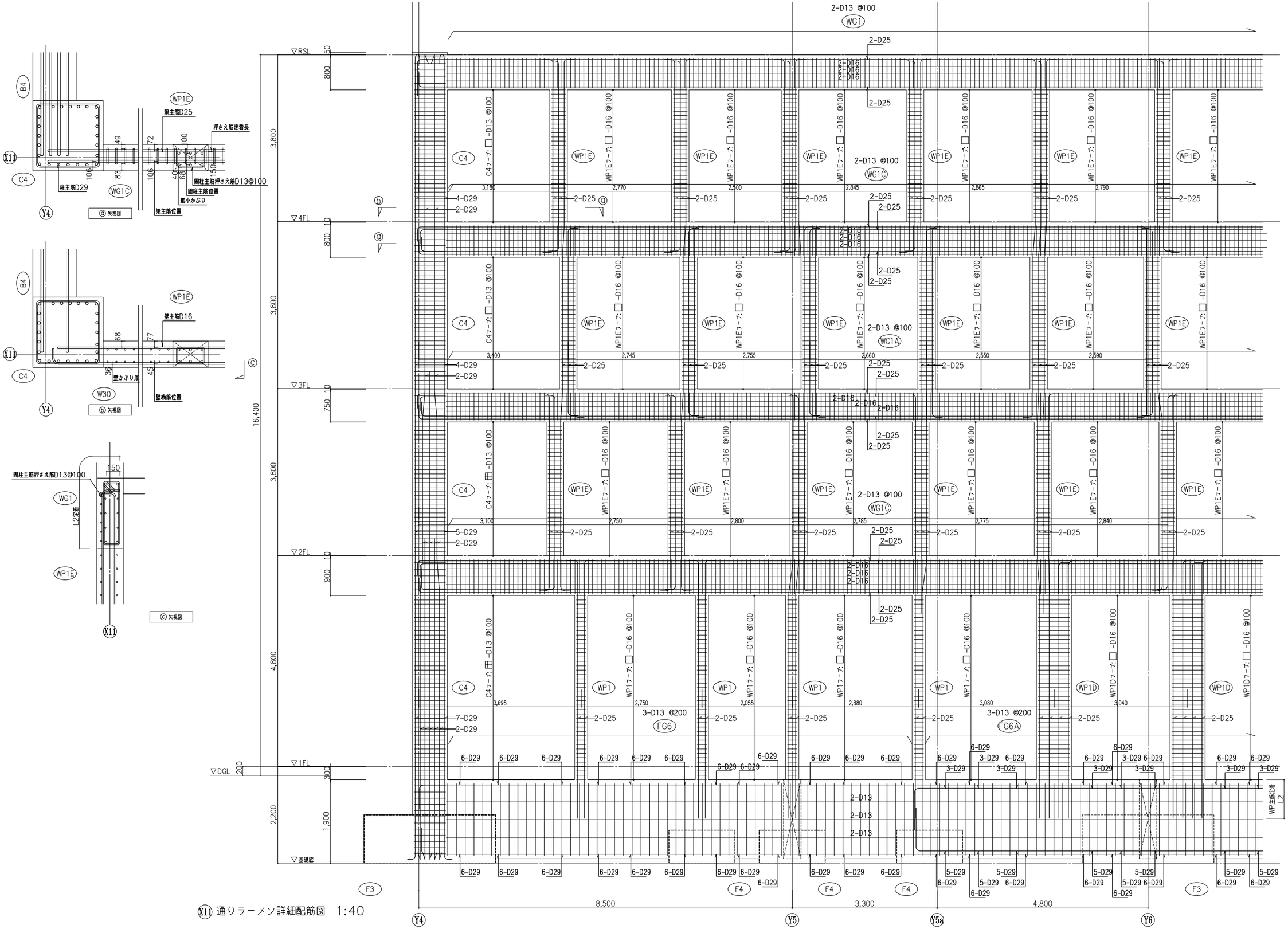
縮尺 A1版1:40 A3版1:80

図面番号 S-079



Y12 通りラーメン詳細配筋図　1:40

訂正	件名	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	
	図面名称: ラーメン詳細配筋図-1	縮尺: A1版1:40 A3版1:80
		S-080

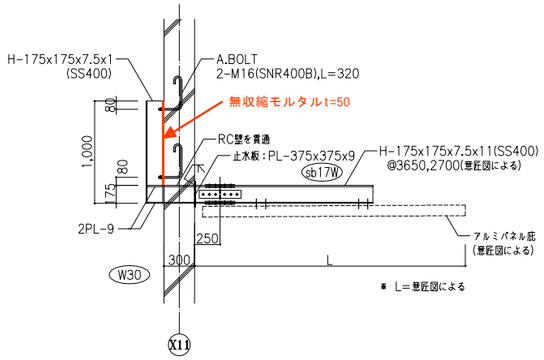


X11 通りラーメン詳細配筋図　1:40

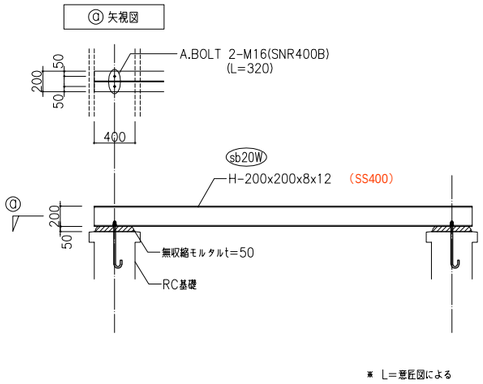
訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
-	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	ラーメン詳細配筋図-2	A1版1:40 A3版1:80	S-081

2階　アルミパネル庇受け材鉄骨詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）

※当該部材は、RC打設時に同時に施工する。
（継手より先端は打設後）

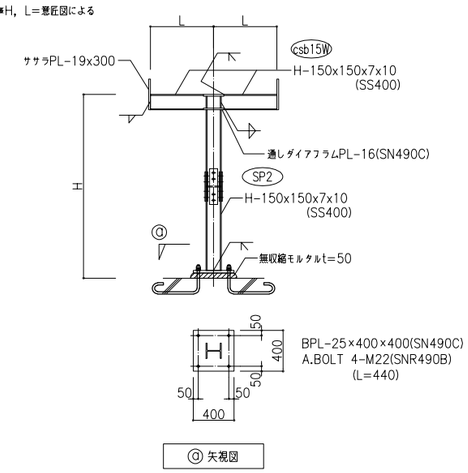


R階室外機置場鉄骨部材詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）

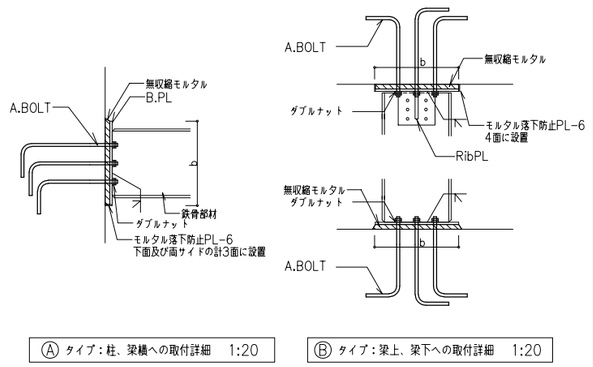


屋外階段1　中間支持部材詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）

※H，L＝意匠図による

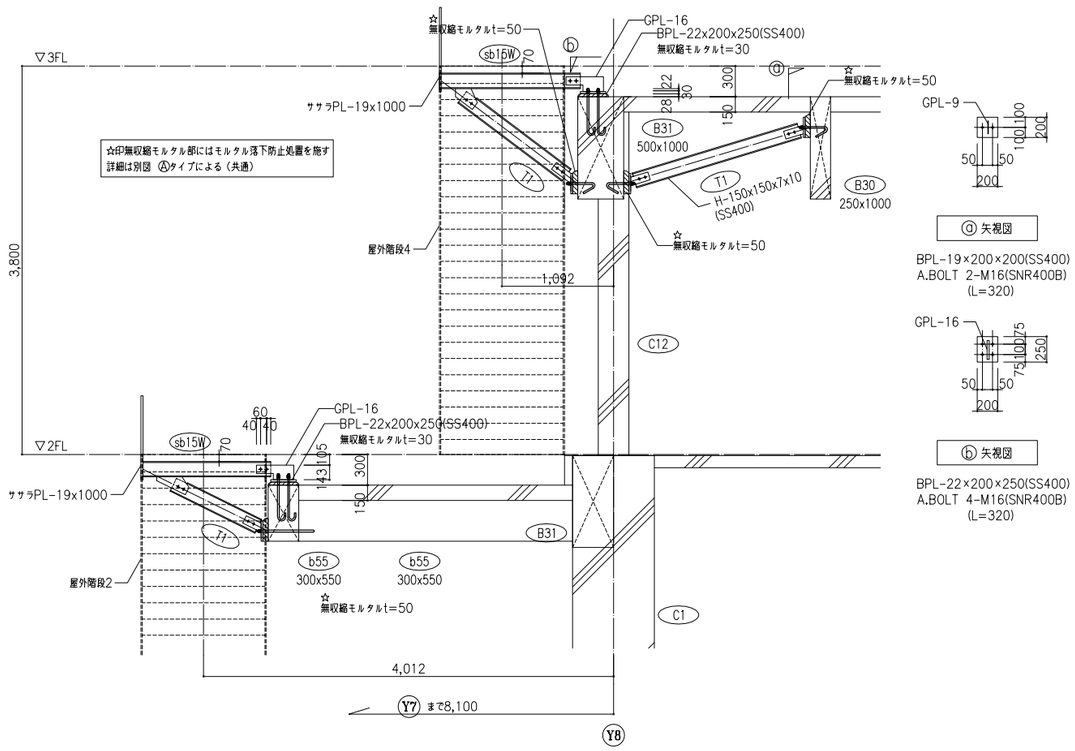


モルタル落下防止処置詳細図

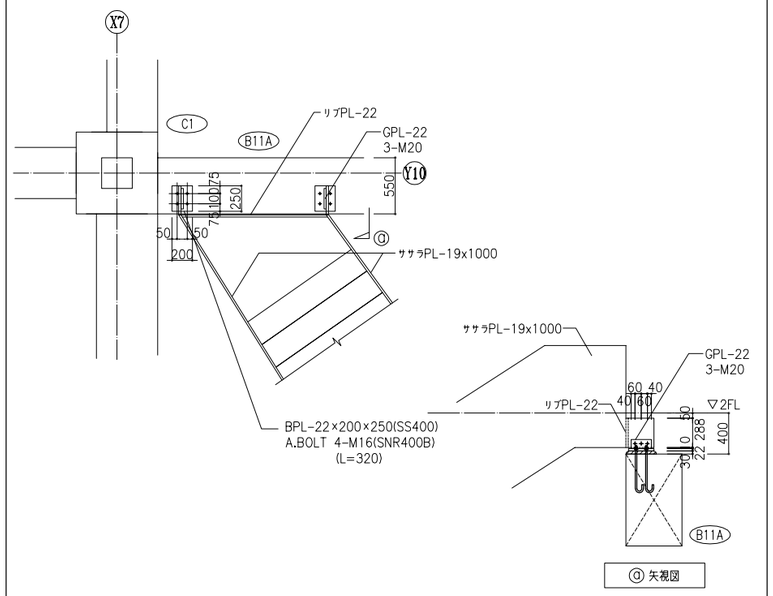


屋外階段2,4　上がり部分階段支持方法鉄骨詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）

※アンカーボルトSNR400Bは全て特記仕様書に準じる

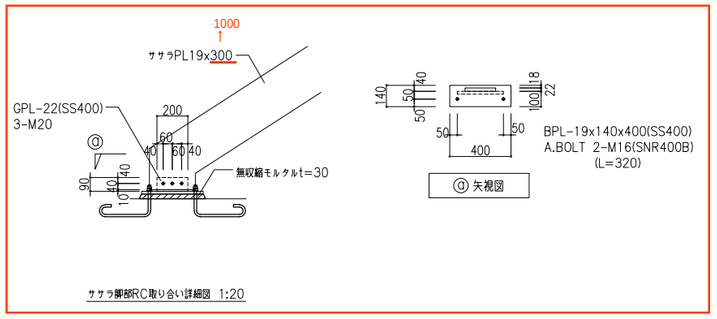


屋外階段3　ササラPLとRC梁の接合部詳細図

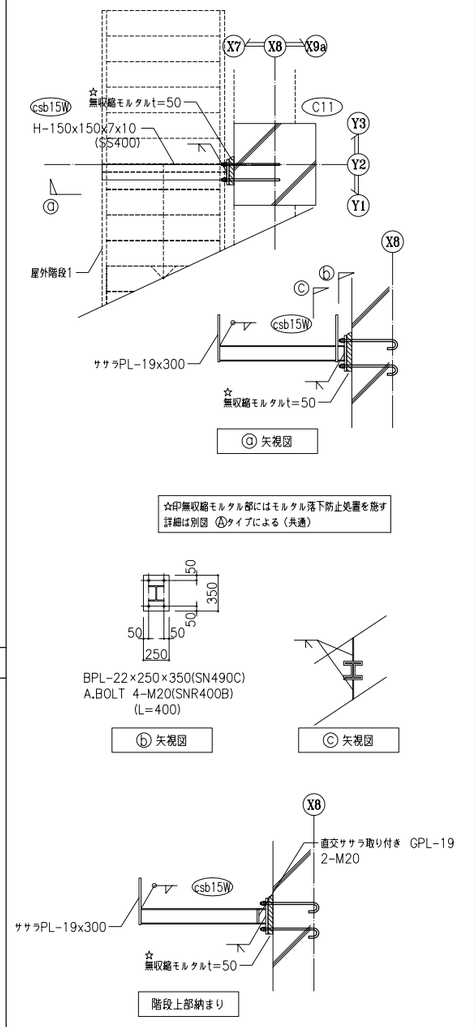


屋外階段3,5　ササラPL脚部詳細図(外部露出部は全て亜鉛めっき)

屋外階段2,3,4,5の脚部は、S-083図の屋外階段5の詳細に合わせる



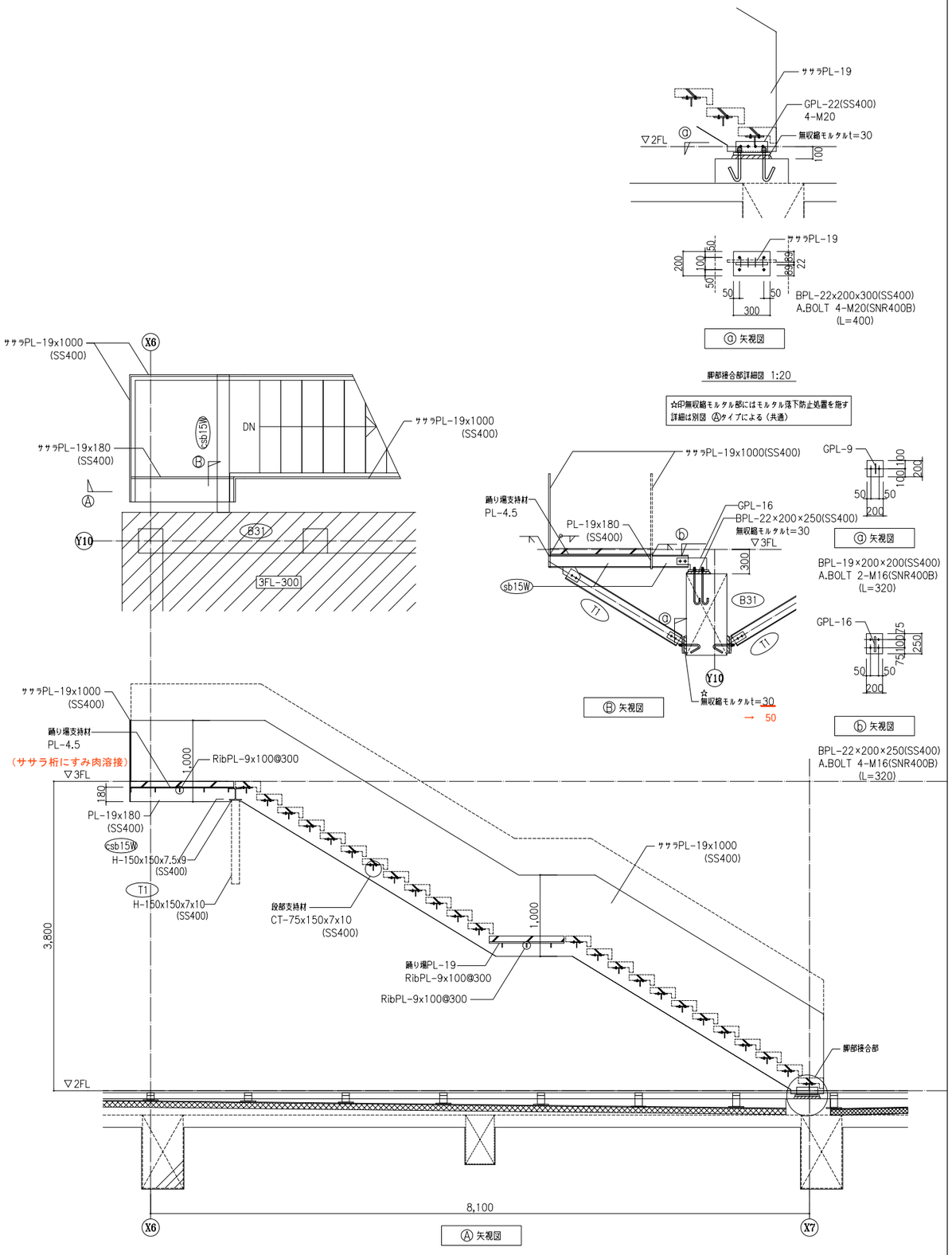
屋外階段1　RC柱から出す場合の鉄骨部材詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）



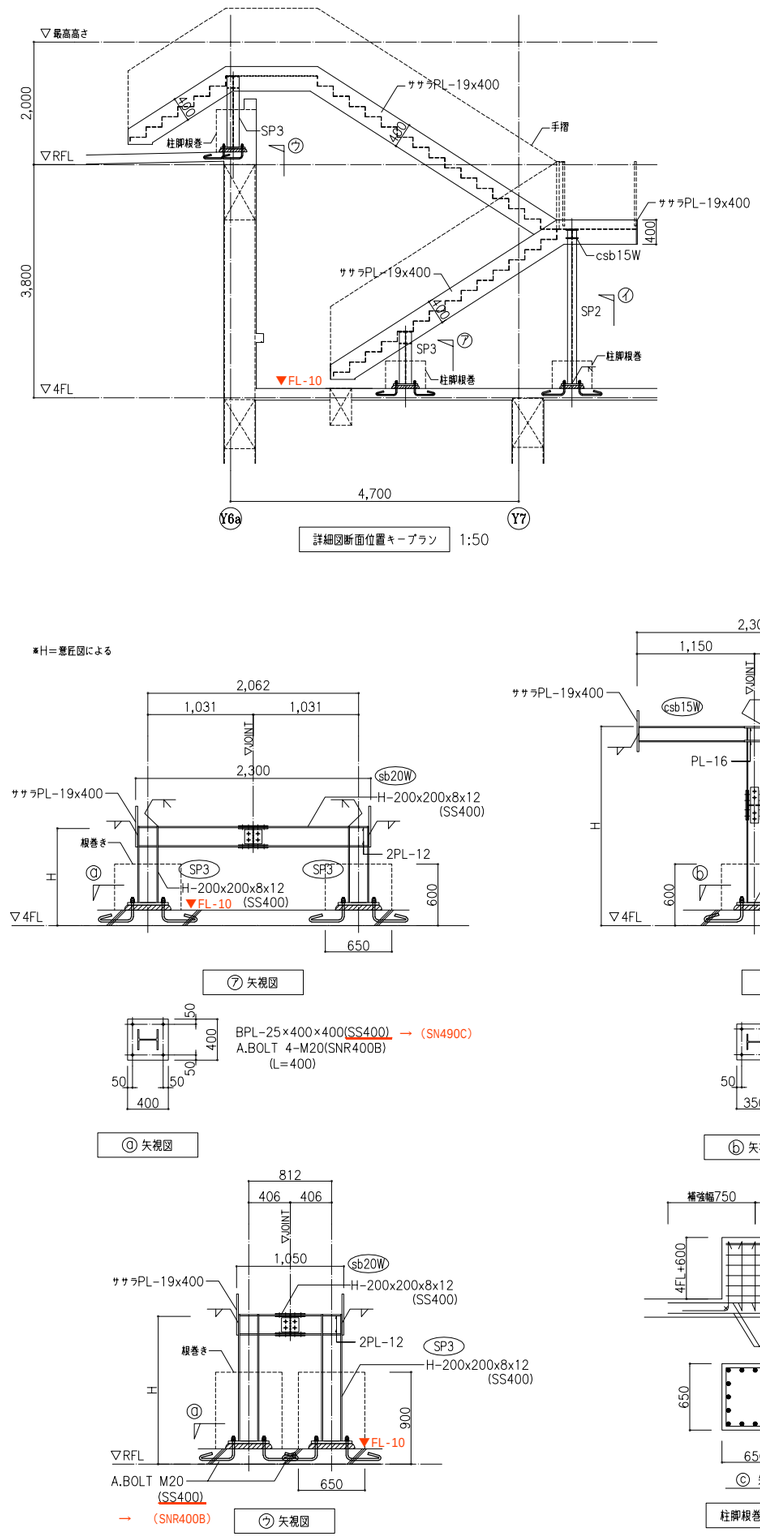
訂正	

工事名	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事
図面名称	雑詳細図-1
縮尺	A1版1:30 A3版1:60
図面番号	S-082

屋外階段5　鉄骨詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）　　※屋外階段4詳細図は以下の屋外階段5に準じること



屋外階段6　階段支持方法鉄骨詳細図（外部露出部は全て亜鉛めっき）

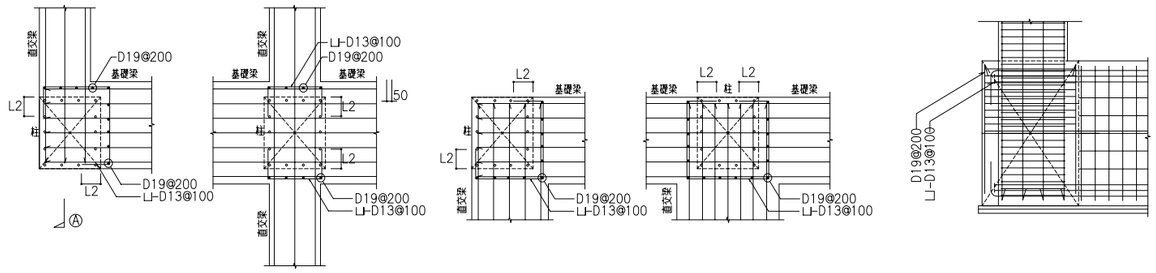


訂正		件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		図面名称 雑詳細図-2	縮尺 A1版1:30 A3版1:60	図面番号 S-083

柱内に定着できない基礎梁主筋部配筋要領図

一方向の基礎梁主筋が定着できない場合
(X2-Y5~12,X4~9-Y5~5a,X4~9-Y12a~12)

両方向の基礎梁主筋が定着できない場合
(X3-Y5,X3-Y5a)

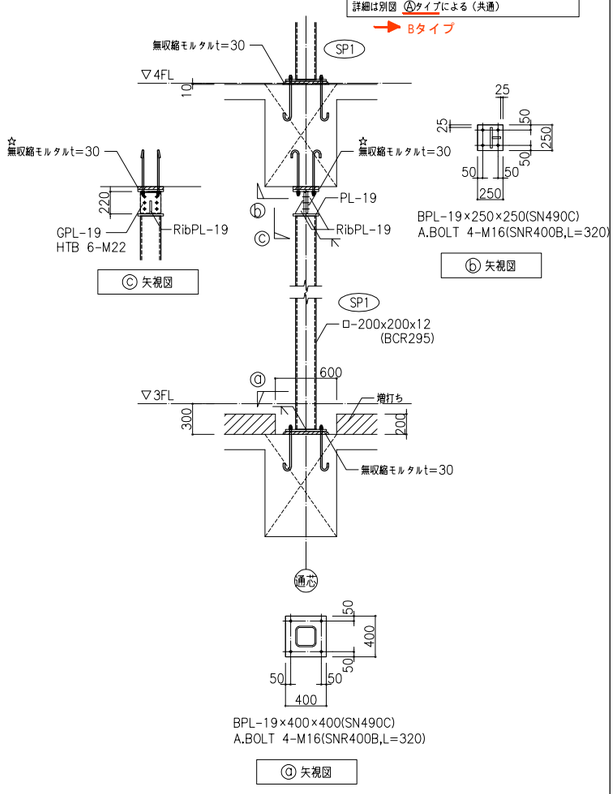


・全基礎梁主筋のうち1/2は柱内に定着すること。

SP1　接合部詳細図

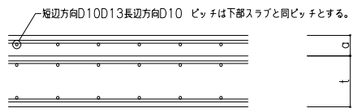
※1.SP1柱は支保工には兼用しない
2.施工時においては、上階のコンクリートが硬化後BPL周辺の型枠のみ撤去し
SP1柱を設置し、モルタル硬化後に支保工を撤去すること

☆印無収縮モルタル部にはモルタル落下防止処置を施す
詳細は別図 Ⓐタイプによる（共通）
→ Bタイプ

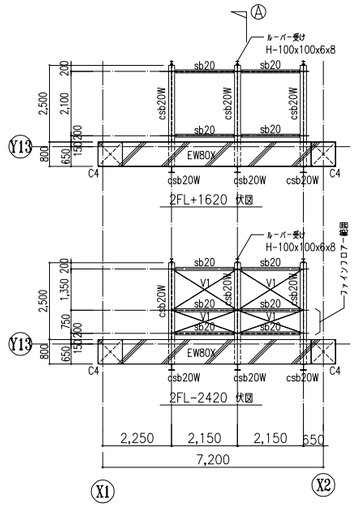


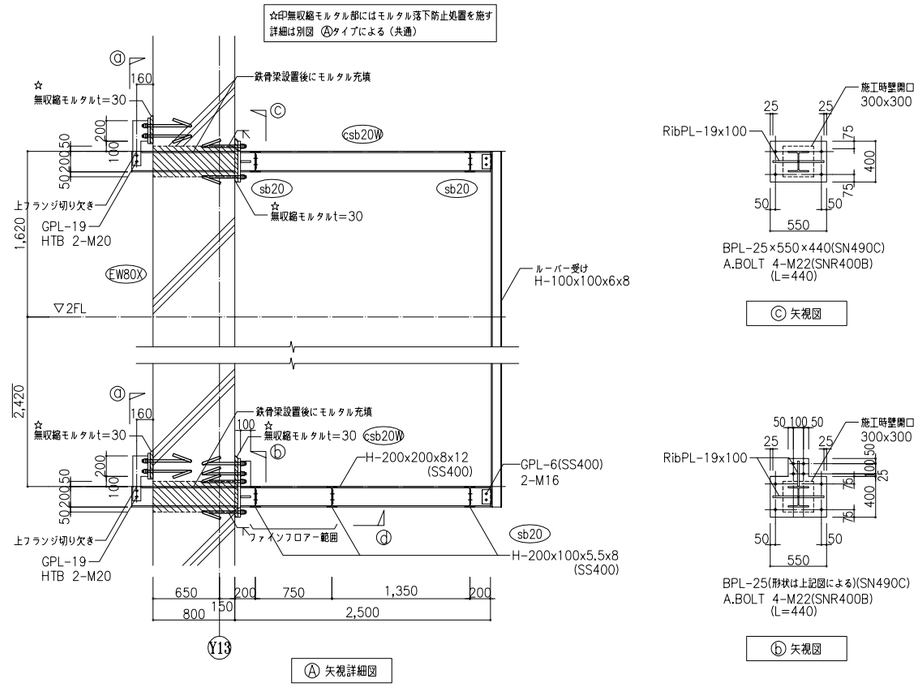
屋上スラブ上増し打ち部配筋要領図

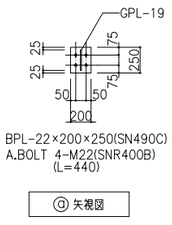
スラブ厚t 、増し打ち厚a とし a>70の場合下記の補強筋を配筋する。
a<70の場合補強筋は不要とする。

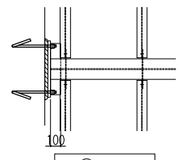


2階　屋外機器置場詳細図(外部露出部は全て亜鉛めっき)

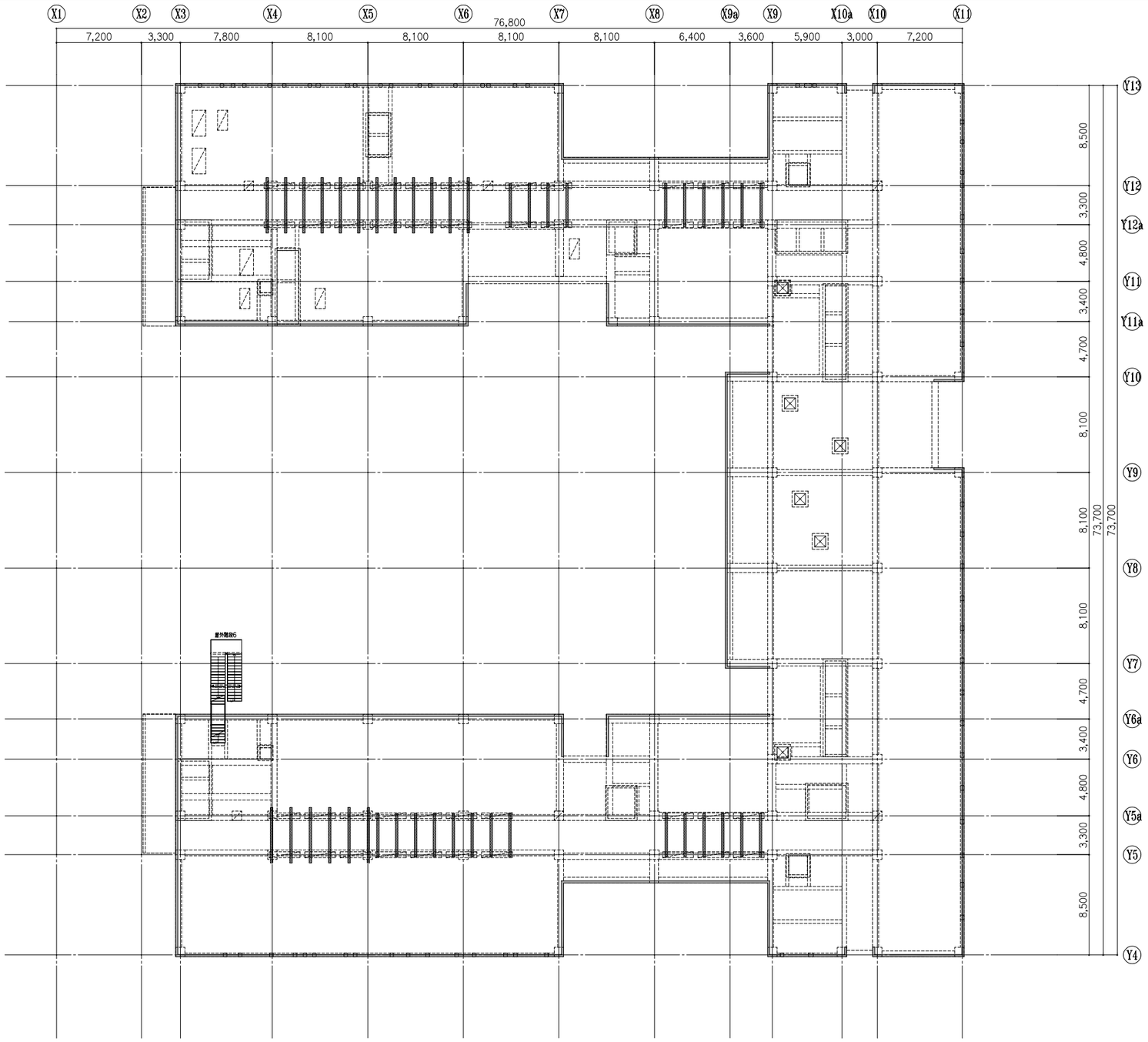








訂正		件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事		
		図面名称 雑詳細図-3	縮尺 A1版1:30 A3版1:60	図面番号 S-084



屋上設備置き場鉄骨架台配置図　1:200

共通事項

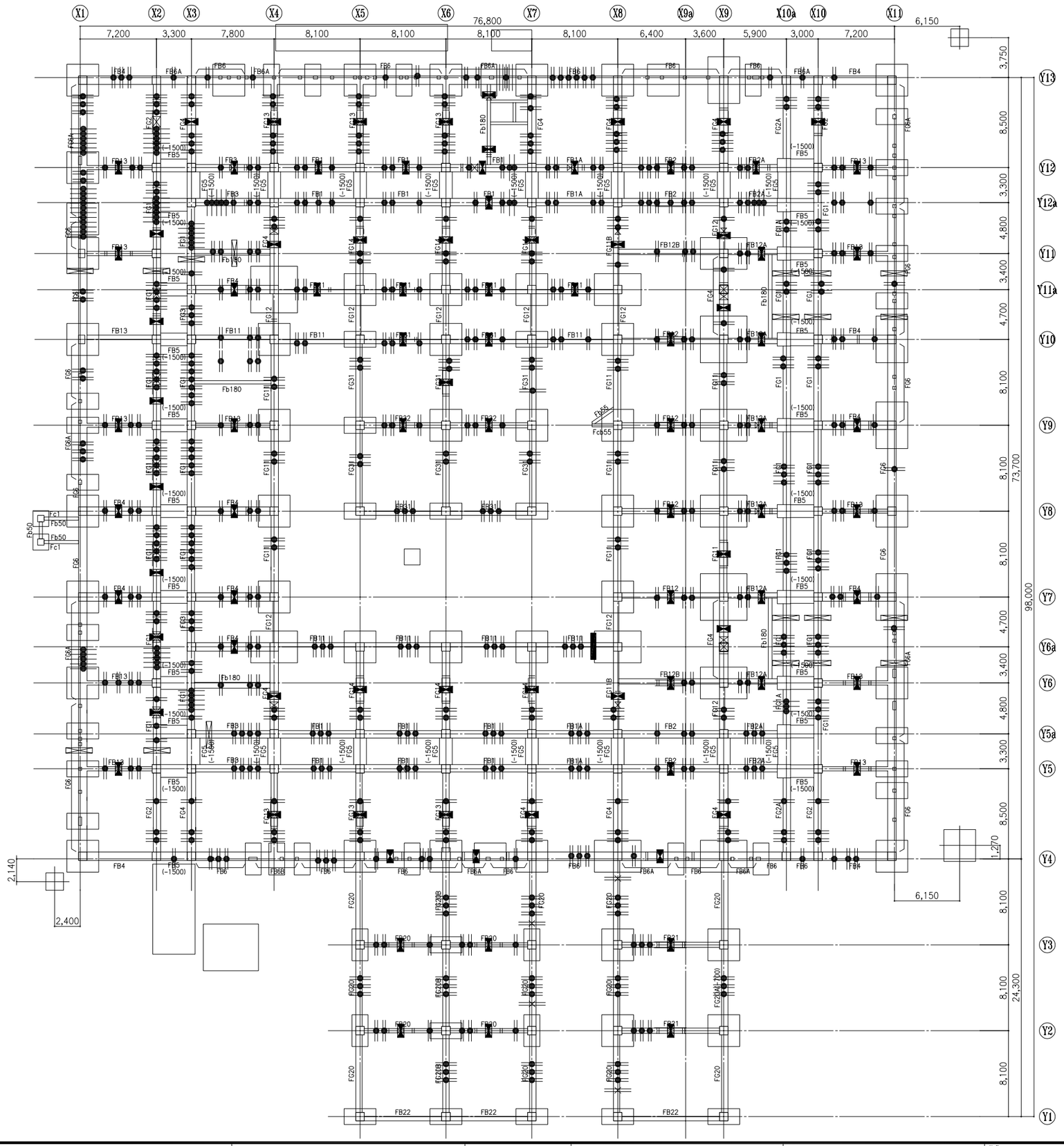
特記なき限り下記による。

1．▬ は、架台用鉄骨部材を示す。

2．鉄骨位置は図面により、納まりは詳細図による。

3．破線で示す躯体はR階梁伏図を示す。

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
・ ・ ・ ・ ・	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	屋上設備置き場鉄骨架台配置図	A1版1:200 A3版1:400	S-085



基礎梁貫通伏図　1:200

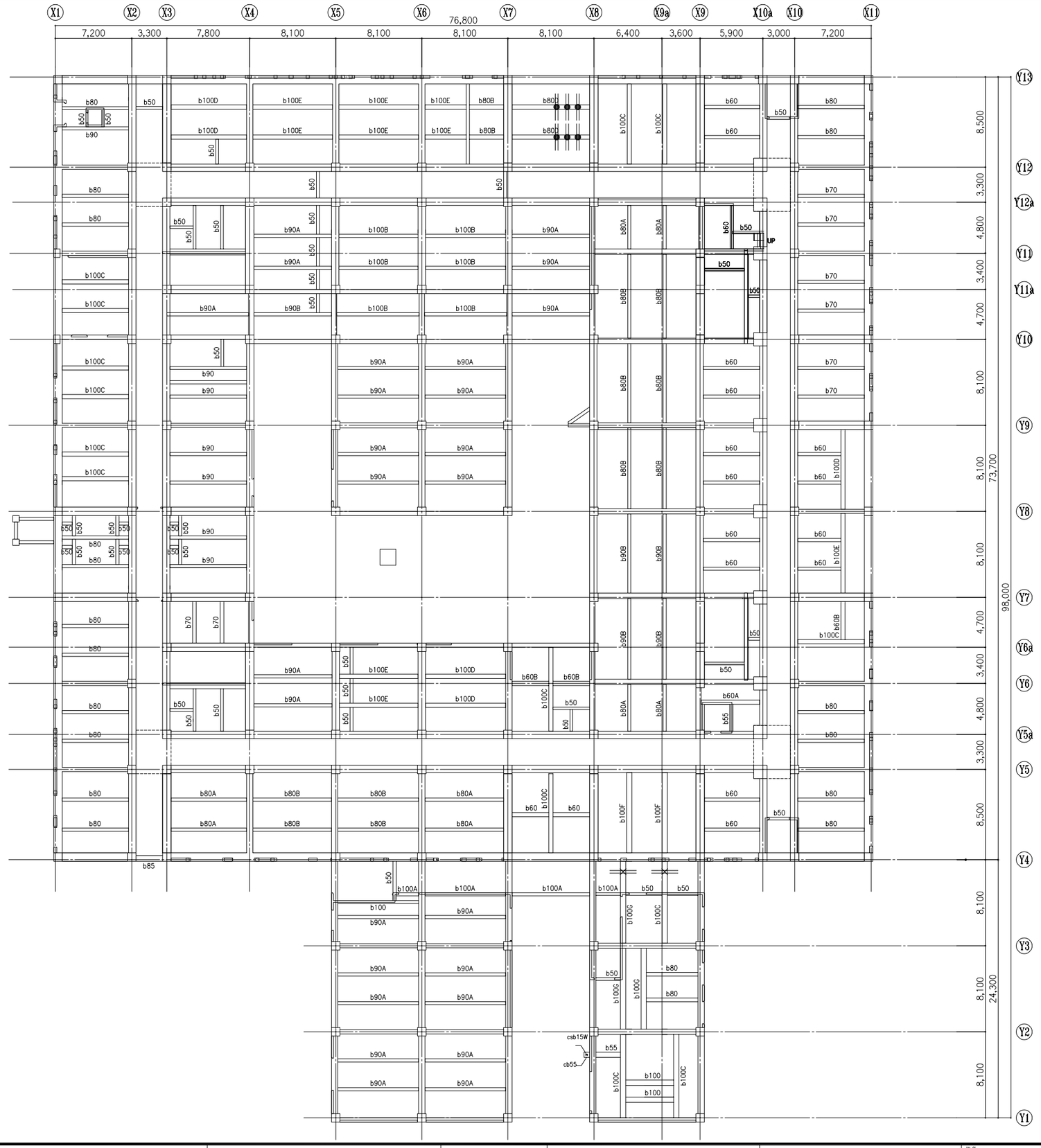
梁貫通　径及び本数

径	マーク	貫通箇所 記載	貫通箇所 記載外	貫通箇所 合計	貫通部の耐火処理方法 耐火被覆	貫通部の耐火処理方法 薄型貫通材
100φ		0	0	0		
150φ		65	0	65		
200φ		4	0	4		
250φ		555	0	555		
300φ		0	0	0		
350φ		0	0	0		
400φ		19	0	19	—	—
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		91 → 97	0	91 → 97		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、ずりーぷたすけ相当品とする。

Y
X

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	基礎梁貫通伏図	A1版1:200 A3版1:400	S-086



1階梁貫通伏図　1:200

梁貫通　径及び本数

径	マーク	貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
		記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0		
150φ		0	0	0		
200φ		2	0	2		
250φ		6	0	6		
300φ		0	0	0		
350φ		0	0	0		
400φ		0	0	0		○
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		0	0	0		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、すりーぷたすけ相当品とする。

Y
X

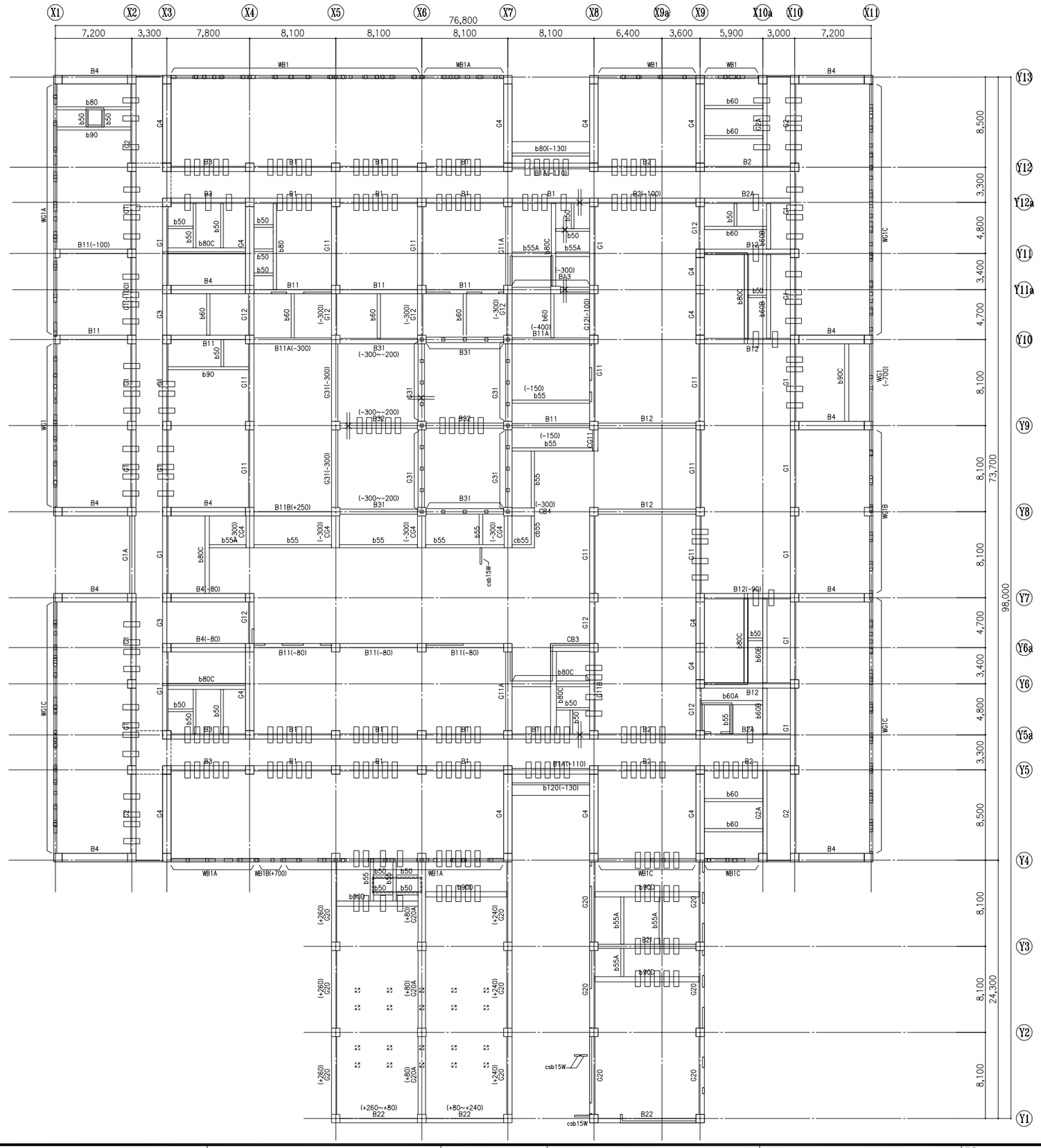
訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 1階梁貫通伏図

縮尺 A1版1:200 A3版1:400

図面番号 S-087



2階梁貫通伏図　1:200

梁貫通　径及び本数

径	マーク	貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
		記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0	—	—
150φ		0	0	0		
200φ		6	0	6		
250φ		0	0	0		
300φ		242	0	242		
350φ		0	0	0		
400φ		0	0	0		
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		0	0	0		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、ずりーぷたすけ相当品とする。

Y
X

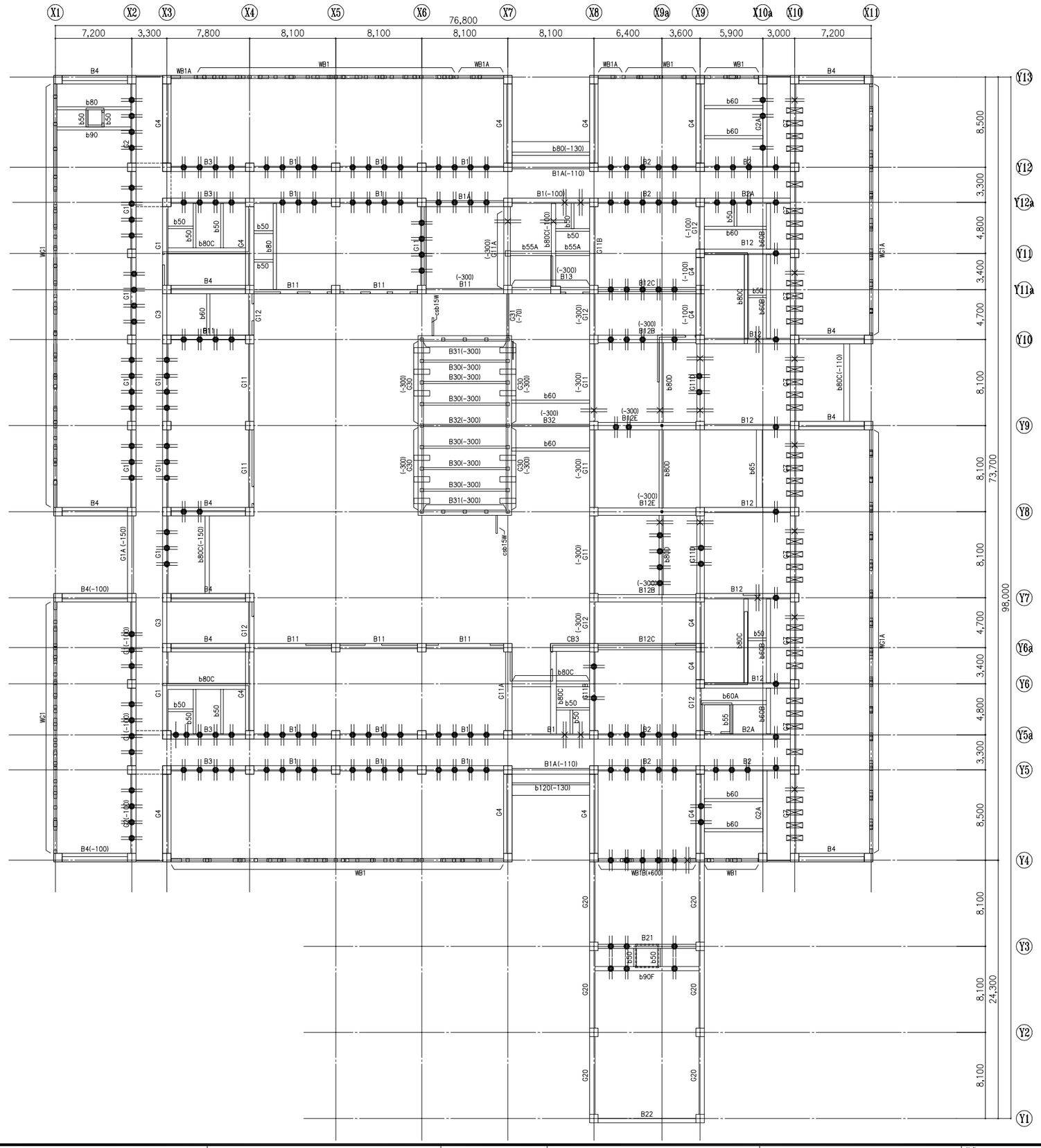
訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 2階梁貫通伏図

縮尺 A1版1:200 A3版1:400

図面番号 S-088



3階梁貫通伏図　1:200

梁貫通　径及び本数

径	マーク	貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
		記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0	—	—
150φ		1	0	1		
200φ		22	0	22		
250φ		189	0	189		
300φ		12	0	12		
350φ		0	0	0		
400φ		36	0	36		
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		0	0	0		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、ずりーぷたすけ相当品とする。

Y
X

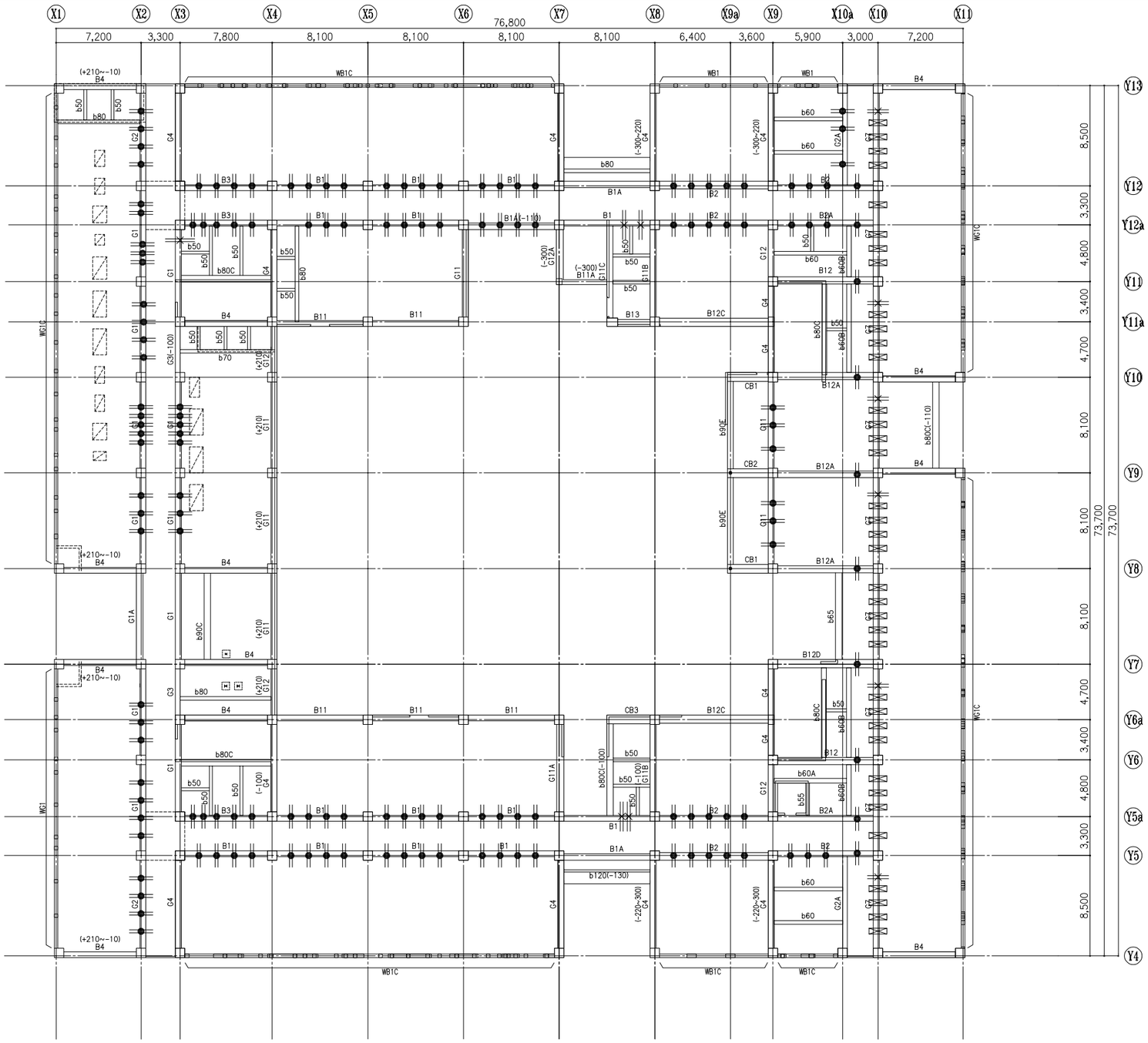
訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 3階梁貫通伏図

縮尺 A1版1:200 A3版1:400

図面番号 S-089



4階梁貫通伏図　1:200

梁貫通　径及び本数

径	マーク	貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
		記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0		
150φ		0	0	0		
200φ		11	0	11		
250φ		153	0	153		
300φ		0	0	0		
350φ		0	0	0		
400φ		37	0	37	—	—
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		0	0	0		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、すりーぶたすけ相当品とする。

Y
X

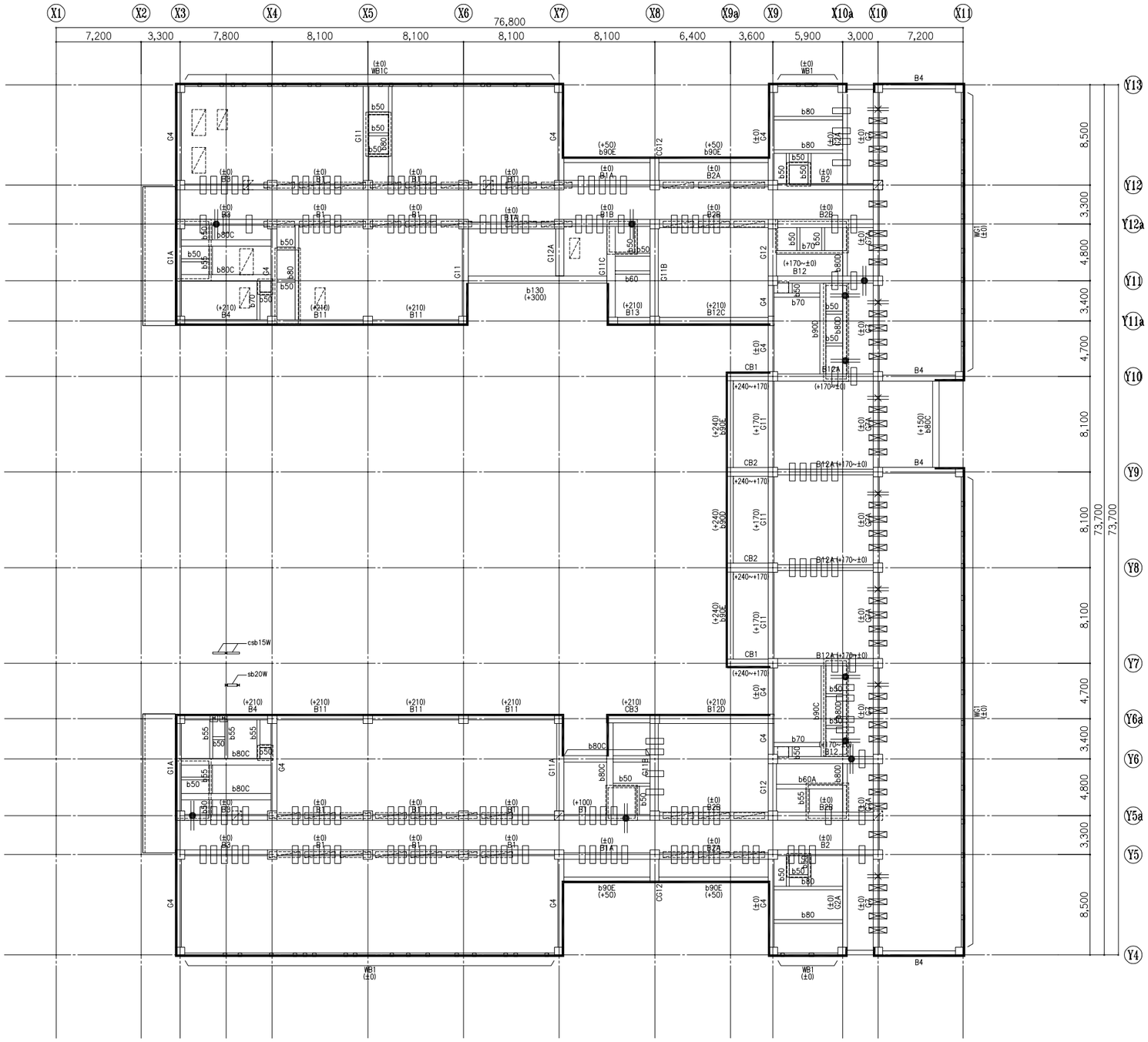
訂正

件名 岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校
校舎新築(建築)工事

図面名称 4階梁貫通伏図

縮尺 A1版1:200 A3版1:400

図面番号 S-090



R階梁貫通伏図　1:200

梁貫通　径及び本数

径	マーク	貫通箇所			貫通部の耐火処理方法	
		記載	記載外	合計	耐火被覆	薄型貫通材
100φ		0	0	0	—	—
150φ		0	0	0		
200φ		7	0	7		
250φ		10	0	10		
300φ		149	0	149		
350φ		0	0	0		
400φ		36	0	36		
450φ		0	0	0		
500φ		0	0	0		
550φ		0	0	0		
600φ		0	0	0		

薄型貫通材とは鉄骨梁貫通部における高性能薄型耐火被覆材を示し、
パイロンバリアー、すりーぶたすけ相当品とする。

Y
X

訂正	件名	図面名称	縮尺	図面番号
	岩手県立宮古商工高等学校及び岩手県立宮古水産高等学校 校舎新築(建築)工事	R階梁貫通伏図	A1版1:200 A3版1:400	S-091